

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 重点プロジェクト研究

1 がんゲノム予防医療プロジェクト

<研究課題> 1-(1)

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospitable-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

<研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、尾瀬 功、小柳友理子、
谷山祐香里、春日井由美子

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

(目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスクを下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防（検診）、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査（HERPACC）を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1～3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある（Matsuo et al. Carcinogenesis 2001, 2006, 2013等）。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである（Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017）。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

(方法)

2001年～2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者から選択する。うち、非がん者13,814名（ゲノムスキャン未7,200

名、以下（）内は同じ）、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名（265）、乳がん1,217名（200）、肺がん1,418名が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたキャンサーバイオバンク愛知の参加者（2018年7月より疫学情報も収集、年4～5,000名収集見込み）も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

(進捗状況)

ゲノムスキャンの進捗に関しては、非がん者13,814名（7,200名、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名（612）、乳がん1,217名（200）、肺がん1,418名がスキャンを終え、これに更に約2,000名を超えるデータが本年度追加されている。

現在、国立がん研究センター、名古屋大学、東北大学、岩手医科大学、京都大学との連携により、日本人の飲酒行動を決める遺伝子座に関する全ゲノム関連解析研究GWASのMeta-analysisを実施している。ALDH2のrs671遺伝子型で層別する事により、アルコール代謝関連酵素の遺伝子座を含む新たな遺伝子座を見出している。現在これらの再検を大阪大学・東大・理化学研究所と実施している。また、飲酒関連がんリスクに対する、新規の遺伝子座の影響を検討している。

さらには、HERPACCの全対象者に対して遺伝性腫瘍関連遺伝子の生殖細胞系の変異情報の構築も行い、バイオバンクジャパン（東大・理化学研究所）との共同研究として検討している。

(考察)

飲酒関連がんは、遺伝子環境要因相互作用が明らかに認められるがん種であり、今回の発見が個別化予防に資するエビデンスとなる事が期待される。生殖系細胞の遺伝子異常に関しては、胃がんに関して新たな個別化予防のエビデンスを見出すに至っている。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

2 がん超精密医療プロジェクト

<研究課題> 2-(1)

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成

Molecular and cellular biology tissue culture core project to interrogate the mechanism of resistance to molecular targeted therapy

<研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野
研究者氏名 衣斐寛倫
共同研究者 室 圭、藤原 豊、松下博和、青木正博

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー（NGS）解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、実地臨床でも使用されている。本課題では、生検・手術検体よりオルガノイドライブラリーを作成する。オルガノイド作成の対象となるのは、大腸がん手術症例、分子標的薬耐性症例（主に肺がん）、治験薬耐性例、遺伝子パネル検査で特徴的な異常を示した後に治療上の理由で生検が行われる症例である。大腸がんについては、手術検体の全エクソームシーケンス解析結果に基づき、患者特異的かつクロールナルな16の体細胞変異を選定しctDNA解析を行い、術後再発モニタリングを行う臨床試験（CIRCULATE-JAPAN）に登録された症例を対象とする。大規模試験に登録され臨床情報などが豊富な症例、および特徴的な遺伝子異常・臨床経過を示す症例のオルガノイドから、細胞株・ゼノグラフトを作成し解析することで新規治療開発につなげる。当院は、令和3年度末までにCIRCULATE-JAPAN試験へ80例登録し、これらに対しRNA-seq解析を行うとともに、エクソーム解析結果とctDNA解析結果を統合した。オルガノイドについては、44例の作成に成功し、凍結保存した。また、当センターより登録された症例と、試験全体の症例について統合解析を行い、本来検出されるべき術前ctDNAが陰性の症例について、細胞内で活性化するシグナルと、腫瘍微小環境において特徴的にみられる免疫細胞の特定を行った。今後、作成したオルガノイドライブラリーを用い、術前ctDNA陰性の原因、術後補助療法感受性・抵抗性因子の解明を行い、腫瘍の状態をより正確に評価する手法の開発につなげる予定である。

<研究課題> 2-(2)

難治癌 PDX モデルのライブラリー整備とその多層オミクス解析による統合データ基盤構築
Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 分子診断 TR 分野
研究者氏名 田口 歩
共同研究者 原 和生、清水泰博、藤原 豊、黒田浩章、堀尾芳嗣、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、筑紫 聡、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、小根山千歳、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺癌、膵癌、胆道癌などに代表される難治癌は、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治癒しがたいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治癌の克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治癌 PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治癌の診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのバイオインフォマティクス解析まで統合した、難治癌オミクスデータベースの構築を目指す。

令和4年度までに、200例を超えるPDXモデル（膵、大腸、胃、食道、肺、肉腫、肝）作成と約40例のPDX由来細胞株の樹立に成功し、特に、サーフェスオーム解析による新規抗体医薬の開発（膵、大腸）、HLAリガンドーム解析による個別化がんワクチン療法の開発（肺、胃）、リン酸化プロテオーム解析による新規分子標的治療開発（膵、大腸）など、既存研究では俯瞰しえなかった革新的分子診断・治療標的群の大規模な開拓を進めている。また、我々が構築した難治がんPDXモデルライブラリーは、詳細な臨床情報と、ゲノム、トランスクリプトーム、空間プロテオームを含む高深度な多層オミクスデータが付帯している点で、他に類を見ない、極めてユニークなライブラリーであるとともに、特に膵がんにおいては、国内外の膵がんPDXライブラリーと比較してもトップクラスの作成症例数を達成している。

今後は、引き続きPDXモデルの作成を行うと共に、PDXライブラリーの品質管理やPDXモデルを用いた前臨床試験におけるSOPの整備を進めて、データベースと合わせて革新的創薬プラットフォームとしての導出を目指す。

3 がん免疫ゲノムプロジェクト

<研究課題> 3-(1)

がん免疫ゲノムデータを基盤とした革新的な抗原特異的免疫治療法の開発

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御 TR 分野
研究者氏名 松下博和
共同研究者 黒田浩章、藤原 豊、堀尾芳嗣、山口 類、衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、村岡大輔、花井信広、大野真佐輔、籠谷勇紀、細田和貴、関戸好孝、井本逸勢

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫チェックポイント阻害剤（ICI）の開発により、がん治療のパラダイムシフトが起きたが、奏効率は未だ20%程度に過ぎない。腫瘍浸潤リンパ球（TIL）の中で、ICIで再活性化

される T 細胞は一部の前駆疲弊 T 細胞であり、多くの T 細胞は、持続的な抗原刺激により不可逆的な疲弊状態になっていると考えられる (Oliveira et al, Nature 2021)。そこで、治療効果を高めるためには、この疲弊 T 細胞を若返らせる方法を開発するか、あるいは、抗原特異的 T 細胞を新たに補充する必要がある (Blass et al, Nature Rev Clin Oncology 2021)。後者には、がんワクチンにより生体内に抗原特異的メモリー T 細胞を誘導する方法と、抗原特異的 T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子を導入した T 細胞を生体外で作製し生体に戻す方法等がある。

重点プロジェクト研究では、これらの免疫療法を目指した基盤研究を進めている。まず、上記の免疫療法の適応症例の選択が重要になるが、その選択のためには腫瘍内免疫微小環境の理解が非常に重要である。これまで 113 例の肺癌症例の次世代シーケンス (NGS) データを網羅的に解析し、腫瘍免疫微小環境 (TIME) スコアの開発を行った (Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022)。さらに、その TIME スコアで、免疫スコアの高い肺癌検体を活用し、腫瘍特異的 T 細胞とそのコグネイト抗原をペアで同定する TCR-抗原ペア同定システムを日本電気株式会社 AI 創薬統括部と共同で構築した (Komuro et al, J Immunother Cancer 2023)。

今後は、TCR-抗原ペア同定システムをさらに高精度化することで、各症例からの TCR と抗原のペア同定の効率を上げ、得られた情報を TIME の評価に統合し、ワクチンの選択基準や治療効果予測プログラムの構築に応用する。そして、肺癌に対する個別化がんワクチンの臨床試験の準備をすすめていく。また、TCR-抗原ペア同定システムの確立により、TCR の情報が取得可能になったことから、TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療に向けた基礎研究を開始している。さらに、TCR 改変技術と機械学習を融合させ、治療応用可能な高親和性 TCR の取得を目指し、将来の固形がんに対する TCR-T 細胞治療の基盤データを構築する。肺癌をロールモデルに、他のがん種、特に頭頸部癌、悪性脳腫瘍、悪性中皮腫等に対象を拡大する。

<研究課題> 3-(2)

遺伝子改変による腫瘍浸潤 T 細胞の改良技術構築と難治性がんを標的としたキメラ抗原受容体 T 細胞療法の新規開発

Development of genetically modified tumor-infiltrating T cell therapy with improved function and chimeric antigen receptor-engineered T cell therapy against refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫応答研究分野

研究者氏名 籠谷勇紀

共同研究者 鈴木史朗、細田和貴、松下博和、小根山千歳

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

がん抗原を認識する T 細胞を生体外で準備して、医薬品として患者に輸注する免疫細胞療法養子免疫療法は、キメラ抗原受容体 (chimeric antigen receptor: CAR) や T 細胞受容体 (T cell receptor: TCR) を導入して抗腫瘍 T 細胞を作製する遺伝子改変 T 細胞療法と、腫瘍に浸潤するリンパ球 (tumor

infiltrating lymphocyte: TIL) を用いる TIL 療法がある。前者は B 細胞性腫瘍を標的とした CD19 に対する CAR-T 細胞療法が既に実臨床に導入されているが、固形がんに対する治療では持続的な治療効果は得られていない。腫瘍微小環境における T 細胞の機能低下を抑制するための研究開発が必要で、遺伝子改変による T 細胞の機能強化が期待されている。一方、造血器腫瘍細胞と異なり、固形がんではがん細胞間の異質性が高く、単一標的抗原により治療を目指すことの難しさが指摘されている。この点で複数のがん抗原を認識するポリクローナルな集団である TIL 療法の活用も期待されるが、現状では免疫チェックポイント阻害剤に勝る治療効果は示されていない。

我々は、第 1 期重点プロジェクトにおいて抗腫瘍 T 細胞の長期生存能獲得に資する遺伝子改変方法の探索を進め、PRDM1 遺伝子ノックアウトによる長期生存型 CAR-T 細胞の作製に成功した。また T 細胞の生存に重要なサイトカインシグナルを恒常的に誘導するアプローチも進め、最適な強度の IL7 シグナルを恒常的に活性化させる人工受容体を開発した (PCT/JP2022/16453)。さらに、細胞療法とは異なるアプローチで、体内の免疫細胞を用いて抗腫瘍効果を引き出す免疫チェックポイント阻害剤、二重特異性抗体 (BiTE) などの特長を包含した抗腫瘍ナノ粒子の開発も進め、白血病モデルにおける有効性を示した。これらの成果を端緒としてさらに発展させるために、本研究では以下の 2 つの研究推進を目的とした。

① CAR-T 細胞、TIL の治療効果を増強する新規エピジェネティック因子改変方法の探索・同定

② 内在性 T 細胞に有効な抗腫瘍効果を誘導するナノ粒子開発

① 抗腫瘍 T 細胞の機能を高める遺伝子改変方法の探索

T 細胞機能に広範な変化を起こすことができる遺伝子改変方法をエピジェネティック因子、マイクロ RNA、RNA 結合タンパク質に着目して探索した。これまでに同定していた PRDM1 ノックアウトによる CAR-T 細胞、TIL の機能強化については一連のデータをまとめ、学術論文として発表した (Yoshikawa et al, Blood 2022)。マイクロ RNA、RNA 結合タンパク質についても、CAR-T 細胞の終末分化に伴って発現変化が起こる遺伝子群を既存データなどをもとに抽出し、候補因子の同定を進めた。

一方、この過程で疲弊状態に陥った T 細胞の状態を推定するために有用なマーカーとして CD83 を同定した。同分子を発現する疲弊 T 細胞は長期生存能に優れる前駆疲弊 T 細胞をマークすることを示し、学術論文として発表した (Wu et al, Commun Biol 2023)。

② 内在性 T 細胞に有効な抗腫瘍効果を誘導するナノ粒子開発

前年度までに検討を行った免疫制御分子を搭載した抗腫瘍ナノ粒子の治療効果を in vivo で検証した。白血病モデル、固形がんマウスモデルを用いて、複数の免疫制御分子を投入することにより生体内での抗腫瘍効果が増強されることを確認したほか、ナノ粒子の半減期、生体内分布などを生体内イメージング技術を用いて評価した。これらの開発に関する知財出願を行った後 (特願 2022-069831)、今後は学術論文として発表する準備を進めている。

4 がん情報革命プロジェクト

<研究課題> 4-(1)

愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用

Development and utilization of linkage database of official information of cancer incidence and death, lifestyle, socioeconomic, health and medicine for evaluation and prediction of cancer control and quality of medical care in Aichi prefecture

<研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野
研究者氏名 伊藤秀美
共同研究者 古平 毅、山本一仁、岩田広治、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

[1] がん予防協同プロジェクト

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

一般公開されている国勢調査情報は e-stat「政府統計の窓口」より情報を抽出し、特定健診情報を含む NDB 情報、人口動態調査死亡情報は厚生労働省へ、がん登録情報は愛知県へ提供申請を行い、情報提供を受けた。これらの情報それぞれが持つ町域毎の観測数を、町域ポリゴンと学校区ポリゴンを用いて面積按分して学校区別の該当数を求めた上で、学校区別に以下の指標を算出し、視覚化した。①アウトカム：愛知県がん登録情報と人口動態調査死亡情報を用い、標準化罹患・死亡比 (Standardized incidence & mortality rate: SIR/SMR) と標準化罹患比の経験的ベイズ推定量 (Empirical bayes SIR/SMR: EBSIR/EBSMR) (全がん 部位別、男女計) を算出した。②社会経済的指標：地理的剥奪指標 (Areal deprivation index: ADI)；国勢調査情報 (該当数と人口) から算出した、高齢者夫婦世帯割合、高齢者単身世帯割合、母子世帯割合、賃貸住宅居住割合、サービス・販売業割合、農業割合、ブルーカラー割合失業割合を用いて算出し、さらに人口のばらつきを考慮して相対的な剥奪水準の位置として 0 から 1 に標準化した。また、e-stat 上の国勢調査情報より人口密度を抽出した。③特定健診情報から喫煙、飲酒、肥満、運動習慣等の生活習慣情報を抽出し、喫煙率、飲酒率、肥満率、運動習慣率を求めた後、標準化該当比をそれぞれ算出した。また、Flex scan 法による空間集積性の評価を行った。本年度も昨年度に引き続き、貧困ががん罹患や死亡に与える影響が都市度によって異なるのではないかという仮説のもとに、解析を行っている。

[2] 拠点病院プロジェクト

愛知県がんセンターが都道府県がん診療連携拠点病院とし

て主催する協議会を通じ、厚生労働省が指定する愛知県内の 19 の地域がん診療連携拠点病院と愛知県が指定する 8 の愛知県がん診療拠点病院 (以後、拠点病院) に本プロジェクトへの協力を求め、すべての拠点病院から協力が得られることとなった。令和 3 年度の協議会で公表、還元する予定の「院内がん登録でみる愛知県のがん診療 (施設別集計)」の内容を検討し、すでに愛知県へ還元されている拠点病院の 2011-15 年までの匿名化院内がん登録情報を利用し、すべての拠点病院ごとに共通フォーマットで集計し、各拠点病院へ還元した。

令和 4 年度は、さら 2016 年-2019 年の診断症例の院内がん登録と DPC の連結匿名化情報や匿名化 DPC 情報を各拠点病院の協力を得て収集した。収集した情報を用いて 2015-2019 年診断症例の情報を用いて集計し、各拠点病院へ結果を還元するとともに、全拠点病院の集計結果をまとめた「院内がん登録でみる愛知県のがん診療 (施設別集計)」の報告書を作成した。また、2020-2021 年診断症例の院内がん登録と DPC 情報を収集している。

<研究課題> 4-(2)

人工知能・機械学習技術を用いたバイオメディカルデータ解析基盤の開発と活用

Development and utilization of a biomedical data analysis platform based on artificial intelligence and machine learning technologies.

<研究者氏名>

所属部 システム解析学分野
研究者氏名 山口 類
共同研究者 原 和生、衣斐寛倫、稲葉吉隆

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

本研究の目的は、臨床および基礎研究の現場で産生・蓄積される膨大かつ多種多様なバイオメディカルデータを、統合的かつ自在に解析するために、スーパーコンピュータによる計算能力と人工知能 (AI)/ 機械学習 (ML) 技術による数理的手法群を備えた解析プラットフォームを開発し、他の重点プロジェクト研究と有機的に連携しプロジェクト全体を活性化させることで研究成果の社会還元を促進し、情報解析の面から近未来の医療へ貢献することである。

近年の技術革新により、DNA や RNA の各種オミクスデータおよび医療画像データ等、多種多様なバイオメディカルデータが、国内外の臨床および基礎研究において取得可能になっている。DNA については、ゲノム配列データを高速かつ安価に取得できるようになり、がんゲノム医療をはじめ臨床現場での活用が進みつつある。また long read シークエンサーも開発され、大規模な構造変異の検出などに威力を見せている。RNA については一細胞 RNA 計測技術 (scRNA-seq) の発展が目覚ましく、がんの微小環境等の情報を詳細に得ることができるようになっている。さらには細胞微小集団の空間情報を保持したまま遺伝子発現情報を得ること (spatial RNA-seq) も可能になりつつある。画像情報については、多様なモダリティ (MRI/

放射線 / 超音波 / 蛍光 等) と対象に対する、静止画、動画また三次元情報の取得が高い解像度で可能となっている。またこれらのデータは、インターネット上のアーカイブ (Genomic Data Commons 等) に蓄積されるようになっている。

一方、これらのデジタル計測データの巨大性と複雑性が増大するにつれて、データを解析し有用情報を抽出するための困難性も増大している。その結果、利用および取得可能なデータと、研究を推進する医師・研究者がそこから知り得たい情報の間に大きなギャップが生じている。そのため、目的で述べたようなデータ解析基盤を開発し、そのギャップを埋める有用性は高い。

本年度は、まず第1期重点プロジェクトで開発を進めたデータ解析基盤プロトタイプにおける、各種データ解析パイプラインの改良を進めた。そのことにより、スパコン上での各種のデータ解析をスムーズに実行することが可能となった。また、一細胞遺伝子発現計測データ解析および空間トランスクリプトームデータ解析のパイプラインも拡充し、例えば、大腸がん患者症例の一細胞データ解析および空間トランスクリプトームデータ解析に活用し、前年度までに得られた大規模遺伝子発現解析データとの統合解析につなげている。

また他の重点プロジェクト研究課題との連携も進めている、例えば、研究課題2-(2) で構築されつつある、多層オミデータベース中の膨大なデータを、生命科学系の研究者が自らの手で自在に解析して活用するために、Web インターフェースを備えたデータ解析システムの開発を共同で行った。

また画像情報を解析する AI の開発も進めた。本年度は隣臓領域を対象とした超音波画像から、各種の隣臓腫瘍の判別を行う深層学習モデルの開発をスパコン上で行い、腫瘍例と非腫瘍例の判別を高精度で達成するモデルの構築に成功した。

2. 研究所における研究

がん情報・対策研究分野

¹⁾ 大阪医科薬科大学、²⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 1

- (主 題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究
- (副 題) 住民ベースのがん罹患情報を用いた日本における非小細胞肺癌患者の生存率の経年変化：分割時系列解析

<研究者氏名>

谷山祐香里、尾瀬 功、小柳友理子、川浦正規、伊藤ゆり¹⁾、松田智大²⁾、松尾恵太郎、伊藤秀美

<目的・概要・進捗状況>

上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤 (EGFR-TKI) であるゲフィチニブとエルロチニブは、それぞれ2002年と2007年に日本で転移性または再発非小細胞肺癌 (NSCLC) に対して承認されている。また、EGFR 変異検査も2007年に承認されている。臨床試験では、EGFR 遺伝子変異を有するNSCLC患者に対して効果が示されているが、リアルワールドの臨床においてこれらの効果はほとんど報告されていない。本研究では、この薬剤とEGFR 変異検査の導入後のNSCLC患者の生存率の変化を評価するために、1993年から2011年にかけて日本の6つの県の住民ベースのがん登録からNSCLCと診断された患者を抽出した。性別、組織型、がん進行度別の相対生存 (RS) を計算し、EGFR-TKIとEGFR 変異検査の導入後の生存率の変化を評価するために、分割時系列分析を行った。解析対象はNSCLCの患者120,068人である。全NSCLC患者の1年および3年のRSは改善していた。腺がんでは、男性では2007年から2011年に診断された患者の1年および3年のRSの傾きが急激に増加しました。女性では、2002年 (4.55% [95%信頼区間: 1.76-7.33]) および2007年 (3.40% [1.27-5.52]) に診断された患者で1年RSの有意な水準上昇が見られました。これらの有意な水準上昇は、進行した腺がんの女性で特に明らかだった。本結果は、腺がんの男性および女性の最近の生存率の改善が、少なくとも部分的にはEGFR-TKIの実臨床への導入、およびEGFR 変異検査の実臨床への導入に続く適切な患者選択に基づく処方によるものであることを示唆していた。

<今後の方向>

本研究で採用した分割時系列解析を用いて、EGFR-TKIという新規薬剤の登場やEGFR 遺伝子変異検査のイベントが非小細胞肺癌の生存率に与えた影響を評価した。住民ベースの情報を解析に用いたことにより、臨床試験には含まれない非小細胞肺癌患者を含めたリアルワールドにおけるEGFR-TKIやEGFR 遺伝子変異検査の影響を評価できたと考える。今後、この手法を用いて、様々な新規治療法のリアルワールドにおける影響を評価していく予定である。

<研究課題> 2

- (主 題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信
- (副 題) 愛知県内の公的情報を活用した地理的連結データベースならびに院内がん登録情報とDPC情報の連結データベース構築

<研究者氏名>

川浦正規、川勝雪乃¹⁾、谷山祐香里、小柳友理子、尾瀬 功、松尾恵太郎、伊藤秀美

<目的・概要・進捗状況>

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

愛知県の保健医療に関わるがん登録情報、人口動態調査死亡情報、特定健診情報、国勢調査情報を収集し、がん罹患・死亡や、これらのアウトカムに影響を与える要因の愛知県内の格差を学校区別に評価する空間疫学研究を行っている。それぞれの情報を学校区別に指標化し、愛知県の地図上に格差を視覚化した。さらにはがん罹患・死亡についてはFlex scan法により集積性の検定を行った。地域ごとに取り組むべきがん対策の優先順位付けに役立てるため、これらの指標の関連を評価している。愛知県の情報で行ったこれらの手法を、全日本のデータに適用し、市町村別の検討を行っている。現在は、国勢調査情報を用いて社会経済的指標を算出し、社会経済的ながん罹患・死亡の格差の、都市度による違いについて、検討を行っている。

また、愛知県内のがん診療連携拠点病院ならびにがん診療拠点病院 (以後、拠点病院) の協力を得て収集した院内がん登録とDPCの連結匿名化情報を用いて、各拠点病院のがん診療の動向を把握するため、「院内がん登録でみる愛知県のがん診療 (施設別集計)」を行い、報告書を発行した。

<今後の方向>

公的情報を使った空間疫学研究については、より介入しやすい生活習慣に関し貧困との関連を都市度別に評価した上で、がんの罹患・死亡というアウトカムにどう影響するかを評価する予定である。媒介分析といった新しい手法も取り入れる。

また、院内がん登録情報を、各施設でDPC情報と個別連結させた上で匿名化した情報を愛知県がんセンターに集約して、医療レベルの格差に関して要因探索をする。研究成果を拠点病院間でシェアできる仕組み、つまりウェブベースのインタラクティブツールの開発も計画する。また、個別情報のシェアリングの仕組みを整えるために課題の洗い出しを開始する。

¹⁾ リサーチレジデント

がん予防研究分野

<研究課題> 1-1

- (主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明
- (副題) 胃がんリスクに関する遺伝要因・環境要因の交互作用を検討する症例対照研究

<研究者氏名>

碓井喜明、谷山祐香里、小柳友理子、尾瀬 功、伊藤秀美、井本逸勢、桃沢幸秀¹⁾、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

ピロリ菌感染は胃がんリスクの主要な環境要因として広く知られており、ピロリ菌感染を基盤とする胃がんは東アジアで特に罹患率が高くなっている。これまで環境要因のみならず遺伝要因も胃がんリスクに関わっていることが示唆されてきた。病気の発症に関連する遺伝的要因である病的バリエーションの情報は次世代シーケンサーを用いた大規模な解析によって得ることができる。*BRCA1/2*における病的バリエーションと乳がんリスクなど、一部の病的バリエーションは疾患のリスクと関連することが示されてきている、そのエビデンスの多くは欧米諸国からのものが中心であり、東アジアにおける評価は限られたものである。特に東アジアにおいて罹患率が高い胃がんに関しての遺伝的要因に関する評価は十分ではなかった。さらに、胃がんリスクにおいてこのような遺伝的要因と環境要因が組み合わさった影響に関してほとんど明らかになっていなかった。

そこで、私たちは、日本の胃がん患者群と非がん対照群における大規模なゲノム解析による症例対照研究を通じて、病的バリエーションと胃がんリスクとの関連、病的バリエーション保持者の特徴、病的バリエーションとピロリ菌感染を組み合わせた胃がんリスクについて評価を行なった。本研究では、愛知県がんセンター病院疫学研究 (HERPACC) およびバイオバンクジャパンの11,859名の胃がん患者群、および44,150名の非がん対照群について27個の遺伝性腫瘍関連遺伝子を対象に理化学研究所基盤技術開発研究チームが独自に開発したターゲットシーケンシング法を用いて解析を行った。

バイオバンクジャパンにおける関連解析の結果、9個の遺伝子 (*APC*、*ATM*、*BRCA1*、*BRCA2*、*CDH1*、*MLH1*、*MSH2*、*MSH6*、*PALB2*) の病的バリエーションが胃がんリスクと関連していることが同定された。また、その9個の遺伝子ごとに、胃がん患者における病的バリエーション保持者の割合、胃がんの診断時の年齢、各種がんの家族歴などの特徴が異なっていることも明らかにした。

次に、HERPACCにおいて、バイオバンクジャパンの関連解析で明らかになった9個の遺伝子の病的バリエーションとピロリ菌感染情報を組み合わせ、胃がんリスクについて評価した。そ

の結果、DNA二本鎖の双方に起こった切断を修復する機能 (相同組換え修復機能) に関わる遺伝子群 (*ATM*、*BRCA1*、*BRCA2*、*PALB2*) の病的バリエーションとピロリ菌感染は交互作用を伴って胃がんリスクを高めていることが明らかになった (relative excess risk due to interaction (95% confidence interval), 16.01 (2.22-29.81))。更に、これらの病的バリエーションとピロリ菌感染情報を組み合わせて85歳時点までの胃がんの累積リスクを算出したところ、ピロリ菌陰性の人は病的バリエーションの有無に関わらず、85歳時点での累積リスクは5%未満と高くなかった一方、ピロリ菌陽性の人は病的バリエーション非保持者では14.4 (12.2-16.6) %、病的バリエーション保持者では45.5 (20.7-62.6) %と大きな違いを認めた。

本研究では胃がんリスクと関連する遺伝子の存在、その特徴が遺伝子ごとに異なっていること、それらの遺伝子の病的バリエーションが存在するとピロリ菌による胃がんリスクが更に高まることなどが明らかになった。相同組換え修復機能に関わる遺伝子群の病的バリエーション保持者においては、ピロリ菌の感染状況の評価や除菌を考慮することが胃がんリスク低減のためにより一層重要であることが示唆された。

【今後の方向】

個別化予防を見据え、相同組換え修復遺伝子変異を持つ方に対する、ピロリ菌除菌の有効性を検証する検討を行う必要がある。

¹⁾ 理化学研究所

<研究課題> 1-2

- (主題) 分析疫学的解析による各種がんのリスク要因の遺伝的背景の解明
- (副題) 日本における喫煙と膀胱がんリスクの関連。10の住民ベースコホート研究のプール解析

<研究者氏名>

正岡寛之、松尾恵太郎、尾瀬 功、伊藤秀美、井上真奈美¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

タバコの喫煙は膀胱がんの確立された危険因子であるが、アジア人口における喫煙の影響の評価は、アジア人集団で行われたコホート研究が少ないため、明確な答えを出すに至っていなかった。そこで、我々は日本における喫煙の状態、累積喫煙強度、喫煙の中止と膀胱がんのリスクを検討した。

日本の10の人口ベースのコホート研究で157,295人の男性と183,202人の女性のデータを分析した。各研究内でCox回帰モデルを使用して喫煙行動に関連するリスクを推定し、膀胱がんの発生に対するプールされたハザード比 (HR) とその95%信頼区間 (CI) を計算しました。

4,729,073人年の追跡期間中、936人の男性と325人の女性が新規膀胱がん発生が認められた。男性では、元喫煙者 (HR 1.47; 95% CI, 1.18-1.82) および現在の喫煙者 (HR 1.96; 95% CI, 1.62-2.38) は、未喫煙者よりも統計学的有意にリスクが高かった。

女性では、現在の喫煙者は未喫煙者よりもリスクが高かった (HR 2.35; 95% CI, 1.67-3.32)。男性の HR は、累積喫煙量が増加するにつれて線形にリスクが増加した。喫煙中止後の年数が増えるにつれて、男性でのリスクは減少し、有意な用量反応の傾向を認めた。ただし喫煙中止後 10 年以上の元喫煙者は、未喫煙者と比較して有意に増加したリスクはありませんでした (HR 1.26; 95% CI, 0.97-1.63)。

日本の 10 の住民ベースのコホート研究のプール分析により、タバコの喫煙と膀胱がんのリスクとの明確な関連を見出した。また喫煙者において禁煙は膀胱がんリスクを下げる事が明らかになった。

【今後の方向】

禁煙が膀胱がんに有用であるエビデンスを元に、膀胱がん罹患患者に対する禁煙介入を検討する必要がある。

¹⁾ 国立がん研究センター

がん病態生理学分野

＜研究課題＞ 1-1

(主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
(副 題) 腸管腫瘍形成における MyD88 経路の役割の解析

＜研究者氏名＞

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

＜目的・概要・進捗状況＞

がん抑制遺伝子である *Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス (以下 *Apc* 変異マウス) では、APC の機能欠損の結果 Wnt 経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長に関わる因子を探索、同定し、その役割を解明することにより、大腸がんの治療標的候補を得ることを目的として研究を進めてきた。

これまでに、我々は、IL-1 β シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能欠損が、*Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、いわゆる合成致死を誘導することを見出し、論文発表した。(Kajino-Sakamoto R, et al. *Oncogene* 40, 408-420, 2021) 昨年度までに、トランスクリプトーム解析等を行ってこの合成致死誘導の分子機序に関与する因子を探索し、9つの候補因子を得た。今年度は、これら候補因子の合成致死誘導への関与について検討を進めた。まず、マウスの腸管ポリープ組織試料または腸管ポリープ由来オルガノイド試料において、MyD88 の機能欠損 (発現低下) に伴う発現減少の再現性がみられるか検討した。また、公共データベースを利用して、ヒト大腸がんにおける MyD88 と候補因子の発現相関等を調べた。これらの結果から、3つの候補因子について解析を進めることにした。

一方、MyD88 が *Apc* 変異以外の大腸がん関連遺伝子変異を併せ持つ腸管腫瘍細胞の生育にも関与するか、マウス大腸腫瘍オルガノイドを用いて検討している。昨年度までに、MyD88

の機能抑制は *Cttnb1* 変異を持つ大腸腫瘍オルガノイドの生育を抑制するが、この生育抑制効果は *Kras* 変異により低下することを示唆する結果を得ていた。今年度はこれらオルガノイドのトランスクリプトーム解析等を行い、発現が変動している因子の探索を実施した。

＜今後の方向＞

合成致死誘導に関与する可能性がある 3つの候補因子について、解析を進めて役割を解明し、分子メカニズムを明らかにする。

MyD88 の機能抑制による *Cttnb1* 変異大腸腫瘍オルガノイドの生育抑制効果が *Kras* 変異によって低下する分子機序を解明するため、関与する因子を同定し、解析を進める。

¹⁾ 京大・先端医療研究開発機構

＜研究課題＞ 1-2

(主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
(副 題) 腸管腫瘍の悪性化における mTORC1 経路の役割の解析

＜研究者氏名＞

藤下晃章、三城恵美¹⁾、梶野リエ、新聞秀一²⁾、曾我朋義³⁾、武藤 誠⁴⁾、青木正博

＜目的・概要・進捗状況＞

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである *Apc* 変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらに *Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ *cis-Apc/Smad4* マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤は mTORC1 阻害薬 everolimus および mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 に対して抵抗性である。これまでに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンの蓄積・マクロファージの集簇を認めた。また臨床大腸がん組織中のマクロファージは浸潤部に集積し、ヒスタミン濃度が高い症例で多く検出される傾向を認めた。mTOR 阻害薬とヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用投与により mTOR 阻害薬抵抗性腺がん浸潤が抑制されることを見出した。

本年度は、腫瘍組織におけるヒスタミン産生細胞について各種細胞表面マーカーを用いて解析したところ、特に粘膜筋板側に存在する肥満細胞が腺がんの浸潤とともに増加していることを見出した。肥満細胞はヒスタミンを合成する細胞であることから、この細胞の浸潤部での集積がヒスタミンの増加と関係している可能性が示唆された。

＜今後の方向＞

肥満細胞と腫瘍組織中のヒスタミン増加の関係について調査する。

¹⁾ 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所

- 2) 大阪大・工学研究科
3) 慶應大・先端生命科学研究所
4) 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-1

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニズムの解明と治療標的の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美¹⁾、梶野リエ、小島 康、山口 類、
武藤 誠²⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを100%の頻度で発症し、約20%のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル(CKPSマウス)では、安定型 β -catenin(Wnt経路活性化)と活性型Krasの発現、そしてp53とSmad4の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPSマウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。CKPSマウスの肝転移巣について各種オミクス解析を実施したところ、肝転移巣では原発組織と比べ大腸がん幹細胞マーカーであるALCAM(CD166)やPROM1(CD133)の発現増加が認められた。CKPSマウス由来大腸がん細胞株であるCKPS細胞においてCRISPR-Cas9によりALCAM、PROM1をノックアウトしたところ、スフェロイド形成能および脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、大腸がん幹細胞マーカーが転移能にも寄与することが示された。さらに、これら大腸がん幹細胞マーカーの発現にはTGF- β /SMAD4経路が負に制御することを見出している。

本年度は、TGF- β /SMAD4経路以外に大腸がんのがん幹細胞性維持に関わる他のタンパクやシグナル経路の探索を行った。CKPS細胞を幹細胞培養の手法である3次元培養条件においてキナーゼアレイ解析を実施したところ、cAMP/PKA/CREB経路の活性化が認められた。cAMP/PKA経路の活性化によりALCAM、PROM1の発現が上昇し、PKAやCREB阻害薬によりALCAM、PROM1の発現が抑制され、移植モデルによる肝転移巣形成も抑制されたことから、この経路も大腸がんの幹細胞性および転移に寄与することが明らかとなった。これらの内容について論文発表した(Fujishita et al., *Cancer Res* 82, 4179-4190, 2022)。

<今後の方向>

cAMP/PKA/CREB経路の阻害薬は大腸がんの転移を抑制するが副作用も大きいことから、大腸がんのがん幹細胞性維持

に関わる他のタンパクやシグナル経路の探索も行いたい。また、大腸がん幹細胞マーカー以外にも治療標的となる分子やシグナル経路の探索を行う予定。

- 1) 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所
2) 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが20%の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス(CKPSマウス)の開発に成功した(前項)。このCKPSマウスは100%の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症するが、同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。このPiggyBacトランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入CKPSマウスと比較して、トランスポゾンを導入したCKPSマウスでは肝転移の頻度がおよそ2倍(約40%)に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法としてSemiquantitative transposon insertion site sequencing(Qiseq)を実施したところ、既に転移への関与が報告されている*Ddr1*遺伝子が同定されたほか、タンパクは翻訳制御に関わる遺伝子Eも同定された。*Ddr1*遺伝子をCRISPR-Cas9でノックアウトしたCKPS細胞は脾臓への移植による肝転移巣形成数がコントロール細胞よりも低下した。また翻訳制御遺伝子Eを過剰発現させたCKPS細胞は肝転移巣形成数がコントロール細胞より増加した。翻訳制御遺伝子Eが制御するタンパクを同定する目的で、遺伝子EをノックダウンしたCKPS細胞とコントロール細胞とで比較プロテオーム解析を実施したところ、コレステロールの輸送に関与するタンパクなどの変動が示唆された。

<今後の方向>

遺伝子Eによる転移促進メカニズムを検証する予定である。プロテオーム解析により同定されたタンパクの解析を進めると

ともに、RNA シーケンス解析を実施することで、制御を受ける分子群の解明を目指す。

<研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築
(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

<研究者氏名>

小島 康、三城恵美¹⁾、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義²⁾、
武藤 誠³⁾、青木正博

<目的・概要・進捗状況>

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルおよび臨床検体のマルチオミクス解析に取り組んでいる。これまでに、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いてきた。1つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマ SEKI 細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2~3週間で著大な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して悪液質に関連性の高い変化をそれぞれ見出ししている。また胃がん臨床血液検体を用いた解析を継続して、マウスモデルから同定された悪液質診断および治療関連因子の検証を行い、結果、複数の有力な診断・治療因子候補の臨床的妥当性を一部実証している。本年度は、タンパク質の翻訳修飾に関して網羅的解析を実施して、マウスモデルおよび胃がん患者血液サンプルにおいて悪液質に関連する共通の変化を見出した。

<今後の方向>

タンパク質翻訳後修飾に関して解析を更に進める。また大規模な実験を可能にする簡便な悪液質モデルマウス作出に取り組む。

¹⁾ 名古屋大・トランスフォーマティブ生命分子研究所

²⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

³⁾ 京大・先端医療研究開発機構

分子腫瘍学分野

<研究課題> 1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫細胞における Hippo シグナル伝達系異常の解析

<研究者氏名>

赤尾 謙¹⁾、佐藤龍洋、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫はアスベスト曝露によって引き起こされる極めて悪性度の高い腫瘍である。主に胸膜から発生するが、診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療は限られている。悪性中皮腫のがん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子異常は30~40%の中皮腫で認められるが、その転写産物 (Merlin) は細胞内の増殖抑制性の Hippo (ヒッポ) シグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターである YAP/TAZ の活性を抑制する。悪性中皮腫細胞は NF2 や Hippo シグナル伝達系の構成因子の変異により約70%の症例で YAP/TAZ が恒常的に活性化している。活性化した YAP/TAZ は転写因子 TEAD と結合して様々な prooncogenic な遺伝子を転写亢進することにより、中皮細胞に悪性形質を賦与する。

悪性中皮腫細胞株パネル30株および不死化中皮細胞株4株を用い、製薬企業との共同研究で開発された TEAD 阻害剤 K-975 に対する感受性についての解析を継続した。K-975 は TEAD 分子の疎水性の central pocket にあるシステイン残基に共有結合し、YAP/TAZ が TEAD に結合することを阻害する小分子化合物である。悪性中皮腫細胞に対する K-975 の細胞増殖抑制効果は細胞周期の G1 arrest であり、アポトーシス誘導を起こさないことを明らかにした。一方、in vivo での実験も進め、中皮腫細胞株 MSTO-211H をヌードマウスに皮下移植して K-975 を投与したところ、著明な腫瘍抑制効果が認められた。

一方、通常分子標的薬治療において、一次耐性および二次耐性の獲得は大きな問題である。昨年度に樹立した K-975 に対する獲得耐性株 MSTO-211H-KR 株、NCI-H2052-KR 株、それらの親株2株、さらに NF2 遺伝子異常を有しながら K-975 に対して一次耐性を示した ACC-MESO-1 株および Y-MESO-27 株を用いて網羅的遺伝子発現解析を行った。これらの発現解析結果をもとに Gene Set Enrichment Analysis を行ったところがん遺伝子 MYC が転写制御する遺伝子群が耐性株では極めて高発現していることが明らかとなった。MYC 標的遺伝子群が耐性に関与していることを実証するため、MSTO-211H 株に MYC 遺伝子自身を過剰発現させたところ、in vitro および in vivo において K-975 に対する著しい耐性を示した。

TEAD family は4つのメンバーがあり、転写機能を含めその共通性や差異の詳細は明らかではない。昨年度、TEAD family の4遺伝子について Flag-tag 付コンストラクトを合成し、それぞれを細胞に発現させ、K-975 の投与前後の TEAD 分子に結合する分子の同定を免疫沈降法および質量分析法を用い解析した。今年度もそのデータをもとに個別の蛋白に対する解析を継続した。

【今後の方向】

現在、TEAD 阻害剤の開発研究は国内外で非常に盛んであり、複数の臨床試験が進んでいる。TEAD 阻害剤の薬効と有害事象の発症はこれらの臨床試験の結果を待つ必要があるが、分子標的薬として必ず予想される耐性獲得機序についても十分に検討する必要がある。本研究の結果から悪性中皮腫細胞が呈する TEAD 阻害剤の耐性獲得に関して MYC 標的遺伝子の関与が示唆されたことは極めて重要と考えられる。MYC 標的遺伝子の発現亢進が引き起こされる機構、そしてその中で特に鍵となる遺伝子の同定など、更なる研究課題が浮かび上がってきた。今後、本研究が推進されることにより、悪性中皮腫に対する新たな治療戦略が構築される可能性が強く示唆された。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

(主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究

(副題) 悪性中皮腫で高発現する NPPB の同定とその発現制御機構の解析

<研究者氏名>

佐藤龍洋、赤尾 謙¹⁾、佐藤鮎子²⁾、向井智美、辻村 亨²⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫はアスベストへの曝露と強い関連性を持つ腫瘍性疾患である。悪性度が高く予後不良であるため、早期発見が強く望まれている。現在までに、CDKN2A、BAP1、及び NF2 が悪性中皮腫において高頻度に異常を示す遺伝子として同定されている。最近の研究では、CDKN2A が存在する 9p21 遺伝子座の欠失を蛍光 in situ ハイブリダイゼーション (FISH) で検出し、BAP1 の発現異常を免疫組織化学染色で検出すれば、非常に高い特異性で中皮腫の診断ができることが報告されている。しかし、NF2 遺伝子変異やタンパク質発現異常の検出に対するこれらの手法の特異性や有用性は十分に証明されていない。

NF2 は、腫瘍抑制性シグナル伝達経路である Hippo シグナル伝達経路を正に制御することにより、細胞のがん化を抑制している。悪性中皮腫では NF2 遺伝子異常に加えて Hippo シグナル経路に関与する LATS2 遺伝子異常が検出されており、Hippo シグナル経路の破壊が悪性中皮腫の悪性化を誘導するという考えが強く支持されている。分子生物学的には、Hippo 経路は転写活性化因子である YAP1 と TAZ の核外輸送と分解を促進する役割を果たし、Hippo 経路が破壊されるとこれらのタンパク質の核内蓄積が増加する。核内に局在する YAP1 および TAZ は転写因子である TEAD ファミリー DNA 結合タンパク質 (TEAD1-4) と結合し、腫瘍促進遺伝子の転写を亢進する。近年、YAP1 と TEAD の結合を阻害する TEAD 阻害剤が相次いで報告されており、これらの薬剤の薬効や効果を予測する上で、Hippo 経路の不活性化や YAP1/TAZ の活性化を簡便

かつ有効に評価する手法が求められている。

本研究ではまず初めに、TCGA データベースの中皮腫コホートの 87 検体のデータを用いて Hippo 関連遺伝子に変異、欠失、遺伝子融合などの遺伝子変化がある患者を Altered 群 (Hippo 経路変異群) とし、これ以外の群 (Unaltered 群) と比較して発現量が異なる遺伝子を検索した。その結果、心不全診断の強力なバイオマーカーである脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) をコードする NPPB 遺伝子が Altered 群で 13 倍以上高発現していることを見出した。NPPB の発現は、32 種の TCGA 腫瘍のデータの中でも悪性中皮腫で最も高く、また、正常組織では心臓以外でほとんど発現していないことがデータベースの調査から明らかとなった。NPPB 高発現群の特徴をより深く理解するために、TCGA の悪性中皮腫検体を NPPB 発現レベルに応じて 2 群 (高群、低群) に分けて患者の全生存期間を比較したところ、低 NPPB 群の OS 中央値は 26.1 ヶ月 (95% CI, 19.43-31.20) であったが、高 NPPB 群のそれは 12.7 ヶ月 (95% CI, 9.30-15.09) と有意に短く、高い NPPB 発現量は患者予後の不良と相関することが明らかとなった。

次に 18 人の悪性中皮腫患者から採取した胸水を用い、BNP 分泌量を NT-proBNP 値として測定した。NT-proBNP の中央値は 212.5 pg/mL と高値を示した。また、これらの胸水から樹立に成功した 5 つの細胞株において、2 株で NF2 発現の異常が検出され、これらの株では NT-proBNP 値が中央値より高い値を示した。樹立した細胞株の数が少ないため統計的検定はできないが、Hippo 変異細胞株を有する中皮腫は、NPPB 遺伝子が高発現し、多量の NT-proBNP を分泌している可能性が示唆された。

最後に、NPPB の発現を制御する因子について検討するため、ノックダウン実験を行った。NF2 変異を有する NCI-H2373 細胞を使用して実験を行ったところ、NPPB 発現量は、YAP1 もしくは TAZ のノックダウンによって有意に減少し細胞培養液中の NPPB の分泌量も著しく減少した。さらに、YAP1、TAZ の活性化が NPPB の発現を増加させるのに十分であるかどうかを調べるために、恒常的活性型 YAP1 変異体もしくは恒常的活性型 TAZ 変異体を正常不死化中皮細胞株 HOMO-C4 に過剰発現させた。その結果、これらの細胞では NPPB の発現が強く誘導され、NPPB の発現が YAP1 および TAZ によって制御されていることが示唆された。

【今後の方向】

本研究により、NPPB 高発現患者は NPPB 非発現患者に比べ非常に予後不良であることが初めて明らかになった。しかし、我々の実験では、NPPB が中皮腫細胞の増殖を促進するという証拠を得ることはできなかった。この点から、NPPB の発現は自身の細胞だけでなく、周囲のがん細胞に対しても協調的に作用している可能性が考えられた。NPPB 遺伝子産物である BNP は、細胞外に分泌された後、自身の細胞へと作用するオートクライン効果に加え、周囲の細胞増殖に対してパラクライン効果を発揮することが想定される。腫瘍微小環境は悪性中皮腫患者の予後にとって重要な意味を持つことから、今後は放出された BNP が免疫細胞や腫瘍周囲細胞に及ぼす影響について検討を行っていく予定である。

- 1) リサーチレジデント
2) 兵庫医科大学医学部

システム解析学分野

<研究課題> 1

- (主 題) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究
(副 題) 機械学習による免疫受容体タンパクデザイン手法の開発

<研究者氏名>

郭 中梁、松下博和、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

人間の適応免疫における、自己・非自己認識機構は T 細胞の表面にある TCR と、抗原提示細胞が細胞表面に提示する pHLA の結合反応により司られている。細胞傷害性 T 細胞 (CD8 陽性 T 細胞) は、がん細胞が HLA タンパク上に提示するがん特異的抗原ペプチドを非自己として認識し、がん細胞を攻撃する。近年、開発が進む有力ながん免疫療法として、患者由来の TCR に改変を加えて、がん抗原の認識能を高めがん細胞を攻撃させる、TCR 遺伝子改変 T 細胞輸注療法 (TCR-T 療法) およびキメラ免疫受容体 T 細胞輸注療法 (CAR-T 療法) がある。これらの治療法はすでに一部のがんに対して大きな奏功を示しているが、臨床的に意味のある効果を得るためには、TCR 遺伝子の改変により pHLA との結合能 (親和性) を高めることがカギとなる。

しかしながら現在の T 細胞受容体改変療法には、同療法の「個別化」を目指す上で大きな困難がある。それは個々の結合能を高めた改変型 T 細胞受容体の作出に膨大な労力と時間を要することである。なぜならば TCR タンパク中で抗原認識に重要な CDR3 領域のアミノ酸配列のみの改変を考えたとしても 10^{26} 通りを超える膨大な組み合わせ多様性を持ち、なおかつ、超広大な配列探索空間のどこからどの方向へ探索していけば、目的とする pHLA 複合体に対して、より高い結合能をもつ配列を得られそうか経験と勘に頼らざるを得ない状況であるからである。故に、望みの性質をもつ TCR 配列を見出すことには多大な困難を伴う。

その一方で、一人の患者のがん組織から得られるがん特異的抗原 (体細胞変異由来のネオ抗原を含む) は、多種多様かつ個別性が高い。これらの多様ながん抗原を TCR-T 療法の標的とすることができれば、治療方策の幅を大きく広げ将来の患者の福音となる可能性が高い。そのためには上記の困難を克服する新たな方法論の開発が必要不可欠である。

本研究の目的は、近年がん免疫治療において開発が進む T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子改変 T 細胞輸注療法 (TCR-T 療法) の個別化の実現に向けて、最先端の「データ科学技術」と「免疫一細胞シーケンス計測技術」の統合により、膨大な組み合わせ多様性を持つ改変型 TCR と抗原ペプチド・HLA 複合体 (pHLA) 間の結合において、結合強度を増強・制御した「改

変型 TCR タンパク配列を高精度かつ高効率にデザインする手法」の開発を目指すことである。本研究では、まず、深層ニューラルネットワーク (DNN) に基づく、タンパク質間結合能の数値的予測技術および学習に利用可能なデータセットのサーベイおよび性能評価を行い、タンパク質デザインのために必要な機械学習技術の展望を議論し論文としてまとめた。また、上記の知見を基に、新規 TCR 配列探索アルゴリズムを開発し、高結合度 TCR 配列生成実験を行った。配列探索アルゴリズムの設計では、TCR 配列探索問題を統計科学におけるサンプリングの問題として捉え、TCR および pHLA 間の結合度予測モデルと、Sequential Monte Carlo (SMC) サンプラーと組み合わせることで、生成される TCR 配列の高結合度性と多様性の両立を目指した。その結果、多様な配列を高速に探索することが達成された。一方、より良い候補配列集合を得るためには、上記のサンプリングアルゴリズムの内部で使われる、数値的結合能予測モデルの精度の向上が必要とされた。そのためアミノ酸配列データを入力とする数値的結合能予測モデルの開発を進めた。また、一細胞計測により、がん抗原特異的 TCR を探索するとともに、既知の TCR 配列にランダム変異を加え、結合能の変化データの取得を行い、上記の数値的結合能予測モデルの開発を進めた。

【今後の方向】

よりよいタンパク質デザインのためには、数値的結合能予測モデルの精度の向上が必要である。そのためには、配列情報だけでなく、タンパク質立体構造等の異なる種類の情報も融合してモデルを構築する、マルチモーダルラーニングが有望であり、その方向で研究を進める予定である。

<研究課題>

- (主 題) 臨床シーケンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究
(副 題) 個人別遺伝子ネットワーク情報からの情報抽出法の開発

<研究者氏名>

山口 類、Park Heewon²⁾、井元清哉¹⁾、宮野 悟²⁾

【目的・概要・進捗状況】

がんゲノムパネル検査が 2019 年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシーケンスおよび複数オミックスデータの統合解析に基づく、がん臨床シーケンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。臨床シーケンスにおいては、現在は DNA のシーケンスが主流であるが、今後 RNA 等の情報をもも各人のサンプルから得られることが予想される。我々は、これまで複数のサンプルをプールし、その類似情報を基に個人ごとの遺伝子ネットワークを推定する手法を開発している。しかしながら一般的に各遺伝子ネットワークは、数千個の遺伝子をノードとする巨大なネットワークとなり、可視化するだけでも困難なものとなる。そこで、それら多数の大規模ネットワー

ク群からの有用情報抽出法の開発が必要である。本年は、個人別の薬剤耐性機構に関わるネットワーク構造を探索するために、NetSCCA (network-constrained sparse common component analysis) というアルゴリズムを開発し、薬剤感受性の異なる多数の細胞株由来の遺伝子発現データ得られたネットワーク群に対して NetSCCA を適用し、解釈可能な有用情報を得ることができた。

【今後の方向】

今後、計測の高度化にともない個人から得られるデータは、ますます種類も次元も増加することが予想される。その複雑なデータの中から人間が解釈可能な有用情報を抽出するためのデータ解析手法の開発が更に重要となってくる。今後は時系列情報も加味した情報抽出を進める予定である。

¹⁾ 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

²⁾ 東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

腫瘍制御学分野

＜研究課題＞ 1-1

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

＜研究者氏名＞

宮田眞美子、和田琴恵、森田知佳、青木玲奈、疋田智也、小根山千歳

＜目的・概要・進捗状況＞

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても *src* 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。私たちはこれまでに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロシンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出した。また臨床検体を用いた組織染色などによって、新規がん治療標的として Fer が有望であることが示唆された。そこで、Fer に結合する低分子化合物をスクリーニングしたところ、12万化合物から26種のヒット化合物を取得し、バリデーションの結果ヒット化合物1種を選択した。さらにヒット化合物から構造展開を行い、がん増殖抑制作用が高く細胞毒性の低いリード化合物2種の取得に成功した。今年度は、ヒトがん細胞担がんモデルマウスにおけるリード Fer 機能阻害剤の評価を行ない、経口投与にて薬効が認められた。

＜今後の方向＞

Fer 機能阻害剤の適応がん種を調べるとともに、作用機序メカニズムの解析を行う。

＜研究課題＞ 1-2

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) 蛋白質発現制御とがん進展

＜研究者氏名＞

森田知佳、和田琴恵、宮田眞美子、小根山千歳

＜目的・概要・進捗状況＞

mechanistic target of rapamycin (mTOR) 経路は蛋白質合成や細胞増殖、代謝などの制御において中心的な役割を果たしており、様々ながんにおいて活性化している。mTOR は複数の蛋白質と共に mTORC1 などの巨大複合体を形成して機能する。Rheb 蛋白質は mTORC1 のリソソームにおける活性化を司る分子とされ、様々ながんにおいて発現が亢進しているものの、その発現制御メカニズムは不明である。私たちはこれまでの研究において、mTORC1 活性阻害によるがん細胞の増殖抑制作用を示す化合物を解析する中で、その化合物が Rheb の分解誘導を引き起こし、蛋白質量を顕著に抑制することを見出してきた。今年度は、Rheb 蛋白質の新たな発現制御メカニズムを解明するため、本化合物によって誘導される分解経路の解析を行った。

＜今後の方向＞

Rheb 発現抑制剤の作用機序を詳細に解析し、Rheb 蛋白質の発現制御メカニズムを明らかにする。

＜研究課題＞ 2-1

(主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副題) エクソソームの形成制御とがん進展

＜研究者氏名＞

三谷文美絵¹⁾、宮田眞美子、青木玲奈、上原 了、清水 緑¹⁾、疋田智也、小根山千歳

＜目的・概要・進捗状況＞

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 40-150 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、がん細胞におけるエクソソームの形成や分泌の亢進メカニズムについてはほとんど明らかとなっていない。私たちはこれ

までに、様々ながんで活性化している Src シグナルのエクソソーム産生への関与について解析すると共に、Src の下流で増殖シグナルに関わる MAPK の活性化がエクソソーム分泌促進することを明らかにした。詳細な解析の結果、MAPK の活性化によって細胞内のリソソームの活性化が抑制され、エクソソーム形成の元となる多胞性エンドソームの分解が促進することにより、エクソソームの分泌が亢進することを明らかとした。今年度は、Src の活性化によって細胞内局在が変化する SNAP23 に着目し、詳細なエクソソーム亢進メカニズムを解析した。その結果、SNAP23 を介した細胞内コレステロール量の減少が多胞性エンドソームの形成を促進し、エクソソーム分泌が亢進することを明らかとした。

<今後の方向>

がん特異的なエクソソーム形成・分泌メカニズムを詳細に解析する。またそれらのメカニズムが機能しているがん種を明らかとし、メカニズムを基としたエクソソーム分泌阻害剤の探索・作用機序解析を行う。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

<研究課題> 2-2

- (主 題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明
(副 題) エクソソーム分泌阻害剤の探索と作用機序解明

<研究者氏名>

三谷文美絵¹⁾、青木玲奈、林 建宇²⁾、坂本達哉³⁾、
荒井雅吉²⁾、小根山千歳

<目的・概要・進捗状況>

これまでエクソソームマーカーをルシフェラーゼ標識することによって生じた発光エクソソームを検出する方法を開発し、この方法を発展させることにより、エクソソーム分泌阻害剤の探索系を構築した。そこで新規エクソソーム分泌阻害剤の同定を目指し、海洋由来真菌の培養抽出物を用いた天然物スクリーニングを行った。その結果、細胞毒性を示さず、エクソソーム分泌を阻害する低分子化合物を見出した。詳細な作用機序解析の結果、本化合物は細胞内の ATP を減少させることで mTOR 経路を抑制し、リソソーム活性化を介してエクソソーム分泌を阻害することが明らかとなった。

<今後の方向>

引き続き他の天然物ライブラリーを用いて、新規エクソソーム分泌阻害剤の探索を行うと共に、作用機序解析を行うことでがん特異的なエクソソーム分泌亢進メカニズムを明らかにする。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

²⁾ 大阪大学大学院薬学研究科

³⁾ 学部生 (名古屋大学医学部)

腫瘍免疫応答研究分野

<研究課題> 1

- (主 題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発
(副 題) エピジェネティクス改変による疲弊を起こさない抗腫瘍 T 細胞の開発

<研究者氏名>

籠谷勇紀、井上 聡、吉川聡明、伊藤雄介、呉 智聞¹⁾、
中島貴裕¹⁾、松川哲也²⁾、張 皓淞

<目的・概要・進捗状況>

本研究は、がん細胞を認識・攻撃できる抗腫瘍 T 細胞を体外で準備して、患者に輸注することで治療を行う養子免疫療法の改良に関する開発研究である。本課題では特に、クロマチン開閉状態の修飾を通じて細胞の性質を広範に制御するエピジェネティック遺伝子に着目した抗腫瘍 T 細胞の修飾により、T 細胞機能を高めることを目的としている。これまでに T 細胞の機能改変につながる複数のエピジェネティック遺伝子を同定しており、治療効果の改善につながる非臨床データを得た。特にこれまでに最も有望な因子として探索した PRDM1 ノックアウトによる長期生存型 T 細胞の作製については、改変に伴う治療効果の改善を示し、学術論文として発表した (Yoshikawa et al. Blood 2022)。同定された標的遺伝子の修飾を組み合わせることで、さらに T 細胞の機能を高められるデータを取得したことから個別課題へと展開し、研究代表者として外部資金を獲得して研究を推進した (AMED 次世代がん医療加速化研究事業、2022-2023 年、AMED 橋渡し研究プログラム・preF (名古屋大学拠点)、2022-2023 年、AMED 再生医療実現拠点ネットワークプログラム (幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム)、2021-2023 年、JST 創発的研究支援事業、2021-2027 年)。

<今後の方向>

2023 年 1 月に分野長が異動したため未定。

¹⁾ リサーチレジデント

²⁾ 研修生 (名古屋大学)

<研究課題> 2

- (主 題) 免疫療法抵抗性に関わる腫瘍細胞特性の解明

<研究者氏名>

籠谷勇紀、井上 聡、吉川聡明、伊藤雄介、呉 智聞¹⁾、
中島貴裕¹⁾、松川哲也²⁾、張 皓淞

<目的・概要・進捗状況>

T 細胞による細胞傷害活性に対する感受性はがん細胞の種類によって大きく異なることが知られている。この分子機序を解明するために多数のがん細胞株を準備し、感受性データの取得を進めた。これまでに 90 種類程度の細胞についての感受性デー

タを蓄積し、抵抗性に関わる分子機序を明らかにした。外部資金（科研費・基盤B）をもとにさらに研究を進め、学術論文として投稿する準備を進めた。

【今後の方向】

2023年1月に分野長が異動したため未定。

¹⁾ リサーチレジデント

²⁾ 研修生（名古屋大学）

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

(主題) がん免疫編集のメカニズムの解明

(副題) 肺癌における新しい腫瘍免疫微小環境の評価法の開発

<研究者氏名>

篠原周一¹⁾、高橋祐介、岡村文子、村岡大輔、山口 類、黒田浩章、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

一人一人の腫瘍免疫微小環境（TIME）をより良く理解することが、その患者の予後や治療効果を予測するバイオマーカーの開発につながると考えられる。しかし、TIMEを構成する様々な因子の相互作用を包括的に評価する方法はほとんど開発されていなかった。我々は、肺癌113例のRNA-seqと全エクソームシーケンスのデータを用いて、TIMEを構成する因子に基づく新しいスコアリングシステム（TIME score）を開発した（Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022）。TIME scoreは、T-score（腫瘍因子）、I-score（免疫因子）、そしてS-score（抗免疫因子）から成る。肺癌の組織型、ドライバー変異、腫瘍浸潤リンパ球、および突然変異由来のネオアンチゲンに対する免疫応答/免疫編集が肺癌患者のTIMEスコアに影響を与えることを示した。肺癌990例のTCGAデータセットを用いた予後解析ではT-、I-、S-scoreはいずれも独立した予後因子となり、8つのグループ（G1-8）で予後が層別された。さらに、TIMEスコアが、悪性黒色腫患者における抗PD-1療法の有効性を予測することが示された。このスコアリングシステムを、さらに発展させることで、肺癌患者の予後予測や免疫療法の治療選択に役立つ可能性がある。

【今後の方向】

バルクのRNA発現をもとに開発したTIME scoreをさらに発展させるために、腫瘍の免疫組織学的解析やT細胞のシングルセル解析等の詳細な検討を行っている。肺癌においてICIのみで効果が期待できる症例の選択、さらにはICIとがんワクチンを含む他の治療との併用で効果が期待できる症例の選択に役立つ可能性がある。

¹⁾ 任意研修生

<研究課題> 2

(主題) 新生抗原（ネオアンチゲン）の同定と免疫応答の解析

(副題)

<研究者氏名>

小室裕康¹⁾、篠原周一¹⁾、杉田裕介²⁾、村岡大輔、岡村文子、松井琢哉¹⁾、山下慶子³⁾、山口 類、田口 歩、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原（ネオアンチゲン）エピトープを認識する細胞傷害性Tリンパ球（CTL）が、腫瘍細胞の排除に重要な役割を果たしていることが明らかになっている。がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。我々は、Single Cell RNA sequencing（scRNA-seq）およびTCR sequencing（scTCR-seq）を活用して、腫瘍特異的CD8+細胞集団を特定し、その集団内のT細胞が認識する腫瘍抗原の同定を試みた。外科的に切除された3例の肺癌検体から、CD3+CD8+T細胞をcell sortingしてscRNA-seqおよびscTCR-seqを行った。Tex（exhausted T cell）クラスターに着目し、TCR遺伝子を人工合成し、Jurkat細胞に導入した。日本電気株式会社（NEC）と共同で人工知能（AI（グラフベース関係性学習））を活用して予測した抗原ペプチドとの反応性を検討した。合計5個の腫瘍抗原（KK-LC-1、変異SORL1、変異JAGN1、変異AKT2、変異ITGB5）と、その抗原に特異的な9種類のT細胞を同定した。CD8+T細胞scRNA/TCR-seqによるTex-TCRの検出は、肺癌患者の腫瘍抗原を同定する有用なアプローチと考えられた（Komuro et al, J Immunother Cancer 2023）。また、同様のアプローチを用いて、肺癌胸水症例からも、ネオアンチゲンの同定が可能であった（Sugita et al, 論文準備中）。

【今後の方向】

肺癌でのアプローチを、脳腫瘍及び頭頸部癌にも応用して、抗原及び抗原特異的T細胞を同定する。

<研究課題> 3

(主題) ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発

(副題)

<研究者氏名>

村岡大輔、小室裕康¹⁾、篠原周一¹⁾、杉田裕介²⁾、松井琢哉¹⁾、岡村文子、山下慶子³⁾、山口 類、田口 歩、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

上述のように、我々は、Single Cell RNA sequencing（scRNA-seq）およびTCR sequencing（scTCR-seq）を活用して、肺癌3症例から腫瘍特異的CD8+細胞集団を特定し、その集団内のT細胞が認識する腫瘍抗原の同定を試みてきた。しかし、実際の腫瘍では、腫瘍特異的T細胞が腫瘍周辺に留まり腫瘍領域

に到達することができず、腫瘍細胞の排除ができないことが知られており、T細胞の腫瘍領域への浸潤を規定する機構の解明が喫緊の課題とされている。

我々は、空間的遺伝子発現解析情報に一細胞遺伝子発現解析情報を紐づける独自の技術を確立し、腫瘍局所における腫瘍特異的T細胞の局在とこれらのT細胞における詳細な遺伝子情報を明らかにすることに成功した。現在、この画期的な技術を用いて、腫瘍領域へと浸潤できる抗原特異的T細胞と浸潤できない抗原特異的T細胞の特徴を詳細に比較解析し、腫瘍特異的T細胞の腫瘍内浸潤を規定する因子を探索している。

【今後の方向】

このTCR-抗原ペア同定アルゴリズムと空間遺伝子発現解析を統合したシステムを、将来の固形がんに対するTCR遺伝子導入T (TCR-T) 細胞治療の開発に応用する。

- 1) 任意研修生
- 2) リサーチレジデント
- 3) AI Drug Development Division, NEC Corporation

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- (主題) がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索
- (副題) 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

<研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、磯村久徳¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約15万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も5万人超と肺癌について2番目に多い。大腸癌の5年相対生存率は、局所限局症例では95%以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約40%に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか5%前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約50%と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパク質と自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

現在までに、4つの血漿検体セットを用いて高深度血漿タン

パク質解析を行った。3つの施設（愛知県がんセンター、藤田医科大学消化器内科、滋賀医科大学消化器内科）から提供された血漿検体について、それぞれ施設、性別（男、女）、組織型（腺腫、腺癌）、発生部位（右側、左側）、遺伝子変異（KRAS、BRAF）などの臨床情報に基づいてサンプルをプールし、安定同位体標識を用いて標識したのち、サンプルを大規模に分画して、高深度かつ定量的な質量分析をnano-LC/MS/MSを用いて行った。各プロテオーム解析において、それぞれ800~1,100個の微量タンパク質が同定できた。そのうち、有望と考えられたバイオマーカー候補については、現在アッセイの確立と150例（正常対照、低リスク大腸ポリープ、高リスク大腸ポリープ、早期大腸癌、進行大腸癌それぞれ30例ずつ）の血漿検体を用いた初期検証を進めている。さらに既存の大腸がんバイオマーカー（CEA、CA19-9、p53抗体、CYFRA21-1、LGALS3、TIMP-1）についても併せて検証を行っている。また、抗原-自己抗体高感度プロテオーム解析による自己抗体プロファイリングに基づいて、有望なバイオマーカー候補と考えられた自己抗体についても同様に初期検証を進めている。初期検証で有望と考えられたバイオマーカーを組み合わせてバイオマーカーパネルの構築を行ったところ、正常と大腸腫瘍性病変（低リスク大腸腺腫+高リスク大腸腺腫+早期大腸癌+進行大腸癌）、正常と大腸ポリープ（低リスク大腸腺腫+高リスク大腸腺腫）、正常と大腸癌（早期大腸癌+進行大腸癌）の比較において、バイオマーカーの組み合わせはAUCがそれぞれ0.828、0.921、0.860であり、CEA単独のAUCである0.584、0.530、0.637を有意に上回った（ $P < 0.001$ 、 $P < 0.001$ 、 $P = 0.003$ ）。

【今後の方向】

初期検証において有望と考えられたバイオマーカーについては、便潜血陽性症例223例（そのうち高リスク大腸ポリープから進行大腸癌67例を含む）、大腸癌と診断される前に収集された血液検体130例（+正常対照130例）を用いてさらに検証する。

- 1) リサーチレジデント

<研究課題> 2

- (主題) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索
- (副題) 大腸癌転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発

<研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳¹⁾、梶野泰祐、阿部雄一

【目的・概要・進捗状況】

遠隔転移を有するStage IV大腸癌の5年生存率は約20%と予後不良であり、大腸癌の生存率向上のためには、再発・転移の制御が極めて重要である。転移性大腸癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって転移性大腸癌の克服に取

り組む必要がある。

我々は、大腸癌転移モデルとして、マウス大腸癌細胞株 CT26 の in vivo selection を行い、肝転移 (CT26-L6)、リンパ節転移 (CT26-LN6)、腹膜転移 (CT26-P6) をそれぞれ高頻度に起こす亜株と、転移を起こしにくい亜株 (CT26-N5) をそれぞれ樹立した。低転移性亜株に比べ、各高転移性亜株では高い遊走・浸潤能を獲得していた。各亜株において、RNA シーケンス解析と多層プロテオーム解析を行い、それぞれの分子プロフィールを比較したところ、特に転移関連分子 AVIL が、腹膜転移亜株で高発現していることを見出した。腹膜転移亜株において、siRNA を用いた AVIL のノックダウンにより、細胞の遊走浸潤能が著明に低下した。in vivo においても AVIL のノックダウンは、腹膜転移形成を抑制した。また、ヒト大腸癌細胞株においても AVIL のノックダウンによって、同様に遊走・浸潤能が有意に低下することが観察され、AVIL が大腸癌腹膜転移において重要な役割を果たしていることが示唆された。また、GSEA 解析から AVIL が JAK-STAT シグナル経路によって制御されていることが明らかになった。IP-MS によって AVIL の結合タンパク質を探索したところ、受容体型チロシンフォスファターゼ X が同定された。X のノックダウンによってヒト大腸癌細胞株の遊走・浸潤能が有意に低下したことから、AVIL が X の機能制御に関わっていることが示唆された。

現在高肝転移亜株、高リンパ節転移亜株においても同様に解析を進めており、本研究を通じて大腸癌転移に関わる分子機構を俯瞰的に解明し、大腸癌転移巣を制御するための新規分子標的治療法の開発を目指す。また、並行して大腸癌原発巣と肝転移巣の臨床検体から作成した患者腫瘍組織移植 (PDX) モデルについても、多層オミクス解析を行っており、さらなる新規転移関連分子の同定を目指している。

¹⁾ リサーチレジデント

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、西岡由希、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間 5 万人程度で、男性のがん死亡の第 3 位、女性では第 1 位の原因である。大腸がんの術後再発メカニズムの解明および新規治療開発のため、切除可能大腸がんの手術検体よりオルガノイドの作成を行うとともに、腫瘍検体の全エクソームシーケンス解析とそれに基づいて患者個別に設定された対象遺伝子の ctDNA 解析、腫瘍検体の RNA シーケンス解析のデータを統合解析し、新たな標的分子の同定と治療開発につなげる。本研究は、多施設共同臨床試験であり、当院のデータと試験全体のデータの統合解析を行っている。

【今後の方向】

ctDNA 解析結果と臨床病理学的背景の関わり、ctDNA 解析結果により判定される術後補助療法に対する感受性と発現プロフィールの相関などの解析により標的分子の選定を進める。

<研究課題> 2

承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、新津宏明、築瀬正伍、木村 令¹⁾、平出賢太郎²⁾、山本隆正、

【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において、KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが、有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異にはいくつかのホットスポットが存在し、そのうち 12 番目のアミノ酸であるグリシンがシステインに変異する KRAS G12C 変異は、肺がんの 4-5%、大腸がんの 2-3% に存在することが知られている。近年、KRAS G12C 変異タンパクを特異的に阻害する薬剤が開発され、2021 年末に薬事承認された。我々は、KRAS G12C 変異を有するがん細胞株の解析から、KRAS タンパクの発現が KRAS G12C 阻害薬の感受性に関与することを見出した。また、KRAS タンパクの発現は、腫瘍の上皮間葉移行状態に関連しており、腫瘍細胞が間葉系の性質を獲得することにより KRAS G12C 阻害薬に耐性となること明らかに昨年度報告した。本年度は、上皮間葉移行が起きるメカニズムについて取り組み、候補分子の同定し、論文投稿を行った。

【今後の方向】

KRAS の他の部位に対する特異的阻害薬も開発が進んでいることから、KRAS G12C 阻害薬は、今後の KRAS 変異腫瘍に対する治療のモデルケースとなることが考えられる。現在、上皮間葉移行状態以外の KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機序や、上皮間葉移行状態が誘導されるメカニズムについても検討を進めており、これらの原因が明らかにされることにより、KRAS 阻害薬の効果が期待される患者の同定や、効果が期待できない患者に対する併用療法などの新たな治療選択の提示につなげたい。

¹⁾ 研修生

²⁾ リサーチレジデント

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 丹羽康正：病態解明に基づく消化管内視鏡の未来. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [パネルディスカッション特別発言]
- 002 丹羽康正：早期胃癌の診断・治療. 第35回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2022, (名古屋), [司会]
- 003 丹羽康正：理事長講演（検診）がん克服をめざして. JDDW2022FUKUOKA, 2022, (福岡), [司会]
- 004 丹羽康正：会長講演（検診）消化器がん検診 ―これまでとこれから―. JDDW2022FUKUOKA, 2022, (福岡), [口演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

病院長

- 001 *Keith W. Pratz, Brian A. Jonas, Vinod Pullarkat, Michael J. Thirman, Jacqueline S. Garcia, Walter Fiedler, Kazuhito Yamamoto, Jianxiang Wang, Sung-Soo Yoon, Jun-Ho Jang, Su-Peng Yeh, Grace Ku, Ying Zhou, Brenda Chyla, Jalaja Potluri, and Courtney D. DiNardo* : Title: Long-Term Follow-Up of the Phase 3 VIALE-A Clinical Trial of Venetoclax Plus Azacitidine for Patients with Untreated Acute Myeloid Leukemia Ineligible for Intensive Chemotherapy. The 64th Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2022, (New Orleans, LA, USA) [口頭]
- 002 *Takashi Watanabe, Kensei Tobinai, Masashi Wakabayashi, Dai Maruyama, Kazuhito Yamamoto, Nobuko Kubota, Kazuyuki Shimada, Kohsuke Asagoe, Motoko Yamaguchi, Kiyoshi Ando, Michinori Ogura, Junya Kuroda, Youko Suehiro, Yoshihiro Matsuno, Kunihiro Tsukasaki, Hirokazu Nagai* : Final Analysis of JCOG0203 for Advanced-Stage Indolent B-Cell Lymphoma 15 Years after the End of Enrollment: Pooled Analysis of Arms a and B for Follicular Lymphoma. The 64th Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2022, (New Orleans, LA, USA) [ポスター]
- 003 *Shigeru Kusumoto, Wataru Munakata, Ryunosuke Machida, Takashi Terauchi, Hiroaki Onaya, Masahiko Oguchi, Shinsuke Iida, Kisato Nosaka, Yasuhiro Suzuki, Yasuhiko Harada, Kana Miyazaki, Masaki Maruta, Noriko Fukuhara, Tomomi Toubai, Nobuko Kubota, Ken Ohmachi, Kazuhito Yamamoto, Takahiro Kumode, Ishikazu Mizuno, Takayuki Tabayashi, Hideki Tsujimura, Nobuyuki Takayama, Kohsuke Asagoe, Isao Yoshida, Yasushi Takamatsu, Suguru Fukuhara, Mai Takeuchi, Ukihide Tateishi, Dai Maruyama, Kunihiro Tsukasaki, Hirokazu Nagai* : Interim PET-Guided ABVD or ABVD/Escalated BEACOPP for Newly Diagnosed Advanced-Stage Classic Hodgkin Lymphoma (JCOG1305, INNOVATE-HL study). The 64th Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2022, (New Orleans, LA, USA) [ポスター]
- 004 *Koji Izutsu, Takahiro Kumode, Junichiro Yuda, Hirokazu Nagai, Yuko Mishima, Yoko Suehiro, Kazuhito Yamamoto, Tomoaki Fujisaki, Kenji Ishitsuka, Kenichi Ishizawa, Takayuki Ikezoe, Momoko Nishikori, Daigo Akahane, Jiro Fujita, Jun Wu, Per Broberg, Jeppe Buchbjerg, Elena Favaro, Noriko Fukuhara* : Subcutaneous Epcoritamab in Japanese Patients With Relapsed/Refractory Diffuse Large B-Cell Lymphoma: EPCORE NHL-3 Data. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡) [口頭]
- 005 *Kazuhito Yamamoto, Noriko Fukuhara, Takahiro Yamauchi, Eiju Negoro, Toshiki Uchida, Koji Izutsu, Dai Maruyama, Yasuhito Terui, Hideaki Nakajima, Kiyoshi Ando, Youko Suehiro, Ilseung Choi, Nobuhiro Kanemura, Nobuhiko Nakamura, Go Yamamoto, Yoshinobu Maeda, Hirohiko Shibayama, Fumiko Nagahama, Yusuke Sonehara, Hirokazu Nagai, Kensei Tobinai* : Japanese subgroup analysis in the Asian phase II study of darinaparsin in patients with r/r PTCL. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市) [口頭]
- 006 *Emi Kemmoku, Harumi Kato, Masamitsu Yanada, Hirofumi Taji, Toko Saito, Seiichi Kato, Kazuhito Yamamoto* : Evaluation of time scale of early disease progression in newly diagnosed DLBCL receiving R-CHOP. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市) [口頭]
- 007 *Kentaro Fukushima, Motoki Eguchi, Takanobu Morishita, SungGi Chi, Tomoaki Ueda, Naoko Hosono, Takahiro Yamauchi, Seiichiro Katagiri, Akihiko Gotoh, Takeshi Kondo, Masamitsu Yanada, Kazuhito Yamamoto, Junya Kuroda, Kensuke Usuki, Yoshikazu Utsu, Makoto Yoshimitsu, Kenji Ishitsuka, Takaaki Ono, Naoto Takahashi, Satoshi Iyama, Kensuke Kojima, Yukinori Nakamura, Suguru Fukuhara, Koji Izutsu, Nobuhiko Yamauchi, Junichiro Yuda, Yosuke Minami* : Prognostic impact of mutant FLT3 variant allelic frequency in R/R AML/newly diagnosed unfit AML. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市) [口頭]
- 008 *Naoko Hosono, Takahiro Yamauchi, Sunggi Chi, Kentaro Fukushima, Hirohiko Shibayama, Seiichiro Katagiri, Akihiko Goto, Motoki Eguchi, Takanobu Morishita, Reiki Ogasawara, Takeshi Kondo, Masamitsu Yanada, Kazuhito Yamamoto, Tsutomu Kobayashi, Junya Kuroda, Kensuke Usuki, Yoshikazu Utsu, Makoto Yoshimitsu, Kenji Ishitsuka, Takaaki Ono, Naoto Takahashi, Satoshi Iyama, Kensuke Kojima, Yukinori Nakamura, Suguru Fukuhara, Koji Izutsu, Nobuhiko Yamauchi, Junichiro Yuda, Yosuke Minami* : Analysis of WT1 mutations and expression in R/R-AML and newly diagnosed unfit AML: HM-SCREEN-Japan 01. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市) [口頭]
- 009 *Daisuke Ikeda, SungGi Chi, Kentaro Fukushima, Hirohiko Shibayama, Naoko Hosono, Takahiro Yamauchi, Seiichiro Katagiri, Akihiko Gotoh, Takanobu Morishita, Takeshi Kondo, Masamitsu Yanada, Kazuhito Yamamoto, Tsutomu Kobayashi, Junya Kuroda, Kensuke Usuki, Yoshikazu Utsu, Makoto Yoshimitsu, Kenji Ishitsuka, Takaaki Ono, Naoto Takahashi, Satoshi Iyama, Kensuke Kojima, Yukinori Nakamura, Suguru Fukuhara, Koji Izutsu, Nobuhiko Yamauchi, Junichiro Yuda, Yosuke Minami* : Evaluation of ELN classification with NGS analysis in AML: HM-SCREEN-JAPAN01. 第84回日本血液学会学術集会,

- 2022, (福岡市)[ポスター]
- 010 **Toko Saito, Harumi Kato, Masamitsu Yanada, Hirofumi Taji, Emi Kemmoku, Seiichi Kato, Kazuhito Yamamoto** (加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 加藤省一, 山本一仁): RB and CHASER first line induction therapy for transplant-eligible mantle cell lymphoma. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市)[ポスター]
- 011 **Nobuhiko Yamauchi, Hirotaka Nakamura, Nozomu Fuse, Masashi Wakabayashi, SungGi Chi, Junichiro Yuda, Seiichiro Katagiri, Hiromi Ono, Kazuhito Yamamoto, Akihiko Gotoh, Shohei Koyama, Hiroyoshi Nishikawa, Yosuke Minami**: Nivolumab monotherapy for hematologic malignancies: the results of phase 2 study (EPOC 1707). 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市)[口頭]
- 012 太田秀一, 伊豆津宏二, 三嶋裕子, 白杵憲祐, 遠西大輔, 山本一仁, 福原規子, 吉岡 聡: Japanese phase 1b study of an oral PI3K-delta/gamma inhibitor duvelisib in patients with r/r CLL/SLL. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市)[口頭]
- 013 新井宏典, 宇津欣和, 増田真一, 青墳信之, 福島健太郎, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 近藤 健, 柳田正光, 山本一仁, 黒田純也, 白杵憲祐, 吉満 誠, 石塚賢治, 小孝 明, 高橋直人, 井山 諭, 中邑幸伸, 福原 傑, 伊豆津宏二, 池 成基, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南 陽介: Tumor-agnostic actionable gene mutations including BRCA in acute myeloid leukemia: HM-SCREEN-JAPAN01. 第84回日本血液学会学術集会, 2022, (福岡市)[口頭]
- 014 丸山 大, 山本一仁, 加藤光次, 石川隆之, 福原規子, 照井康仁, 崔 日承, 大久保澄子, 小川夏実, 西村泰子, **Brenda J Chyla, Yan Sun, 伊豆津宏二**: venetoclax 治療を受けた再発又は難治性の慢性リンパ性白血病を有する日本人患者における MRD 測定. 第62回日本リンパ網内系学会学術集会・総会, 2022, (埼玉県川越市)[ポスター]
- 015 山本一仁: 好中球減少中の感染症対策と化学療法におけるサポートケア, 第12回若手臨床血液学セミナー, 2022, (WEB)[口演・セミナー]

消化器内科部

- 001 **Hara K**: EUS-FNA. The 3rd World Congress of GI Endoscopy, 2022, (京都), [Hands-on seminar]
- 002 **Hara K**: Case Presentation. The 3rd World Congress of GI Endoscopy, 2022, (京都), [Panelist]
- 003 **Hara K**: Techniques and dedicated devices for safe EUS-guided drainage. IDEN 2022, 2022, (Korea), [講演]
- 004 **Hara K**: Important points for easier, safer, and effective iEUS. 2022 Southern Forum on GI Disease & Endoscopy, 2022, (中国), [講演]

- 005 **Hara K**: How to perform EUS-FNA for difficult situations. 消化器基準化操作ワークショップ, 2022, (中国), [特別講演]
- 006 **Hara K**: BASIC techniques of EUS-FNA. 第3回超音波内視鏡ニューブプログレスサロン兼消化管腫瘍内視鏡規範化診断治療トレーニング, 2022, (中国), [講演]
- 007 **Hara K**: Precision Biliary Drainage. Al Azhar UCHID 2022, 2022, (Egypt), [講演]
- 008 **Hara K**: How to perform interventional EUS easier and safer?. The 4th Shanghai Lujiazui International Digestive Disease and Endoscopy Forum, 2022, (上海), [特別講演]
- 009 **Hara K**: AEG BASIC AND ADVANCED EUS WORKSHOP Lecture session. AEG NAGOYA WORKSHOP, 2023, (名古屋), [司会]
- 010 **Hara K**: AEG BASIC AND ADVANCED EUS WORKSHOP Hands-on session. AEG NAGOYA WORKSHOP, 2023, (名古屋), [司会]
- 011 **Hara K**: Is a Laser-cut metal stent useful for iEUS?. S&G Global GI Webinar 2023, 2023, (Korea), [講演]
- 012 **Hara K**: Recent advance in endoscopic biliary drainage and interventional EUS. Japan-Russia Joint Webinar, 2023, (名古屋), [司会]
- 013 **Suzuki Y, Morizane C, Mizusawa J, Sano Y, Kobayashi S, Imaoka H, Terashima T, Ikeda M, Okano N, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A, Okusaka T, Ozaka M, Ueno M**: Comparison of clinical features by primary sites in patients with biliary tract cancer who received gemcitabine-based chemotherapy: An exploratory analysis of JCOG1113. ASCO-GI 2023, 2023, (San Francisco), [ポスター]
- 014 **Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Kamei K, Yanagibashi H, Mizuno N, Gotoh K, Kawamoto Y, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Takahashi A, Makino I, Anbo Y, Ohta K, Katayama H, Konishi M, Ueno M**: Effects of gene expression in 5-FU metabolic pathways in a phase III trial evaluating adjuvant S-1 therapy compared to surgery alone following curative resection for biliary tract cancer (JCOG1202A1). ASCO-GI 2023, 2023, (San Francisco), [ポスター]
- 015 **Furukawa M, Ueno M, Sakai D, Ouchi K, Hamamoto Y, Aikata H, Ozaka M, Tsumura H, Tsuji K, Kubo S, Nishina T, Katanuma A, Morizane C, Ikeda M, Mizuno N, Inagaki T, Shioji K, Furuse J**: A multicenter, single-arm, phase II study of nivolumab in patients with biliary tract cancer with a PD-L1 combined positive score ≥ 1 . ASCO-GI 2023, 2023, (San Francisco), [ポスター]
- 016 **Takahashi H, Caughey BA, Umemoto K, Green M, Nakamura Y, Datto M, Ueno M, Walden D, Esaki T, Oliver T, Komatsu Y, Mizuno N, Oki E, Taniguchi H, Bando H, Morizane C, Yoshino T, Strickler JH, Ikeda M, Bekaii-Saab TS**: Clinical

- impact of MAPK pathway alterations in advanced biliary tract cancer (BTC): SCRUM-Japan GOZILA and COLOMATE international collaboration. ASCO 2022, 2022, (Chicago), [ポスター]
- 017 **Ohba A, Ozaka M, Mizusawa J, Katayama H, Okusaka T, Kobayashi S, Ikeda M, Kaneko S, Sasahira N, Okano N, Furukawa M, Miki I, Mizuno N, Yasuda I, Fujimori N, Kataoka T, Ueno M, Ishii H, Fukuda H, Furuse J** : Randomized multicenter phase II/III study of gemcitabine plus nab-paclitaxel or modified FOLFIRINOX or S-IROX in patients with metastatic or recurrent pancreatic cancer (JCOG1611, GENERATE). ASCO 2022, 2022, (Chicago), [ポスター]
- 018 **Kuwahara T** : Deep learning analysis for the diagnosis of pancreatic diseases. DDW2022, 2022, (WEB)[招待講演]
- 019 **Kuwahara T** : Utilization of artificial intelligence for the development of an EUS-convolutional neural network model. IDEN2022, 2022, (WEB), [招待講演]
- 020 **Kuwahara T** : Artificial intelligence in EUS diagnosis for pancreatic cystic lesions. KDDW2022, 2022, (WEB), [招待講演]
- 021 **Kuwahara T, Hara K** : Artificial intelligence analysis for the evaluation of PanNEN grading. 第26回国際膵臓学会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 022 **Kuraishi Y, Hara K, Okuno N, Kuwahara T, Haba S, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Mizuno N** : Association between autoimmune pancreatitis and malignancy development. 第26回国際膵臓学会, 2022, (京都), [パネルディスカッション]
- 023 **Yamada M, Okuno N, Yasuda T, Ishikawa S, Yanaidani T, Kuraishi Y, Kuwahara T, Haba S, Mizuno N, Hara K** : Needle-based confocal endomicroscopy for the diagnosis of pancreatic neuroendocrine tumor. 第26回国際膵臓学会, 2022, (京都), [口演]
- 024 **Ishikawa S, Okuno N, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Yamada M, Yasuda T, Hara K** : Chronic pancreatitis with refractory biliary stricture treated by EUS-CDS fistula creation. 第26回国際膵臓学会, 2022, (京都), [口演]
- 025 **Yasuda T, Haba S, Ishikawa S, Yamada M, Fumihara D, Yanaidani T, Kuraishi Y, Okuno N, Kuwahara T, Mizuno N, Hara K** : Dilation of pancreatic duct stenosis using a newly designed drill dilator. 第53回日本膵臓学会大会 2022, (京都), [口演]
- 026 **原 和生** : 口演 膵 EUS. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [司会]
- 027 **原 和生** : Interventional EUSの教育法. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [サテライトセミナー]
- 028 **原 和生** : EUS-BDのトラブルシューティング. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [ランチョンセミナー]
- 029 **原 和生** : パネルディスカッション 10, EUS-FNA 診療の新展開. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [座長]
- 030 **原 和生** : パネルディスカッション 胆膵領域における超音波内視鏡診断と治療. 第95回日本超音波医学会, 2022, (名古屋), [座長]
- 031 **原 和生** : 初心者のためのEUS-BDセミナー2022, 初心者のためのEUS-BDセミナー, (東京), [特別講演]
- 032 **原 和生** : がんゲノム医療と胆膵内視鏡. 仙台内視鏡治療ライブセミナー2022, 2022, (仙台), [講演]
- 033 **原 和生** : 胆膵内視鏡ライブセミナー 1.EUS-FNA. 仙台内視鏡ライブセミナー2022, 2022, (仙台), [ワークショップ]
- 034 **原 和生** : 胆膵内視鏡ライブセミナー 2.EUS-HGS. 仙台内視鏡ライブセミナー2022, 2022, (仙台), [ワークショップ]
- 035 **原 和生** : 東海 ERCP/EUS セミナー. 東海 ERCP/EUS セミナー, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 036 **原 和生** : がん患者さんの食欲不振・体重減少の治療介入時期を再考する. アナモレリン研究会, 2022, (名古屋), [座長]
- 037 **原 和生** : TornusESが導く安心・安全なInterventional Endoscopy. 新型ダイレーターによる拡張領域新展開, 2022, (名古屋), [講演]
- 038 **原 和生** : Precision Biliary Drainageを目指して. 胆膵内視鏡フロンティアセミナー, 2022, (神戸), [特別講演]
- 039 **原 和生** : AXIOS Hands-on ワークショップ. AXIOS 講習会, 2022, (金沢), [ワークショップ]
- 040 **原 和生** : Precision Biliary Drainage. 金沢大学内視鏡講演会, 2022, (金沢), [特別講演]
- 041 **原 和生** : EUS-FNB がんゲノム医療. 東海胆膵内視鏡研究会, 2022, (名古屋), [司会]
- 042 **原 和生** : AXIOS Hands-on ワークショップ. AXIOS 講習会, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 043 **原 和生** : 統計学の基礎. 癌診療を行う臨床医のための医学セミナー, (名古屋), [司会]
- 044 **原 和生** : 第2部 Interventional EUS. 第20回 FNA Club JAPAN, 2022, (東京), [座長]
- 045 **原 和生** : 稀な胆膵腫瘍の画像診断. 第60回鈴鹿肝胆膵画像研究会, 2022, (三重), [講演]
- 046 **原 和生, 遠藤 格** : 口演3 膵臓2. 第76回日本消化器画像診断研究会, 2022, (新潟), [座長]
- 047 **原 和生** : PBDのススム. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [特別講演]
- 048 **原 和生** : 講演20 ドレナージ7 : 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [座長]
- 049 **原 和生** : 膵癌総論 膵癌を知らう. 令和4年度第4回市民公開講座, 2022, (名古屋), [講演]
- 050 **原 和生** : デジタルポスター 膵臓(急性膵炎・慢性膵炎). JDDW2022, 2022, (福岡), [座長]
- 051 **原 和生** : デジタルポスター 胆道・ドレナージ (EUS

- 関連)2. JDDW2022, 2022, (福岡), [座長]
- 052 原 和生: AXIOS 講習会. AXIOS 講習会, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 053 原 和生: 膵胆道がんの疼痛コントロールと便秘のマネジメント. OIC 研究会, 2022, (名古屋), [特別講演]
- 054 原 和生: EUS-FNA の現状と未来. 第 174 回日本臨床細胞学会東海連合会例会, 2022, (名古屋), [講演]
- 055 原 和生: EUS-BD の手技について. 朝日 J セールス内視鏡講演会, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 056 原 和生: 内科医から見た PNEN 集学的治療. 膵・消化管神経内分泌腫瘍 Update2023, 2023, (名古屋), [司会]
- 057 原 和生: EUS-BD の現状と課題. 朝日 J セールス内視鏡講演会, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 058 原 和生: EUS-FNA の手技について. 朝日 J セールス内視鏡講演会, 2023, (名古屋), [特別講演]
- 059 原 和生: がんゲノム時代に胆膵内視鏡医が理解しておくべき最新の知見. TAIHO Web Lecture on Biliary Tract and Pancreatic Cancer, 2023, (名古屋), [講演]
- 060 原 和生: 中部 SharkCore Summit. 中部 SharkCore Summit, 2023, (名古屋), [司会]
- 061 原 和生: がん薬物療法を行う医師が理解しておきたい有害事象とその対策. 第 3 回旭化成ファーマ勉強会, 2023, (名古屋), [司会]
- 062 田中 努, 田近正洋, 大西祥代, 山田啓策, 神谷友康, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 倉石康弘, 文原大貴, 柳井谷駿史, 石川 将, 安田 司, 山田真規, 花井信広, 丹羽康正: 当院における下咽頭表在癌に対する経口的下咽頭喉頭部分切除術 (TOVS) と内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の治療成績の検討. JDDW2022, 2022, (福岡), [デジタルポスターセッション]
- 063 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 柳井谷駿史, 山田真規, 石川 将, 安田 司, 丹羽康正: 食道における gel immersion ESD と手技の工夫. JDDW2022, 2022, (福岡), [デジタルポスターセッション]
- 064 梶野泰祐, 原 和生, 藤城光弘, 田口 歩: LncRNA XXYL1-AS2 は膵がんにおいてアポトーシスを抑制する. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 065 稲葉吉隆, 浅井 翼, 古谷勇一郎, 岩間功訓, 大橋良夫, 今峰倫平, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 立花弘之, 清水秀年, 流 真治, 横井和志, 原和生: 神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射線核種療法の導入と初期治療経験. 第 94 回日本核医学会中部地方会, 2022, (静岡), [一般演題]
- 066 水野伸匡, 上野 誠, 井岡達也, 尾阪将人, 奥坂拓志: 高齢化社会における膵がんに対する治療戦略—短期・長期成績を含めて— 高齢者進行膵癌に対する一次化学療法膵癌診療ガイドライン 2022. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [ワークショップ]
- 067 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: 十二指腸乳頭部局所切除の成績と, 遺残病変に対する内視鏡治療の有用性. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [口演]
- 068 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: 膵疾患における内視鏡診療の役割 膵癌早期診断のための膵嚢胞経過観察法膵嚢胞外来における EUS の位置づけ. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [ワークショップ]
- 069 羽場 真, 原 和生, 清水泰博: 膵癌の早期診断を目指した病態解明と診療戦略 膵癌早期診断のための膵嚢胞経過観察法 膵嚢胞外来の試み. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [ワークショップ]
- 070 桑原崇通, 原 和生: IPMN の病態解明にもとづくマネジメント 人工知能による膵嚢胞病変の検出と診断. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [パネルディスカッション]
- 071 桑原崇通, 原 和生: Next Endoscopy- 消化器内視鏡技術開発の Break through Deep learning を用いた IPMN 病変の検出と良悪性診断. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [ワークショップ]
- 072 平井恵子, 桑原崇通, 古川和宏: 超音波内視鏡における人工知能を用いた上部消化管上皮下腫瘍の診断能の検討. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [コアセッション]
- 073 桑原崇通, 原 和生: 胆膵領域における超音波内視鏡診断と治療 膵腫瘍診断 AI の開発. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 074 桑原崇通, 原 和生: 半教師学習を用いた効率的な膵嚢胞検出 AI の開発. JDDW2022, 2022, (福岡), [統合プログラム]
- 075 桑原崇通: 胆膵領域における人工知能研究の現状と展望. GI Young Summit, 2022, (WEB), [招待講演]
- 076 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 病態に基づく Interventional EUS による診療戦略 膵頭部領域疾患術前例に対する primary EUS-HGS. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [シンポジウム]
- 077 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆道シンチグラフィからみた EUS-BD の適応と限界. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [コアセッション]
- 078 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除例に対する EUS-HGS. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [口演]
- 079 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: To create the neopapilla using EUS-CDS fistula. JDDW2022, 2022, (福岡), [インターナショナルポスター]
- 080 奥野のぞみ: 口演. 日本消化器病学会東海支部第 137 回例会, 2022, (浜松), [座長]
- 081 倉石康弘, 桑原崇通, 原 和生: NET の病態解明と診療戦略の展開 腫瘍径の小さな膵神経内分泌腫瘍の臨床経過 経過観察は可能か. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [ワークショップ]
- 082 倉石康弘, 奥野のぞみ, 原 和生: 鑑別困難な胆道病変に対する内視鏡診断 胆嚢病変に対する EUS-FNA の有用性と安全性. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会,

- 2022, (京都), [パネルディスカッション]
- 083 倉石康弘, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆嚢癌に対するアプローチ 胆嚢癌診療におけるEUS-FNAの有用性. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [ワークショップ]
- 084 倉石康弘, 桑原崇通, 原 和生: 進行膵神経内分泌腫瘍の集学的治療 遠隔転移を有する進行膵神経内分泌腫瘍における予後と治療成績. JDDW2022, 2022, (福岡), [パネルディスカッション]
- 085 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆道癌の新たな治療戦略 (遺伝子パネル・分子標的・術前治療) 実臨床における胆道癌 precision medicine の現状と課題. JDDW2022, 2022, (福岡), [パネルディスカッション]
- 086 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵胆道癌のCGPにおけるEUS-TAの臨床的有用性 (Clinical utility of EUS-TA for CGP of pancreatobiliary cancer). 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [口演]
- 087 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 切除不能膵癌・胆道癌の病態解明と診療戦略 実臨床における切除不能・再発膵胆道癌に対するCGPの検討. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [ワークショップ]
- 088 山田真規, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆膵疾患の遺伝子解析による病態解明・臨床展開 日常臨床における膵癌ゲノム医療の現状と問題点. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (WEB), [ワークショップ]
- 089 山田真規, 奥野のぞみ, 原 和生: EUS-FNA診療の新展開 膵胆道癌ゲノム医療を考慮したEUS-TA (tissue acquisition). 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [パネルディスカッション]
- 090 山田真規, 奥野のぞみ, 原 和生: 遠位胆管癌と浸潤性膵管癌の術前鑑別診断の現状と課題. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 091 増田大介, 天野美緒, 西岡 伸, 山田真規, 宮野 亮, 植野紗緒里, 小倉 健: 当院における90歳以上の胆道ERCP症例の検討. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [口演]
- 092 山田真規, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆道シンチグラフィを用いたEUS-HGSにおける胆汁排泄動態の解析. JDDW2022, 2022, (福岡), [デジタルポスター]
- 093 増田大介, 小倉 健, 天野美緒, 奥田 篤, 植野紗緒里, 西岡 伸, 宮野 亮, 山田真規, 山本嘉太郎, 樋口和秀: 『胆膵疾患と性差』分枝型IPMN長期経過観察例の検討 性差との関連は?. 第24回高齢消化器病学会総会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 094 石川 将, 奥野のぞみ, 原 和生: 保険診療下における膵癌ゲノム診療の現状と課題. JDDW2022, 2022, (福岡), [統合プログラム]
- 095 石川 将, 奥野のぞみ, 原 和生: 肝胆膵疾患診療の現状と課題 当院での保険診療下での胆膵ゲノム診療の現状と課題. 日本消化器病学会東海支部第136回例会, 2022, (WEB), [シンポジウム]
- 096 石川 将, 奥野のぞみ, 原 和生: 悪性胆道狭窄の病態解明と治療戦略 悪性肝門部胆管狭窄に対する経乳頭ドレナージとEUS-HGSのCombination Drainage. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (WEB), [パネルディスカッション]
- 097 石川 将, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆膵関連内視鏡検査, 治療におけるトラブルシューティング 偶発症低減および難易度克服のためのEUS-HGSの工夫. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [ワークショップ]
- 098 石川 将, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆道癌に対する化学療法の実状と展望 当院での胆道癌に対するゲノム医療の実状と課題. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [パネルディスカッション]
- 099 安田 司, 山田啓策, 田近正洋: 薬剤性およびアレルギー性消化管疾患の病態と診療 免疫チェックポイント阻害薬関連下痢/大腸炎の重症度リスク因子の検討. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (WEB), [パネルディスカッション]
- 100 安田 司, 山田啓策, 田近正洋, 神谷友康, 大西祥代, 田中 努: 当院における大腸cT1b癌に対するESDの治療成績と限界. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (京都), [口演]
- 101 安田 司, 奥野のぞみ, 原 和生: 良性および良悪鑑別困難な胆道狭窄に対するアプローチ PD後の良性胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療法の検討. 第58回日本胆道学会学術集会, 2022, (横浜), [ワークショップ]
- 102 安田 司, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵小型腫瘍性病変 (径10mm以下)の内視鏡診療の現状と展望 膵小病変の診断におけるEUS-FNAとERPの位置付け. JDDW2022, 2022, (福岡), [ワークショップ]
- 103 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆膵疾患に対する内視鏡診断と治療の工夫 膵癌におけるゲノム医療の現状と課題. 第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2022, (静岡), [シンポジウム]
- 104 福井淑崇, 奥野のぞみ, 原 和生: 肝胆膵疾患診断・治療の最近の進歩 胆道癌におけるゲノム医療の現状と課題. 日本消化器病学会東海支部第137回例会, 2022, (静岡), [シンポジウム]

内視鏡部

- 001 田近正洋: 悪心・嘔吐でおさえおきたい画像所見について. 第32回日本医療薬学, 2022, (高崎), [シンポジウム]
- 002 緒方貴次, 下村一景, 成田有季哉, 谷口浩也, 前田章光, 室谷健太, 内田幸作, 田近正洋, 室 圭: 胃癌薬物療法におけるアナモレリンの役割 悪液質を伴う胃癌患者におけるアナモレリンの効果予測因子の検討 (英語). 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [パネルディスカッション]
- 003 松原裕樹, 舩石俊樹, 中田晃暢, 児玉紘幸, 緒方貴次, 熊西亮介, 中澤泰子, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門

- 脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 細田和貴, 室 圭: 切除不能大腸癌の1次治療/後方治療としての抗EGFR抗体薬に対するHER2 statusの影響. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [ポスター]
- 004 熊西亮介, 成田有季哉, 若林宗弘, 児玉紘幸, 中田晃暢, 中澤泰子, 緒方高次, 松原裕樹, 本多和典, 舛石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: HER2陽性胃癌に対するT-DXd治療前のHER2ECD及びHER2測定の意味. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [一般口演]
- 005 熊西亮介, 谷口浩也, 本多和典, 舛石俊樹, 成田有季哉, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 安部哲也, 室 圭: 術前DCF療法中の発熱性好中球減少症に対する至適一次予防法. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 006 田中 努: 胃がん治療(内視鏡を中心に). 日本消化器がん検診学会 東海北陸支部放射線研修委員会, 2022, (名古屋), [講演]
- 007 田中 努, 田近正洋, 大西祥代, 山田啓策, 神谷友康, 原和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 倉石康弘, 文原大貴, 柳井谷駿史, 石川 将, 安田 司, 山田真規, 花井信広, 丹羽康正: 当院における下咽頭表在癌に対する経口的下咽頭喉頭部分切除術(TOVS)と内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の治療成績の検討. JDDW2022, 2022, (福岡), [デジタルポスター]
- 008 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 柳井谷駿史, 山田真規, 石川 将, 安田 司, 丹羽康正: 食道におけるgel immersion ESDとその手技の工夫. JDDW2022, 2022, (福岡), [デジタルポスターセッション]
- 009 安田 司, 山田啓策, 田近正洋, 神谷友康, 大西祥代, 田中 努: 当院における大腸cT1b癌に対するESDの治療成績と限界. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022, (東京), [口演]
- 010 山田啓策, 田近正洋, 丹羽康正: 病態解明による大腸腫瘍診療の新展開 当院における大腸癌手術例に対するユニバーサルスクリーニングの試み. 第108回消化器病学会総会, 2022, (東京), [パネルディスカッション]
- 011 安田 司, 山田啓策, 田近正洋: 薬剤性およびアレルギー性消化管疾患の病態と診療 免疫チェックポイント阻害薬関連下痢/大腸炎の重症度リスク因子の検討. 第108回消化器病学会総会, 2022, (東京), [パネルディスカッション]
- 012 山田啓策, 田近正洋, 丹羽康正: 消化管疾患に対する内視鏡診断と治療の工夫 胃体部~穹窿部大彎早期胃癌に対する病変外への糸つきクリップ装着による牽引下胃ESDの有効性. 第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2022, (静岡), [シンポジウム]
- 013 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: 栄養・代謝機能と消化器疾患の病態解明と治療 食道扁平上皮癌術前化学療法中の体組成変化が及ぼす影響. 第108回日本消化器病学会総会, 2022, (東京), [ワークショップ]
- 014 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: StageIV a 食道癌に対す

る治療戦略 当院における切除不能局所進行胸部食道癌に対する治療. JDDW2022, 2022, (福岡), [パネルディスカッション]

- 015 大西祥代, 山田啓策, 田近正洋: 消化管疾患診断・治療の最近の進歩 当院における大腸癌に対するユニバーサルスクリーニングの現状. 日本消化器病学会東海支部第137回例会, 2022, (浜松), [シンポジウム]

呼吸器内科部

- 001 Matsuzawa R, Morise M, Ito K, Hataji O, Takahashi K, Kuwatsuka Y, Goto Y, Imaizumi K, Itani H, Yamaguchi T, Zenke Y, Oki M, Ishii M: Multi-center, phase II study of docetaxel (DTX) plus ramucirumab (RAM) following platinum-based chemotherapy plus ICIs in patients with NSCLC: SCORPION study. ELCC, 2023, (Copenhagen), [Poster Display session]
- 002 Imai H, Azuma K, Kishi K, Saito H, Yamaguchi T, Hayashi H, Shiraishi Y, Fujita K, Watanabe S, Kitazono S, Fukuhara T, Hataji O, Toi Y, Mizutani H, Hamakawa Y, Maemondo M, Ohsugi T, Suzuki K, Horinouchi H, Ohe Y: LIGHT-NING 2nd interim analysis: 1L nivolumab+ipilimumab+/- chemotherapy for NSCLC in Japan. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 003 Murakami S, Goto Y, Kenmotsu H, Tamiya M, Yanagitani N, Taniguchi H, Koyama S, Shimizu J, Yokoyama T, Maeda T, Tamiya A, Shimada N, Uchiyama A, Imaizumi K, Takahama T, Kato T, Nishio M, Hayashi H, Shiraiwa N, Okura M, Kikkawa H, Thomaidou D, Kurata T: Lorlatinib After Alectinib in ALK+NSCLC in Japan: A Retrospective, Multicenter, Observational Study. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 004 大矢由子: Association of Glasgow prognostic score with efficacy and safety of first line Osimertinib in EGFR mutated NSCLC (OSI-FACT exploratory analysis). 第20回臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session]
- 005 山口哲平, 清水淳市, 大矢由子, 重松文恵, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 室谷健太, 藤原 豊: 軽度肺線維化合併非小細胞肺癌の1次化学療法における免疫チェックポイント阻害剤併用が予後に与えた影響. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022, (京都), [口演]
- 006 藤原 豊: トラスツズマブデルクステカンによる新たな薬剤性肺障害. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022, (京都), [ランチョンセミナー]
- 007 大矢由子: 希少フラクション NSCLC~Targeted Drugsを届けるために~. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022, (京都), [ランチョンセミナー]
- 008 山口哲平, 清水淳市, 大矢由子, 重松文恵, 長谷川貴章, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 稲葉吉隆, 藤原 豊: アテゾリズマブ療法にニンテダニブを併用した間質性肺疾患合併非小

- 細胞肺癌4例の検討. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [ポスターディスカッション]
- 009 齋藤良太, 洪 泰浩, 赤松弘朗, 小柳 潤, 木島貴志, 弦間昭彦, 吉野一郎, 清家正博, 三角俊裕, 長谷哲成, 清水淳市, 岩澤俊一郎, 仲川慎太郎, 光富徹哉: 末梢血を用いたアテゾリズマブ抗腫瘍効果予測因子の検討 多施設共同前向き観察研究 J-TAIL 附随研究. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 010 重松文恵, 大矢由子, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 細田和貴: 当院でのニボルマブとイピリムマブの併用療法. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 011 寺井秀樹, 副島研造, 下川朝有, 堀之内秀仁, 清水淳市, 長谷哲成, 金丸良太, 渡邊香奈, 二宮貴一郎, 荒金尚子, 柳谷典子, 坂田能彦, 清家正博, 藤本大智, 井川 聡, 宮岡悦良, 吉野一郎, 弦間昭彦, 光富徹哉: 市販後全例調査データを活用した非小細胞肺癌に対するペムプロリズマブ単剤治療のリアルワールドデータ解析. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 012 神山潤二, 森瀬昌宏, 古川大記, 松澤令子, 田中一大, 横田秀夫, 木村智樹, 近藤康博, 橋本直純, 石井 誠: 進行非小細胞肺癌における臨床および画像特徴量を用いた機械学習による個別化生存予測モデルの構築. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 013 飯島淳司, 松澤令子, 森瀬昌宏, 田中一大, 平野達也, 佐藤美佳, 神山潤二, 柴田寛史, 玄 崇永, 米田一樹, 堀和美, 長谷哲成, 橋本直純, 後藤真輝, 中村彰太, 芳川豊史: 単発副腎転移に対し化学療法後に切除し長期の無病生存期間が得られた肺腺癌の1例. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [口演]
- 014 清水淳市: 免疫治療. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [座長]
- 015 藤原 豊: マルチプレックス検査. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [座長]
- 016 堀尾芳嗣: ランチョンセミナー32. 第63回肺癌学会学術集会, 2022, (福岡), [座長]
- 017 堀尾芳嗣: 再生検・遺伝子診断2. 第45回日本呼吸器内視鏡学会, 2022, (福岡), [座長]
- 018 松澤令子, 伊藤貴康, 今泉和良, 伊藤克樹, 岡地祥太郎, 森瀬昌宏, 若原恵子, 石井 誠: ラツテクスアレギー患者に対してバルーン非使用下にEBUS—TBNAで診断した小細胞肺癌の2例. 第45回日本呼吸器内視鏡学会, 2022, (福岡), [口演]
- 019 岡地祥太郎, 伊藤貴康, 松澤令子, 佐藤和秀, 阪本考司, 森瀬昌宏, 若原恵子, 橋本直純: ウェアラブルディスプレイを用いた気管支鏡下生検時の迅速細胞診 (ROSE) 支援システムの構築. 日本呼吸器内視鏡学会, 2022, (福岡), [口演]
- 020 藤原 豊: 肺癌アフタヌーンセミナー. 第121回日本呼吸器学会東海地方会, 2022, (Web), [座長]
- 021 藤原 豊: 共催セミナー1. 第121回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2022, (松本), [座長]
- 022 船田千秋, 山下 裕, 山北喜久, 福嶋敬子, 清水淳市, 吉田 茂, 岡本泰岳: 院内におけるバス教育の実際—問題点は何? その解決方法は!—多施設共有化教育ツールの開発 会員 (施設) の悩み事から. 日本クリニカルバス学会, 2022, (岐阜), [口演]
- 023 藤原 豊: コロナ感染中にペンプロリズマブ投与を行った肺腺癌の1例. 第122回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2023, (名古屋), [口演]
- 024 堀田勝幸, 藤原 豊: がん免疫療法ガイドライン改定第3版の概要. 第20回臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [司会]
- 025 解良恭一, 堀尾芳嗣: TR・臨床薬理4 (遺伝子パネル検査). 第20回臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [司会]

薬物療法部

- 001 *Bando H, Kumagai S, Kotani D, Mishima S, Habu T, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama S, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukui M, Fuse N, Nishikawa H and Kojima T*: Investigation of predictive biomarkers in patients treated with atezolizumab monotherapy following definitive chemoradiotherapy for unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma (EPOC1802 GI, 2023 (San Francisco), [Poster Session]
- 002 門脇重憲: 高齢者切除不能・再発胃癌に対するS-1単剤療法とS-1/L-OHP併用 (SOX) 療法のランダム化第II相試験. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 003 *Kagawa Y, Kotani D, Bando H, Takahashi N, Hamaguchi T, Kanazawa A, Kato T, Ando K, Satake H, Shinozaki E, Sunakawa Y, Takashima A, Yamazaki K, Yuki S, Nakajima H, Nakamura Y, Wakabayashi M, Taniguchi H, Ohta T, Yoshino T*: Plasma RAS dynamics and anti-EGFR rechallenge efficacy in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 004 *Yuki S, Sunakawa Y, Yamazaki K, Shirasu H, Taniguchi H, Masuishi T, Shiozawa M, Bando H, Nishina T, Yasui H, Ohta T, Takahashi N, Denda T, Esaki T, Kawakami H, Satake H, Takashima A, Yukiko Abe Y, Nomura S, Yoshino T*: Analysis of plasma angiogenesis factors on the efficacy of first-line (1L) chemotherapy (chemo) combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC): Results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 005 *Caughey B.A, Umemoto K, Green M, Ikeda M, D'Anna R, Ueno M, Niedzwiecki D, Taniguchi H, Walden D, Komatsu Y, Zhou K. I, Esaki T, Ramaker R, Denda T, Datto M, Bando H, Bekaii-Saab T.S, Yoshino T, Strickler J.H, Nakamura Y*:

- Identification of an optimal circulating tumor DNA (ctDNA) shedding threshold to detect actionable driver mutations in colorectal and pancreatic adenocarcinoma. ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 006 **Takahashi H, Caughey B.A, Umemoto K, Green M, Nakamura Y, Datto M, Ueno M, Walden D, Esaki T, Oliver T, Komatsu Y, Mizuno N, Oki E, Taniguchi H, Bando H, Morizane C, Yoshino T, Strickler J.H, Ikeda M, Bekaii-Saab T.S** : Clinical impact of MAPK pathway alterations in advanced biliary tract cancer (BTC): SCRUM-Japan GOZILA and COLOMATE international collaboration. ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 007 **Honma Y, Monden N, Yamazaki K, Kano S, Satake H, Kadowaki S, Nagao T, Nakatogawa T, Fujii K, Koroki Y, Aoyama J, Ouchi S, Ogawa T, McCarthy S, Brookman-May S.D, Mundle S, Li J, Tada Y: Yatagarasu** : A single-arm, open-label, phase 2 study of apalutamide (APA) plus goserelin (GOS) for patients (pts) with far locally advanced or recurrent/metastatic (fLA/RM) and androgen receptor (AR)-expressing salivary gland carcinoma (SGC). ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 008 **Smyth E.C, Chao J, Muro K, Yen P, Yanes R.E, Zahlten-Kumeli A, Rha S.Y** : Trial in progress: Phase 3 study of bevacizumab + mFOLFOX6 versus placebo + mFOLFOX6 in previously untreated advanced gastric or gastroesophageal junction (GEJ) cancer with FGFR2b overexpression (FORTITUDE-101). ASCO, 2022, (Chicago), [Poster]
- 009 **Yoshino T, Watanabe J, Shitara K, Yasui H, Ohori H, Shiozawa M, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Muro K** : Panitumumab (PAN) plus mFOLFOX6 versus bevacizumab (BEV) plus mFOLFOX6 as first-line treatment in patients with RAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC): Results from the phase 3 PARADIGM trial. ASCO, 2022, (Chicago), [Plenary Session]
- 010 **Muro K, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Yoshino T** : First-line panitumumab versus bevacizumab in combination with mFOLFOX6 for RAS wild-type metastatic colorectal cancer: PARADIGM trial results. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Late-breaking abstract presentation Oral Presentation]
- 011 **Muro K** : Nivolumab (NIVO) plus chemotherapy (chemo) or ipilimumab (IPI) vs chemo as first-line treatment for advanced esophageal squamous cell carcinoma (ESCC): Expanded efficacy and safety analyses from CheckMate 648. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Oral Presentation (Discussant)]
- 012 **Muro K** : Trifluridine/tipiracil (TAS-102) with or without bevacizumab in patients with pretreated metastatic esophago-gastric adenocarcinoma (mEGA): A Danish randomized trial (LonGas). ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Oral Presentation (Discussant)]
- 013 **Muro K** : Co-occurring HER2 and PD-L1 expression in patients with HER2-positive trastuzumabrefractory gastric cancer (GC)/gastroesophageal junction adenocarcinoma (GEJA): Biomarker analysis from the trastuzumab deruxtecan (T-DXd) DESTINY-Gastric03 trial. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Short Oral Presentation (Discussant)]
- 014 **Muro K** : Soluble programmed cell death ligand 1 associated with clinical outcome in gastric cancer patients treated with nivolumab: Blood based biomarker analysis of DELIVER trial (JACCRO-GC08AR). ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Short Oral Presentation (Discussant)]
- 015 **Muro K** : The impact of COVID-19 on diagnosis, stage and treatment of esophageal and gastric cancer. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Discussion (Discussant)]
- 016 **Muro K** : EMERGE: A multi-centre, non-randomised, single-arm phase II study investigating domatinostat plus avelumab in patients with previously treated advanced mismatch repair-proficient oesophagogastric and colorectal adenocarcinoma. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Discussion (Discussant)]
- 017 **Muro K** : Phase 1 trial of vibostolimab plus pembrolizumab for PD-1/PD-L1 inhibitor-naïve advanced gastric cancer: The KEYVIBE-001 trial. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Discussion (Discussant)]
- 018 **Muro K** : Checkpoint Inhibition in Gastric Cancer. ESMO-GI, Session VIII: Esophageal and Gastric Cancers, 2022, (Barcelona), [oral (Speaker)]
- 019 **Kagawa Y, Kotani D, Bando H, Takahashi N, Horita Y, Kanazawa A, Kato T, Ando K, Satake H, Shinozaki E, Sunakawa Y, Takashima A, Yamazaki K, Yuki S, Nakajima H, Nakamura Y, Wakabayashi M, Taniguchi H, Ohta T, Yoshino T** : Plasma RAS dynamics and efficacy of anti-EGFR rechallenge in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Discussion]
- 020 **Sunakawa Y, Inagaki C, Yuki S, Shiozawa M, Tsuji A, Matoba R, Inoue E, Muro K, Ichikawa W** : An observational/translational study of BRAF inhibitor combination therapy for BRAF-mutant metastatic colorectal cancer including biomarker research: BEETS trial (JACCROCC-18). ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 021 **Matsuoka H, Narita Y, Misumi T, Sakamoto Y, Kawakami T, Tanioka H, Matsushima T, Miwa H, Shoji H, Ishiguro A,**

- Fushida S, Miura K, Yamada T, Shinozaki K, Mizukami T, Moriwaki T, Mitani S, Nakamura M, Muro K, Nishina T* : Impacts of salvage chemotherapy after nivolumab therapy (NIVO) A REVIVE substudy. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 022 *Masuishi T, Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Kagawa Y, Yasui H, Moriwaki T, Kawakami H, Boku S, Oki E, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Kotaka M, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A* : A multicenter randomized phase II study comparing CAPOXIRI plus bevacizumab and FOLFOXIRI plus bevacizumab as the first-line treatment for metastatic colorectal cancer: A safety analysis of the QUATTRO-II study. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 023 *Yamazaki K, Taniguchi H, Masuishi T, Kawakami T, Onozawa Y, Honda K, Tsushima T, Hamauchi S, Mori K, Yasui H, Muro K* : Bevacizumab, irinotecan and biweekly trifluridine/tipiracil for pretreated metastatic colorectal cancer: MODURATE, a phase Ib study. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 024 *Hara H, Masuishi T, Ando T, Kawakami T, Yamamoto Y, Sugimoto N, Shiraishi K, Esaki T, Negoro Y, Tsuzuki T, Sawai H, Nakamura M, Inagaki T, Shinohara Y, Kawakami H, Kawakami K, Katsuya H, Maeda O, Fujita Y, Yoshimura K, Nakajima T, Muro K* : A multicenter phase II study of mFOLFOX6 in advanced gastric cancer patients with severe peritoneal metastases: WJOG10517G. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 025 *Okita Y, Tsuji A, Watanabe T, Satake H, Goto M, Yasui H, Nakamura M, Sagawa T, Kataoka K, Shiozawa M, Sunakawa Y, Ota H, Kotaka M, Miwa K, Kobayashi Y, Okuyama H, Kochi M, Masuishi T, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M* : Efficacy of 2nd-line ramucirumab (RAM) plus FOLFIRI for RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC) by prior regimen: Subgroup analysis of the JACCRO CC-16. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 026 *Muro K, Bruce J.Y, Baranda J, Campbell M, Wu C, Gorla S, Braiteh F* : EV-202: An open-label, multicenter, phase 2 study of enfortumab vedotin in patients with previously treated locally advanced or metastatic solid tumors, including multiple gastroesophageal cancer cohorts. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Poster Presentation]
- 027 *Taniguchi H, Kuboki Y, Watanabe J, Terazawa T, Kawakami H, Yokota M, Nakamura M, Kotaka M, Sugimoto N, Ojima H, Oki E, Kajiwara T, Moriwaki T, Takayama T, Denda T, Tamura T, Sunakawa Y, Ishihara S, Nakajima T, Morita S, Shiraio K, Yoshino T* : Biomarker analysis using plasma angiogenesis factors in the TRUSTY study: A randomized phase 2/3 study of trifluridine/tipiracil plus bevacizumab as second-line treatment for metastatic colorectal cancer. ESMO-GI, 2022, (Barcelona), [Short Oral Presentation]
- 028 *Kawakami H, Kadowaki S, Hirata K, Tsuda M, Esaki T, Sugimoto N, Makiyama A, Machida N, Hirano H, Hara H, Kawakami T, Okamoto W, Yabusaki H, Komatsu Y, Hironaka S, Muro K* : Investigator-initiated phase II study of nivolumab plus low-dose ipilimumab as first-line therapy for microsatellite instability—high advanced gastric or esophagogastric junction cancer (NO LIMIT, WJOG13320G/CA209-7W7). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 029 *Kito Y, Yamazaki K, Shoji H, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Shiraishi K, Yasui H, Hara H, Shinozaki K, Esaki T, Shimokawa H, Kajiura S, Masuishi T, Baba E, Yoshimura K, Kawakami H, Hironaka S, Muro K* : Randomized phase II study of FOLFIRI plus ramucirumab versus FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line treatment for metastatic colorectal cancer: WJOG9216G (RECAST). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 030 *Muro K, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T* : Early tumor shrinkage (ETS) and depth of response (DpR) analyses in metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with first-line mFOLFOX6 plus panitumumab (PAN) or bevacizumab (BEV): Results from the phase III PARADIGM trial. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 031 *Sunakawa Y, Inoue E, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Kawakami H, Nakajima T.E., Muro K, Matoba R, Ichikawa W, Fujii M* : Final analysis of clinical outcomes in the DELIVER trial: Observational study of nivolumab treatment in advanced gastric cancer (JACCRO GC-08). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 032 *Muro K, Kato K, Chin K, Nishino K, Satouchi M, Watanabe Y, Kawakami H, Tsushima T, Hirai H, Chisamore M, Kojima T* : Phase Ib study of futibatinib plus pembrolizumab in patients with advanced or metastatic solid tumors: Tolerability results and antitumor activity in esophageal carcinoma. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 033 *Shoji H, Boku N, Kudo-Saito C, Nagashima K, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Imazeki H, Aoki K, Muro K* : Profiling of myeloid cells associated with prognosis in nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 034 *Boku N, Kudo-Saito C, Imazeki H, Shoji H, Tsugaru K, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Nagashima K, Aoki K, Muro K* : Prognostic impact of myeloid subsets in

- nivolumab monotherapy for advanced gastric cancer (WJOG10417GTRstudy). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 035 **Masuishi T, Kuboki Y, Fakih M.G., Strickler J.H., Furqan M, Kim E.J., Cardona P, Tran Q, Chan E, Hong D.S.** : Trial in progress: A phase Ib study of sotorasib, aselective KRAS G12C inhibitor, in combination with panitumumab and FOLFIRI in treatment naïve and previously treated metastatic colorectal cancer (CodeBreaK 101). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 036 **Yuki S, Yamazaki K, Sunakawa Y, Taniguchi H, Masuishi T, Shiozawa M., Bando H, Nishina T, Yasui H, Ohta T, Takahashi N, Denda T, Yoshida K, Kato T, Oki E, Okugawa Y, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Yoshino T** : Analysis of plasma angiogenesis factors on the efficacy of 2nd-line (2L) chemotherapy (chemo) combined with angiogenesis inhibitors (AIs) in metastatic colorectal cancer (mCRC): Results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 037 **Sawada K, Nitta H, Nakamura Y, Okamoto W, Taniguchi H, Komatsu Y, Hara H, Kato T, Nishina T, Ohta T, Esaki T, Yoshino T, Fujii S** : HER2 intratumoral genetic and non-genetic heterogeneity in metastatic colorectal cancer. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 038 **Bando H, Kumagai S, Kotani D, Saori M, Habu T, Tushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama S, Hojo H, Nakamura M, Tachibana H, Wakabayashi M, Fukutani M, Fuse N, Nishikawa H, Kojima T** : A multicenter phase II study of atezolizumab monotherapy following definitive chemoradiotherapy for unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma (EPOC1802). ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 039 **Bai L, Chiu C, Kadowaki S, Robert M, Hara H, Hong M.H., Bergamo F, Pernot S, Cunningham D, Lin C, Keam B, Matsumura Y, Enya K, Waxman I, Jin L, Ngo D, Drews U, Mancao C, LeBerre M, Kato K** : A phase II study of regorafenib in combination with nivolumab in patients with recurrent or metastatic solid tumors: Results of the ESCC cohort. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 040 **Oka H, Nagashima K, Nishi H, Kumai Y, Iijima H, Okami K, Shimizu Y, Kano S, Ito K, Yamazaki T, Takahashi H, Oridate N, Yokota T, Koyama T, Kiyota N, Kato K, Kadowaki S, Honma Y** : Clinical outcomes in patients with recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma after failure of platinum and nivolumab: A multicenter retrospective study. ESMO, 2022, (Paris), [Poster session]
- 041 **Doi T, Patel M, Falchook G.S., Koyama T, Friedman C.F., Piha-Paul S, Gutierrez M.E., Abdul-Karim R, Awad M, Adkins D.R., Takahashi S, Kadowaki S, Cheng B, Ikeda N, Laadem A, Yoshizuka N, Qian M, Dosunmu O, Arkenau H, Johnson M.L.** : DS-7300 (B7-H3 DXd antibody-drug conjugate [ADC]) shows durable antitumor activity in advanced solid tumors: Extended follow-up of a phase I/II study. ESMO, Proffered Paper session: Developmental therapeutics, 2022, (Paris), [oral]
- 042 **Shimozaki K, Sugiyama K, Koya S, Shiraishi K, Okada M, Matsubara Y, Furuta M, Hirose S, Komori A, Mitani S, Boku S, Nishimura T, Tsuchihashi K, Kito Y, Sugaya A, Masuishi T, Matsumoto T, Tsuzuki T, Yoshii T, Hirata K** : Late line FOLFOX therapy after prior cisplatin-based regimen in advanced esophageal squamous cell carcinoma: A multi-institutional retrospective study. ESMO Asia, 2022, (Singapore), [Poster viewing]
- 043 **Kuboki Y, Yaeger R, Fakih M, Strickler J.H, Masuishi T, Kim E.J, Bestvina C.M, Langer C.J, Krauss J.C, Puri S, Cardona P, Chang E.K, Tran Q, Hong D.S** : Sotorasib in combination with panitumumab in refractory KRAS G12C-mutated colorectal cancer: Safety and efficacy for phase Ib full expansion cohort. ESMO Asia, 2022, (Singapore), [Proffered Paper and Mini Oral session: Gastrointestinal tumours]
- 044 **Muro K, Iwasa S, Sugimoto N, Kawakami H, Oshima T, Yamaguchi K, Hino K, Hirao M, Kurokawa Y, Kawakami T, Takegawa N, Hara H, Sumiyoshi N, Matsuoka D, Otake Y, Yasudam K, Takase T, Takashima S, Semba T, Kawazoe A** : Gastric cancer (GC) cohort of a phase 2 trial of E7389-LF (liposomal formulation of eribulin) in combination with nivolumab. ASCO GI, 2023, (San Francisco), [Poster Session]
- 045 **Tsugaru K, Boku N, Kudo-Saito C, Shoji H, Imazeki H, Takahashi N, Kawakami T, Amanuma Y, Wakatsuki T, Okano N, Narita Y, Yamamoto Y, Kizawa R, Nagashima K, Aoki K, Muro K** : LAG3-related factors to predict response to nivolumab monotherapy in advanced gastric cancer (WJOG10417GTR study). ASCO GI, 2023, (San Francisco), [Poster Session]
- 046 **Mitani S, Kito Y, Kawakami H, Nishina S, Matsumoto T, Tsuzuki T, Shinohara Y, Shimokawa H, Kumanishi R, Ohta T, Kimura S, Kawakami T, Nishina T, Hasegawa H, Akiyoshi K, Chiba Y, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K** : Multicenter retrospective study of trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) plus bevacizumab (BEV) for vulnerable patients with pretreated metastatic colorectal cancer (mCRC): WJOG14520G (TWILIGHT). ASCO GI, 2023, (San Francisco), [Poster Session]
- 047 **Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naito T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T** : Negative hyperselection of patients with RAS wild-type metastatic colorectal cancer for panitumumab: A biomarker study of the phase III PARADIGM trial. ASCO GI, 2023,

- (SanFrancisco), [Rapid Abstract Session]
- 048 **Shimomura K, Ogata T, Maeda A, Narita Y, Taniguchi H, Murotani K, Tajika M, Hara K, Muro K, Uchida K** : Predictors of therapeutic efficacy of anamorelin in patients with gastric, pancreatic, and colorectal cancer. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Poster Session]
- 049 **Ooki A, Yamamoto S, Kawakami H, Makino T, Kawazoe A, Masuishi T, Tsushima T, Hirao M, Takegawa N, Hino K, Iwasa S, Hara H, Sumiyoshi N, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Oshima T** : The esophageal cancer cohort of a phase 2 trial of E7389-LF (liposomal formulation of eribulin) + nivolumab. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Poster Session]
- 050 **Kawakami T, Harada K, Ogata T, Hu Q, Fushiki K, Oshima K, Kadowaki S, Taniguchi H, Muro K, Nakanishi R, Ando K, Nambara S, Yamamura T, Kawamoto Y, Komatsu Y, Oki E, Masuishi T, Yamazaki K, Yuki S** : The impacts of initiating regorafenib with reduced dose on treatment outcomes in metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Poster Session]
- 051 **Takahari D, Boku N, Iwasa S, Mizusawa J, Hashimoto T, Yoshikawa T, Kadowaki S, Machida N, Ishido K, Tsuda M, Kinoshita T, Yasuda T, Chin K, Hata H, Ojima T, Yamada Y, Terashima M** : The new prognostic index of advanced gastric cancer using the data from JCOG1013. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Poster Session]
- 052 **Kotani D, Kagawa Y, Matsubara Y, Bando H, Harada K, Takahashi N, Mihara Y, Nakayama I, Izawa N, Kawakami T, Masuishi T, Hasegawa H, Ohta T, Wakabayashi M, Yoshino T** : TRIDENTE trial: A phase II study of rechallenge with encorafenib, binimetinib, and cetuximab in patients with RAS wild-type/BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 053 **Matsubara Y, Bando H, Kotani D, Kagawa Y, Harada K, Osumi H, Izawa N, Kawakami T, Boku S, Matsumoto T, Wakabayashi M, Yoshino T** : BAYONET trial: A multicenter phase II trial of staged combination with encorafenib + binimetinib + cetuximab following encorafenib + cetuximab in patients with BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer. ASCO GI, 2023, (SanFrancisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 054 **Muro K** : Clinical Cancer Research in Japan~the current status and issues~. The 6th International Cancer Research Symposium, 2023, (Osaka), [Educational Lecture 8 (Speaker)]
- 055 **室 圭** : 胃癌薬物療法の新展開. 第43回癌免疫外科研究会, 2022, (京都), [モーニングセミナー (口演)]
- 056 **室 圭** : 胃癌薬物療法の新展開. 第8回日本臨床外科学会福島県支部学術集会教育講演, 2022, (福島), [ランチョンセミナー (口演)]
- 057 **室 圭** : 食道癌・接合部癌における免疫チェックポイント 阻害剤の意義と課題. 第76回日本食道学会学術集会, 東京, 2022, (東京), [シンポジウム (司会)]
- 058 **室 圭** : 食道癌のエビデンス (KN 590, CM 648/577)の紹介とガイドラインの推奨. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [シンポジウム (口演)]
- 059 **松原裕樹** : 切除不能食道扁平上皮癌に対するニボルマブにおけるCPS/TPSの影響. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [シンポジウム (口演)]
- 060 **室 圭** : 根治的CRT後のサーベイランスはどうするか?. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ワークショップ (司会)]
- 061 **熊西亮介** : Optimal primary prophylaxis for febrile neutropenia during neoadjuvant DCF. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [優秀演題口演]
- 062 **門脇重憲** : がん—化学療法5. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ポスター (座長)]
- 063 **室 圭** : 食道癌における術後ニボルマブ補助療法を考える. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ランチョンセミナー (座長)]
- 064 **谷口浩也** : 大腸がん (1). 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター 座長]
- 065 **室 圭** : 胃癌薬物療法の基本的な考え方と最新情報. 日本消化器病学会北陸支部第47回教育講演会, 2022, (金沢), [口演]
- 066 **安藤正志** : 医学系研究の倫理について. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [教育セッション (口演)]
- 067 **Watanabe J, Muro K, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T** : Impact of R0 resection (R0) on overall survival (OS) in metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with first-line mFOLFOX6 plus panitumumab (PAN) or bevacizumab (BEV): results from PARADIGM. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [会長企画シンポジウム]
- 068 **Yoshino T, Watanabe J, Shitara K, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Hihara M, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Muro K** : Panitumumab (PAN) plus mFOLFOX6 versus bevacizumab (BEV) plus mFOLFOX6 as first-line treatment for RAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC): Results from the phase 3 PARADIGM trial. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [アンコールセッション]
- 069 **松原淳一, 向井久美, 近藤知大, 鹿毛秀宣, 織田克利, 工藤 亮, 池田貞勝, 衣斐寛倫, 室 圭, 林 龍二, 徳留なほみ, 山本信之, 武藤 学** : 化学療法未施行切除不能進行がんに対する遺伝子パネル検査の有用性を評価する臨床研究. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 070 **高山浩一, 仲山真弘, 本田主税, 遠藤俊充, 室 圭** : アナ

- モレリンのリアルワールドデーター特定使用成績調査の中間解析. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 071 平 成人, 南 博信, 岩田広治, 弦間昭彦, 室 圭, 市原英基, 加藤恭子, 木川雄一郎, 清田尚臣, 久保田馨, 建石良介, 中田晃暢, 中村圭一郎, 成田有季哉, 堀田勝幸: 切除不能進行/転移・再発固形癌に対する ePRO モニタリングの有用性を検証する比較試験. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 072 森脇俊和, 坂東英明, 佐竹悠良, 小谷大輔, 濱口哲弥, 冲英次, 小松嘉人, 谷口浩也, 室 圭, 小高雅人, 山崎健太郎, 三角俊裕, 吉野孝之, 辻 晃仁, 加藤健志: 切除不能大腸癌に対する CAPOXIRI+BEV vs FOLFOXIRI+BEV: QUATTRO-II 試験の安全性解析. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 073 谷岡洋亮, 成田有季哉, 三角俊裕, 坂本康寛, 松岡 宏, 川上武志, 松島知広, 三輪洋人, 庄司広和, 水上拓郎, 仁科智裕, 森脇俊和, 三谷誠一郎, 中村路夫, 室 圭: ニボルマブ治療不応・不耐後の化学療法を行った進行胃癌患者の予後解析: REVIVE study. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [eポスター]
- 074 岡田真央, 杉山圭司, 白石和寛, 下壽啓太郎, 山本 駿, 松原裕樹, 古田光寛, 廣瀬 優, 小森 梓, 土橋賢司, 舩石俊樹, 山本祥之, 筑木隆雄, 平田賢郎: 進行食道扁平上皮癌に対する FOLFOX を用いた緩和的放射線療法. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [eポスター]
- 075 *Ando K, Nakamura Y, Kotani D, Misumi T, Hamabe A, Taniguchi H, Watanabe J, Yamazaki K, Okita K, Kotaka M, Alexey A: Takemasa I, Kato T, Oki E, Yoshino T*: Molecular residual disease may be a strong predictor for recurrence in rectal cancer with upfront surgery: result from the observational GALAXY study in CIRCULATE-Japan project. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [会長企画シンポジウム]
- 076 青木 優, 中村能章, 谷口浩也, 小松嘉人, 砂川 優, 塩澤 学, 太田高志, 江崎泰斗, 山崎健太郎, 佐竹悠良, 松橋延壽, 後藤昌弘, 賀川義規, 仁科智裕, 吉野孝之: 進行胃癌・大腸癌における治療前の血中循環腫瘍 DNA 検出の臨床的妥当性. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [プレナリーセッション]
- 077 渡邊 純, 久保木恭利, 寺澤哲志, 川上尚人, 横田 満, 中村将人, 小高雅人, 冲 英次, 砂川 優, 石原聡一郎, 谷口浩也, 中島貴子, 森田智視, 白尾國昭, 吉野孝之: TRUSTY 試験における血管新生関連遺伝子と FTD/TPI+BEV の有効性の検討. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [アンコールセッション]
- 078 太田高志, 山崎健太郎, 賀川義規, 小谷大輔, 坂東英明, 加藤健志, 冲 英次, 篠崎英司, 砂川 優, 結城敏志, 中島裕理, 中村能章, 若林将史, 谷口浩也, 吉野孝之: RAS/BRAF 野生型進行再発大腸癌患者における血中バイオマーカーのダイナミクスと抗 EGFR 抗体リチャレンジの有効性. REMARRY 試験/PURSUIT 試験. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [アンコールセッション]
- 079 澤田憲太郎, *Nitta H*, 中村能章, 岡本 涉, 谷口浩也, 小松嘉人, 原 浩樹, 加藤健志, 仁科智裕, 太田高志, 薦田正人, 吉野孝之, 藤井誠志: 切除不能大腸がんにおける腫瘍内 HER2 不均一性の検討. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [アンコールセッション]
- 080 *Fujisawa T, Sakamoto N, Nakamura Y, Yamashita R, Kuwata T, Bando H, Ishii G, Ueno M, Kadowaki S, Boku S, Makiyama A, Oki E, Yoshino T*: Feasibility and Potential Clinical Utility of Multi-omics Analysis for Advanced Solid Tumors: Preliminary Results of the SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN-2. 第60回日本癌治療学会学術集会, 会長企画シンポジウム, 2022, (神戸), [シンポジウム]
- 081 *Honma Y, Monden N, Yamazaki K, Kano S, Satake H, Kadowaki S, Nagao T, Nakatogawa T, Fuji K, Koroki Y, Aoyama J, Sharon M, Suneel M, Tada Y*: Biomarker Analysis with Next Generation Sequencing (NGS) in YATAGARASU, the Phase 2 Study of Apalutamide (APA) plus Goserelin (GOS) for Androgen Receptor (AR)-expressing Salivary Gland Carcinoma (SGC). 第60回日本癌治療学会学術集会, 会長企画シンポジウム, 2022, (神戸), [シンポジウム]
- 082 熊西亮介, 成田有季哉, 若林宗弘, 児玉紘幸, 中田晃暢, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: HER2 陽性胃癌に対する T-DXd 治療前の HER2ECD 及び HER2 測定の意味. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 083 室 圭, 伊澤真木子, 渡部亮介, 山内麻衣, 伊藤雄一郎, 濱田昌宏, 尾崎正彦, 前川慎一郎, 青木大輔: 高頻度マイクロサテライト不安定性を有する固形癌でのペムプロリズマブ使用成績調査. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [領域横断的ワークショップ (口演)]
- 084 室 圭, 君嶋悠矢, 村上裕美, 越智研也, 松田祐子, 武藤学: 日本人胃癌患者に対するニボルマブ+化学療法の有効性と安全性に関する観察研究. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [口演]
- 085 室 圭: 新たな局面を迎えた食道癌薬物療法のいま. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [学術セミナー (口演)]
- 086 室 圭: 抗がん剤および分子標的治療薬における副作用対策. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [領域横断的ワークショップ (司会)]
- 087 室 圭: がん診療へのバイオシミラー導入の意義と今後の対策. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [学術セミナー (口演)]
- 088 室 圭: 大腸がんの集学的治療. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [スポンサードシンポジウム (司会)]
- 089 松原裕樹, 舩石俊樹, 中田晃暢, 児玉紘幸, 緒方貴次, 熊

- 西亮介, 中澤泰子, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 細田和貴, 室 圭: 切除不能大腸癌の1次治療/後方治療としての抗EGFR抗体薬に対するHER2 statusの影響. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [eポスター]
- 090 舩石俊樹, 長岡創志, 金 龍, 吉澤健一: A post-marketing safety study of ramucirumab with FOLFIRI in Japanese patients with metastatic colorectal cancer. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [eポスター]
- 091 谷口浩也, 舩石俊樹, 門脇重憲, 成田有季哉, 本多和典, 安藤正志, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 室圭: 大腸癌術後補助化学療法におけるshared decision makingの実践. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [臓器別ワークショップ(口演)]
- 092 谷口浩也: 大腸がんにおける患者中心の医療の実践~理想と現実の間で~. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [イブニングセミナー(口演)]
- 093 室 圭: 消化器癌に対する免疫療法の実態. JDDW, 2022, (福岡), [司会]
- 094 室 圭: がん悪液質への新提案“エドルミズ”. JDDW, 2022, (福岡), [ブレックファーストセミナー(司会)]
- 095 室 圭: 胃癌薬物治療における現状の課題と今後の展望~最適な治療シークエンスを目指して~. JDDW, 2022, (福岡), [ランチョンセミナー(司会)]
- 096 室 圭: バイオマーカーに基づく胃癌薬物療法最前線. 第26回日本外科病理学会学術集会, 2022, (富山), [スポンサードセミナー(口演)]
- 097 室 圭: 胃癌治療におけるICIの位置づけと今後の展開. 第35回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2022, (福島), [シンポジウム(口演)]
- 098 室 圭: 胃癌の分子生物学的プロファイルから考える一次治療戦略. 第35回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2022, (福島), [ランチョンセミナー(座長)]
- 099 室 圭: Challenges and future prospects of perioperative chemotherapy for dMMR/MSI-H gastric cancer dMMR/MSI-H胃癌に対する周術期化学療法の課題と今後の展望. 第77回日本消化器外科学会総会, コンセンサスミーティング, 2022, (横浜), [口演]
- 100 室 圭: 大腸がん個別化医療~Precision Medicineの現在地~. 第97回大腸癌研究会学術集会, 2022, (東京), [ランチョンセミナー(座長)]
- 101 室 圭: 胃癌薬物療法の基本的な考え方と最新情報. 第48回日本消化器病学甲信越支部教育講演会, 2022, (WEB), [教育講演]
- 102 室 圭: 令和4年個人情報保護法改正による生命・医学系指針改正に対する対応①学術研究機関以外における対応. 日本臨床試験学会第14回学術集会総会, 2023, (金沢), [シンポジウム(口演)]
- 103 谷口浩也: がん医師主導治験におけるオンライン診療を活用した完全リモート治験の試み. 日本臨床試験学会第14回学術集会総会, 2023, (金沢), [シンポジウム(口演)]
- 104 室 圭: 胃癌薬物療法の最新トピックスと逐次治療の重要性. 第55回制癌剤適応研究会, 2023, (鎌倉), [シンポジウム(特別講演)]
- 105 安藤正志: 子宮原発ユーイング肉腫の一例. 第6回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2023, (神戸), [座長]
- 106 本多和典: 子宮原発ユーイング肉腫の一例. 第6回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2023, (神戸), [口演]
- 107 安藤正志: サルコーマに対する集学的治療: 課題と解決策. 第6回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2023, (神戸), [シンポジウム(座長)]
- 108 室 圭: 薬物療法の新展開. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [シンポジウム(座長)]
- 109 Chen L-T, Kang Y-K, Ryu M-H, Oh D-Y, Oh S.C, Rha S.Y, Lee K-W, 大森 健, 設楽紘平, 櫻本信一, Chung I-J, 山口研成, 加藤 健, Sym S.J, 門脇重憲, 辻 国広, Chen J-S, Bai L-Y, 中田貴志, 朴 成和: A 3-year follow-up of ATTRACTION-4: nivolumab + chemotherapy in previously untreated gastric cancer. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [シンポジウム]
- 110 澤田憲太郎, 山下理宇, 酒井俊輔, 吉河 歩, 洞澤智至, 中村能章, 藤澤孝夫, 門脇重憲, 安井久晃, 高橋直樹, 町田 望, 牧山明資, 後藤昌弘, 砂川 優, 江崎泰斗, 山崎健太郎, 辻 晃仁, 吉野孝之: 胃がん患者における腸内細菌叢と臨床的特徴の検討: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [シンポジウム]
- 111 室 圭: 進行胃癌における薬物療法の最新トピックスと治療戦略. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [スポンサードシンポジウム(口演)]
- 112 庄司広和, 工藤千恵, 長島健悟, 津軽 開, 高橋直樹, 川上武志, 天沼裕介, 若槻 尊, 岡野尚弘, 成田有季哉, 山本祥之, 木澤莉香, 今関 洋, 青木一教, 室 圭: 切除不能進行胃癌に対するニボルマブ単剤療法における予後と関連するミエロイド系細胞のプロファイリング. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [シンポジウム]
- 113 川上武志, 朴 成和, 工藤千恵, 庄司広和, 長島健悟, 津軽 開, 高橋直樹, 天沼裕介, 若槻 尊, 岡野尚弘, 成田有季哉, 山本祥之, 木澤莉香, 今関 洋, 青木一教, 室圭: 切除不能進行胃癌に対するニボルマブ単剤療法における予後と関連するミエロイド系細胞のプロファイリング. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [シンポジウム]
- 114 室 圭: 胃癌薬物療法におけるアナモレリンの役割. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [パネルディスカッション(座長)]
- 115 緒方貴次, 下村一景, 成田有季哉, 谷口浩也, 前田章光, 室谷健太, 内田幸作, 田近正洋, 室 圭: 悪液質を伴う胃癌患者におけるアナモレリンの効果予測因子の検討. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [パネルディスカッション(口演)]
- 116 成田有季哉: 三次化学療法. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター(座長)]

- 117 緒方貴次, 成田有季哉, 若林宗弘, 児玉紘幸, 中田晃暢, 熊西亮介, 中澤泰子, 松原裕樹, 本多和典, 舛石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 室 圭: 胃癌に対するトリフルリジン/チピラシルエラムシルマブ療法の後方視的検討. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 118 室 圭: 胃癌薬物療法 最新動向 ~最新データから考える Best Sequence の実現へ. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [イブニングセミナー (口演)]
- 119 舛石俊樹, 原 浩樹, 安藤孝将, 川上武志, 山本祥之, 杉本直俊, 白石和寛, 江崎泰斗, 根来裕二, 筑木隆雄, 澤井寛明, 中村将人, 稲垣 崇, 篠原雄大, 川上賢太郎, 馬場英司, 近藤千紘, 吉村健一, 中島貴子, 室 圭: 高度腹膜転移を有する切除不能胃癌に対する mFOLFOX6 の第II相試験 (WJOG10517G). 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [ワークショップ]
- 120 室 圭: 胃癌治療における Clinical Question を考える. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [スポンサードシンポジウム (座長)]
- 121 松原裕樹, 門脇重憲, 室 圭: 胃癌術後再発症例 一後方ラインにおいて Conversion 手術を行うか. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [Virtual Cancer Board (口演)]
- 122 緒方貴次: いつ始める? エドルミズの最適な処方タイミングを考える. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [ランチョンセミナー (口演)]
- 123 室 圭, 伊澤真木子, 孔 禱彬, 山内麻衣, 伊藤雄一郎, 濱田昌宏, 尾崎正彦, 前川慎一郎, 青木大輔: 高頻度マイクロサテライト不安定性を有する固形癌でのベムプロリズムマブ使用成績調査. 第95回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 124 室 圭: 経済毒性の現状と今後. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [会長企画シンポジウム (司会)]
- 125 本多和典: 経済毒性啓発プロジェクト (FT-01). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [会長企画シンポジウム (口演)]
- 126 庄司広和, 木藤陽介, 山崎健太郎, 山田武史, 對馬隆浩, 三谷誠一郎, 白石和寛, 安井久晃, 原 浩樹, 下嵯啓太郎, 江崎泰斗, 下川穂積, 筑木隆雄, 梶浦新也, 舛石俊樹, 馬場英司, 吉村健一, 川上尚人, 廣中秀一, 室 圭: WJOG9216G (RECAST): 切除不能大腸がん一次治療例に対する FOLFIRI + ラムシルマブと FOLFOXIRI + ラムシルマブのランダム化第II相試験. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 127 三島沙織, 小谷大輔, 中村能章, 坂東英明, 三代雅明, 浜部敦史, 渡邊 純, 平田敬治, 赤澤直也, 片岡幸三, *Yeh K-H, Laliotis G, Jurdi A, Liu M*, 谷口浩也, 竹政伊知朗, 加藤健志, 森 正樹, 吉野孝之, 沖 英次: 根治的外科治療後の結腸・直腸がん患者における再発早期予測因子として の ctDNA Dynamics: GALAXY study in the CIRCULATE-Japan. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 128 室 圭: Guardant360 CDx を用いた Precision Oncology. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [メデイカルセミナー (司会)]
- 129 衣斐寛倫, 松原淳一, 向井久美, 近藤知大, 吉岡正博, 鹿毛秀宣, 織田克利, 工藤 亮, 池田貞勝, 林 龍二, 徳留なほみ, 山本信之, 室 圭, 武藤 学: 化学療法未施行切除不能進行がんに対するがん遺伝子パネル検査の有用性を評価する前向き臨床研究 (先進医療 B: FIRST-Dx study). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 130 伊澤直樹, 松原裕樹, 仁科慎一, 塩澤 学, 傳田忠道, 太田博文, 根来裕二, 田中千弘, 川上尚人, 松岡 宏, 田邊裕貴, 池永雅一, 奥田博介, 石黒 敦, 賀川義規, 佐竹悠良, 砂川 優, 竹内正弘, 市川 度, 藤井雅志: RAS 変異型切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の ctDNA 中 RAS 遺伝子変異ステータス: RASMEX study (JACCRO CC-17). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 131 仁科慎一, 木藤陽介, 川上尚人, 三谷誠一郎, 筑木隆雄, 松本俊彦, 下川穂積, 篠原雄大, 熊西亮介, 太田高志, 木村晋也, 川上武志, 仁科智裕, 長谷川裕子, 秋吉宏平, 千葉康敬, 廣中秀一, 山崎健太郎, 室 圭: WJOG14520G (TWILIGHT): 前治療歴を有する Vulnerable な切除不能大腸がん患者に対する FTD/TPI + ベバシズマブの多施設レトロ研究. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 132 中村真穂, 下嵯啓太郎, 平田賢郎, 三谷誠一郎, 杉山圭司, 廣田 玲, 有山 寛, 杉本直俊, 伊澤直樹, 山本祥之, 高山歳三, 篠原雄大, 國枝献治, 安藤孝将, 長島健悟, 佐藤泰憲, 山崎健太郎, 廣中秀一, 高石官均, 室 圭: BRAF V600E 変異型切除不能進行・再発大腸癌に対する FOLFOXIRI +/- Bevacizumab 療法と Doublet 療法の有効性および安全性に関する後方視的検討. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 133 原田一顕, 川上武志, 緒方貴次, 胡 慶江, 伏木邦博, 大嶋琴絵, 門脇重憲, 谷口浩也, 室 圭, 中西良太, 安藤幸滋, 南原 翔, 山村貴洋, 川本泰之, 小松嘉人, 沖 英次, 舛石俊樹, 山崎健太郎, 結城敏志: 切除不能進行再発大腸癌におけるレゴラフェニブの減量開始が治療効果に与える影響. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 134 白石和寛, 杉山圭司, 澤井康弥, 下嵯啓太郎, 岡田真央, 松原祐樹, 古田光寛, 廣瀬 優, 小森 梓, 三谷誠一郎, 朴将源, 西村 尚, 土橋賢司, 木藤陽介, 菅谷明徳, 舛石俊樹, 松本俊彦, 筑木隆雄, 吉井貴子, 平田賢郎: 進行再発食道扁平上皮癌の一次治療における FOLFOX 療法に関する多施設後方視的研究. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 135 室 圭: The Latest Treatment Strategies in Esophageal

- Cancer. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [イブニングセミナー(司会)]
- 136 本多和典: 日本人がん患者における経済毒性. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [モーニングセミナー(口演)]
- 137 室 圭, 仲山真弘, 本田主税, 町井浩司, 遠藤俊充, 高山浩一: がん悪液質患者4,672症例に対するアナモレリンのリアルワールドデータ-特定使用成績調査の中間解析- 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 138 児玉紘幸, 門脇重憲, 若林宗弘, 中田晃暢, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 本多和典, 舛石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 安藤正志, 花井信広, 室 圭: プラチナ抵抗性頭頸部癌に対するパクリタキセル+セツキシマブ vs. ニボルマブの有効性と安全性に関する比較検討. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 139 山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 能澤一樹, 足立雄太, 新津宏明, 井本逸勢, 安藤正志, 衣斐寛倫: がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査結果に基づく治験・臨床試験に関する支援・情報提供と今後の課題. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 140 朴 将源, 酒井俊輔, 澤田憲太郎, 洞澤智至, 吉河 歩, 中村能章, 藤澤孝夫, 山下理宇, 小松嘉人, 仁科智裕, 塩澤 学, 西田尚弘, 吉田和弘, 山崎健太郎, 後藤昌弘, 安井久見, 高橋直樹, 門脇重憲, 傳田忠道: PIK3CA 変異大腸癌における腸内細菌の解析 SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN 付随研究. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 141 本多和典: 我が国の後腹膜肉腫に対する治療の現状と課題. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [シンポジウム (English Session)(口演)]
- 142 室 圭: 切除不能・進行再発大腸がん治療の up date ~ Fit/Vulnerable に分けた治療戦略~. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [モーニングセミナー(司会)]
- 143 牧山明資, 庄司広和, 川上尚人, 田村孝雄, 杉山圭司, 原浩樹, 長瀬通隆, 西川和男, 江崎泰斗, 伊澤直樹, 中村将人, 安藤孝将, 三浦裕司, 成田有季哉, 下川元継, 山崎健太郎, 廣中秀一, 朴 成和, 兵頭一之介, 室 圭: 高齢者切除不能・再発胃癌に対する S-1 単剤療法と S-1/L-OHP 併用 (SOX) 療法のランダム化第 II 相試. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 144 門脇重憲: TCOG1220: a single-arm, phase II trial of BI-754091 and Afatinib for refractory esophageal squamous cell carcinoma. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 145 安藤孝将, 舛石俊樹, 原 浩樹, 川上武志, 山本祥之, 杉本直俊, 白石和寛, 江崎泰斗, 根来裕二, 筑木隆雄, 澤井寛明, 中村将人, 稲垣 崇, 篠原雄大, 川上賢太郎, 馬場英司, 近藤千紘, 吉村健一, 中島貴子, 室 圭: 高度腹膜転移を有する切除不能進行・再発胃癌に対する mFOLFOX6 の多施設共同第 II 相試験 (WJOG10517G). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 146 門脇重憲: 高度腹膜転移を有する切除不能進行・再発胃癌に対する mFOLFOX6 の多施設共同第 II 相試験 (WJOG10517G). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 147 門脇重憲: 進行性の消化管間質腫瘍患者を対象とする pimipib (TAS-116) の第 III 相試験の最終解析 (CHAPTER-GIST-301). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 148 谷崎潤子, 米盛 勸, 滝口裕一, 秋吉宏平, 小峰啓吾, 小野澤祐輔, 佐藤真利子, 平田賢郎, 尾上琢磨, 大熊遼太郎, 堀田洋介, 南 博信, 本多和典, 陶山浩一, 伊藤彰彦, 千葉康敬, 西尾和人, 中川和彦, 林 秀敏: 原発不明がんに対するニボルマブの安全性と有効性: 拡大治験 (NivoCUP2, WJOG14620M) の初回結果報告. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session (English Session)]
- 149 大木 暁, 陳 勁松, 坂東英明, 熊谷尚悟, 小谷大輔, 三島沙織, 羽部 匠, 對馬隆浩, 原 浩樹, 門脇重憲, 加藤健, 山口研成, 影山俊一郎, 北條秀博, 中村匡希, 橋 英伸, 若林将史, 福井 誠, 布施 望, 西川博嘉, 小島隆嗣: 切除不能局所進行食道扁平上皮癌に対する化学放射線療法後のアテゾリズマブの有効性・安全性をみる第 II 相試験 (EPOC1802). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Presidential Session (English Session)]
- 150 室 圭, 渡邊 純, 設楽紘平, 山崎健太郎, 大堀久詔, 塩澤学, 安井博史, 沖 英次, 佐藤武郎, 内藤 剛, 小松嘉人, 加藤健志, 日原真弘, 添田純平, 山本紘司, 赤木 究, 落合淳志, 植竹宏之, 土原一哉, 吉野孝之: PARADIGM 試験における早期腫瘍縮小割合および最大腫瘍縮小割合に関する検討. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Presidential Session (English Session)]
- 151 喜多昭介, 下井辰徳, 小峰啓吾, 安藤正志, 有山 寛, 沖田南都子, 佐立 峻, 宋 奈緒子, 東 悟史, 数見由紀, 米盛 勸: 局所進行・再発類上皮肉腫に対するタゼメトスタットの第 II 相医師主導治験 (TAZETTA trial). 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Oral Session]
- 152 室 圭: CM 649 長期フォローデータを踏まえた 1 次治療への期待. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [メディカルセミナー (English Session)(司会)]
- 153 室 圭: Progress and future in the treatment of advanced gastric cancer. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [メディカルセミナー (English Session)(司会)]
- 154 若林宗弘, 舛石俊樹, 児玉紘幸, 中田晃暢, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 本多和典, 成田有季哉, 谷

口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 播種性血管内凝固を合併した切除不能胃癌 2 次治療におけるパクリタキセル (ナブパクリタキセル) へのラムシルマブ併用の有効性と安全性の検討. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), (ポスターセッション)

- 155 谷口浩也: がん臨床試験における DCT のあり方, 現状と課題, 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [第 10 回がん専門 CRC のためのアドバンスセミナー (口演)]
- 156 川上武志, 朴 成和, 工藤千恵, 庄司広和, 長島健悟, 津軽 開, 高橋直樹, 天沼裕介, 若槻 尊, 岡野尚弘, 成田有季哉, 山本祥之, 木澤莉香, 今関 洋, 青木一教, 室圭: 切除不能進行胃癌に対するニボルマブ単剤療法におけるミエロイド系サブセットの予後への影響 (WJOG10417GTR). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 157 庄司広和, 朴 成和, 工藤千恵, 長島健悟, 津軽 開, 高橋直樹, 川上武志, 天沼裕介, 若槻 尊, 岡野尚弘, 成田有季哉, 山本祥之, 木澤莉香, 今関 洋, 青木一教, 室圭: 切除不能進行胃癌に対するニボルマブ単剤療法における予後と関連するミエロイド系細胞のプロファイリング (WJOG10417GTR 試験). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session (English Session)]
- 158 下村一景, 緒方貴次, 前田章光, 成田有季哉, 谷口浩也, 室谷健太, 藤原 豊, 田近正洋, 原 和生, 室 圭, 内田幸作: がん悪液質患者におけるアナモレリンの効果予測因子. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [Mini Oral Session]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 小林雅子: 神経内分泌腫瘍 NET から発生したと神経内分泌癌 NEC が示唆された隣 NET の一例, 41 回日本臨床細胞学会東海連合会総会, 2022, (Web), [口演]
- 002 細田和貴: 第 174 回日本臨床細胞学会東海連合会例会. 日本臨床細胞学会東海連合会, 2022, (Web), [世話人]
- 003 大島健吾: 胸水中に認めた線維形成性小円形細胞腫瘍の一例. 日本臨床細胞学会東海連合会, 2022, (Web), [口演]
- 004 細田和貴: EUS-FNA 検体を用いたがんゲノムプロファイリング検査. 愛知県がん診療連携拠点病院等臨床検査技師研修会, 2022, (Web), [講師]
- 005 細田和貴: HER2/PD-L1 の精度管理. 臨床病理コンセンサス研究会, 2022, (Web), [口演, シンポジウム]
- 006 細田和貴: がんゲノムと EUS-FNB: 基礎から応用まで. 第 5 回東海胆膵内視鏡研究会, 2022, (Web), [口演]
- 007 細田和貴: 膵臓癌症例検討会. 76 回日本消化器画像研究会, 2022, (新潟), [病理コメンテーター]
- 008 藤田泰子: 第 16 回~第 26 回勉強会. Salon de Taverna, 2022, (Web), [世話人, コメンテーター]

- 009 藤田泰子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について (病理解説). 第 6 回京都拡大内視鏡研究会, 2022, (Web), [コメンテーター]
- 010 藤田泰子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その 3 (病理解説). 第 3 回奈良拡大内視鏡研究会, 2022, (Web), [コメンテーター]
- 011 真砂勝泰: 非小細胞肺癌における術前化学療法と分子病理. これからの肺がん診療を考える会, 2022, (Web), [講演]
- 012 柴田典子: 僅少検体における当院の取り組み. 肺癌マルチ遺伝子検査の広がりを考える会, 2022, (Web), [講演]
- 013 細田和貴: 乳腺細胞診. 東海連合会基礎講習会, 2022, (Web), [口演]
- 014 石端裕一, 藤原有花, 村上裕美: Campylobacter rectus を検出した 1 例. 第 71 回日本医学検査学会, 2022, (Web), [口演]

頭頸部外科部

- 001 Hanai N: A novel procedure of secondary voice prosthesis insertion from the inside out: The modified Fukuhara method, Design and Manufacturing Technology Summit, 2022, (オランダ), [講演]
- 002 Hanai N: Neck Management in Oral Cavity Cancer. 1st Joint Meeting of Tri-HN Society2022, 2022, (Web), [シンポジウム]
- 003 花井信広: 頭頸部癌総論. 手術療法・化学療法・放射線療法. 薬剤師 生涯研修講座 (e-ラーニング講座), 2022, (Web), [講演]
- 004 西川大輔: 機能温存を目指した集学的治療における頭頸部アルミノックス治療の考え方と実際. 頭頸部アルミノックス治療 (光免疫療法) WEB 講演会, 2022, (WEB), [講演]
- 005 花井信広: 教えて, 頭頸部解剖からのエコー画像. 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [教育セミナー]
- 006 寺田星乃: その頸部リンパ節腫脹, どう考える? 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [教育セミナー]
- 007 寺田星乃: 領域横断 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 008 寺田星乃: 頭頸部癌頸部リンパ節転移に対する化学放射線療法後の超音波による効果判定. 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 009 花井信広: 頭頸部. 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [座長]
- 010 岸川敏博, 寺田星乃, 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療における超音波の活用. 第 48 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2022, (名古屋), [口演]

- 011 花井信広：治療開始1年の状況。治療開始1周年記念講演会 頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）～第5のがん治療を目指して, 2022, (東京), [講演]
- 012 花井信広：治療戦略について・治療対象患者。治療開始1周年記念講演会 頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）～第5のがん治療を目指して, 2022, (東京), [司会]
- 013 西川大輔：治療戦略について・治療（照射方法/治療プラン）。治療開始1周年記念講演会 頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）～第5のがん治療を目指して, 2022, (東京), [パネルディスカッション]
- 014 寺田星乃：機能温存を目指した例：喉頭癌（声門前交連）再発症例。治療開始1周年記念講演会 頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）～第5のがん治療を目指して, 2022, (東京), [講演]
- 015 花井信広：第2回東海頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）カンファレンス, 2022, (Web), [座長]
- 016 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療の実際。第2回東海頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）カンファレンス, 2022, (Web), [講演]
- 017 寺田星乃：各施設からの症例発表。第2回東海頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）カンファレンス, 2022, (Web), [講演]
- 018 寺田星乃：体表・頭頸部超音波診断。日本超音波医学会第95回学術集会, 2022, (名古屋), [講演]
- 019 寺田星乃：頭頸部癌診療における超音波の活用。日本超音波医学会第95回学術集会, 2022, (名古屋), [ハンズオンセミナー]
- 020 寺田星乃, 花井信広：頭頸部悪性腫瘍における日常診療での超音波検査。日本超音波医学会第95回学術集会, 2022, (名古屋), [シンポジウム]
- 021 花井信広：頭頸部がんの新たな治療戦略 がん光免疫療法。第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022, (神戸), [シンポジウム]
- 022 花井信広：喉頭摘出後の呼吸器リハビリテーションおよび診療所との連携。第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022, (神戸), [講演]
- 023 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 澤部 倫, 寺田星乃, 岩城 翔, 小林義明, 岸川敏博, 横井麻衣, 花井信広：再発を繰り返す早期声門癌に対してイルミノックス治療を実施した1例。第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022, (神戸), [口演]
- 024 寺田星乃 西川大輔, 鈴木秀典, 別府慎太郎, 澤部 倫, 岩城 翔, 小林義明, 岸川敏博, 横井麻衣, 花井信広：頭頸部イルミノックス治療に対するクリニカルパスの作成。第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022, (神戸), [口演]
- 025 鈴木秀典, 岩城 翔, 澤部 倫, 別府慎太郎, 小林義明, 西川大輔, 寺田星乃, 花井信広：COVID-19 パンデミック下における重複食道癌切除前の有茎鎖骨上動脈皮弁による口腔癌切除後再建の1例。第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022, (神戸), [口演]
- 026 花井信広：頭頸部アルミノックス治療の適応判断のポイント。東海頭頸部アルミノックス治療 コアミーティング, 2022, (名古屋), [講演]
- 027 花井信広：頭頸部アルミノックス治療の適応判断のポイント。頭頸部アルミノックス治療 カンファレンス@大阪, 2022, (大阪), [講演]
- 028 花井信広：エナジーデバイスを使いこなす -各デバイスが得意とするシーンとピットフォール-。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [司会]
- 029 花井信広：実臨床経験を踏まえた再発・転移頭頸部がんの治療戦略。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [ランチョンセミナー]
- 030 西川大輔：再発/進行頭頸部癌に光のアプローチ 頭頸部癌アルミノックス治療（光免疫療法）, 第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [ランチョンセミナー]
- 031 花井信広：頭頸部癌に対する光免疫療法。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [シンポジウム]
- 032 寺田星乃：筋膜をとらえる効果的なショー加熱メスの使い方。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [シンポジウム]
- 033 寺田星乃, 下出祐造, 古川まどか, 佐藤雄一郎, 花井信広：超音波を用いた頸部リンパ節転移に対する化学放射線療法後の効果判定 -頭頸部超音波研究会での多施設研究-。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [シンポジウム]
- 034 奥村嘉英, 中野さつき, 村瀬貴幸, 上田佳緒璃, 川北大介, 長尾俊孝, 草深公秀, 浦野 誠, 山元英崇, 加納里志, 塚原清彰, 大上研二, 長尾 徹, 花井信広, 岩井大, 河田 了, 多田雄一郎, 丹生健一, 稲垣 宏：唾液腺原発粘表皮癌における CRTCl/3-MAML2 キメラ遺伝子の意義：他施設研究による検討。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [口演]
- 035 高成啓介, 中村亮太, 萩原純孝, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広：TruMatch Reconstruction システムを用いた下顎再建の短期成績。第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [口演]
- 036 寺田星乃：超音波像を理解するための頭頸部解剖。第13回ポイントオブケア超音波医学会学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 037 西川大輔：紹介元施設より 紹介元から見た BNCT。第2回 BNCT（ホウ素中性子補足療法）Web セミナー, 2022, (Web), [講演]
- 038 花井信広：前頭蓋底腫瘍の手術。第34回日本頭蓋底外科学会, 2022, (東京), [ビデオシンポジウム司会]
- 039 花井信広：再発転移頭頸部癌に対する薬物療法 ～効果を十分に引き出すために～。第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2022, (広島), [ランチョンセミナー]
- 040 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）の患者選択の考え方。第69回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会中部地方部会連合会, 2022, (名古屋), [イブニングセミナー]
- 041 西川大輔：ハイボリウムセンターの頸部郭清【頸下部, II-IV】。頭頸部郭清セミナー, 2022, (東京), [講演]

- 042 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療の実際。岐阜県頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）セミナー，2022，（岐阜），[講演]
- 043 花井信広：頭頸部癌治療の最新知見 - 頭頸部癌診療ガイドライン 2022 年度版改訂ポイントを踏まえて - 第 31 回静岡県頭頸部腫瘍研究会，2022，（静岡），[講演]
- 044 西川大輔：実臨床における頭頸部アルミノックス治療の効果と課題。頭頸部光免疫療法 Web セミナー，2022，（Web），[講演]
- 045 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療の実際。三重県アルミノックス治療カンファレンス，2022，（Web），[講演]
- 046 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療の実際。静岡県頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）カンファレンス，2022，（Web），[講演]
- 047 寺田星乃：頸部リンパ節の鑑別。日本超音波医学会第 32 回九州地方会学術集会，2022，（Web），[講演]
- 048 寺田星乃：その頸部リンパ節腫脹，どう考える？ 第 36 回頭頸部超音波研究会，2022，（Web），[講演]
- 049 寺田星乃：頭頸部癌診療における超音波を用いた治療効果判定。第 49 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，2022，（鳥取），[口演]
- 050 寺田星乃：超音波検査に必要な頸部解剖。第 49 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会，2022，（鳥取），[口演]
- 051 本間明宏，花井信広，松浦一登，鬼丸力也：頭頸部がんにおける治療戦略 標準治療の開発。第 60 回日本癌治療学会学術集会，2022，（神戸，Web），[ワークショップ]
- 052 花井信広：頭頸部アルミノックス治療の適応判断のポイント。頭頸部アルミノックス治療カンファレンス@神奈川，2022，（ハイブリッド），[講演]
- 053 別府慎太郎：頭頸部外科手術の基本概念。桜山手術・周術期栄養セミナー，2022，（Web），[講演]
- 054 田中 努，田近正洋，大西祥代，山田啓策，神谷友康，原和生，水野伸匡，桑原崇通，奥野のぞみ，羽場 真，倉石康弘，文原大貴，柳井谷駿史，石川 将，安田 司，山田真規，花井信広，丹羽康正：当院における下咽頭表在癌に対する経口的下咽頭喉頭部分切除術（TOVS）と内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の治療成績の検討。第 104 回日本消化器内視鏡学会総会，2022，（福岡），[ポスター]
- 055 花井信広：光免疫療法と光線力学的治療の現状と将来「光免疫療法の臨床（頭頸部アルミノックス治療）」。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[シンポジウム]
- 056 花井信広：頭頸部癌・食道癌の合併症対策「乳び漏／リンパ漏」。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[シンポジウム]
- 057 花井信広：甲状腺癌の治療 最新の知見と今後の展望。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[シンポジウム司会]
- 058 塚本康二，澤部 倫，寺田星乃，鈴木秀典，花井信広：当院における甲状腺髄様癌に対する RET 遺伝学的検査の取り組み。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[口演]
- 059 後藤聖也，鈴木秀典，曾根三千彦，花井信広：頭頸部癌の救済頸部郭清術後における予後因子としての lymph node density と log odds positive lymph nodes。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[口演]
- 060 寺田星乃：甲状腺癌の治療 最新の知見と今後の展望「甲状腺手術における NIM VitalTM を用いた神経モニタリング」。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[シンポジウム]
- 061 寺田星乃：進行甲状腺癌手術におけるアプローチと工夫。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[ランチョンセミナー]
- 062 寺田星乃：気管食道領域の超音波診断。第 73 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会，2022，（沖縄），[ハンズオンセミナー]
- 063 花井信広：下咽頭がん手術 ～下咽頭・喉頭全摘術（TPL）～。第 67 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会，2022，（千葉），[シンポジウム]
- 064 萩原純孝，日比英晴：血清 CD109 値の上昇は口腔扁平上皮癌におけるリンパ節転移を反映する。第 67 回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会，2022，（千葉），[口演]
- 065 松塚 崇，花井信広，吉本世一，大峽慎一，塚原清彰，近松一朗，榎木祐一郎，塩谷彰浩，尾瀬 功，長谷川泰久：口腔癌の SNNS における偽陰性率改善の取り組みと微小転移の取り扱い。第 24 回 SNNS 研究会学術集会，2022，（金沢），[口演]
- 066 鈴木秀典：機器の取扱いについて。頭頸部アルミノックス治療講習会，2022，（大阪），[講演]
- 067 鈴木秀典：頭頸部悪性腫瘍のサルベージ手術における SSI。第 35 回日本外科感染症学会総会学術集会，2022，（倉敷），[シンポジウム]
- 068 西川大輔：頭頸部アルミノックス治療の実際 ～適応患者選択のポイント～。第 4 回頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）WEB 講演会，2022，（WEB），[講演]
- 069 花井信広：頭頸部癌診療ガイドライン 2022 年度版 - 口腔癌・薬物療法のトピックスと解説 -。南大阪頭頸部腫瘍セミナー，2022，（Web），[講演]
- 070 別府慎太郎：頸部郭清術を Chunking。南大阪頭頸部腫瘍セミナー，2022，（Web），[講演]
- 071 花井信広：再発・転移頭頸部癌におけるセツキシマブの位置づけ ～ biweekly 投与方法も含めて～。Erbtux HN Web Seminar in Nagoya，2022，（Web），[座長]
- 072 西川大輔，別府慎太郎，鈴木秀典，寺田星乃，澤部 倫，花井信広：経口的ロボット支援手術におけるミラーサージャー。第 22 回頭頸部表在癌研究会，2022，（横浜），[口演]
- 073 花井信広：再発・転移頭頸部癌の治療について。Erbtux H&N Web Expert Webinar，2022，（WEB），[講演]
- 074 西川大輔：口腔がん原発の再発／進行頭頸部がんの頭頸部アルミノックス治療導の実際。頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）カンファレンス@北海道 With 口腔外

- 科, 2022, (札幌), [講演]
- 075 **花井信広**: チームで取り組む再発・転移頭頸部癌診療と治療～当院での工夫とtips～. Head & Neck cancer インターネット講習会, 2022, (Web), [座長]
- 076 **花井信広**: 舌部分切除と舌リンパ節の処理. 第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (金沢), [教育セミナー司会]
- 077 **鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 花井信広**: 甲状腺分化癌に対する救済手術時における予後因子としての年齢と遠隔転移. 第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (金沢), [口演]
- 078 **西川大輔**: アルミノックス 2. 第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (金沢), [座長]
- 079 **寺田星乃**: 頸部郭清術. 第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (金沢), [教育セミナー]
- 080 **寺田星乃**: 頭頸部癌診療における超音波の有効活用. 第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023, (金沢), [ハンズオンセミナー]
- 081 **花井信広**: 頭頸部アルミノックス治療二年間の総括 ～運営委員の活動と指導医に求められること～. 第1回頭頸部アルミノックス治療指導医セミナー, 2022, (金沢), [司会, 講演]
- 082 **西川大輔**: 治療症例の追体験 光照射後の局所麻酔は術後疼痛軽減に有用か? 第1回頭頸部アルミノックス治療指導医セミナー, 2022, (金沢), [講演]
- 083 **別府慎太郎**: 外科医が考える頭頸部がん気管孔管理について. 第2回 頭頸部がんサポート研究会, 2023, (ライブ配信, 名古屋), [講演]
- 084 **西川大輔, 別府慎太郎, 鈴木秀典, 寺田星乃, 澤部 倫, 花井信広**: 経口的ロボット手術におけるミラーサージャー. 第15回日本ロボット外科学会学術集会, 2023, (名古屋), [口演]
- 085 **萩原純孝, 高成啓介, 中村亮太, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 花井信広**: TRUMATCH? Reconstruction System による下顎再建術 -愛知県がんセンターにおけるプランニングから手術まで-. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [口演]
- 086 **岸川敏博, 寺田星乃, 澤部 倫, 萩原純孝, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広**: 進行舌癌における対側頸部リンパ節転移の臨床病理学的検討. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [口演]
- 087 **中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 別府慎太郎, 花井信広**: 遊離空腸移植術後2週間目に血管吻合部より出血をきたした症例. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [口演]
- 088 **高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 萩原純孝, 花井信広**: 両側上顎を含む欠損に対する2つの遊離皮弁を用いた上顎再建. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [口演]
- 089 **花井信広**: LENVIMA-TC Meet The Expert, 2023, (名古屋, Web), [総合司会]
- 090 **寺田星乃**: Lenvatinib を使用したコンバージョン手術症例の考察. LENVIMA-TC Meet The Expert, 2023, (名古屋, Web), [口演・ディスカッション]
- 091 **花井信広**: ガイドライン 2022年版発刊後の実臨床応用と今後の課題. Head & Neck インターネット講演会, 2023, (Web), [講演]
- 092 **花井信広**: 喉頭部分切除の TIPS. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2023, (京都), [手術手技セミナー]
- 093 **西川大輔**: 頭頸部アルミノックス治療 (光免疫療法)による喉頭・下咽頭病変治療. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2023, (京都), [パネルディスカッション]
- 094 **西川大輔**: 頭頸部外科医が嚥下のために出来ること. 第46回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 2023, (名古屋), [シンポジウム]
- 095 **花井信広**: 頭頸部癌 第46回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 2023, (名古屋), [座長]
- 096 **別府慎太郎**: 頭頸部アルミノックス治療を実施した局所再発声門癌の症例報告. 第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2023, (京都), [ランチョンセミナー]
- 097 **村上祐司, 花井信広, 本間義崇, 横田知哉, 榎田智弘**: Optimal Treatment Strategy for Head and Neck Cancer in the Era of Immunotherapy? Current Evidence and Future Directions -近年の免疫療法の治療開発と今後の展望. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [シンポジウム]
- 098 **西川大輔**: 当院における頭頸部がん治療戦略. 頭頸部アルミノックス治療京都エリア講演会, 2023, (京都), [講演]
- 099 **別府慎太郎**: 光免疫療法の基礎と臨床. 第3回東海エリア頭頸部アルミノックス治療カンファレンス, 2023, (Web), [講演]

形成外科部

- 001 **高成啓介, 中村亮太, 萩原純孝, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広**: TruMatch Reconstruction システムを用いた下顎再建 第38回東海頭頸部腫瘍研究会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 002 **高成啓介, 中村亮太, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広**: 前中頭蓋底切除後の再建手術 ～整容性の向上を目指して～第37回東海頭蓋底外科研究会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 003 **高成啓介, 中村亮太, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子**: 頭頸部再建における技術革新 -TruMatch Reconstruction システムの現状と展望. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022, (大阪), [シンポジウム]
- 004 **高成啓介, 中村亮太, 萩原純孝, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広**: TruMatch Reconstruction システムを用いた下顎再建の短期成績. 第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [一般演題]
- 005 **高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 花井信広**: 遊離皮弁移植による頭蓋底再建後

- の再手術についての検討. 第34回日本頭蓋底外科学会, 2022, (東京), [シンポジウム]
- 006 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: 頭頸部再建領域における Network Meta-Analysis の利用状況について. 第31回日本形成外科学会基礎学術集会, 2022, (岡山), [一般演題]
- 007 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: Frozen Neck 症例におけるマイクロサージャリー第49回日本マイクロサージャリー学会, 2022, (浜松), [シンポジウム]
- 008 *Ryota Nakamura, Keisuke Takanari, Masanari Hashimoto, Mikumo Nakakawaji, Aoi Ohyama, Yoko Maruyama, Seiko Okumura, Ikuo Hyodo*: Comparison of postoperative function of mandibular reconstruction after segmental mandibulectomy between fibular flap, soft tissue flap and reconstruction plate: Propensity score adjusted multivariable regression analysis. The 91st American Society of Plastic Surgeons Annual Meeting, 2022, (Chicago), [ポスター]
- 009 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 当院における内頸静脈合併切除時の移植床血管選択に関する検討. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022, (浜松), [一般口演]
- 010 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: iPad を用いた上肢周径・体積測定信頼性, 妥当性に関する検討. 第31回日本形成外科学会基礎学術集会, 2022, (岡山), [一般口演]
- 011 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: スマートフォンを用いたリンパ浮腫評価に関する検討. 第6回日本リンパ浮腫治療学会, 2022, (東京), [一般口演]
- 012 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 皮弁折り返しによる舌再建における皮弁配置に関する検討. 第46回日本頭頸部癌学会, 2022, 奈良, [一般口演]
- 013 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 当院の下顎再建における再建皮弁による術後機能に関する検討. 第65回日本形成外科学会総会, 2022, 大阪, [一般口演]
- 014 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子: スマートフォンを用いたリンパ浮腫評価に関する検討. 第15回がんのリンパ浮腫研究会, 2023, 名古屋, [一般口演]
- 015 中村亮太, 高成啓介, 中川路美雲, 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 別府慎太郎, 花井信広: 遊離空腸移植術後2週間目に血管吻合部より出血をきたした症例. 第39回東海頭頸部腫瘍研究会, 2023, (名古屋), [一般口演]
- 016 奥村誠子, 丸山陽子, 他: インプラントによる乳房再建後, 再発転移を疑ったインプラントの破損のないシリコンリンパ節腫脹の経験. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022, (大阪), [一般口演]
- 017 奥村誠子, 丸山陽子, 他: 肺癌の脊髄転移による急激な下肢麻痺にて発生した仙尾骨部褥瘡からの壊死性筋膜炎の1例. 第17回日本褥瘡学会中部地方学術集会, 2022, (名古屋), [一般口演]
- 018 奥村誠子, 丸山陽子, 他: 近隣乳腺クリニックとの連携による乳房インプラント定期画像検診: 破損・その他異常検出の検討. 第30回乳癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 019 奥村誠子, 丸山陽子, 他: 近隣乳腺クリニックとの連携による乳房インプラント定期画像検診: 破損・その他異常検出の検討. 第117回九州・沖縄形成外科学会学術集会, 2022, (北九州), [一般口演]
- 020 奥村誠子, 丸山陽子, 他: 1次1期SBI再建後のSBIの折れ曲がりと早期破損の検討. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022, (沖縄), [一般口演]
- 021 奥村誠子, 丸山陽子, 他: 穿通枝皮弁の血管剥離操作での LigaSure™ Exact の使用経験. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022, (浜松), [一般口演]
- 022 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 大山 葵, 中川路美雲, 高成啓介: 長期留置ドレーン刺入部に対するバイオパッチの使用経験. 2022, 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般口演]
- 023 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 大山 葵, 中川路美雲, 高成啓介: 長期留置ドレーン刺入部に対するバイオパッチ®の使用経験. 2022, 第30回日本乳癌学会学術集会, (横浜), [ポスター]
- 024 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 大山 葵, 中川路美雲, 高成啓介: nipple sparing mastectomy と1次1期インプラントにおける乳頭位置の経時的変化の比較検討. 第31回日本形成外科学会基礎学術総会, 2022, [一般口演]
- 025 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 大山 葵, 中川路美雲, 高成啓介: nipple sparing mastectomy と1次1期インプラントにおける乳頭位置の経時的変化の比較検討. 第10回日本オンコプラスチックサージャリー学会総会, (沖縄), 2022, (Web), [一般演題]
- 026 大山 葵, 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子: 下肢LVA術後にVenous refluxが疑われた症例. 第56回中部形成外科学会, 2022, (長久手), [一般演題]
- 027 大山 葵, 丸山陽子, 奥村誠子, 中川路美雲, 中村亮太, 高成啓介: SBI再建後の局所再発切除時に大胸筋合併切除が必要で, 自家組織再建を要した2症例. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022, (沖縄), [一般演題]
- 028 大山 葵, 高成啓介, 中村亮太, 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子: ナーブブリッジを用いた上顎部分切除における眼窩下神経再建の経験. 第49回日本マイクロサージャリー学会, 2022, (浜松), [一般演題]
- 029 中川路美雲, 矢吹雄一郎: IgG4関連涙腺炎を背景として発症した眼瞼黄色肉芽腫の1例. 形成外科学会総会, 2022, (大阪), [一般口演]
- 030 中川路美雲, 高成啓介, 中村亮太: 口腔がん切除再建術後の感染を減少させるための当院の工夫. 創傷外科学会,

- 2022, (神戸), [一般口演]
- 031 中川路美雲, 中村亮太: 愛知県がんセンターにおけるリンパ節郭清後の患者指導の工夫と浮腫発症から外来受診までの間隔の検討. リンパ浮腫治療学会, 2022, (東京), [一般口演]
- 032 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子: 自家組織による乳房再建時に使用する閉鎖式陰圧ドレーンの陰圧差での比較検討と今後のドレーン管理の展望 形成外科基礎学会 2022, (岡山), [一般口演]
- 033 中川路美雲, 丸山陽子, 奥村誠子: 長期ドレーン留置部における常圧タイプドレーンと低圧タイプドレーンの比較検討. オンコプラスチックサージャリー学会, 2022, (沖縄), [一般口演]
- 034 中川路美雲, 高成啓介, 中村亮太: Supra-Fascial Anterolateral Thigh (SFALT) flap の術後整容性評価. マイクロサージャリー学会, 2022, (浜松), [一般口演]
- 035 中川路美雲, 北山晋也: メジャー法と DICOM CT データを用いた下肢リンパ浮腫周径値の比較検討. 神奈川リンパ浮腫研究会, 2023, (横浜), [一般口演]

呼吸器外科部

- 001 *Sakakura N, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H*: Robotic lung segmentectomy via the three-arm “open-thoracotomy-view approach” using vertical port placement and confronting monitor setting. Robot-assisted pulmonary segmentectomy for lung cancer: knacks and pitfalls. アジア国際ロボット内視鏡外科学会, 2022, (Web), (名古屋), [ワークショップ]
- 002 *Tanaka F, Ito H, Okada M, Sugawara S, Shio Y, Tomii K, Okami J, Sakakura N, Kubota K, Takamochi K, Atagi S, Tsuboi M, Oizumi S, Ikeda N, Ohde Y, Ntambwe I, Mahmood J, Cai J, Mitsudomi T*: Neoadjuvant nivolumab + chemotherapy for resectable NSCLC: CheckMate 816 surgical outcomes in Japanese patients. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022, (Web), (福岡), [グローバルセッション]
- 003 *Tsuboi M, Paz-Ares L, O'Brien M, Mauer M, Dafni U, Okada M, Sugio K, Mitsudomi T, Saji H, Satoh Y, Sakakura N, Azuma K, Oselin K, Esteban E, Isla D, Martinez-Marti A, Faehling M, Lee J, Jha N, M. Keller S, Mori T, Adachi N, Marreaud S, Stahel R, Peters S, Besse B, Nakagawa K*: Adjuvant Pembrolizumab Versus Placebo for Stage IB-III A NSCLC: PEARLS/KEYNOTE-091 Japan Subgroup. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022, (Web), (福岡), [プレジデンシャルセッション]
- 004 *Mitsudomi T, Ito H, Okada M, Sugawara S, Shio Y, Tomii K, Okami J, Sakakura N, Kubota K, Takamochi K, Atagi S, Tsuboi M, Oizumi S, Ikeda N, Ohde Y, Ntambwe I, Cai J, Mahmood J, Tanaka F*: Neoadjuvant nivolumab plus chemotherapy for resectable NSCLC: CheckMate 816. Japan subgroup analysis. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022, (Web), (福岡), [プレジデンシャルセッション]
- 005 坂倉範昭, 白井 俊, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 黒田浩章: ロボット手術の均てん化と適応拡大. 対面モニターを用いた開胸視野式ロボット肺切除—もう一つのアプローチ, 開胸・胸腔鏡手術との整合性. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2022, (Web), (東京), [パネルディスカッション]
- 006 坂倉範昭, 白井 俊, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 黒田浩章: 対面モニターを用いた 3 アーム開胸視野式ロボット肺切除—もう一つのアプローチ, 開胸・胸腔鏡手術との整合性. 第 14 回日本ロボット外科学会, 2022, (Web), (鹿児島), [シンポジウム]
- 007 鈴木あゆみ, 黒田浩章, 高原弘知, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉 範昭: 周術期メンタルヘルスの推移が術後早期回復へ与える影響. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2022, (Web), (東京), [一般口演]
- 008 高橋祐介, 白井 俊, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 坂倉範昭, 黒田浩章: 非小細胞肺癌周術期における Lung Immune Prognostic Index の予後への影響. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2022, (東京), [一般口演]
- 009 松井琢哉, 高橋祐介, 奥田勝裕, 黒田浩章: 臨床病期 I 期非小細胞肺癌に対する亜区域切除を含む解剖学的肺縮小切除術. 第 63 回肺癌学会学術集会, 2022, (Web), (福岡), [一般口演]

消化器外科部

- 001 *Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Fujieda H, Kawakatsu S, Kunitomo A, Oki S, Maeda S, Nagao T, Aritake T, Tawada K, Shimizu Y*: Surgical technique in preventing complications of reconstruction of urinary system in pelvic surgery. 第 67 回国際外科学会日本部会総会, 2022, (Chiba), [一般演題 口演]
- 002 *Abe T, Higaki E, Fujieda H*: Can Thoracoscopic Esophagectomy in Conversion Surgery for Locally Advanced Unresectable Esophageal Cancer be feasible?. 18th ISDE World Congress for Esophageal Diseases, 2022, (Toronto), [ポスター]
- 003 *Fujieda H, Abe T, Higaki E, Shimizu Y*: Safety and usefulness of larynx- preserving high-level cervical anastomosis for cervical esophageal cancer. 18th ISDE World Congress for Esophageal Diseases, 2022, (Toronto), [ポスター]
- 004 *Okano N, Inoue Y, Kawai M, Ueno M, Yu X, Takahashi S, Wang W, Takahashi H, Okamura Y, Morinaga S, Matsumoto I, Shimizu Y, Yoshida K, Yamamoto T, Otsuka M, Inokawa Y, Esaki M, Yamamoto K, Yamaue H, Furuse J*: Cohort study of patients with initially unresectable pancreatic cancer in whom conversion surgery was planned after

- FOLFIRINOX or gemcitabine+nab-paclitaxel. 33rd World Congress of International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, 2022, (Istanbul), [オーラル]
- 005 **Ito S, Ito Y, Kobayashi D, Matsushita H, Tanaka Y, Kadera Y, Chubu Clinical Oncology Group (CCOG)** : Long-term survival outcome of multi-institutional prospective phase II trial of conversion surgery - CCOG1403. ASCO-GI, 2023, (San Francisco), [ポスター]
- 006 **Ouchi A, Kanemitsur Y, Sadachi R, Hamaguchi T, Tsukamoto S, Shimada Y, Inomata M, Takii Y, Komori K, Shiomi A, Shiozawa M, Ohue M, Watanabe J, Ito M, Kawashima Y, Kobatake T, Soda H, Saida Y, Hashimoto T, Sano Y** : Prognostic relevance of primary tumor sidedness in stage II/III colorectal cancer: An integrated analysis of JCOG0205, JCOG0404, JCOG0910, and JCOG1006 (JCOG2003A). ASCO-GI, 2023, (San Francisco), [ポスター]
- 007 **赤座 賢, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 國友愛奈, 沖哲, 前田真吾, 長尾拓哉, 多和田翔, 有竹 典, 清水泰博** : 膵癌に対するEUS - FNA後に胃転移をきたした1例. 第301回東海外科学会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 008 **有竹 典, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博** : 術前化学療法と遊離前外側大腿皮弁で切除しえた大腸癌腹壁浸潤の1例. 第301回東海外科学会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 009 **藤吉健司, 主藤朝也, 赤木由人, 藤田文彦, 千野晶子, 赤木 究, 高雄暁成, 山田真善, 田中屋宏爾, 石田秀行, 小森康司, 石原聡一郎, 三口真司, 平田敬治, 宮倉安幸, 石川敏昭, 富田尚裕, 味岡洋一** : Lynch症候群における飲酒と発癌リスク. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [一般演題]
- 010 **安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 清水泰博** : ロボット支援下食道切除術における定型化と今後の展望. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [一般演題]
- 011 **森 治樹, 三宅 亨, 夏目誠治, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 阿部雄一, 梶野泰祐, 水野和幸, 細田和貴, 飯田洋也, 小森康司, 清水泰博, 谷 眞至, 田口 歩** : Physician scientistを志して 新しい外科の地平線を切り拓くために. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [特別企画]
- 012 **小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 前田真吾, 長尾拓哉, 清水泰博** : 直腸癌手術における骨盤内高
- 度局所進展症例および再発症例における腎尿路系の温存術式と短期成績について. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [ワークショップ]
- 013 **夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶** : 陥入膵腸吻合法術後の残膵機能 粘膜吻合法との比較. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [一般演題]
- 014 **奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 柳野正人** : IPMNの手術適応決定における mural nodule と主膵管拡張の有用性の検討. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [一般演題]
- 015 **藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 柳野正人, 清水泰博** : 食道癌手術における胸管合併切除の有用性の検討. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [ポスター]
- 016 **佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博** : 直腸低位前方切除術において ICG 蛍光法による血流評価は有用か. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [ポスター]
- 017 **大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博** : 【必要】予防側方郭清の省略は時期尚早である. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [特別企画 / 特別セッション]
- 018 **有竹 典, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 沖哲, 前田真吾, 長尾拓哉, 多和田翔, 清水泰博** : 膵頭十二指腸切除術後の発熱に対する血液培養採取の意義. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [ポスター]
- 019 **多和田翔, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 有竹 典, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 柳野正人** : 膵癌切除における膵断端迅速病理診断と陽性例に対する追加切除の意義. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [サージカルフォーラム]
- 020 **前田真吾, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博** : 大腸癌術後補助化学療法におけるL-OHPのRelative Dose Intensityの予後への影響. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [サージカルフォーラム]
- 021 **長尾拓哉, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 清水泰博** : 術中

- ICG 蛍光法を用いた胃管血流評価と Collard 変法による食道切除後胃管再建の検討. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 2022, (Web), [サージカルフォーラム]
- 022 寺島雅典, 徳永正則, 水澤純基, 伊藤誠二, 黒川幸典, 吉川貴己, 佐野 武, 笹子三津留: 進行胃癌に対する集学的治療の現状と展望 高度リンパ節転移例に対する術前化学療法. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 2022, (熊本), [パネルディスカッション]
- 023 小森康司: 骨盤内巨大腫瘍および再発手術における腎尿管温存再建術式について. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 024 榎本圭吾, 林雄一郎, 北坂孝幸, 小田昌宏, 三澤一成, 森健策: 腹腔鏡映像からの血管領域自動抽出における Dilated U-Net の段数が抽出精度に与える影響. 第 31 回日本コンピュータ外科学会大会, 2022, (東京), [一般演題 口演]
- 025 林雄一郎, 辻 真治, 丘 杰, 小田昌宏, 三澤一成, 森健策: 腹腔鏡下胃切除術支援のための腹腔鏡映像からの膵臓領域抽出の検討. 第 31 回日本コンピュータ外科学会大会, 2022, (東京), [一般演題 口演]
- 026 *Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S*: Significance of conversion surgery for chemotherapy-responder patients with unresectable pancreatic cancer. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2022, (愛媛), [ポスター]
- 027 *Okuno M, Shimizu Y, Natsume S, Kawakatsu S, Tawada K, Nagino M*: Validation of the treatment strategy of IPMN based on the 2017 international consensus guidelines. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2022, (愛媛), [パネルディスカッション]
- 028 *Shimizu Yasuhiro*: 司会. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2022, (愛媛), [ポスター]
- 029 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 前田真吾, 沖 哲, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 高度局所進展進行癌や再発手術における泌尿器系の臓器温存手術およびその短期成績. 第 31 回骨盤外科機能温存研究会, 2022, (東京), [要望演題]
- 030 安部哲也: 座長. 第 65 回関西胸部外科学会学術集会, 2022, (浜松), [要望演題]
- 031 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 胃管反転法による胸骨後再建胃癌に対する縦隔鏡下胃管切除術. 第 65 回関西胸部外科学会学術集会, 2022, (浜松), [要望演題]
- 032 *Shimizu Yasuhiro*: 司会. 第 53 回日本膵臓学会, 第 26 回国際膵臓学会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 033 *Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Okuno N, Hara K*: Comparison of long-term remnant pancreatic function between invagination and duct-to-mucosa pancreaticojejunostomy. 第 53 回日本膵臓学会, 第 26 回国際膵臓学会, 2022, (京都), [オーラル]
- 034 宮倉安幸, 千野晶子, 田中屋宏爾, 赤木 究, 高雄暁成, 山田真善, 石田秀行, 小森康司, 佐々木和人, 三口真司, 平田敬治, 主藤朝也, 石川敏昭, 山口達郎, 富田尚浩, 味岡洋一: リンチ症候群に対する下部消化管内視鏡検査の質と安全性の検討～遺伝性大腸癌委員会多施設共同研究～. 第 97 回大腸癌研究会学術集会, 2022, (浜松), [一般演題 口演]
- 035 三口真司, 千野晶子, 赤木 究, 高雄暁成, 山田真善, 田中屋宏爾, 石田秀行, 小森康司, 佐々木和人, 平田敬治, 主藤朝也, 宮倉安幸, 石川敏昭, 山口達郎, 富田尚裕, 味岡洋一: 大腸切除歴のないリンチ症候群患者における大腸癌および腺腫の累積発生リスク. 第 97 回大腸癌研究会学術集会, 2022, (浜松), [一般演題 口演]
- 036 高雄暁成, 飯塚敏郎, 高雄美里, 千野晶子, 赤木 究, 山田真善, 田中屋宏爾, 石田秀行, 小森康司, 佐々木和人, 三口真司, 平田敬治, 主藤朝也, 山口達郎, 富田尚裕, 味岡洋一: リンチ症候群における post-colonoscopy colorectal cancer の臨床病理学的特徴. 第 97 回大腸癌研究会学術集会, 2022, (浜松), [一般演題 ポスター]
- 037 斎藤悠文, 小森康司, 大内 晶, 佐藤雄介, 木下敬史, 川畑大樹, 成田 潔, 赤座 賢, 有竹 典, 多和田翔, 沖哲, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 直腸癌術後再発に対する手術後 9 年を経て再々発した一例. 第 58 回愛知臨床外科学会, 2022, (愛知), [一般演題]
- 038 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 骨盤内腫瘍における腎尿路温存術式の合併症を防ぐ工夫. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 039 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 切除不能食道癌に対する Conversion Surgery における胸腔鏡下食道切除術の成績. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (横浜), [一般演題]
- 040 夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 膵頭十二指腸切除術後胆管空腸吻合部狭窄の検討 細径胆管に対する連続縫合と結節縫合の比較. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (横浜), [パネルディスカッション]
- 041 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 胸部食道癌に対し術前 DCF 療法が奏功する腫瘍学的因子の検討. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 042 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 年国際ガイドラインに基づいた IPMN の治療戦略の検証. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 043 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 頸胸境界部食道癌手術における喉頭温存高位頸部吻合の安全性と有用性. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]

- 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: SMA に沿った腹腔鏡下右半結腸切除 D3 郭清. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 044 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 低骨格筋量が骨盤外科拡大手術の術後合併症に与える影響. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 045 多和田翔, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 柳野正人: 睪頭十二指腸切除術における睪断端迅速病理診断と陽性例に対する追加切除の意義. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 046 有竹 典, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 睪頭十二指腸切除後の発熱に対する血液培養採取の意義 Significance of blood culture examination for the postoperative febrile episodes after pancreatoduodenectomy. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 047 赤座 賢, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 柳野正人: 睪癌における術中腹腔洗浄細胞診陽性の予後因子としての検討. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 048 出井秀幸, 横山幸浩, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博, 水野隆史, 山口淳平, 尾上俊介, 渡辺伸元, 江畑智希: 外科手術における術前腸内細菌叢が術後合併症に及ぼす影響についての前向き臨床研究. 第 77 回総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 049 長尾拓哉, 横山幸浩, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 食道切除・胃管再建における術後合併症と術前便中有機酸濃度の検討. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022, (Web), [一般演題]
- 050 大野真奈, 申 忱, Holger R. Roth, 小田昌宏, 林雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 境界情報を考慮する損失関数を用いた FCN による腹部 CT 像からの臓器領域抽出に関する研究. 第 41 回日本医用画像工学会大会, 2022, (名古屋), [一般演題 口演]
- 051 出口 智也, 林雄一郎, 北坂孝幸, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: GNN による血管名自動命名手法における臓器特徴の利用に関する検討. 第 41 回日本医用画像工学会大会, 2022, (名古屋), [一般演題 口演]
- 052 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 多和田翔, 有竹 典: 脾動脈を温存し脾静脈を切除した腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除の 3 例. 第 49 回日本睪切研究会, 2022, (琵琶湖), [ミニオーラル]
- 053 小森康司: 東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 第 70 回を迎えて 歴史と未来. 第 70 回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会, 2022, (Web), [講演]
- 054 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉: 局所進行食道癌に対するロボット支援下食道切除術の手術成績と問題点. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [シンポジウム]
- 055 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 室 圭: 胸部食道扁平上皮癌に対する予防的 104 リンパ節郭清は有用か?. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ディベート]
- 056 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 門脇重憲, 清水泰博: 75 歳以上の高齢者に対するよ進行胸部食道癌治療 strategy: 術前化学療法 5 の食道切除は安全か?. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ディベート]
- 057 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 頸部食道癌に対する喉頭温存手術高位頸部吻合の有用性. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ディベート]
- 058 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 清水泰博: 胸部食道癌手術における食道胃管吻合法に関するランダム化比較試験 circular stapler 法 vs Collard 変法. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ビデオシンポジウム]
- 059 阿部雄一, 磯村久徳, 小森康司, 藤城光弘, 田口 歩: 血漿タンパク質と自己抗体の定量的プロファイリングによる大腸がん早期診断バイオマーカーの探索同定 (Quantitative profiling of circulating proteins and autoantibodies for early detection of colorectal cancer). 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 060 安部哲也: 座長. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2022, (横浜), [一般口演]
- 061 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 切除可能食道癌に対する術前補助化学療法後に手術から放射線療法に conversion した患者の予後解析. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2022, (横浜), [優秀演題賞]
- 062 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 前田真吾, 長尾拓哉, 有竹 典, 多和田翔, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術における尿管回腸導管吻合部の縫合不全を回避するウロストミー造設術. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022, (千葉), [一般演題]
- 063 宮北寛士, 小倉淳司, 眞部祥一, 塩見明生, 濱元裕喜, 奥田準二, 小森康司, 八谷 寛, 山本聖一郎, 上原 圭: 下部進行直腸癌に対する非腫大側方リンパ節郭清の最適化の検討. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022, (千葉), [一般演題]
- 064 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 浅野智成, 清水泰博: ロボット支援下側方リンパ節郭清~LD3 の手技と成績~. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022, (千葉), [要望演題]
- 065 赤座 賢, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 安井講平, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 沖 哲, 多和田翔, 斎藤悠文, 有竹 典, 成田 潔, 川畑大

- 樹, 清水泰博: Heller-Dor 手術後横隔膜上憩室に発生した進行食道癌の1例. 第302回東海外科学会, 2022, (浜松), [一般演題]
- 066 有竹 典, 奥野正隆, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 沖 哲, 多和田翔, 赤座 賢, 斎藤悠文, 成田 潔, 川畑大樹, 清水泰博: 後腹膜成熟嚢胞奇形腫の1例. 第302回東海外科学会, 2022, (浜松), [一般演題]
- 067 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: 大腸癌術後局所再発手術は何回まで可能か? 頻回手術の短期成績の検討. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [ポスター]
- 068 *Ouchi A, Matsuo K, Shimizu Y*: Does surgical intervention contribute to survival for CRC with isolated PALN metastasis in the era of new anticancer drugs?. 消化器外科学会大会 (JDDW), 2022, (福岡), [国際シンポジウム]
- 069 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 清水泰博: 食道癌手術症例における短期・長期成績の性差による影響. 消化器外科学会大会 (JDDW), 2022, (福岡), [ポスター]
- 070 安井講平, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 多和田翔, 有竹 典, 沖 哲, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌, 胆道癌の同時重複癌の対し, 二期分割手術による胸腔鏡下食道切除と脾頭十二指腸切除を行い根治切除した2例の経験. 日本消化器病学会東海支部第137回例会・第48回教育講演会, 2022, (静岡), [一般演題]
- 071 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 清水泰博: 食道癌根治切除後の周術期予防的抗菌薬として ABPC/SBT を選択する意義: 早期肺炎と incisional SSI を制御する. 第35回日本外科感染症学会総会, 2022, (倉敷), [優秀ポスター賞]
- 072 伊藤誠二: 司会. 胃外科・術後障害研究会, 2022, (静岡), [一般演題]
- 073 神田光郎, 伊藤誠二 望月能成, 寺本 仁, 石博 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 中西香企, 清水 大, 田中千恵, 小寺泰弘: 胃全摘術後合併症がもたらす長期予後への悪影響. 胃外科・術後障害研究会, 2022, (静岡), [一般演題]
- 074 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 鏡視下手術における一時的回腸人工肛門造設 Outlet obstruction を回避する手術手. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022, (福岡), [ビデオシンポジウム]
- 075 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 直腸癌術後局所再発手術は何回まで許容できるか?—短期成績の観点から検討—. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022, (福岡), [一般演題]
- 076 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 局所進行食道癌に対するロボット支援下食道切除術の安全性と有用性. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022, (福岡), [パネルディスカッション]
- 077 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 右側横行結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022, (福岡), [シンポジウム]
- 078 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 大腸癌腹腔播種治療のSDGs—成績向上のカギを歴史に学ぶ—. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022, (福岡), [一般演題]
- 079 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 小森康司, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 食道領域の内視鏡外科技術認定合格者を胸腔鏡術者経験2年以内で輩出してきた当院での食道外科教育システム. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 080 安部哲也: 司会. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ミニオーラル]
- 081 三澤一成, 沖 哲, 伊藤友一, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: ロボット支援胃癌手術におけるコスト低減の工夫. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [パネルディスカッション]
- 082 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 沖 哲, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下・ロボット支援下胃全摘術における Circular stapler を用いた食道空腸吻合再建の手技と成績. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 083 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 赤座 賢, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌に対する胸腔鏡下食道亜全摘術で内視鏡技術認定を受けた術者の認定後の短期成績. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 084 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 赤座 賢, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 胸腔鏡下食道亜全摘術における腹腔鏡補助下胃管作成の有用性. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ミニオーラル]

- 085 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 下行結腸癌に対する腹腔鏡下 CME+D3 郭清. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ミニオーラル]
- 086 沖 哲, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下噴門側胃切除術, 空腸間置再建・ダブルトラクト再建の手法と成績. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ワークショップ]
- 087 斎藤悠文, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 腹腔鏡下結腸・直腸切除術におけるエネルギーデバイスの選択. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 088 成田 潔, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: 肥満患者に対する腹腔鏡下直腸手術の治療成績と手技の工夫. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 089 奥野正隆, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 脾動脈を温存し脾静脈を切除する腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の検討. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 090 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 清水泰博: SMA をランドマークとした腹腔鏡下結腸右半切除. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [一般演題]
- 091 赤座 賢, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 大内 晶, 佐藤雄介, 奥野正隆, 浅野智成, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 80 歳以上の高齢者に対する胸腔鏡下食道亜全摘術後の短期成績. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ミニオーラル]
- 092 木下敬史: 司会. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022, (名古屋), [ミニオーラル]
- 093 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 赤座 賢, 川畑大樹: 若年性大腸癌術後の多重がんの検討. 第 98 回大腸癌研究会学術集会, 2023, (浜松), [口演]
- 094 小森康司: 頻回の直腸癌術後局所再発手術の短期成績. 第 19 回日本消化管学会総会学術集会, 2023, (東京), [一般演題]
- 095 伊藤友一: 座長. 第 59 回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 096 佐藤雄介: 座長. 第 59 回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 097 赤座 賢, 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 浅野智成, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 沖 哲, 多和田翔, 斎藤悠文, 有竹 典, 成田 潔, 川畑大樹, 清水泰博: 膀胱・尿管浸潤を伴った虫垂癌の 1 切除例. 第 59 回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 098 斎藤悠文, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 浅野智成, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 沖 哲, 多和田翔, 有竹 典, 赤座 賢, 成田 潔, 川畑大樹, 清水泰博: 気管憩室が併存する胸部食道癌に対し胸腔鏡下/ロボット支援下食道亜全摘術を施行した 2 例. 第 59 回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 099 川畑大樹, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 単孔式腹腔鏡下胃内手術の経験. 第 59 回愛知臨床外科学会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 100 成田 潔, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 斎藤悠文, 清水泰博: 食道気管支瘻を合併する食道癌に対し CRT 後 conversion surgery を行い, R0 切除し得た 1 例. 第 26 回愛知内視鏡外科研究会, 2023, (名古屋), [一般演題口演]
- 101 伊藤誠二: 座長. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 102 伊藤誠二, 伊藤友一, 小林大介, 松下英信, 田中友理, 古池真也, 渡邊卓哉, 稲岡健一, 山中雅也, 小寺泰弘: Conversion surgery に関する多施設共同前向き第 II 相試験の長期生存成績. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 103 伊藤友一: 座長. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 104 三澤一成: 座長. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 105 三澤一成, 伊藤友一, 沖 哲, 伊藤誠二, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除における Circular Stapler を用いた食道-空腸吻合再建. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 106 沖 哲, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 斎藤悠文, 大内 晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 浅野智成, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃がん術後創部感染との鑑別に苦慮した壊疽性膿皮症の一例. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023, (札幌), [デジタルポスター]
- 107 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 安形真由美, 佐々木照美, 小島 瞳: 腹陰式直腸切断術における標準的な腹腔内経路の S 状結腸単孔式人工肛門造設術について. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 108 清水泰博: 司会. 第 59 回日本腹部救急医学会総会(会員),

2023, (沖縄), [一般演題]

- 109 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 浅野智成, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 楢垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶: 経肝門脈塞栓術後に広範な門脈血栓を認めたが, 抗凝固療法にて改善し切除しえた肝門部胆管内乳頭状腫瘍の1例. 第59回日本腹部救急医学会総会(会員), 2023, (沖縄), [一般演題]
- 110 小森康司, 田中 努, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後の高クロール性代謝性アシドーシスに対し, 経回腸導管的に逆行性内視鏡による尿管ステント挿入が有効であった1例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023, (沖縄), [一般演題]
- 111 小森康司: 司会. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023, (沖縄), [一般演題]
(当院・他科での共同著書、共同発表省略)

整形外科部

- 001 生田国大, 西田佳弘, 酒井智久, 小池 宏, 筑紫 聡, 今釜史郎: 腸脛靭帯を用いた脛骨近位腫瘍用人工膝関節置換術後の膝伸展機構再建. 第138回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2022, (名古屋), [口演]
- 002 筑紫 聡: The optimal surgical margin for soft tissue sarcoma. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022, (神戸), [口演]
- 003 筑紫 聡: ぜひ知ってほしい! 骨転移の画像診断と手術手技. 第18回 KEIO 整形外科手術手技フォーラム, 2022, (東京), [講演]
- 004 筑紫 聡: ぜひ知ってほしい! 魅力あふれる腫瘍整形外科の世界. 第31回弘前大学整形外科 夏の研修会あすなろセミナー, 2022, (弘前), [講演]
- 005 筑紫 聡: 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [座長]
- 006 筑紫 聡: 腫瘍用人工関節再建の手術戦略 知識と経験の共有. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 007 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 浸潤性軟部肉腫に対する術前強度変調放射線治療の意義. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 008 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 進行期高齢者骨・軟部肉腫に対する化学療法継続性の意義. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 009 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: 上腕骨骨幹部病的骨折に対する順行性髄内釘固定術の治療成績. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 010 酒井智久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 生田国大, 小池宏, 伊藤 鑑, 今釜史郎: 緩和的放射線照射を施行した大腿骨転移性骨腫瘍の特徴および照射後の手術介入リ

スクの検討. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]

- 011 伊藤 鑑, 生田国大, 筑紫 聡, 平田 仁, 小澤英史, 酒井智久, 小池 宏, 今釜史郎, 西田佳弘: Ollier 病および Maffucci 症候群の診療実態. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 012 相羽久輝, 生田国大, 浅沼邦洋, 河南勝久, 筑紫 聡, 松峯昭彦, 石村大輔, 永野昭仁, 紫藤洋二, 小澤英史, 山田健志, 和佐潤志, 木村浩明, 酒井貴央, 村上英樹, 酒井智久, 中村知樹, 西田佳弘: Tail-like lesion を有する悪性軟部腫瘍に対する術前療法の効果に関する検討 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム多施設共同研究. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 013 小倉浩一, 上原浩介, 秋山 達, 岩田慎太郎, 篠田裕介, 筑紫 聡, 小林英介, 米本 司, 川井 章: Toronto Extremity Salvage Score (TESS) 下肢における臨床的に意義のある最小変化量 (MCID). 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 014 中村知樹, 松峯昭彦, 戸田 雄, 竹中 聡, 王谷英達, 藤原智洋, 西田佳弘, 筑紫 聡, 當銘保則, 須藤啓広, 河野博隆: 腫瘍切除に京セラ PHK-3 および KMLS システムを用いて再建を行った大腿骨遠位腫瘍用人工関節の長期成績 JMOG 共同研究. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 015 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 酒井智久, 小池宏, 伊藤 鑑, 今釜史郎: 80歳以上の高齢者軟部肉腫の治療成績. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 016 早川景子, 中村知樹, 小林 寛, 朴木寛弥, 松本嘉寛, 五木田茶舞, 相羽久輝, 筑紫 聡, 阿江啓介, 河野博隆: 日本人における軟部肉腫に対するエリプリンの有効性と安全性 骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG) 多施設共同研究. 第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 017 筑紫 聡: 股関節外科医にぜひ知ってほしい腫瘍性疾患. 第49回日本股関節学会学術集会, 2022, (山形), [口演]
- 018 村瀬史典, 中島浩敦, 高津哲郎, 筑紫 聡: 診断に難渋し, 急速に多発骨転移を来した足部発生 desmoplastic melanoma の1例. 第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2022, (大阪), [口演]
- 019 筑紫 聡: 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022, (神戸), [座長]
- 020 筑紫 聡: 第12回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2022, (名古屋), [座長]
- 021 筑紫 聡: サルコーマカンファレンス 2023, 2023, (名古屋), [座長]
- 022 筑紫 聡: 進行肉腫に対する薬物療法の治療経験からの考察. 福井県肉腫治療研究会, 2023, (福井), [口演]

リハビリテーション部

- 001 吉田雅博, 杉浦英志: 骨転移を伴った神経内分泌腫瘍(カ

- ルチノイド)の緩和的治療. 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022, (横浜), [口演]
- 002 高津 淳, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: 食道癌術後患者に対する言語聴覚士による嚥下リハビリテーションの介入効果～反回神経麻痺患者に対する早期経口摂取開始の意義～. 第76回日本食道学会学術集会, 2022, (東京), [ランチョンセミナー]
- 003 伊藤敬太, 吉田雅博: がん患者の転倒・転落. 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 2023, (名古屋), [一般演題]
- 004 高津 淳, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: 食道癌術後患者に対する言語聴覚士による嚥下リハビリテーションの介入効果. 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 2023, (名古屋), [シンポジウム]
- 005 南島翔太, 吉田雅博: 当院における術前乳がん患者の認知機能と心身機能の調査. 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 2023, (名古屋), [一般口頭演題]
- 006 山崎康司, 中嶋誠也, 清水泰博, 吉田雅博: 75歳以上消化器がん患者の握力と身体機能との関係. 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 2023, 現地開催(名古屋), [口述]
- 007 中嶋誠也, 山崎康司, 清水泰博, 吉田雅博: 後期高齢者の消化器がん開腹術後患者への運動療法効果. 第11回日本がんリハビリテーション研究会, 2023, 現地開催(名古屋), [口述]
- 008 前田明弘, 濱田俊介, 吉田雅博: 骨巨大軟骨肉腫に対しhip transposition法を施行後, 自宅復帰した1症例. 第4回愛知がん・リハビリテーション医学研究会講演会, 2023, (名古屋), [口述]

泌尿器科部

- 001 田中しおり, 北野剛士, 加藤 学, 小島崇宏: 一般演題1 巨大後腹膜腫瘍として発見された特発性副腎出血の症例. 第292回日本泌尿器科学会東海地方会, 2022, (名古屋), [口演]
- 002 田中しおり, 北野剛士, 加藤 学, 小島崇宏: 総会賞ビデオ01 前立腺・膀胱 Novel method of performing a completely retroperitoneal cutaneous ureterostomy with robot-assisted radical cystectomy (RARC). 第110回日本泌尿器科学会総会, 2022, (神戸), [ビデオ発表]
- 003 加藤 学: 前立腺癌に対するI125を用いたブラキセラピー(LDR)の今後の展望. 第73回日本泌尿器科学会中部総会, 2022, (和歌山), [シンポジウム]
- 004 加藤 学, 田中しおり, 北野剛士, 小島崇宏: 前立腺がんの診断と治療～愛知県がんセンターにおける前立腺がん診療の紹介～. 泌尿器がん地域連携勉強会, 2022, (WEB), [講演]
- 005 北野剛士, 田中しおり, 加藤 学, 小島崇宏: 導入化学療法中COVID-19に罹患したが寛解を得た進行性精巣腫瘍の一例. 第293回日本泌尿器科学会東海地方会, 2023, (名古屋), [口演]
- 006 加藤 学, 田中しおり, 北野剛士, 小島崇宏: 愛知県がんセンターにおける尿路上皮癌術後補助化学療法の実際. オブジーボ術後補助化学療法1周年記念講演会, 2023, (三重), (WEB), [講演]
- 007 加藤 学, 田中しおり, 北野剛士, 小島崇宏: 愛知県がんセンターにおけるカバジタキセル使用症例の後ろ向き検討. 三重県前立腺癌講演会, 2023, (三重), (WEB), [講演]
- 008 北野剛士, 田中しおり, 小倉友二, 小島崇宏: 筋膜閉鎖を行ったエアシール(R)ポートに発症したポートサイトヘルニアの一例. 第290回日本泌尿器科学会東海地方会, 2022, (名古屋), (WEB), [口演 優秀演題]
- 009 小島崇宏: 最新の前立腺がん診療について 第3回地域で考えるがん診療連携WEBセミナー, 2022, (Web), [講演]
- 010 小島崇宏: RCC Treatment Strategy seminar カボメテイクス講演会 IO+TKIレジメンでのCABO+NIVOの使い分け, 2022, (名古屋), [講演]
- 011 小島崇宏: 長崎パドセブ新発売講演会～新たな治療と適正使用を考える～ 転移性尿路上皮癌治療 Up To Date～パドセブへの期待と注意点～, 2022, (長崎), (Web), [講演]
- 012 小島崇宏: Urothelial Carcinoma Conference～PADCEV発売記念講演会～ 転移性尿路上皮癌治療 Up To Date～パドセブへの期待と注意点～, 2022, (名古屋), [講演]
- 013 小島崇宏: 3月福井県泌尿器科医会講演会 転移性尿路上皮癌治療 Up To Date～パドセブへの期待と注意点～, 2022, (福井), [講演]
- 014 小島崇宏: Meet The Expert in Tokai mCSPC の最適な治療方針を考える, 2022, (名古屋), [ディスカッション]
- 015 小島崇宏: 前立腺がん診療 up to date, 2022, (名古屋), [座長]
- 016 小島崇宏: 静岡県中東部 Genitourinary Cancer Forum 2022 進行性尿路上皮癌治療におけるパベンチオ維持療法の役割, 2022, (静岡), [講演]
- 017 小島崇宏: 西濃前立腺癌講演会 高齢者における進行性前立腺がんをどう治療すべきか?, 2022, (岐阜), [講演]
- 018 小島崇宏: UC Doctors Conference, 2022, (名古屋), [座長]
- 019 小島崇宏: Prostate Cancer REAL Experience Symposium mCRPC 治療の臨床最前線, 2022, (名古屋), [講演]
- 020 小島崇宏: 第72回日本泌尿器科学会中部総会教育セミナー10 尿路上皮がん術後補助療法におけるオブジーボへの期待と課題, 2022, (和歌山), [講演]
- 021 小島崇宏: 第21回西濃泌尿器フォーラム 転移性尿路上皮癌治療 Up To Date, 2022, (岐阜), [講演]
- 022 小島崇宏: 腎細胞癌 WEB ライブセミナー, (名古屋), (WEB), [座長]
- 023 小島崇宏: 第291回日本泌尿器科学会東海地方会ランチョンセミナー 腎細胞癌術後補助療法におけるキイトルーダ

への期待と課題, 2022, (名古屋), [講演]

- 024 小島崇宏: 尿路上皮癌 WEB セミナー in Aichi, (名古屋), (WEB), [座長]
- 025 小島崇宏: Fukui Urological Cancer Conference 進行性尿路上皮がん治療の課題と将来展望, 2022, (福井), (WEB), [講演]

婦人科部

- 001 Yasui H, Nishikawa T, Hasegawa K, Mori M, Hirashima Y, Takehara K, Aryoshi K, Kato T (STATICE TRIAL GROUP): Multicenter phase II investigator initiated trial (STATICE TRIAL, NCCH1615, UMIN 000029506): A novel anti-HER2 therapy of trastuzumab deruxtecan in HER2-expressing uterine carcinosarcoma. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022, (福岡), [口演]
- 002 坪内寛文, 森 正彦, 坂田 純, 安井啓晃, 小高紗季, 鈴木史朗: 腹腔鏡下リスク低減卵管卵巣摘出術において多科合同手術を実施した24例の検討. 第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2022, (岡山), [口演]
- 003 小高紗季, 安井啓晃, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 腔 adenosis を背景とした腔原発明細胞癌の一例. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022, (福岡), [口演]
- 004 服部諭美, 鈴木史朗, 吉原雅人, 玉内学志, 横井 暁, 池田芳紀, 芳川修久, 西野公博, 新美 薫, 梶山広明: 子宮体癌に対する免疫療法における新たな標的の検索 マルチカラーフローサイトメトリーによる腫瘍浸潤リンパ球の解析. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022, (福岡), [口演]
- 005 小高紗季, 安井啓晃, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 当院における子宮体がん手術症例に対する Lynch 症候群のユニバーサルスクリーニングの現状. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022, (久留米), [口演]
- 006 坪内寛文, 小高紗季, 安井啓晃, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 再発卵巣癌に対するオラパリブ維持療法後のPD症例に関する検討. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022, (久留米), [口演]
- 007 服部諭美, 鈴木史朗, 吉原雅人, 玉内学志, 横井 暁, 池田芳紀, 芳川修久, 西野公博, 新美 薫, 梶山広明: 腫瘍浸潤リンパ球のパターン別にみた子宮体癌の3分類 (Three Classifications of Endometrial Cancer According to the Tumor-infiltrating Patterns of Lymphocytes). 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022, (久留米), [口演]
- 008 大野真由, 鈴木史朗, 横井 暁, 吉原雅人, 梶山広明: Stage I期卵巣明細胞癌に対する3サイクル以上の補助化学療法は必要なのか 多施設共同研究 (Are More than Three Cycles of Adjuvant Chemotherapy for Surgical Stage I Ovarian Clear Cell Carcinoma Necessary?: A Multi-institutional Study). 第64回日本婦人科腫瘍学会

学術講演会, 2022, (久留米), [口演]

- 009 小高紗季, 安井啓晃, 坪内寛文, 森 正彦, 坂田 純, 鈴木史朗: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群を背景とした乳癌、卵巣癌同時発症例に対して審査腹腔鏡に続き乳房切除術と primary debulking surgery を行った1例. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会, 2022, (横浜), [口演]
- 010 小島龍司: 悪性度の高い子宮内膜癌における一次繊毛と OFD1. 第12回繊毛研究会, 2022, (名古屋), [口演]
- 011 鈴木史朗: 婦人科がんに対する腫瘍免疫研究~研究者ライフステージに応じた一研究者の取り組み~. Clinical Science がもたらす婦人科悪性腫瘍学の未来, 2022, (Web), [講演]
- 012 鈴木史朗: 進行/再発卵巣癌に対する治療戦略~近未来を見据えて~. 北勢 Ovarian Cancer Seminar, 2022, (四日市), [講演]
- 013 森 正彦: キイトルーダー+レンビマ併用療法の KeyPoint ~自施設例を含めて~. Oncology インターネット講演会, 2022, (Web), [講演]
- 014 鈴木史朗: Oncology インターネット講演会, 2022, (Web), [座長]
- 015 森 正彦: リアルワールドデータから考える子宮体癌に対するキイトルーダー・レンビマ併用療法の有用性. Endometrial Cancer Seminar in Mikawa, 2022, (Web), [講演]
- 016 鈴木史朗: 卵巣癌における地域連携を考える~治療 Up-To-Date をふまえて~. 岐阜産科婦人科研究会, 2022, (Web), [講演]
- 017 渡邊絵里: がん検診受診率向上に向けた子宮頸がんセミナー. 子宮頸がんセミナー, 2022, (Web), [講演]
- 018 鈴木史朗: 卵巣癌における NAC+IDS を考える. 卵巣癌診療を考える会~治療期から考える個別化医療について~2022, (名古屋), [講演]
- 019 鈴木史朗: 婦人科腫瘍におけるペバシズマブの役割について. 第42回東海卵巣腫瘍研究会, 2023, (Web), [講演]
- 020 鈴木史朗: 婦人科がん治療における ICI の適正使用~irAE 対策を中心に~. Cervical Cancer Treatment Strategy Conference - 進化する子宮頸癌治療 -, 2023, (名古屋), [講演]
- 021 鈴木史朗: Ovarian Cancer Seminar, 2023, (Web), [座長]
- 022 鈴木史朗: 婦人科がんにおける CGP 検査の意義と課題~愛知県がんセンターの現状を踏まえて~. Gynecologic がんゲノムセミナー in Tokai, 2023, (Web), [講演]
- 023 鈴木史朗: 進行/再発子宮体がん治療~ペムプロリズマブ+レンバチニブ療法と当院での運用を中心に~. Endometrial Cancer Expert Forum in TAMA, 2023, (Web), [講演]
- 024 鈴木史朗: The Collaboration Meeting~卵巣癌治療を再考する~. 2023, (名古屋), [座長]
- 025 鈴木史朗: Endometrial Cancer Seminar. 2023, (Web), [座長]

脳神経外科部

- 001 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 脊椎転移に対する多椎体固定術後の治療成績と合併症. 第57回日本脊髄障害医学会, 2022, (横浜), [一般口演]
- 002 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 脊椎転移に対する固定術後の instrumentation failure. 第57回日本脊髄障害医学会, 2022, (横浜), [一般口演]
- 003 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 脊椎転移に対する固定術の術後合併症. 第81回日本脳神経外科学会総会, 2022, (横浜), [一般口演]
- 004 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 脊椎転移に対する固定術後中長期の合併症と対策. 第37回日本脊髄外科学会, 2022, (和歌山), [一般口演]
- 005 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 大野真佐輔: 手術加療を行った胸椎類骨骨種の1例. 第37回日本脊髄外科学会, 2022, (和歌山), [ポスター]
- 006 大野真佐輔, 灰本章一: 脳神経外科の現状と今後の動向・および脳神経外科の紹介. 第40回病院・研究所合同セミナー, 2022, (愛知県), [一般公演]
- 007 大野真佐輔, 灰本章一, 大岡史治, 斎藤隆太: 頭蓋内転移を認めた悪性末しょう神経鞘腫2例. 第40回日本脳腫瘍学会学術集会, 2022, (千葉県), [ポスター]
- 008 大野真佐輔, 灰本章一: がん診療中に偶発的に認めた微小脳梗塞から Trousseau 症候群の診断に至った3例. STROKE 2023, (神奈川県), [ポスター]

放射線診断・IVR部

- 001 Inaba Y, Ueshima K, Ishikawa T, Saeki I, Morimoto N, Akita H, Tanabe N, Wada Y, Kondo Y, Tsuda M, Nakao K, Ikeda M, Moriguchi M, Ito T, Hosaka T, Koga H, Hino K, Kawamura Y, Yoshimoto K, Kudo M: Additional survival follow-up of TACTICS-L; Transcatheter arterial chemoembolization therapy (TACE) in combination strategy with Lenvatinib in (LEN) patients with unresectable hepatocellular carcinoma in Japan. ESMO Asia Congress 2022, (Singapore), [Poster]
- 002 Hasegawa T: Brief overview of a day-in-the-life of IRs from around the world. Society of Interventional Radiology (SIR) 2023, (Phoenix USA), [Oral presentation]
- 003 Hasegawa T: Ablation therapy for lung cancer. 中国抗癌協会腫瘍アブレーション研究会, 2022, (Web), [口演]
- 004 Hasegawa T: Advancement of pulmonary interventional oncology: collaboration with thoracic surgeons. Guerbet TV, 2022, (Web), [口演]
- 005 長谷川貴章: 悪性腫瘍に対するIVR. 第81回日本医学放射線学会, 2022, (横浜)[口演]
- 006 稲葉吉隆: How I do it「血管内治療」. 第58回日本肝癌

研究会, 2022, (東京), [座長]

- 007 Inaba Y, Murata S, Sato Y, Hasegawa T, Yamaura H, Chatani S, Nagasawa K, Kato M, Onaya H: Percutaneous gastro/enterostomy in patients after gastric surgery. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [口演]
- 008 Nagasawa K, Tsukii R, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Inaba Y: Air embolism associated with percutaneous CT-guided lung biopsy and VATS marking. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [口演]
- 009 Murata S, Inaba Y, Nagasawa K, Tsukii R, Hasegawa T, Kato M, Yamaura H: Feasibility of TACE using cisplatin-loaded microsphere for patients with HCC in poor condition. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [口演]
- 010 Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Matsuo K, Yamanaka T, Nakatsuka A, Takao M, Gobara H, Hayashi S, Inaba Y, Yamakado K: Impact of ablation margin on local tumor progression after RFA for colorectal carcinoma lung metastases. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [口演]
- 011 長谷川貴章: 薬物療法時代における肝細胞癌に対するTACEの役割. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [講演]
- 012 稲葉吉隆: がん診療とIVR; RFAの適応拡大を含めて. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [司会]
- 013 稲葉吉隆: Intermediate stageの肝細胞癌に対する治療戦略~IVRができない内科医が考える論点~. 第51回日本IVR学会, 2022, (神戸), [座長]
- 014 稲葉吉隆: IVR領域における骨転移診療ガイドラインの改訂ポイント. 第7回日本がんサポーターブケア学会, 2022, (Web), [口演]
- 015 稲葉吉隆: TACEと薬物療法の治療介入タイミング, Atez+Bevの実臨床における臨床的疑問と有害事象の対処について. 第3回IVR科医のためのがん免疫治療web seminar, 2022, (Web), [司会]
- 016 稲葉吉隆, 浅井 翼, 古谷勇一郎, 岩間功訓, 大橋良夫, 今峰倫平, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 立花弘之, 清水秀年, 流 真治, 横井和志, 原和生: 神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法の導入と初期治療経験. 日本核医学会第94回中部地方会, 2022, (浜松), [口演]
- 017 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今峰倫平, 長澤恭平, 大手裕之, 長澤宏樹: 左肝静脈からのTIPS施行例. 第70回中部IVR研究会, 2022, (浜松), [口演]
- 018 長谷川貴章, 浅井 翼, 山浦秀和, 村田慎一, 長澤恭平, 古谷勇一郎, 服部寿史, 大手裕之, 長澤宏樹, 大橋良夫, 稲葉吉隆: CT透視下肺マーキングにおける鉛カーテン付き防護板による術者被曝低減効果の検討. 第7回日本穿刺ドレナージ研究会, 2022, (大阪), [口演]
- 019 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 女屋博昭, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今峰倫平, 長澤恭平, 大手裕之, 長澤宏樹: 肝機能不良肝細胞癌症例における肝動注化学療法の治療成績~ワンチャン狙う肝動注~. 第46回リザーバー&ポー

- ト研究会, 2022, (久留米), [口演]
- 020 長澤恭平, 稲葉吉隆, 女屋博昭, 山浦秀和, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 今峰倫平: 長期間留置された皮下埋め込み型中心静脈ポート抜去時に判明したカテーテル破損の3例. 第46回リザーバー&ポート研究会, 2022, (久留米), [口演]
- 021 稲葉吉隆: 創造性とは. 第46回リザーバー&ポート研究会, 2022, (久留米), [座長]
- 022 稲葉吉隆: リザーバー研究会で作ろう CV ポートのエビデンス~研究会から世界へ向けて~. 第46回リザーバー&ポート研究会, 2022, (久留米), [口演]
- 023 大手裕之, 村田慎一, 長澤宏樹, 長澤恭平, 今峰倫平, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 経皮経肝門脈塞栓術後に門脈本幹に血栓を形成した3症例の検討. 第71回中部・第72回関西IVR研究会, 2023, (桑名), [口演]
- 024 村田慎一: セッション7 [胆道, 胸部]. 第71回中部・第72回関西IVR研究会, 2023, (桑名), [座長]
- 025 長澤宏樹, 村田慎一, 大手裕之, 長澤恭平, 今峰倫平, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 経皮経甲状腺的に針生検を行った食道腫瘍の2例. 第71回中部・第72回関西IVR研究会, 2023, (桑名), [口演]
- 026 長谷川貴章, 高木治行, 児玉大志, 山中隆嗣, 中塚豊真, 佐藤洋造, 高尾仁二, 郷原英夫, 馬場康貴, 稲葉吉隆, 山門亨一郎: 大腸癌肺転移に対するラジオ波焼灼術: 多施設共同第2相前向き臨床試験. 第1回日本アブレーション研究会, 2023, (東京), [口演]
- 027 長谷川貴章, 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 今峰倫平, 加藤弥菜, 長澤恭平, 大手裕之, 長澤宏樹, 女屋博昭, 黒田浩章, 稲葉吉隆: 肺腫瘍に対するラジオ波焼灼治療前後における呼吸機能の変化についての検討. 第1回日本アブレーション研究会, 2023, (東京), [口演]
- 028 佐藤洋造, 長谷川貴章, 黒田浩章: 肺ラジオ波派焼灼療法にて難治性膿胸をきたした1例. 第1回日本アブレーション研究会, 2023, (東京), [口演]
- 029 山本 晃, 平木隆夫, 池田 理, 西村潤一, 保本 卓, 長谷川貴章, 田村吉高, 稲葉吉隆, 岩澤多恵, 宇賀麻由, 高木治行, 児玉大志, 大隈智尚, 山門亨一郎: 間質性肺炎を合併した肺悪性腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術の多施設共同後方視的研究 (Japan Image-guided Ablation Group). 第1回日本アブレーション研究会, 2023, (東京), [口演]
- Denmark Virtual), [ポスター]
- 002 *Shimizu H, Koide Y, Sasaki K, Watanabe Y, Aoyama T, Tachibana H, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T*: Change in spinal cord dose of treatment plan using CT myelography image in spine SBRT. ESTRO2022, 2022, (Copenhagen), [digital poster]
- 003 *Motoko Tachihara, Kayoko Tsujino, Mototsugu Shimokawa, Takeaki Ishihara, Hidetoshi Hayashi, Yuki Sato, Takayasu Kurata, Shunichi Sugawara, Yoshimasa Shiraiishi, Shunsuke Teraoka, Koichi Azuma, Haruko Daga, Masafumi Yamaguchi, Takeshi Kodaira, Miyako Satouchi, Nobuyuki Yamamoto, Kazuhiko Nakagawa*: Phase II Study of Durvalumab Plus Concurrent Radiotherapy in Unresectable Locally Advanced NSCLC: DOLPHIN Study (WJOG11619L). World congress of lung cancer, 2022, (Vienna), [ポスター]
- 004 *Masahiro Inada, Yasumasa Nishimura, Satoshi Ishikura, Kazuki Ishikawa, Naoya Murakami, Takeshi Kodaira, Yoshinori Ito, Kazuhiko Tsuchiya, Yuji Murakami, Junichi Saito, Tetsuo Akimoto, Kensei Nakata, Michio Yoshimura, Teruki Teshima, Takashi Toshiyasu, Yosuke Ota, Toshiyuki Minemura, Hidetoshi Shimizu, Masahiro Hiraoka*: The organs-at-risk dose constraints in head and neck intensity-modulated radiation therapy using data from a multi-institutional clinical trial (JCOG1015). 64th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2022, (Miami virtual), [ポスター]
- 005 *Yutaro Koide, Hidetoshi Shimizu, Takahiro Aoyama, Tomoki Kitagawa, Risei Miyauchi, Yui Watanabe, Hiroyuki Tachibana, Takeshi Kodaira*: Preoperative spirometry and BMI are early predictive factors of the cardiac and lung dose in deep inspiration breath-hold radiotherapy. 64th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2022, (Miami virtual), [ポスター]
- 006 *Yutaro Koide, Takahiro Aoyama, Hidetoshi Shimizu, Tomoki Kitagawa, Risei Miyauchi, Hiroyuki Tachibana, Takeshi Kodaira*: Development of deep learning chest X-ray model for cardiac dose prediction in left-sided breast cancer radiotherapy. 64th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2022, (Miami virtual), [ポスター]
- 007 *H. Harada, N. Shikama, A. Notsu, H. Shirato, K. Yamada, H. Uezono, Y. Koide, H. Kubota, T. Yamazaki, K. Ito, J. Heianna, Y. Okada, A. Tonari, N. Katoh, H. Wada, Y. Ejima, K. Yoshida, T. Kosugi, S. Takahashi, T. Komiyama, N. Uchida19, M. Miwa, M. Watanabe Nemoto, H. Nagakura, H. Ikeda, T. Saito, I. Asakawa, T. Takahashi, and N. Shigematsu*: Multi-institutional Prospective Observational Study of Radiotherapy for Metastatic Bone tumors. 64th Annual meeting of the American Society for Therapeutic

放射線治療部

- 001 *Koide Y, Shimizu H, Miyauchi R, Haimoto S, Tanaka H, Watanabe Y, Adachi S, Kato D, Aoyama T, Kitagawa T, Tachibana H, Kodaira T*: Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine SBRT. The annual congress of the European Society Radiation Oncology 2022, 2022, (Copenhagen,

- Radiation and Oncology, 2022, (Miami virtual), [ポスター]
- 008 **Kitagawa T, Shimizu H, Aoyama T, Iwata T, Koide Y, Miyauchi R, Tachibana H, Kodaira T**: Benefits for head and neck positioning using a surface image guidance system. ASTRO Annual Meeting, 2022, (Web) [ポスター]
- 009 **Hayashi M, Yasui K, Omachi C, Toshito T, Shimizu H, Iwase K, Nagake Y, Hayashi N**: Response Characteristics of Radiophotoluminescence Dosimeter in Intensity Modulated Proton Therapy. 22nd Asia-Oceania Congress on Medical Physics, 2022, (Taipei), [Oral]
- 010 **古平 毅**: 前立腺がんに対する放射線治療-外部照射を中心に. 前立腺がん診療up to data, 2022, (名古屋), [講演]
- 011 **立花弘之**: 愛知県立大学看護学部 2022, (名古屋), [講義]
- 012 **清水秀年**: 放射線治療 計測, 他. 第78回日本放射線技術学会総会学術大会, 2022, (横浜), [座長]
- 013 **清水秀年**: IGRTの被ばくの適正管理(考え方, 測り方, 最適化)「汎用型リニアックのIGRT手法の最適化について」. 公益社団法人日本放射線技術学会 放射線治療部会第58回放射線治療セミナー, 2022, (Web), [口頭]
- 014 **清水秀年, 福岡宙志**: 乳がんの放射線治療と深吸気息止め(deep inspiration breath hold: DIBH)照射シンポジウム「DIBH照射の運用～計画CTから照射までの工夫や課題を交えて～」. 東海放射線腫瘍研究会第60回技術部会, 2022, (Web), [座長]
- 015 **古平 毅**: 実地医療における切除不能III期NSCLCの根治治療. Radiation therapy planning conference, 2022, (長野), [講演]
- 016 **余語克紀, 三澤雅樹, 清水秀年, 北川智基, 平山亮一, 石山博條, 保田浩志, 亀高 論, 高見 誠**: 金ナノ粒子のDNAへの結合とがん治療用X線に対する放射線増感効果. ナノ学会第20回大会, 2022, (Web), [口頭]
- 017 **古平 毅**: 肺がん放射線治療におけるIMRTの適応とその実際について. 放射線治療セミナーin兵庫, 2022, (Web), [講演]
- 018 **古平 毅, 加賀美芳和, 伊藤芳紀, 町田龍之介, 鹿間直人, 石倉 聡, 工藤滋治, 松本康男, 小西浩司, 村上直也, 西村恭昌**: 早期声門癌に対する加速照射法と標準分割照射法の比較試験の長期成績(JCOG0701A3). 第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [口頭]
- 019 **古平 毅**: シンポジウム3HPV陽性中咽頭癌の治療戦略低侵襲切除かIMRTか. 第46回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [座長]
- 020 **古平 毅**: トモセラピーユーザー会, 2022, (Web), [座長]
- 021 **木藤哲史, 小島 徹, 清水秀年**: 第5回治療計画技術ワークショップ. トモセラピーユーザー会QA委員, 2022, (Web), [座長]
- 022 **余語克紀, 三澤雅樹, 清水秀年, 北川智基, 平山亮一, 石山博條, 保田浩志, 亀高 論, 高見 誠**: がん治療用X線誘発のDNA損傷に対する金ナノ粒子の放射線増感効果. 第12回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2022, (Web), [口頭]
- 023 **清水秀年**: 2022 医学物理士セミナー②『品質管理業務の効率化—ワークライフバランスに向けて—』IGRT装置の品質管理・被ばく管理. 一般財団法人医学物理士会, 2022, (Web), [口頭]
- 024 **清水秀年**: IMRT導入の基礎知識について. これからのIMRT治療を考える会～Ⅲ期非小細胞肺癌の根治を目指して～, 2022, (Web), [口頭]
- 025 **辰己大作, 清水秀年**: 実習「MLC位置精度」. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 2022年度実機型講習会(リニアック), 2022, (栃木), [口頭]
- 026 **清水秀年**: 報告「ガラス線量計ガイドライン策定報告」. 第124回日本医学物理学学会学術大会, 2022, (長崎), [座長]
- 027 **古平 毅**: これからのIMRT治療を考える会 III期非小細胞肺癌の根治を目指して IMRTの適応と実践. トモセラピーユーザー会, 2022, (Web), [講演]
- 028 **小出雄太郎**: 3D-CRT Optimization 運用と実際. RayStation ウェビナー, 2022, (Web), [講演]
- 029 **清水秀年**: 放射線治療(外部照射)治療計画. 第50回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2022, (東京), [座長]
- 030 **立花弘之**: 令和4年度がん看護ジェネラリスト研修「放射線治療」. 2022, (名古屋), [講演]
- 031 **清水秀年**: 固定精度・位置照合2. 日本放射線腫瘍学会第35回学術大会, 2022, (広島), [座長]
- 032 **中山雅詞**: タブレット端末を活用したモバイル問診の紹介. エレクタユーザーミーティング, 2022, (Web), [口頭]
- 033 **石黒泰範**: RALSのワークフローを見える化. エレクタユーザーミーティング, 2022, (Web), [口頭]
- 034 **古平 毅**: 頭頸部癌放射線治療のこれまでとこれから. 札幌医科大学腫瘍診療センター, 2022, (札幌), [講演]
- 035 **古平 毅**: 放射線治療医が知っておくべきOncocardiologyの最新知見 late event for cardiovascular system after radiation therapy. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [口頭]
- 036 **古平 毅**: 放射線防護. 第35回日本放射線腫瘍学会2022, (広島), [座長]
- 037 **古平 毅**: 医療倫理. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [座長]
- 038 **古平 毅**: 日本専門医機構と放射線領域の専門医制度について. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [講師]
- 039 **小出雄太郎, 長井尚哉, 宮内理世, 北川智基, 青山貴洋, 清水秀年, 立花弘之, 古平 毅**: 最近の5年間に診断された転移性脳腫瘍患者の背景因子と治療選択の特徴. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [口頭]
- 040 **青山貴洋, 清水秀年, 北川智基, 石黒泰範, 古平 毅**: 頭頸部放射線治療用固定具の遠隔取り外し装置の開発. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [口頭]

- 041 原田英幸, 鹿間直人, 野津昭文, 山田和成, 上蘭 玄, 小出雄太郎, 和田 仁, 窪田 光, 山崎拓也, 伊藤 慶, 平安名常一, 岡田幸法, 戸成綾子, 加藤徳雄, 高橋健夫, 茂松直之: 転移性骨腫瘍に対する放射線治療の多施設共同前向き観察研究. 第35回日本放射線腫瘍学会, 2022, (広島), [口頭]
- 042 清水秀年: ユーザ評価. 第1回アイラトテストサイトミーティング, 2022, (広島), [口頭]
- 043 清水秀年: 講義「MLCのQA/QC」. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構2022年度実機型講習会(リニアック), 2022, (栃木), [口頭]
- 044 清水秀年: 愛知県がんセンターにおけるAIVOTを活用した治療計画の品質管理機能の運用の試み(肺癌SRTモデル). 第2回アイラトユーザーミーティング, 2023, (Web), [口頭]
- 045 立花弘之: 【治療】頭頸部. 日本医学放射線学会中部地方会, 2023, (桑名), [座長]
- 046 清水秀年: 放射線治療 計測, 他. 第78回日本放射線技術学会総会学術大会, 2022, (横浜), [座長]
- 047 青山貴洋: 頭頸部IMRT/VMATの治療計画② 2022年度東京都がん拠点病院研修会, 2023, (Web), [口頭]
- 048 古平 毅: 知っておきたいIII期非小細胞肺癌～リアルワールドエビデンスと照射工夫～. 第36回日本高精度外部照射部会学術大会, 2023, (千葉), [座長]
- 049 北川智基, 清水秀年, 青山貴洋, 岩田 徹, 小出雄太郎, 宮内理世, 立花弘之, 橋本真吾, 古平 毅: 体表面画像誘導を用いた頭頸部がん患者のセットアップにおける再セットアップの頻度と治療時の位置精度の評価. 第36回高精度放射線外部照射部会学術集会, 2023, (千葉), [口頭発表]
- 050 古平 毅: 頭頸部腫瘍に対する放射線治療の役割口腔ケアを含めた支持療法の有用性. 第33回信州頭頸部腫瘍研究会, 2023, (信州), [講演]

感染症内科部

- 001 伊東直哉: がんセンターにおける経口第3世代セファロスポリンの削減戦略 中断時系列解析, 日本感染症学会総会学術講演会, 2022, (現地), [一般演題]
- 002 伊東直哉: 朝病院に出勤したら, 血液培養が陽性になっていた件, 長野中央病院感染症セミナー, 2022, (Web), [特別講演]
- 003 伊東直哉: 緩和ケア領域の感染症, 特定非営利活動法人日本緩和医療学会専門医・認定医セミナー, 2022, (Web), [特別講演]
- 004 伊東直哉: 成人のワクチン接種, 令和4年度愛知県予防接種基礎講座, 2022, (Web), [特別講演]
- 005 伊東直哉: ケースカンファレンス, 静岡若手医師のための感染症カンファレンス, 2022, (Web), [特別講演]
- 006 伊東直哉: レジデントカップ2023, NPO法人岡山医師研修支援機構岡山大学病院卒後臨床研修センター主催セミ

ナー, 2022, (Web), [特別講演]

- 007 伊東直哉: がん患者の感染症対策について, 第4回京浜外科栄養セミナー, 2022, (Web), [特別講演]
- 008 伊東直哉: COVID-19の現状と対策 最新の話, 愛知県看護協会令和4年度研究会, 2022, (Web), [特別講演]
- 009 伊東直哉: 固形腫瘍患者の感染症, IDATENオンラインセミナー, 2022, (Web), [特別講演]

精神腫瘍科部

- 001 小森康永: ナラティブと情動(アフェクト), 臨床ナラティブ・セミナー第四十四回シンポジウム『ナラティブと情動(アフェクト)』, 2022. 9. 25 (大阪), [シンポジウム]
- 002 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行: ナラティブ・セラピー(基礎講座), 日本家族療法学会ワークショップ, 2023. 1. 8 (On line), [ワークショップ]
- 003 Komori, Y. *Narrative Therapy and Affect*: How do you name an affect some kind of emotions in the face of the kid? Korean Society of Narrative Therapy 12 Conference, 2023.3.25 (Seoul), [招待講演]

看護部

- 001 伊藤 環: まずは普段使うものから見直そう. 手術キットの見直しと看護の質向上に向けた取り組み, 第36回日本手術看護学会, 2022, (愛知), [司会]
- 002 永田智子: 緩和ケアボランティア養成講座 緩和ケア一般社団法人 あした葉, 2022, (三重), (Web)[講師]
- 003 永田智子: 第3回地域連携緩和ケア勉強会・カンファレンス, ケースから学ぶ. 地域連携と在宅ケア, 2022, (愛知), [講師]
- 004 永田智子: 在宅医療病態論. 愛知県看護協会・訪問看護認定看護師教育課程, 2022, (愛知), [講師]
- 005 永田智子: がん看護. 愛知県看護協会・訪問看護職員養成講習会, 2022, (愛知), [講師]
- 006 永田智子: 消化器症状のマネジメント. がん看護ジェネラリスト研修緩和ケア②, 2022, (愛知), [講師・ファシリテーター]
- 007 永田智子: グリーフケア. キョーワ訪問看護リハビリステーション寄り添い屋主催, 2022, (愛知), [講師]
- 008 永田智子: M3症状のマネジメント, その他モジュール. あおいろ訪問看護ステーション主催ELNEC-J, 2023, (愛知), [講師・ファシリテーター]
- 009 吉川 恵: 緩和ケア研修を開催するための活動計画. 第2回都道府県指導者養成研修(緩和ケアチーム研修企画)及び同フォローアップ研修, 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所, 2022, (WEB), [講師]
- 010 吉川 恵: AYA支援チームの立ち上げと進捗状況. 第3回AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プロ

- グラム研修会, 2022, (WEB), [講師]
- 011 吉川 恵: 愛知県がんセンターにおける AYA 支援活動と支援. 愛知県がんセンター市民公開講座, 2022, (WEB), [講師]
- 012 久保 知: 骨盤領域に放射線治療を受けた女性患者の性の QOL への影響. 日本性科学会学術集会, 2022, (神奈川県), [シンポジスト]
- 013 向井未年子: シンポジウム「ACP の実践～積極的治療が難しくなった段階での ACP～」. 日本緩和医療学会第 4 回東海・北陸支部学術大会, 2022, (富山), [シンポジスト]
- 014 向井未年子: パネルディスカッション「さまざまな医療の現場でのアドバンス・ケア・プランニング」. 第 46 回日本死の臨床研究会年次大会, 2022, (三重), [パネリスト]
- 015 向井未年子: 一般演題 口演「第 19 群 症状マネジメント 3/ 全人的苦痛」. 第 37 回日本がん看護学会学術集会, 2023, (神奈川県), [座長]
- 016 高知知帆子: トレアキシン治療で注意していること～看護師の立場から～. トレアキシン適正使用セミナー, 2022, (愛知), [講師]
- 017 高木礼子: スポンサーセミナー「頭皮冷却による脱毛抑制導入から実践まで」. 第 19 回日本乳癌学会中部地方会, 2022, (WEB 開催), [司会]
- 018 高木礼子: 病院薬局と調剤薬局の連携を通じ情報共有をする. 第 29 回医看薬連携研究会, 2022, (愛知), [講師・演者]
- 019 笹川良子: 「Scientific Exchange Meeting ～Intermediate stage HCC における患者さんと向き合うための etcetera～」, 2022, (web), [講師]
- 020 山口真澄: がんゲノム医療における患者のケアとケア がんゲノム看護実践論「がんゲノム医療における家族への看護援助」. 高知県立大学がん高度実践看護師コース, 2022, (WEB), [講師]
- 021 山口真澄: がん看護論「オンコロジックエマージェンシー」. 名古屋市立大学看護学研究科, 2022, (愛知), [講師]
- 022 山田知里: チーム医療で考える乳がんの CINV 対策. TAIHO Web Lecture on CINV～アロカリス®点滴静注 235mg 発売記念～, 2022, (愛知), [パネリスト]
- 023 柴田亜弥子: COVID-19 の経験がもたらした看護の力～次世代看護職のメッセージ～. 第 38 回愛知県看護学会交流セッション, 2022, (愛知), [座長]
- 024 柴田亜弥子: 家族と健康. 愛知県立大学大学院 家族支援 CNS コース科目, 2022, (愛知), [講師]
- 025 柴田亜弥子: 最新医療と看護. 愛知県立大学看護学部, 2022, (愛知), [講師]
- 026 西尾里美: 健康障害論Ⅱ血液造血器. 聖隷クリストファー大学看護学部, 2022, (静岡), [講師]
- 027 西尾里美: 緩和ケア援助特論手術療法と看護. 聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科, 2022, (静岡), [講師]
- 028 西尾里美: コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院看護学研究科, 2023, (愛知), [講師]
- 029 青山寿昭: 頭頸部癌術後嚥下障害の周術期アプローチ. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2022, (千葉), [シンポジスト]
- 030 青山寿昭: がんリハビリテーションにおける誤嚥のリスク管理. がんリハビリテーション研究会, 2023, (愛知), [シンポジスト]
- 031 青山寿昭: 頭頸部癌治療による嚥下障害と対応. coinplant conference, 2022, (東京), [講師]
- 032 青山寿昭: 一般演題. 日本嚥下障害臨床研究会, 2022, (北海道), [座長]
- 033 青山寿昭: シンポジウム「COVID-19 が食支援に与えた影響」. 日本摂食嚥下障害看護研究会, 2022, (北海道), [座長]
- 034 青木智子: 対象の理解Ⅱ がん治療 看護の基本と最新の治療 生活への影響の視点で捉える②がんゲノム医療. がん看護実践研修②, 2022, (愛知), [講師]
- 035 千種智之: 感染対策. 新規採用者研修, 2022, (愛知), [講師]
- 036 千種智之: 当院の感染対策. 栄養管理課学生実習, 2022, (愛知), [講師]
- 037 千種智之: 最新の感染対策. 愛知県カムバック研修, 2022, (愛知), [講師]
- 038 河村大一: 最新の感染対策. 愛知県カムバック研修, 2022, (愛知), [講師]
- 039 八重樫裕: 摂食嚥下障害看護における看護の専門性と NST チームでの役割. 愛知県立大学, (愛知), 2022, [講師]
- 040 八重樫裕: 摂食・嚥下障害看護認定看護師の活動. 杉山女学園大学早期体験実習, (愛知), 2022, [講師]
- 041 八重樫裕: 摂食嚥下障害と対応～NST での関りから～. 栄養科実習生講義, (愛知), 2022, [講師]
- 042 福嶋敬子: 地域連携パスについて. 第 26 回愛知クリニカルパス研究会, 2022, (WEB), [講師]

薬剤部

- 001 前田章光, 入江 慶, 安藤 仁, 橋本直弥, 福島昭二, 盛重純一, 衣斐寛倫, 加藤正孝, 内田幸作, 岩田広治, 澤木正孝: アベマシクリブ代謝物の体内動態に対する ABCB1 及び ABCG2 遺伝子多型の影響の検討. 第 32 回日本医療薬学会年会, 2022, (高崎), [口頭]
- 002 小柳津瞳, 山口智江, 前田章光, 大島有美子, 中井 剛, 原田哲彦, 藤村浩司, 小西郁代, 坂野博紀, 杉本智哉, 佐々木俊則, 佐藤由美子, 堀田和男, 川合甲祐, 久田達也, 宮崎雅之: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行が及ぼす外来診療におけるがん薬物療法および服薬指導への影響. 第 32 回日本医療薬学会年会, 2022, (高崎), [口頭]
- 003 前田章光: がん薬物療法の薬薬連携 ～薬剤師による副作

- 用マネジメント～. 第55回東海薬剤師学会大会, 2022, (静岡), [示説]
- 004 **前田章光**: 抗がん剤薬曝露の発生源はどこか?～調製, 投与, 排泄の視点から～. 日本臨床腫瘍薬学会 2023, 2023, (名古屋), [示説]
- 005 **前田章光**: 抗がん剤 (後発品, B S含む) 使用中の患者さんの対応で, 調剤薬局の先生方に知っておいていただきたいポイント. 春日井市病院・保険薬局薬々連携薬剤師セミナー, 2022, (春日井), [示説]
- 006 **前田章光**: CT画像の基礎知識と制吐剤の最新情報. 第6回がん化学療法薬剤師ミーティング in 湘南, 2022, (WEB), [示説]
- 007 **前田章光**: がん薬物療法に伴う悪心嘔吐の現状と最新の制吐療法. TAIHO Web Lecture on CINV in Nagoya, 2022, (WEB), [示説]
- 008 **前田章光**: 愛知県がんセンターにおける抗がん剤曝露対策と課題～2011年から現在まで～. 第5回 SANDOZ Oncology Web Seminar, 2022, (WEB), [示説]

臨床薬剤部

- 001 **富安直弥, 西川大輔, 前田章光, 内田幸作, 加藤正孝**: ニボルマブ投与終了後に1型糖尿病を発症した症例. 第55回東海薬剤師学会大会, 2022, (静岡), [口頭発表]
- 002 **安川稔昭, 前田章光, 山崎 研, 加藤久美, 内田幸作, 加藤正孝**: 免疫チェックポイント阻害薬による副腎皮質機能低下症と血清ナトリウム値の変動. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学会大会, 2022, 静岡県, [口頭発表]
- 003 **曾根裕美子, 前田章光, 加藤正孝**: 抗がん剤投与に関わる看護師及び周囲の作業環境における抗がん剤汚染調査. 日本臨床腫瘍薬学会学会大会, 2023, (名古屋), [口演]

ゲノム医療センター

- 001 **Ebi H**: Prospective study of comprehensive genomic profiling for chemotherapy-naive cancer patients (FIRST-Dx study). 第20回日本臨床腫瘍学会, 2022, (福岡), [口頭]
- 002 **山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 能澤一樹, 足立雄太, 新津宏明, 井本逸勢, 安藤正志, 衣斐寛倫**: がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査結果に基づく治験・臨床試験に関する相談内容と今後の課題. 第20回日本臨床腫瘍学会学会大会, 2023, (福岡), [口演]
- Kazuki Nozawa, Masumi Yamaguchi, Tomoko Aoki, Nobue Takaiso, Hiroaki Niitsu, Yuta Adachi, Issei Imoto, Rui Yamaguchi, Hiromichi Ebi**: Clinical Impact of Next-generation Sequencing in Patients with Solid Cancer: A Single Institute Study. JSMO2023, (Fukuoka), [mini

- oral]
- 003 **Kazuki Nozawa**: Japanese Platform Trial in Progress. JSMO2023, (Fukuoka), [oral]
- 004 **高磯伸枝**: がんゲノム医療で検出される生殖細胞系列バリエーション (Secondary findings) を健康管理において有効利用するにはどうしたら良いか? 当院での認定遺伝カウンセラーの関わり. 第46回日本遺伝カウンセリング学会学会大会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 005 **高磯伸枝, 福江美咲, 岩田広治, 井本逸勢**: 東海地域での遺伝性腫瘍診療における地域連携ネットワークの構築と実際: 遺伝性腫瘍研究会を基盤とした取り組みの紹介. 第29回日本遺伝子診療学会大会, 2022, (金沢), [口演]
- 006 **市川眞琴, 高磯伸枝, 吉村章代, 井本逸勢**: 初診時間診票情報に基づくスクリーニングからの遺伝性腫瘍診療とその課題. 日本人類遺伝学会第67回大会, 2022, (横浜), [口演]

リスク評価室

- 001 **高磯伸枝**: がんゲノム医療で検出される生殖細胞系列バリエーション (Secondary findings) を健康管理において有効利用するにはどうしたら良いか? 当院での認定遺伝カウンセラーの関わり. 第46回日本遺伝カウンセリング学会学会大会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 002 **高磯伸枝, 福江美咲, 岩田広治, 井本逸勢**: 東海地域での遺伝性腫瘍診療における地域連携ネットワークの構築と実際: 遺伝性腫瘍研究会を基盤とした取り組みの紹介. 第29回日本遺伝子診療学会大会, 2022, (金沢), [口演]
- 003 **市川眞琴, 高磯伸枝, 吉村章代, 井本逸勢**: 初診時間診票情報に基づくスクリーニングからの遺伝性腫瘍診療とその課題. 日本人類遺伝学会第67回大会, 2022, (横浜), [口演]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ（研究所）

研究所長

- 001 **Imoto I**: How to approach hereditary tumor syndrome in the era of precision oncology. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 002 **蒔田芳男, 井本逸勢**: これからの遺伝人材育成について 医学教育の変遷を基盤とした臨床遺伝専門医教育改革～今さら聞けない課題とこれから. 第46回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2022, (横浜), [セッション]
- 003 **井本逸勢**: 全ゲノム解析導入に関する臨床的課題. 第7回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2022, (Web), [セッション]
- 004 **井本逸勢**: がんゲノムプロファイリング検査における Germline findings への対応と課題. 第8回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会, 2022, (新潟), [教育講演]
- 005 **井本逸勢**: ゲノム医療と生殖医療. 第20回日本生殖心理学会学術集会, 2022, (東京), [特別講演]

Forum2023, 2023, (ノンタブリー), [口演]

- 008 **小柳友理子, 杉本幸弘, 川勝雪乃, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 春日井由美子, 伊藤秀美, 若井建志, 松尾恵太郎**: ADH1B rs1229984 は飲酒強度の変化以外の機序でも食道がんリスクを上げる: 媒介解析の結果. 第33回日本疫学会学術総会, 2023, (浜松), [口演]
- 009 **川北大介, 柘植博之, 尾瀬 功, 岩崎真一, 松田智大, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 地域がん登録 1993-2015 年累積データに基づく頭頸部がん亜部位別罹患状況の動向. 第33回日本疫学会学術総会, 2023, (浜松), [ポスター]
- 010 **田村高志, 若井建志, 林 櫻松, 玉腰暁子, 歌田真依, 小笹晃太郎, 菅原由美, 辻 一郎, 小野綾美, 澤田典絵, 津金昌一郎, 伊藤秀美, 永田知里, 北村哲久, 内藤真理子, 田中恵太郎, 島津太一, 溝上哲也, 松尾恵太郎, 井上真奈美**: 地域がん登録 1993-2015 年累積データに基づく頭頸部がん亜部位別罹患状況の動向. 第33回日本疫学会学術総会, 2023, (浜松), [口演]

がん情報・対策研究分野

- 001 **伊藤秀美**: 住民ベースのがん登録情報の活用事例—ある都道府県の場合. 日本がん登録協議会第31回学術集会 in 長野, 2022, (長野), [口演]
- 002 **片山佳代子, 伊藤秀美, 伊藤ゆり**: 社会に役立つがん登録データ～J-CIPの取り組み～. 日本がん登録協議会第31回学術集会 in 長野, 2022, (長野), [口演]
- 003 **Kawakatsu Y, Koyanagi YN, Otani T, Taniyama T, Oze I, Matsuo K, Takahashi K, Yamaguchi R, Ito H**: The associations between socioeconomic status and lung cancer incidence and mortality differ by rurality. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 004 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K**: Dissecting carcinogenic effects of ALDH2 rs671: new insights from causal mediation analysis. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 005 **Tsuge H, Taniyama Y, Kawakita D, Koyanagi Y, Oze I, Ito Y, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H**: Changes in survival of laryngeal cancer by period: data from population-based cancer registries. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 006 **伊藤秀美**: 疫学研究におけるがん登録情報の利用. 第81回日本公衆衛生学会総会, 2022, (山梨), [シンポジウム]
- 007 **Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito Y**: CHANGES IN SURVIVAL OF PATIENTS WITH NON-SMALL CELL LUNG CANCER IN JAPAN: AN INTERRUPTED TIME SERIES STUDY. Asian Cancer Registry

がん予防研究分野

- 001 **Matsuo K**: Japan Multi-Institutional Cohort (J-MICC) Study. 第81回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口演]
- 002 **Koyanagi Y, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K**: Dissecting carcinogenic effects of ALDH2 rs671: new insights from causal mediation analysis. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 003 **Tsuge H, Taniyama Y, Kawakita D, Koyanagi Y, Oze I, Ito Y, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H**: Changes in survival of laryngeal cancer by period: data from population-based cancer registries. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 004 **Yukino Kawakatsu, Yuriko Koyanagi, Takahiro Otani, Yukari**: The associations between socioeconomic status and lung cancer incidence and mortality differ by rurality. がん予防学術大会2022京都, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 005 **松尾恵太郎**: 日本多施設コホート研究 (J-MICC) 研究. 第32回日本疫学会学術総会, 2021, (オンデマンド開催), [口演]
- 006 **小柳友理子, 杉本 幸, 川勝雪乃, 尾瀬 功, 谷山祐香里, 春日井由美子, 伊藤秀美, 若井建志**: ADH1B rs1229984 は飲酒強度の変化以外の機序でも食道がんリスクを上げる: 媒介解析の結果. 第33回日本疫学会学術総会, 2022, (浜松), [口演]

がん病態生理学分野

- 001 **Aoki M.** : The landscape of systemic metabolic alterations in cancer cachexia. The 7th JCA-AACR Special Joint Conference: The Latest Advances in Pancreatic Cancer Research: From Basic Science to Therapeutics, 2022, (Kyoto), [招待講演]
- 002 **青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章** : マウスモデルを用いた大腸がんの幹細胞性・転移形成能に関与するシグナル経路の解析. 第26回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2022, (金沢), [ワークショップ]
- 003 **藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博** : 転移性大腸がんマウスモデルを用いた転移関連分子の同定. 第31回日本がん転移学会学術集会, 2022, (京都), [ポスター]
- 004 **青木正博** : がん悪液質に伴う代謝異常の解析. 第8回がんと代謝研究会, 2022, (佐渡), [口演]
- 005 **藤下晃章, 梶野リエ, 三城恵美, 武藤 誠, 青木正博** : トランスポゾンマウスを用いた大腸がん転移関連遺伝子の生体スクリーニング. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 006 **青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章** : 大腸がんの幹細胞性と転移能に重要な腫瘍微小環境関連シグナル経路の解明. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 007 **梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博** : Wnt 経路に変異を持つ腸管腫瘍細胞において MyD88 の機能抑制が合成致死をもたらすメカニズムの解明. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 008 **小島 康, 三城恵美, 武藤 誠, 曾我朋義, 青木正博** : がん悪液質のメタボロームおよびプロテオーム. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 009 **李 宇, 藤下晃章, 三城恵美, 武藤 誠, 根本 篤, 西田佳弘, 青木正博** : TGF- β シグナルはデスモイド形成を促進する. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]

分子腫瘍学分野

- 001 **Sekido Y** : Biology: NF2 in mesothelioma. 2022 World Conference on Lung Cancer, 2022, (Wien), [招待講演]
- 002 **平井聡一, 山田忠明, 片山勇輝, 尾ノ井恵佑, 石田真樹, 河内勇人, 松井遥平, 中邨亮太, 森本健司, 徳田深作, 関戸好孝, 高山浩一** : 悪性胸膜中皮腫細胞における ATR と AXL を標的とした新規併用治療. 第3回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2022, (西宮), [一般演題]
- 003 **田島 健, 高橋史行, 光石陽一郎, Wirawan A, Winardi W, 早川乃介, 松本直久, 金森幸一郎, 和泉研太, 宮下洋祐, 嶋田奈緒子, 樋野興夫, 関戸好孝, 高橋和久** : 悪性胸膜中皮腫における LSD1 阻害による間葉系を標的とした新規治療戦略. 第3回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2022, (西宮), [一般演題]
- 004 **佐藤龍洋, 関戸好孝** : 悪性中皮腫における NPPB 高発現

の分子機序の検討. 第3回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2022, (西宮), [一般演題]

- 005 **陳イクアン, 永江玄太, 上田宏生, 辰野健二, 森下真一, 関戸好孝, 油谷浩幸** : ロングリードシーケンシングによる明らかにしたヒト中皮腫ゲノム変異の特徴. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 006 **武内風香, 見前隆洋, 萩山 満, 濱田泰伸, 関戸好孝, 岡田守人, 伊藤彰彦** : 接着分子 CADM1/TSLC1 に対する抗体を用いた胸膜中皮腫の新たな治療戦略. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 007 **向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝** : Hippo 経路の破綻した悪性中皮腫における O-GlcNAc 修飾の亢進を標的とした治療の可能性. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 008 **赤尾 謙, 佐藤龍洋, 向井智美, 平野雅規, 関戸好孝** : 新規 TEAD 阻害剤の悪性中皮腫細胞株に対する抗腫瘍効果の検討. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 009 **田中一大, 佐藤龍洋, 佐藤光夫, 関戸好孝** : 悪性中皮腫におけるオキシトシン受容体を標的とした新規治療戦略. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 010 **鄭 好, 蔣 麗, 呂 沁穎, 赤塚慎也, 本岡大社, 関戸好孝, 中村香江, 田中宏昌, 石川健治, 梶山広明, 水野正明, 堀 勝, 豊國伸哉** : プラズマ活性化された乳酸リンゲルに誘導されたフェロトーシスにおける pcbp1/2 とグルタチオンとの協同作用. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 011 **鈴木浩也, 山岸良多, 向井智美, 紅 朋浩, 竹内一郎, 門松健治, 前田 徹, 村上浩士, 三井田孝, 関戸好孝, 村上(渡並) 優子** : LATS2 変異悪性中皮腫において SMG6 は DNA 損傷及び細胞増殖を制御する. 第95回日本生化学会大会, 2022, (名古屋), [ポスター]
- 012 **丹下将希, 鈴木浩也, 竹内稔紘, 西谷優佑, 三井田孝, 村上浩士, 関戸好孝, 早川一郎, 佐藤綾人, 村上(渡並) 優子** : 悪性中皮腫原因遺伝子の変異細胞特異的に細胞増殖を抑制する化合物候補の探索. 第95回日本生化学会大会, 2022, (名古屋), [ポスター]
- 013 **向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 藪田紀一, 関戸好孝** : 悪性中皮腫における O-GlcNAc 修飾異常を介した腫瘍進展メカニズムの解明. 第45回日本分子生物学会年会, 2022, (幕張), [ポスター]
- 014 **丹下将希, 鈴木浩也, 村上浩士, 三井田孝, 関戸好孝, 村上(渡並) 優子** : BAP1 と CHK2 の共発現抑制中皮細胞株における細胞増殖抑制機構の解析. 第45回日本分子生物学会年会, 2022, (幕張), [ポスター]
- 015 **赤尾 謙, 今泉和良, 関戸好孝** : 悪性中皮腫に対する新規 TEAD 阻害剤の増殖抑制効果の検討. 第63回日本肺癌学会学術総会, 2022, (福岡), [ポスター]
- 016 **松井優実, 佐藤龍洋, 大城太一, 前田 徹, 関戸好孝** : 悪性中皮腫に対する新規治療戦略としてのフェロトーシス細胞死の誘導. 日本薬学会第143年会, 2023, (札幌), [口演]

017 坂口夏菜, 大手 聡, 佐藤龍洋, 大城太一: 真菌 BF-1209 株が生産する抗悪性上皮腫物質に関する研究, 日本薬学会第 143 年会, 2023, (札幌), [ポスター]

システム解析学分野

- 001 *Hattori M, Naito Y, Yamanaka T, Yasojima H, Nakamura R, Watanabe J, Yoshinami T, Ozaki Y, Fujisawa T, Nakamura Y, Bando H, Yoshino T, Yamaguchi R, Imoto I, Iwata H*: Detection of presumed germline pathogenic variants of hereditary breast cancer predisposition genes in circulating tumor DNA: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN, ASCO annual meeting, 2022, (Chicago), [ポスター]
- 002 池上恒雄, 山口貴世志, 高根希世子, 清水英悟, 笠島理加, 土方康基, 片山琴絵, 渋谷哲朗, 山口 類, 井元清哉, 宮野 悟, 古川洋一: 全ゲノム/全エクソン解析と人工知能を用いた難治がんに対する精密医療, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口頭]
- 003 疋田智也, 上原 了, 伊藤玲奈, 三谷文美絵, 山口 類, 小根山千歳: MEK/ERK シグナルの活性化はリソソーム形成の抑制を介してエクソソーム分泌を促進する, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (神奈川), [口頭]
- 004 山口貴世志, 中川沙弥, 高根希世子, 池上恒雄, 山口類, 井元清哉, 宮野 悟, 古川洋一: プロモドメインタンパク質 BRD8 を標的とした新たな大腸がん治療戦略, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (神奈川), [口頭]
- 005 笠島理加, 鈴木理樹, 清水英悟, 玉田嘉紀, 新井田厚司, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川 洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 横瀬智之, 宮城洋平: 遺伝子ネットワーク解析による高悪性度胎児性肺腺癌のパスウェイ予測・検討, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (神奈川), [ポスター]
- 006 川勝雪乃, 小柳友理子, 大谷隆浩, 谷山祐香里, 尾瀬功, 松尾恵太郎, 高橋邦彦, 山口 類, 伊藤秀美: 肺がん罹患・死亡と社会経済格差の関連は都市度によって異なる, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (神奈川), [ポスター]
- 007 山口 類: 大規模生体データとデータ科学が加速する精密医療技術開発の展望, 第 5 回東北大学医学 AI セミナー, 2022, (宮城), [招待講演]
- 008 山口 類: 臍帯血移植後生着の予測と要因探索に向けた機械学習モデルの構築, 免疫・細胞療法検討会 2022, 2022, (東京), [招待講演]

腫瘍制御学分野

001 小根山千歳: がん細胞におけるエクソソーム産生亢進とその制御, 日本薬学会第 143 年会, シンポジウム発表, 2023, [シンポジウム]

- 002 小根山千歳: がんシグナルによるエクソソーム産生亢進メカニズム, 名古屋大学創薬科学研究科セミナー, 2022, (web), [シンポジウム]
- 003 小根山千歳: がん原遺伝子 Src の再考-新規分子標的を求めて-, 第 52 回新適塾-難病への挑戦, 2022, (web), [シンポジウム]
- 004 三谷文美絵, 早坂亮祐, 平山明由, 小根山千歳: SNAP23 を介した Src 依存的エクソソーム産生亢進メカニズム, 第 9 回日本細胞外小胞学会, 2022, [ポスター]
- 005 上原 了, 青木玲奈, 小根山千歳: RAB27A 発現を制御する新規 EV 分泌阻害剤の同定, 第 9 回日本細胞外小胞学会, 2022, [ポスター]
- 006 疋田智也, 上原 了, 青木玲奈, 三谷文美絵, 宮田眞美子, 吉田卓也, 山口類, 小根山千歳: MEK/ERK 経路を介したがん EV 分泌亢進メカニズム, 第 9 回日本細胞外小胞学会, 2022, [ポスター]
- 007 林 建宇, 三谷文美絵, 坂本達哉, 上原 了, 疋田智也, 吉田卓也, *Andi Setiawan*, 小根山千歳, 荒井雅吉: がんエクソソーム産生阻害物質 (+)-Asteltoxin の作用機序解析, 第 9 回日本細胞外小胞学会, 2022, [ポスター]
- 008 疋田智也, 上原 了, 青木玲奈, 三谷文美絵, 宮田眞美子, 吉田卓也, 山口 類, 小根山千歳: MEK/ERK シグナルの活性化はリソソーム形成の抑制を介してエクソソーム分泌を促進する, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, [口頭]
- 009 三谷文美絵, 林 建宇, 荒井雅吉, 小根山千歳: Asteltoxin は AMPK-mTOR を介したリソソーム機能亢進によってエクソソーム産生を阻害する, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, [口頭]
- 010 小根山千歳: Fer キナーゼを標的とした革新的がん治療薬の開発, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, [シンポジウム]
- 011 上原 了, 小根山千歳: がん細胞由来細胞外小胞を標的とした新規阻害剤の探索, AdAMS 若手支援技術講習会 2022, 2022, [口頭]
- 012 小根山千歳: Fer キナーゼを標的とした新規がん治療薬の創出を目指して, 第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2022, [シンポジウム]

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 籠谷勇紀: Synthetic immunology to enhance safety and efficacy in adoptive cancer immunotherapy. 第 51 回日本免疫学会学術集会, 2022, (熊本), [シンポジウム講演]
- 002 吉川聡明, 籠谷勇紀: A novel chimeric cytokine receptor-engineered CAR-T cells achieve both potent cytotoxicity and reduced cytokine release syndrome. 第 51 回日本免疫学会学術集会, 2022, (熊本), [口頭]
- 003 粕谷仁美, 籠谷勇紀: CD62L expression levels in the peripheral blood T cells predict the generation of antitumor T cell grafts with long-lived potential: 第 51

- 回日本免疫学会学術集会, 2022, (熊本), [ポスター]
- 004 籠谷勇紀: Development of next-generation chimeric antigen receptor-engineered T-cell therapy. 第84回日本血液学会学術集, 2022, (福岡), [教育講演]
- 005 籠谷勇紀: Current progress in adoptive cancer immunotherapy. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [モーニングレクチャー講演]
- 006 籠谷勇紀: Improving antitumor T cell functions through epigenetic remodeling. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [International Session 講演]
- 007 吉川聡明, 籠谷勇紀: A novel chimeric cytokine receptor-engineered CAR-T cells with potent cytotoxicity and reduced cytokine release syndrome. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 008 吉川聡明, 籠谷勇紀: エピジェネティック因子修飾による抗腫瘍 T 細胞の機能改善. 第165回日本獣医学学会学術集会, 2022, (Web), [講演]
- 009 籠谷勇紀: Genetic engineering of T cells for optimal adoptive immunotherapy. 京都大学がん免疫総合研究センターセミナー, 2022, (京都), [講演]
- 010 籠谷勇紀: 次世代型 CAR-T 細胞療法の開発. 第6回 バイオ医薬 EXPO, 2022, (東京), [講演]
- 011 籠谷勇紀: エピジェネティクス改変による長期生存型 CAR-T 細胞の製造. 第14回 日本血液疾患免疫療学会学術集会, 2022, (WEB), [招待講演]

腫瘍免疫制御 TR 分野

- 001 小室裕康, 篠原周一, 岡村文子, 村岡大輔, 福山隆, 浜名 洋, 岸 裕幸, 山下慶子, 黒田浩章, 松下博和: 非小細胞性肺癌におけるネオ抗原および癌・精巢抗原特異的な CD8+T 細胞集団と腫瘍抗原同定のための Single Cell 解析を活用したアプローチ. 第19回日本免疫治療学会学術集会, 2022, (東京), [口演]
- 002 松下博和: 脳腫瘍に対する免疫療法. 第42回日本脳神経外科学コンgres総会, 2022, (大阪), [教育講演]
- 003 小室裕康, 篠原周一, 福嶋恭啓, 杉田裕介, 松井琢哉, 高橋祐介, 岡村文子, 村岡大輔, 福山隆, 浜名 洋, 岸 裕幸, 田中雄希, 尾上広祐, 小野口和英, 山下慶子, 山口類, 黒田浩章, 岩田 尚, 松下博和: Single Cell 解析を活用した非小細胞性肺癌におけるネオ抗原および癌・精巢抗原特異的な CD8+T 細胞集団の同定. 第26回日本がん免疫学会, 2022, (島根), [口演]
- 004 松井琢哉, 松下博和, 山口 類, 鈴木あゆみ, 高原弘知, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章, 千馬謙亮, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 中西良一: 非小細胞肺癌における Human Leukocyte Antigen 遺伝子解析を用いた術後再発と生命予後のリスク評価. 第26回日本がん免疫学会, 2022, (島根), [口演]
- 005 道津洋介, 村岡大輔, 園田雄大, 小郷尚久, 浅井章良, 八木田秀雄, 迎 寛, 池田裕明: ミトコンドリア電子伝達

- 系を介し T 細胞の活性化閾値を改善する新機軸代謝化合物を用いたがん免疫療法の開発. 第26回日本がん免疫学会, 2022, (島根), [口演]
- 006 小室裕康, 篠原周一, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 浜名 洋, 岸 裕幸, 山下慶子, 黒田浩章, 松下博和: 腫瘍におけるネオ抗原および癌・精巢抗原特異的な CD 8+T 細胞集団と腫瘍抗原同定のための single cell 解析を活用したアプローチ. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 007 小室裕康, 高橋祐介, 矢田友紀, 福嶋恭啓, 宮本祐作, 山本裕崇, 白橋幸洋, 篠原周一, 杉田祐介, 松井琢哉, 岡村文子, 村岡大輔, 福山 隆, 黒田浩章, 松下博和, 岩田尚: HLA-B15 肺癌患者における KK-LC-1 に対する新規 TCR の検討. 第63回日本肺癌学会, 2022, (福岡), [口演]
- 008 溝口菜美, 松元彩香, 長谷田泰成 曾我孝利, 山道 茜, 澤田晋一, 村岡大輔, 岡田秀穂, 秋吉一成, 原田直純: プランナノゲルは DC-SIGN への結合を通じて腫瘍増殖反マクロファージ選択的に薬剤を送達できる. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 009 高橋寛行, 村上 央, 小郷尚久, 村岡大輔, 高木陽光, 浅井章良: 新規 STAT3 阻害剤 YHO-1701 は抗 PD-1 抗体の抗腫瘍効果を増強する. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 010 村岡大輔, 道津洋介, 小郷尚久, 園田雄大, 八木田秀雄, 松下博和, 浅井章良, 池田裕明: ミトコンドリア電子伝達系活性化化合物は腫瘍浸潤 T 細胞の活性化閾値を改善し抗腫瘍効果を導く. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 011 中司交明, 村岡大輔, 安井 潔, 原田直純, 澤田晋一, 秋吉一成, 永安 武, 池田裕明: がん免疫療法における腫瘍関連マクロファージを標的とする DDS である「CHP ナノゲル」の標的分子の同定. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 012 *Hirokazu Matsushita*: Revisiting Cancer Vaccine Using Neoantigens, IASLC 2022 Asia Conference on Lung Cancer, 2022, (Nara), [Symposium]

分子診断 TR 分野

- 001 阿部雄一, 田口 歩: 免疫グロブリン結合タンパク質の高深度プロテオーム解析と, 新規がんバイオマーカー探索研究への応用, 日本プロテオーム学会 2022 年大会, 2022, (相模原), [口演]
- 002 *Ayumu Taguchi, Yuichi Abe, Taisuke Kajino, Hisanori Isomura*: In-depth proteomic analysis of cancer models. 第81回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [口演]
- 003 *Shuang Zhou, Yuichi Abe, Hisanori Isomura, Masatoshi Ishigami, Mitsuhiro Fujishiro, Ayumu Taguchi*: Integrative plasma proteomics identifies novel diagnostic biomarkers in hepatocellular carcinoma. 第81回日本癌学会学術総会,

2022, (横浜), [口頭発表]

- 004 梶野泰祐, 原 和生, 藤城光弘, 田口 歩: lncRNA XXYL1-AS2 は膵がんにおいてアポトーシスを抑制する: 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 005 阿部雄一, 磯村久徳, 小森康司, 藤城光弘, 田口 歩: 血漿タンパク質と自己抗体の定量的プロファイリングによる大腸がん早期診断バイオマーカーの探索同定. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 006 磯村久徳, 森 治樹, 梶野泰祐, 阿部雄一, 三宅 亨, 谷眞至, 田口 歩: 高腹膜播種転移マウス大腸癌細胞株のマルチオミクス解析による大腸 癌腹膜播種転移機構の解明: 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 007 田口 歩: 血液バイオマーカーが拓く大腸がん検診の近未来, 2022, 第 30 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), (神戸), [特別講演]
- 008 磯村久徳, 阿部雄一, 山田啓策, 大西祥代, 田中 努, 山村健史, 中村正直, 島田昌明, 田近正洋, 藤城光弘, 川嶋啓揮, 田口 歩: 血漿タンパク質と自己抗体の定量的プロファイリングによる大腸がん早期診断バイオマーカーの探索同定, 2022, 第 33 回日本消化器癌発生学会, (東京), [口頭発表]
- 009 磯村久徳, 森 治樹, 周 爽, 梶野泰祐, 阿部雄一, 夏目誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷 眞至, 田口 歩: 同系大腸癌腹膜播種モデルの多層オミクス解析に基づく転移分子機構解明, 2022, 第 33 回日本消化器癌発生学会, (東京), [口頭発表]
- 0010 周 爽, 阿部雄一, 梶野泰祐, 磯村久徳, 田口 歩: Integrated multi-omics analysis of a mouse model of NASH-derived HCC, 第 12 回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2022, (Web), [口頭発表]
- 0011 磯村久徳, 森 治樹, 周 爽, 梶野泰祐, 阿部雄一, 夏目誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷 眞至, 田口 歩: Multi-omics analysis of syngeneic colorectal cancer mouse model of peritoneal dissemination. 第 12 回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2022, (Web), [口頭発表]
- 0012 梶野泰祐, 水野和幸, 阿部雄一, 夏目誠二, 奥野正隆, 倉石康弘, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真, 水野信匡, 細田和貴, 清水泰博, 原 和生, 藤城光弘, 川嶋啓揮, 田口 歩: lncRNA XXYL1-AS2 は膵がんにおいてアポトーシスを抑制する. CoBiA 若手支援研究成果発表会, 2022, (名古屋), [口頭発表]

がん標的 TR 分野

- 001 *Ebi H*: Mechanisms of resistance to RAS-targeting therapies. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 002 衣斐寛倫: KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機構の解明とその克服, 日本癌分子標的治療学会 第 18 回がんトランスレーショナルリサーチ (TR) ワークショップーがん分子標的療法耐性と克服戦略: 2023 アップデートー, 2023, (東京), [ワークショップ]
- 003 衣斐寛倫: ctDNA 解析から見た大腸がんの再分類と治療効果予測, International Session 12, 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 004 新津宏明, 足立雄太, 衣斐寛倫: 大腸がんにおける MAPK シグナル異常と治療開発. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [シンポジウム]
- 005 足立雄太, 新津宏明, 衣斐寛倫: KRAS 変異癌における標的治療耐性機構の克服. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022, (横浜), [シンポジウム]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 *Pratz KW, Panayiotidis P, Recher C, Wei X, Jonas BA, Montesinos P, Ivanov V, Schuh AC, DiNardo CD, Novak J, Pejsa V, Stevens D, Yeh SP, Kim I, Turgut M, Fracchiolla N, Yamamoto K, Ofran Y, Wei AH, Bui CN, Benjamin K, Kamalakar R, Potluri J, Mendes W, Devine J, Fiedler W* : Venetoclax combinations delay the time to deterioration of HRQoL in unfit patients with acute myeloid leukemia. *Blood Cancer J.* 12:71, 2022.
- 002 *Katagiri S, Chi S, Minami Y, Fukushima K, Shibayama H, Hosono N, Yamauchi T, Morishita T, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kuroda J, Usuki K, Akahane D, Gotoh A* : Mutated KIT Tyrosine Kinase as a Novel Molecular Target in Acute Myeloid Leukemia. *Int J Mol Sci.* 23:4694, 2022.
- 003 *Kobayashi T, Yamamoto K, Kagami Y, Machida R, Miyazaki K, Nakamura S, Kuroda J, Maruyama D, Nagai H* : Prognostic value of the Kyoto Prognostic Index in higher-risk diffuse large B-cell lymphomas treated by upfront autologous stem cell transplantation in JCOG0908 trial. *Jpn J Clin Oncol.* 52:583-588, 2022.
- 004 *Ishizawa K, Yokoyama M, Kato H, Yamamoto K, Makita M, Ando K, Ueda Y, Tachikawa Y, Suehiro Y, Kurosawa M, Kameoka Y, Nagai H, Uoshima N, Ishikawa T, Hidaka M, Ito Y, Utsunomiya A, Fukushima K, Ogura M* : A phase I/II study of 10-min dosing of bendamustine hydrochloride (rapid infusion formulation) in patients with previously untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma, mantle cell lymphoma, or relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma in Japan. *Cancer Chemother Pharmacol.* 90:83-95, 2022.
- 005 *Hirayama T, Fujimori M, Ito Y, Ishida Y, Tsumura A, Ozawa M, Maeda N, Yamamoto K, Takita S, Mori M, Tanaka K, Horibe K, Akechi T* : Feasibility and preliminary effectiveness of a psychosocial support program for adolescent and young adult cancer patients in clinical practice: a retrospective observational study. *Support Care Cancer.* 31:146, 2023
- 006 *Ono T, Takahashi N, Kizaki M, Kawaguchi T, Suzuki R, Yamamoto K, Ohnishi K, Naoe T, Matsumura I* : Clinical outcomes of second-generation tyrosine kinase inhibitors versus imatinib in older patients with CML. *Cancer Sci.* 114:995-1006, 2023.
- 007 見目絵光, 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫のハイリスクと治療戦略. *血液内科,* 84: 839-844, 2022.
- 008 山本一仁 : ホジキンリンパ腫. 今日の治療指針 2023, 680-682 医学書院 (2023年1月1日発行).
- 009 見目絵光, 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫【新リンパ

腫学—基礎・臨床の最新動向—】日本臨床, 81 (増刊3): 245-250, 2023.

消化器内科部

- 001 *Kato S, Kuwatani M, Onodera M, Kudo T, Sano I, Katanuma A, Uebayashi M, Eto K, Fukasawa M, Hashigo S, Iwashita T, Yoshida M, Taya Y, Kawakami H, Kato H, Nakai Y, Kobashigawa K, Kawahata S, Shinoura S, Ito K, Kubo K, Yamato H, Hara K, Maetani I, Mukai T, Shibukawa G, Itoi T* : Risk of Pancreatitis Following Biliary Stenting With/Without Endoscopic Sphincterotomy: A Randomized Controlled Trial. *Clin Gastroenterol Hepatol,* 20(6) : 1394-1403, 2022.
- 002 *Kitano M, Yoshida M, Ashida R, Kita E, Katanuma A, Itoi T, Mikata R, Nishikawa K, Matsubayashi H, Takayama Y, Kato H, Takenaka M, Ueki T, Kawashima Y, Nakai Y, Hashimoto S, Shigekawa M, Nebiki H, Tsumura H, Okabe Y, Ryozaawa S, Harada Y, Mito A, Sasaki T, Yasuda H, Miura N, Ikemoto T, Ozawa E, Shioji K, Yamaguchi A, Okuzono T, Moriyama I, Hisai H, Fujita K, Goto T, Shirahata N, Iwata Y, Okabe Y, Hara K, Hashimoto Y, Kuwatani M, Isayama H, Fujimori N, Masamune A, Hatamaru K, Shimokawa T, Okazaki K, Takeyama Y, Yamaue H* : Needle tract seeding after endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition of pancreatic tumors: A nationwide survey in Japan. *Dig Endosc,* doi: 10.1111/den.14346, 2022.
- 003 *Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Fumihara D, Yamada M, Yasuda T, Ishikawa S* : Utility of a novel drill dilator for easier EUS-guided pancreatic duct drainage. *J Hepatobiliary Pancreat Sci,* 29(10): e91-e92, 2022.
- 004 *Elshair M, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Bakr A, Abu-Amer MZ* : Combined duodenal stenting and endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using forward-viewing echoendoscope: a one-scope technique. *Endoscopy,* 54(9): e516-e517, 2022.
- 005 *Inaba Y, Hijioka S, Iwama I, Asai T, Miyamura H, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Sato Y, Yamaura H, Onaya H, Shimizu J, Hara K* : Clinical usefulness of Somatostatin Receptor Scintigraphy in the Diagnosis of Neuroendocrine Neoplasms. *Asia Ocean J Nucl Med Biol,* 10(1): 1-13, 2022.
- 006 *Kurita Y, Kobayashi N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Tokuhisa M, Hasegawa S, Kubota K, Nakajima A, Ichikawa Y* : Clinical Outcomes of Everolimus Rechallenge in Patients with Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms with No Other Treatment Options. *Cancers*

- (Basel), 14(22): 5669. doi: 10.3390/cancers14225669, 2022.
- 007 **Dei H, Natsume S, Okuno M, Kawakatsu S, Hosoda W, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M, Shimizu Y** : Impact of pancreatic fat infiltration on postoperative pancreatic fistula occurrence in patients undergoing invagination pancreaticojejunostomy. *HPB (Oxford)*, 24(12): 2119-2124, 2022.
- 008 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113(4): 1441-1450, 2022.
- 009 **Kurita Y, Hara K, Kobayashi N, Kuwahara T, Mizuno N, Okuno N, Haba S, Yagi S, Hasegawa S, Sato T, Hosono K, Endo I, Shimizu Y, Niwa Y, Utsunomiya D, Inaba Y, Nakajima A, Kubota K, Ichikawa Y** : Detection rate of endoscopic ultrasound and computed tomography in diagnosing pancreatic neuroendocrine neoplasms including small lesions: A multicenter study. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 29(8): 950-959, 2022.
- 010 **Masui T, Ito T, Komoto I, Kojima S, Kasai Y, Tanabe M, Hara K, Hirano S, Okusaka T, Ichikawa Y, Kinugasa Y, Kokudo N, Kudo A, Sakurai A, Sugihara K, Date H, Haruma K, Hijioka S, Hirata K, Yamano H, Sakamine M, Kikuchi T, Fukushima M, Imamura M, Uemoto S** : Nationwide registry for patients with neuroendocrine neoplasm of pancreas, gastrointestinal tract, lungs, bronchi, or thymus in Japan. *Int J Clin Oncol*, 27(5): 840-849, 2022.
- 011 **Elshair M, Ugai T, Oze I, Kasugai Y, Koyanagi YN, Hara K, Ito H, Matsuo K** : Impact of socioeconomic status and sibling number on the prevalence of *Helicobacter pylori* infection: a cross-sectional study in a Japanese population. *Nagoya J Med Sci*, 84(2): 374-387, 2022.
- 012 **Kawakatsu S, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H, Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K, Matsuo K, Hosoda W** : Prognostic Significance of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Single-Center Experience and Systematic Review of the Literature. *Ann Surg Oncol*, 29(9): 5972-5983, 2022.
- 013 **Kurita Y, Kobayashi N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Tokuhisa M, Hasegawa S, Sato T, Hosono K, Kato S, Kessoku T, Endo I, Shimizu Y, Kubota K, Nakajima A, Ichikawa Y, Niwa Y** : Effectiveness and Prognostic Factors of Everolimus in Patients with Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms. *Intern Med*, 62(2): 159-167, 2023.
- 014 **Okuno M, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Kawakatsu S, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H, Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K** : A new option for laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy: three cases with splenic artery preservation and resection of the splenic vein. *J Surg Case Rep*. doi: 10.1093/jscr/rjac088, 2022.
- 015 **Taniguchi H, Masuishi T, Ogata T, Ando M, Mizuno N, Muro K** : First experience of a fully decentralized clinical trial: The dawn of a new era in oncology. *Cancer Sci*, doi: 10.1111/cas.15792, 2023.
- 016 **Ozaka M, Nakachi K, Kobayashi S, Ohba A, Imaoka H, Terashima T, Ishii H, Mizusawa J, Katayama H, Kataoka T, Okusaka T, Ikeda M, Sasahira N, Miwa H, Mizukoshi E, Okano N, Mizuno N, Yamamoto T, Komatsu Y, Todaka A, Kamata K, Furukawa M, Fujimori N, Katanuma A, Takayama Y, Tsumura H, Fukuda H, Ueno M, Furuse J** : A randomised phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel for locally advanced pancreatic cancer (JCOG1407). *Eur J Cancer*, 181 : 135-144, 2023.
- 017 **Fujiwara Y, Kuboki Y, Furukawa M, Mizuno N, Hara H, Ioka T, Ueno M, Takahashi Y, Takahashi S, Takeuchi S, Lihou C, Ji T, Tian C, Shimizu T** : FIGHT-102: A phase 1 study of pemigatinib in Japanese patients with advanced malignancies. *Cancer Med*, doi: 10.1002/cam4.5798, 2023.
- 018 **Terashima T, Morizane C, Ushiana M, Shiba S, Takahashi H, Ikeda M, Mizuno N, Tsuji K, Yasui K, Azemoto N, Satake H, Nomura S, Yachida S, Sugano K, Furuse J** : Germline variants in cancer-predisposing genes in pancreatic cancer patients with a family history of cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 52(10): 1105-1114, 2022.
- 019 **Morizane C, Machida N, Honma Y, Okusaka T, Boku N, Kato K, Nomura S, Hiraoka N, Sekine S, Taniguchi H, Okano N, Yamaguchi K, Sato T, Ikeda M, Mizuno N, Ozaka M, Kataoka T, Ueno M, Kitagawa Y, Terashima M, Furuse J, Japan Clinical Oncology Group** : Effectiveness of Etoposide and Cisplatin vs Irinotecan and Cisplatin Therapy for Patients With Advanced Neuroendocrine Carcinoma of the Digestive System: The TOPIC-NEC Phase 3 Randomized Clinical Trial. *JAMA Oncol*, 8(10): 1447-1455, 2022.
- 020 **Tajika M, Tanaka T, Oonishi S, Yamada K, Kamiya T, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Kuraishi Y, Ouchi A, Sato Y, Kinoshita T, Komori K, Hara K, Hosoda W, Niwa Y** : Endoscopic Management of Adenomas in the Ileal Pouch and the Rectal Remnant after Surgical Treatment in Familial Adenomatous Polyposis. *J Clin Med*, 11(12): 3562, 2022.
- 021 **Haba S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Miyano A, Fumihara D, Elshair M** : Endoscopic ultrasound-guided portal vein coiling: troubleshooting interventional endoscopic ultrasonography. *Clin Endosc*, 55(3): 458-462, 2022.
- 022 **Nakamura T, Hayashi T, Kimura Y, Kawakami H, Takahashi**

- K, Ishiwatari H, Goto T, Motoya M, Yamakita K, Sakuhara Y, Ono M, Tanaka E, Omi M, Murakawa K, Iida T, Sakurai T, Haba S, Abiko T, Ito YM, Maguchi H, Hirano S* : HOPS-R01 phase II trial evaluating neoadjuvant S-1 therapy for resectable pancreatic adenocarcinoma. *Sci Rep*, 15; 12 (1): 9966. doi: 10.1038, 2022.
- 023 *Kuwahara T, Hara K* : Literature review of artificial intelligence for the treatment of pancreatobiliary diseases. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi*, 119(7): 610-625, 2022.
- 024 *Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Kuraishi Y, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Onishi S, Yamada K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamaguchi R, Shimizu Y* : Artificial intelligence using deep learning analysis of endoscopic ultrasonography images for the differential diagnosis of pancreatic masses. *Endoscopy*, 55(2): 140-149, 2023.
- 025 *Sugimoto Y, Kurita Y, Kuwahara T, Satou M, Meguro K, Hosono K, Kubota K, Hara K, Nakajima A* : Diagnosing malignant distal bile duct obstruction using artificial intelligence based on clinical biomarkers. *Sci Rep*, 13(1): 3262, 2023.
- 026 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Fukui T* : Endoscopic ultrasound-guided drainage for an abscess cavity. *Int J Gastrointest Interv*, 11(4): 160-067, 2022.
- 027 *Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Fukui T* : Novel drill dilator facilitates endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Dig Endosc*, 35(3): 389-393, 2023.
- 028 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yamada M, Yasuda T, Elshair M* : B2 puncture with forward-viewing EUS simplifies EUS-guided hepaticogastrostomy (with video). *Endosc Ultrasound*, 11(4): 319-324, 2022.
- 029 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Fumihara D, Yanaidani T* : Clinical utility of endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for comprehensive genomic profiling of pancreatic cancer. *Clin Endosc*, 56(2): 221-228, 2023.
- 030 *Tobe Y, Uehara T, Nakajima T, Iwaya M, Kobayashi Y, Kinugawa Y, Kuraishi Y, Ota H* : LGR5-Expressing Cells in the Healing Process of Post-ESD Ulcers in Gastric Corpus. *Dig Dis Sci*, 67(6): 2134-2142, 2022.
- 031 *Ashihara N, Ota M, Fujinaga Y, Ozawa M, Kuraishi Y, Watanabe T, Hamano H, Joshita S, Kawa S, Umemura T* : The levels of IL-1 β and soluble IL-1 receptors in patients with IgG4-related periaortitis/periarteritis. *Adv Med Sci*, 67(2): 257-261, 2022.
- 032 *Umemura T, Fujinaga Y, Ashihara N, Ozawa M, Kuraishi Y, Watanabe T, Hamano H, Meguro A, Kawa S, Ota M* : IL1R1 gene variants associate with disease susceptibility to IgG4-related periaortitis/periarteritis in IgG4-related disease. *Gene*, 30;820:146212. doi: 10.1016, 2022.
- 033 *Itoh N, Akazawa N, Yanaidani T, Hosoda W, Mori M* : Vancomycin-induced linear IgA bullous dermatosis in a patient with cancer. *IDCases*, 22;31:e01671. doi: 10.1016/j.idcr, 2022.
- 034 *Itoh N, Akazawa N, Yanaidani T, Kuwahara T* : Clinical and microbiological features of intratumor abscess with bloodstream infection caused by *Plesiomonas shigelloides*, *Citrobacter freundii*, *Streptococcus mitis*/oralis, *Clostridium perfringens*, and *Candida albicans* in a patient with cholangiocarcinoma: A case report. *J Infect Chemother*, 28(12): 1677-1681, 2022.
- 035 *Yamada M, Hara K, Haba S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Kuraishi Y* : Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using a novel drill dilator. *Endoscopy*, 54(S02): e856-e857, 2022.
- 036 *Okuda A, Ogura T, Yamada M, Ueno S, Higuchi K* : Recanalization of a distorted duodenal metal stent using a fine-gauge electrocautery dilator. *Endoscopy*, 54(4): e146-e148, 2022.
- 037 *Yamamura M, Ogura T, Ueno S, Okuda A, Nishioka N, Yamada M, Ueshima K, Matsuno J, Yamamoto Y, Higuchi K* : Endoscopic bilateral revision after metal stent deployment for hepatic hilar obstruction using molting technique (with videos). *Therap Adv Gastroenterol*, 29;15:17562848211062803. doi: 10.1177, 2022.
- 038 *Yasuda T, Hara K, Haba S* : Dilation of pancreatic duct stenosis using a newly designed drill dilator. *Dig Endosc*, 34(4): e73-e74, 2022.
- 039 菅野 敦, 安田一朗, 入澤篤志, 原 和生, 蘆田玲子, 岩下拓司, 竹中 完, 湯沼朗生, 滝川哲也, 窪田賢輔, 加藤博也, 中井陽介, 良沢昭銘, 北野雅之, 伊佐山浩通, 鎌田英紀, 岡部義信, 花田敬士, 大坪公士郎, 土井晋平, 久居弘幸, 渋川悟朗, 今津博雄, 正宗 淳 : 日本の三次医療機関における組織学的診断のための超音波内視鏡下穿刺吸引法による有害事象 多施設共同後ろ向き研究. *Gastroenterological Endoscopy*, 64(7) : 1371-1385, 2022.
- 040 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 細田和貴, 原 和生 : 【膵癌の早期発見と治療方針】 早期膵癌が疑われる症例に対する外科治療. *消化器内科*, 4(7) : 71-76, 2022.
- 041 松本和也, 原 和生, 安田一朗, 糸井隆夫, 葉 裕貴, 松本慎平, 土井晋平, 本定三季, 武田洋平, 渋谷 仁, 野間久史, 磯本 一 : 超音波内視鏡下生検サンプル中の標的検体検索における標的検体確認照明器の有用性 (多施設共同前向き試験). *Gastroenterological Endoscopy*, 64(5) : 1158-1166, 2022.
- 042 原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 桑原崇通, 倉石康弘, 水野伸匡, 文原大貴, 柳井谷駿史, 石川 将, 安田 司,

- 山田真規：【エキスパートが教える最新胆膵内視鏡診断・治療】EUS関連手技 安全かつ容易にEUS-guided choledochoduodenostomyを行うコツ。胆と膵, 43(4)：361-366, 2022.
- 043 水野伸匡, 原 和生：【きほんのケアも, 患者指導のコツも, 最新知識も! 知りたいことだけサクサクわかる & 説明できる! 消化器がん化学療法・薬物療法 Q&A】化学療法・薬物療法とは?. 消化器ナーシング, 27(12)：1090-1092, 2022.
- 044 水野伸匡, 原 和生：【「膵癌診療ガイドライン2022」のエッセンス】治療 局所進行切除不能 (locally advanced) 膵癌に対する化学療法. 肝胆膵, 85(6)：817-821, 2022.
- 045 羽場 真, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 柳井谷駿史, 石川 将, 安田 司, 山田真規, 福井淑崇：【胆膵専門外来～エキスパートによる至極の指南書～】悪性疾患の発生を監視する経過観察外来 IPMN 以外の嚢胞性腫瘍. 胆と膵, 43 (特別号)：1473-1479, 2022.
- 046 桑原崇通, 原 和生：【AIが消化器疾患診療をどこまで変えるか】胆膵領域AIの現状と今後の展望. 日本消化器学会雑誌, 119(7)：610-625, 2022.
- 047 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 清水泰博：【胆膵疾患と最新テクノロジーの融合】胆膵疾患の診断とインターベンションにおけるAIの現状と展望. 胆と膵, 43(12)：1619-1624, 2022.
- 048 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ：【Ultrasonographic diagnosis of pancreatic diseases-This is all you need】膵腫瘍に対する超音波 elastography の現状. 超音波医学, 49(3)：275-282, 2022.
- 049 脇岡 範, 桑原崇通, 原 和生：【消化器診療を変える artificial intelligence (AI)～あなたは人工知能と機械学習と深層学習の違いを説明できる?～】IPMNの悪性度予測におけるAI/機械学習の有用性. 消化器病学サイエンス, 6(2)：110-113, 2022.
- 050 大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋, 山口 類：【肝胆膵疾患とサルコペニア】概論 人工知能AIを用いた骨格筋量の評価. 肝胆膵, 85(2)：153-158, 2022.
- 051 奥野のぞみ, 柳井谷駿史, 原 和生：胆道癌のゲノムプロファイリングにおけるEUS-guided tissue acquisition. Gastroenterological Endoscopy, 64(8)：1439-1447, 2022.
- 052 奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 倉石康弘, 文原大貴, 柳井谷駿史, 石川 将, 安田 司, 山田真規, 原 和生：【EUS-guided tissue acquisition (EUS-TA)の新たなエビデンス】ゲノム診療におけるEUS-TAの実際. 消化器・肝臓内科, 11(5)：543-552, 2022.
- 053 南澤昌郁, 大工原誠一, 大野和幸, 倉石康弘, 伊東哲宏, 平山敦大, 長屋匡信, 太田浩良, 菅 智明, 田中榮司：Helicobacter pylori除菌後に増大した胃底腺ポリープに腺癌が発生した1例. Gastroenterological Endoscopy, 64(9)：1550-1556, 2022.
- 054 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生：【胆・膵領域癌にお

- けるゲノム医療の現状】胆道癌領域の包括的がんゲノムプロファイリングの現状. 胆と膵, 43(6)：531-536, 2022.
- 055 山田真規, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真, 水野伸匡, 原 和生：【胆膵EUSのトラブルシューティング】診断的EUS/EUS-FNA EUS-FNA 遺伝子パネル検査ができない. 消化器内視鏡, 34(12)：1962-1964, 2022.
- 056 小倉 健, 西岡 伸, 奥田 篤, 植野紗緒理, 宮野 亮, 山田真規, 松野 潤, 山本嘉太郎, 右馬悠輝：【胆膵専門外来～エキスパートによる至極の指南書～】Intervention後のフォローアップ外来 EUS-BD, EUS-PD後の外来管理. 胆と膵, 43 (特別号)：1455-1460, 2022.
- 057 小倉 健, 西岡 伸, 奥田 篤, 植野紗緒理, 山田真規, 松野 潤, 上嶋一也, 山本嘉太郎, 西口恭平, 樋口和秀：【エキスパートが教える最新胆膵内視鏡診断・治療】EUS関連手技 EUS-guided gallbladder drainageのコツとトラブルシューティング【動画付】. 胆と膵, 43(4)：375-381, 2022.

内視鏡部

- 001 Suzuki H, Ono H, Hirasawa T, Takeuchi Y, Ishido K, Hoteya S, Yano T, Tanaka S, Toya Y, Nakagawa M, Toyonaga T, Takemura K, Hirasawa K, Matsuda M, Yamamoto H, Tsuji Y, Hashimoto S, Yuki M, Oyama T, Takenaka R, Yamamoto Y, Naito Y, Yamamoto K, Kobayashi N, Kawahara Y, Hirano M, Koizumi S, Hori S, Tajika M, Hikichi T, Yao K, Yokoi C, Ohnita K, Hisanaga Y, Sumiyoshi T, Kitamura S, Tanaka H, Shimoda R, Shimazu T, Takizawa K, Tanabe S, Kondo H, Iishi H, Ninomiya M, Oda I; J-WEB/EGC group : Long-term survival after endoscopic resection for gastric cancer: Real-world evidence from a multicenter prospective cohort. Clin Gastroenterol Hepatol, 21(2)：307-318, 2022.
- 002 Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yamada M, Yasuda T, Elshair M : B2 puncture with forward-viewing EUS simplifies EUS-guided hepaticogastrostomy (with video). Endosc Ultrasound, 11(4)：319-24, 2022.
- 003 Tajika M, Tanaka T, Oonishi S, Yamada K, Kamiya T, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Kuraishi Y, Ouchi A, Sato Y, Kinoshita T, Komori K, Hara K, Hosoda W, Niwa Y : Endoscopic Management of Adenomas in the Ileal Pouch and the Rectal Remnant after Surgical Treatment in Familial Adenomatous Polyposis. J Clin Med, 11(12)：3562, 2022.
- 004 Sekiguchi M, Hotta K, Takeuchi Y, Tanaka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Kobara H, Kashida

- H, Miyanaga R, Kato S, Hayashi Y, Sada M, Fukuzawa M, Kato H, Takayama T, Konishi J, Matsushita HO, Narasaka T, Ohata K, Togashi K, Nakamura H, Moriichi K, Oda Y, Kanda N, Kuwai T, Terai S, Sanomura M, Kitamura S, Miyamoto H, Kiriyama S, Mizuno C, Saito Y, Sekine S, Ito S, Nakahira H, Oka S, Hayashi Y, Yoshimura K, Ishikawa H, Matsuda T; **C-NET STUDY Group** : Characteristics of colorectal neuroendocrine tumors in patients prospectively enrolled in a Japanese multicenter study: a first report from the C-NET STUDY. *J Gastroenterol*, 57(8): 547-558, 2022.
- 005 **Shah MA, Kojima T, Hochhauser D, Enzinger P, Raimbourg J, Hollebecque A, Lordick F, Kim SB, Tajika M, Lockhart AC, Arkenau HT, El-Hajbi F, Gupta M, Pfeiffer P, Bhagia P, Cao ZA, Lunceford J, Suryawanshi S, Ayers M, J Marton M, Kato K** : T cell-inflamed gene expression profile and PD-L1 expression and pembrolizumab efficacy in advanced esophageal cancer. *Future Oncol* : doi: 10.2217/fo-2021-1134, 2022.
- 006 **Yoshio T, Minashi K, Mizusawa J, Morita Y, Tajika M, Fujiwara J, Yamamoto Y, Katada C, Hori S, Yano T, Takizawa K, Fukuda H, Muto M** : Effect of chemoradiation on the development of second primary cancers after endoscopic resection of T1 esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 19(3): 469-476, 2022.
- 007 **Matsubara Y, Masuishi T, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Impact of omitting fluorouracil from FOLFIRI plus bevacizumab as second-line chemotherapy for patients with metastatic colorectal cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*. 149(3) : 1123-1129, 2023.
- 008 **Nihei K, Minashi K, Yano T, Shimoda T, Fukuda H, Muto M, JCOG-GIESG Investigators** : Final Analysis of Diagnostic Endoscopic Resection Followed by Selective Chemoradiotherapy for Stage I Esophageal Cancer : JCOG0508. *Gastroenterology*, 164(2): 296-299, 2023.
- 009 **Yoshida M, Takizawa K, Hasuike N, Ono H, Boku N, Kadota T, Mizusawa J, Oda I, Yoshida N, Horiuchi Y, Hirasawa K, Morita Y, Yamamoto Y, Muto M; : Gastrointestinal Endoscopy Group of the Japan Clinical Oncology Group** : Second gastric cancer after curative endoscopic resection of differentiated-type early gastric cancer : post-hoc analysis of a single-arm confirmatory trial. *Gastrointest Endosc*, 95(4): 650-659, 2022.
- 010 **Mure K, Ishikawa H, Mutoh M, Horinaka M, Otani T, Suzuki S, Wakabayashi K, Sakai T; J-FAPP Study IV group** : Efficacy of Low-Dose Aspirin in Colorectal Cancer Risk Prevention is Dependent on ADH1B and ALDH2 Genotype in Japanese Familial Adenomatous Polyposis Patients. *Cancer Res Commun*, 2(6): 483-488, 2022.
- 011 **Tanaka T, Tajika M, Onishi S, Yamada K, Kamiya T, Hosoda W, Niwa Y** : A rare case of a superficial squamous cell carcinoma (so-called cloacogenic carcinoma) of the rectum. *Clin J Gastroenterol*, 16(1): 48-53, 2023.
- 012 **Usui Y, Taniyama Y, Endo M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Oze I, Ito H, Imoto I, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Iwasaki Y, Aoi T, Hakozaki N, Takata S, Suzuki K, Terao C, Hatakeyama M, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Kamatani Y, Nakagawa H, Matsuda K, Murakami Y, Spurdle AB, Matsuo K, Momozawa Y** : *Helicobacter pylori*, Homologous-Recombination Genes, and Gastric Cancer. *N Engl J Med*, 388(13): 1181-1190, 2023.
- 013 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Tanaka T, Tajika M, Yamaura H, Inaba Y, Shimizu Y** : Retrograde ureteric stenting and ileus tube insertion for a safer reoperation after pelvic exenteration: a case report. *Clin J Gastroenterol*, 15(3): 582-585, 2022.
- 014 **Yamada K, Tajika M, Niwa Y** : Case of superficial esophageal cancer resected by modified gel immersion endoscopic submucosal dissection technique. *Dig Endosc*, 34(6): e124-e125, 2022.
- 015 **Yamada K, Tajika M, Tanaka T, Oonishi S, Kamiya T, Niwa Y** : Radial incision and cutting under gel immersion as a useful method for refractory anastomotic stricture. *Endoscopy*, 54(S02): e832-e833, 2022.
- 016 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Kuraishi Y, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Onishi S, Yamada K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamaguchi R, Shimizu Y** : Artificial intelligence using deep learning analysis of endoscopic ultrasonography images for the differential diagnosis of pancreatic masses. *Endoscopy*, 55(2): 140-149, 2023.
- 017 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Natsume S, Shimizu Y, Niwa Y** : Juvenile Hepatocellular Carcinoma in a Healthy Liver. *Intern Med*, 61(10): 1531-1536, 2022.
- 018 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Natsume S, Shimizu Y, Niwa Y** : Erratum for Juvenile Hepatocellular Carcinoma in a Healthy Liver.. *Intern Med*, 61(13): 2097, 2022.
- 019 **田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 田近正洋** : 【食道疾患の診療】 食道癌の診療 食道癌の X 線, CT, PET による診断. *臨床消化器内科*, 37(9) : 1079-1083, 2022.
- 020 **小森康司, 田中 努, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博** : 骨盤内臓器全摘術後, 尿管回腸吻合部狭窄による尿路感染に対し, 経回腸導管的に逆行性内視鏡による尿管ステント挿入を施行した 1 例. *日本腹部救急医学会雑誌*, 42(2) : 289, 2022.
- 021 **小森康司, 田中 努, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博** : 骨盤内臓器全摘術後の高クロール性代謝性アシドーシスに対し, 経回腸導管的に逆行性内視鏡による尿管ステント挿入が有効であった 1 例. *日本腹部救急医学会雑誌*, 43(2) : 585, 2023.
- 022 **大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋, 山口 類** : 【肝胆脾疾患とサルコペニア】 概論 人工知能 AI を用いた骨格筋量

の評価. 肝胆膵, 85(2) : 153-158, 2022.

- 023 大西祥代, 室 圭 : 【がん化学療法・放射線療法と栄養サポート 自宅でかんたんに調理できる副作用対策おいしいレシピ】化学療法の適応・治療・副作用・栄養療法. Nutrition Care, 15(7) : 612-615, 2022.

呼吸器内科部

- 001 Shimomura K, Yamaguchi T, Oya Y, Uchida K, Murotani K : Impact of Corticosteroids for IrAEs on the Clinical Outcome of Immunotherapy in Patients With NSCLC. Anticancer Research, Dec; 42(12): 5961-5969, 2022.
- 002 Hasegawa T, Okuyama T, Uemura T, Matsuda Y, Otani H, Shimizu J, Horio Y, Watanabe N, Yamaguchi T, Fukuda S, Oguri T, Maeno K, Tamiya A, Nosaki K, Fukumitsu K, Akechi T : Prognostic Awareness and Discussions of Incurability in Patients with Pretreated Non-Small Cell Lung Cancer and Caregivers: A Prospective Cohort Study. Oncologist, Nov 3; 27(11): 982-990, 2022.
- 003 Watanabe N, Horio Y, Fujiwara Y : Emerging therapies for non-small cell lung cancer harboring EGFR exon 20 insertion mutations: narrative review. Ann Transl Med, Dec; 10(23): 1283, 2022.
- 004 Kitano S, Fujiwara Y, Shimizu T, Iwasa S, Yonemori K, Kondo S, Shimomura A, Koyama T, Ebata T, Ikezawa H, Hayata N, Minoshima Y, Miura T, Kubota T, Yamamoto N : A feasibility study of lenvatinib plus pembrolizumab in Japanese patients with advanced solid tumors. Cancer Chemother Pharmacol, Dec; 90(6): 523-529, 2022.
- 005 Okumura M, Nakano E, Namikawa K, Takahashi A, Fujiwara Y, Yamazaki N : Efficacy of surgery for skin cancers initially suspected to be carcinoma of unknown primary: a retrospective observational study. Int J Dermatol, Apr; 61(4): e150-e152, 2022.
- 006 Sato J, Shimizu T, Koyama T, Iwasa S, Shimomura A, Kondo S, Kitano S, Yonemori K, Fujiwara Y, Tamura K, Suzuki T, Takase T, Nagai R, Yamaguchi K, Semba T, Zhao ZM, Ren M, Yamamoto N : Dose Escalation Data from the Phase 1 Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) in Japanese Patients with Advanced Solid Tumors. Clin Cancer Reseach, May 2; 28(9): 1783-1791, 2022.
- 007 Inaba Y, Hijioka S, Iwama I, Asai T, Miyamura H, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Sato Y, Yamaura H, Onaya H, Shimizu J, Hara K : Clinical usefulness of Somatostatin Receptor Scintigraphy in the Diagnosis of Neuroendocrine Neoplasms. Asia Ocean J Nucl Med Biol, Winter; 10(1): 1-13, 2022.
- 008 Matsuzawa R, Morise M, Tanaka I, Hayai S, Tamiya Y, Koyama J, Hase T, Wakahara K, Kim D, Shimoyama Y, Hashimoto N : Amelanotic Malignant Melanoma with a BRAF V600E Mutation Mimicking Primary Lung Cancer. Intern Med, Mar 1; 61(5): 703-708, 2022.
- 009 Fujiwara Y, Takahashi Y, Okada M, Kishimoto T, Kondo S, Fujikawa K, Hayama M, Sugeno M, Ueda S, Komuro K, Lanasa M, Nakano T : Phase I Study of Tremelimumab Monotherapy or in Combination With Durvalumab in Japanese Patients With Advanced Solid Tumors or Malignant Mesothelioma. Oncologist, Sep 2; 27(9): e703-e722, 2022.
- 010 Higashiyama RI, Horinouchi H, Kuchiba A, Matsumoto Y, Murakami S, Goto Y, Kanda S, Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y : Non-specific symptoms as a prodrome of immune-related adverse events in patients with non-small cell lung cancer receiving nivolumab: a consecutive analysis of 200 patients. J Cancer Res Clin Oncol, Jul; 149(7): 3185-3191, 2022.
- 011 Hibino H, Sakiyama N, Makino Y, Makihara-Ando R, Horinouchi H, Fujiwara Y, Kanda S, Goto Y, Yoshida T, Okuma Y, Shinno Y, Murakami S, Hashimoto H, Akiyoshi T, Imaoka A, Ohe Y, Yamaguchi M, Ohtani H : Evaluation of hepatic CYP3A enzyme activity using endogenous markers in lung cancer patients treated with cisplatin, dexamethasone, and aprepitant. Eur J Clin Pharmacol, Apr; 78(4): 613-621, 2022.
- 012 Seto K, Shimizu J, Masago K, Araki M, Katayama R, Sagae Y, Fujita S, Horio Y, Sasaki E, Kuroda H, Okubo K, Okuno Y, Hida T : Sensitivity to dabrafenib and trametinib treatments in patients with non-small-cell cancer harboring BRAF compound mutations: A pooled analysis of BRAF p.V600E-positive advanced non-small-cell lung cancer. Cancer Genet, Aug; 266-267: 1-6, 2022.
- 013 Okachi S, Sakurai M, Matsui T, Ito T, Matsuzawa R, Morise M, Wakahara K, Ishii M, Fujiwara M : The Application of Mixed Reality in Bronchoscopy Simulation Training: A Feasibility Study. Surg Innov, Mar 1: 15533506231160201, 2023.
- 014 Matsuzawa R, Morise M, Kinoshita F, Tanaka I, Koyama J, Kimura T, Kondoh Y, Tanaka T, Shima K, Hase T, Wakahara K, Ishii M, Hashimoto N : Non-invasive early prediction of immune checkpoint inhibitor efficacy in non-small-cell lung cancer patients using on-treatment serum CRP and NLR. J Cancer Res Clin Oncol, Jul; 149(7): 3885-3893, 2023.
- 015 Iwasa S, Koyama T, Nishino M, Kondo S, Sudo K, Yonemori K, Yoshida T, Tamura K, Shimizu T, Fujiwara Y, Kitano S, Shimomura A, Sato J, Yokoyama F, Iida H, Kondo M, Yamamoto N : First-in-human study of ONO-4578, an antagonist of prostaglandin E2 receptor 4, alone and with nivolumab in solid tumors. Cancer Science, 114 巻1 号 P211-220, 2023.
- 016 Fujiwara Y, Makihara R, Hase T, Hashimoto N, Naito T, Tsubata Y, Okuno T, Takahashi T, Kobayashi H, Shinno Y, Zenke Y, Ikeda T, Hosomi Y, Watanabe K, Kitazono S,

Sakiyama N, Makino Y, Yamamoto N : pharmacokinetic and dose-finding study of osimertinib in patients with impaired renal function and low body weight. *Cancer Sci*, May; 114(5): 2087-2097, 2023.

- 017 児玉絃幸, 藤原 豊 : Oncologic emergency. 腫瘍内科, 31 巻 2 号 P221-225, 2023.
- 018 篠原由佳, 伊藤貴康, 岡地祥太郎, 下山芳江, 福谷衣里子, 松澤令子, 森瀬昌宏, 若原恵子, 石井 誠 : EBUS-GS TBBに加えてPeriView FLEXを用いたGS-TBNAが肺放線菌症の診断に有用であった1例. 気管支学, 45 巻 1 号 P37-42, 2023.

薬物療法部

- 001 *Kajimoto Y, Shibutani T, Nagao S, Yamaguchi S, Suzuki S, Mori M, Tsubouchi H, Nakao K, Azuma A, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Honda K, Igarashi A* : Validity of the COMprehensive Score for financial Toxicity (COST) in patients with gynecologic cancer. *Int J Gynecol Cancer*, ijgc-2022-003410, 2022.
- 002 *Miyo M, Kato T, Nakamura Y, Taniguchi H, Takahashi Y, Ishii M, Okita K, Ando K, Yukami H, Mishima S, Yamazaki K, Kotaka M, Watanabe J, Oba K, Aleshin A, Billings PR, Rabinowitz M, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Mori M, Yoshino T* : DENEb : Development of new criteria for curability after local excision of pathological T1 colorectal cancer using liquid biopsy. *Cancer Sci*, 113(4): 1531-1534, 2022.
- 003 *Bando H, Nakamura Y, Taniguchi H, Shiozawa M, Yasui H, Esaki T, Kagawa Y, Denda T, Satoh T, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Goto M, Yuki S, Nishina T, Oki E, Shinozaki E, Matsuhashi N, Takahashi N, Tsuji A, Ohtsubo K, Wakabayashi M, Ikeno T, Hata M, Odegaard JI, Yoshino T* : Effects of Metastatic Sites on Circulating Tumor DNA in Patients With Metastatic Colorectal Cancer. *JCO Precis Oncol*, 6: e2100535, 2022.
- 004 *Naito T, Uchino J, Kojima T, Matano Y, Minato K, Tanaka K, Mizukami T, Atagi S, Higashiguchi T, Muro K, Takayama K, Furuse J, Morishima E, Takiguchi T, Tamura K* : A multicenter, open-label, single-arm study of anamorelin (ONO-7643) in patients with cancer cachexia and low body mass index. *Cancer*, 128(10): 2025-2035, 2022.
- 005 *Hasegawa H, Shitara K, Takiguchi S, Takiguchi N, Ito S, Kochi M, Horinouchi H, Kinoshita T, Yoshikawa T, Muro K, Nishikawa H, Suna H, Kodera Y* : A multicenter, open-label, single-arm phase I trial of neoadjuvant nivolumab monotherapy for resectable gastric cancer. *Gastric Cancer*, 25(3): 619-628, 2022.
- 006 *Kikuchi K, Yamazaki N, Nozawa K, Fukuda H, Shibata T, Machida R, Hamaguchi T, Takashima A, Shoji H, Boku N, Takatsuka S, Takenouchi T, Nishina T, Yoshikawa S, Takahashi M, Hasegawa A, Kawazoe A, Masuishi T, Mizutani*

H, Kiyohara Y : Topical corticosteroid therapy for facial acneiform eruption due to EGFR inhibitors in metastatic colorectal cancer patients: a randomized controlled trial comparing starting with a very strong or a weak topical corticosteroid (FAEISS study, NCCH1512, colorectal part). *Support Care Cancer*, 30(5): 4497-4504, 2022.

- 007 *Matsumura M, Hasegawa K, Oba M, Yamaguchi K, Uetake H, Yoshino T, Morita S, Takahashi K, Unno M, Shimada Y, Muro K, Matsuhashi N, Mori M, Baba H, Shimada M, Mise Y, Kawaguchi Y, Kagimura T, Ishigure K, Saiura A, Sugihara K, Kokudo N* : A randomized controlled trial of surgery and postoperative modified FOLFOX6 versus surgery and perioperative modified FOLFOX6 plus cetuximab in patients with KRAS wild-type resectable colorectal liver metastases: EXPERT study. *Langenbecks Arch Surg*, 407(4): 1345-1356, 2022.
- 008 *Akazawa N, Itoh N, Ando M* : A man with fever and aortitis. *Eur J Intern Med*, 100: 123-124, 2022.
- 009 *Kawakami T, Masuishi T, Kawamoto Y, Go H, Kato K, Kumanishi R, Sawada K, Yuki S, Yamamoto K, Komatsu Y, Muro K, Fushiki K, Shirasu H, Yamazaki K* : The survival benefit of increasing the number of active drugs for metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective study. *Cancer Med*, 11(11): 2184-2192, 2022.
- 010 *Janjigian YY, Van Cutsem E, Muro K, Wainberg Z, Al-Batran SE, Hyung WJ, Molena D, Marcovitz M, Ruscica D, Robbins SH, Negro A, Tabernero J* : MATTERHORN: phase III study of durvalumab plus FLOT chemotherapy in resectable gastric/gastroesophageal junction cancer. *Future Oncol*, 18(20): 2465-2473, 2022.
- 011 *Ooki A, Satoh T, Muro K, Takashima A, Kadowaki S, Sakai D, Ichimura T, Mitani S, Kudo T, Chin K, Kitano S, Thai D, Zavadovskaya M, Liu J, Boku N, Yamaguchi K* : A phase 1b study of andecaliximab in combination with S-1 plus platinum in Japanese patients with gastric adenocarcinoma. *Sci Rep*, 12(1): 11007, 2022.
- 012 *Matsumura M, Hasegawa K, Oba M, Yamaguchi K, Uetake H, Yoshino T, Morita S, Takahashi K, Unno M, Shimada Y, Muro K, Matsuhashi N, Mori M, Baba H, Shimada M, Mise Y, Kawaguchi Y, Kagimura T, Ishigure K, Saiura A, Sugihara K, Kokudo N* : A randomized controlled trial of surgery and postoperative modified FOLFOX6 versus surgery and perioperative modified FOLFOX6 plus cetuximab in patients with KRAS wild-type resectable colorectal liver metastases: EXPERT study. *Langenbecks Arch Surg*, 407(4): 1345-1356, 2022.
- 013 *Fujii S, Kotani D, Hattori M, Nishihara M, Shikanai T, Hashimoto J, Hama Y, Nishino T, Suzuki M, Yoshidumi A, Ueno M, Komatsu Y, Masuishi T, Hara H, Esaki T, Nakamura Y, Bando H, Yamada T, Yoshino T* : Rapid Screening Using Pathomorphologic Interpretation to Detect BRAFV600E Mutation and Microsatellite Instability in Colorectal

- Cancer. Clin Cancer Res, 28(12): 2623-2632, 2022.
- 014 **Itoh N, Akazawa N, Ishibana Y, Masuishi T, Nakata A, Murakami H** : Clinical and microbiological features of obstructive cholangitis with bloodstream infection caused by *Pandora* apista identified by MALDI-TOF mass spectrometry and ribosomal RNA sequencing in a cancer patient. BMC Infect Dis, 22(1): 529, 2022.
- 015 **Sundar R, Huang KK, Kumar V, Ramnarayanan K, Demircioglu D, Her Z, Ong X, Bin Adam Isa ZF, Xing M, Tan AL, Tai DWM, Choo SP, Zhai W, Lim JQ, Das Thakur M, Molinero L, Cha E, Fasso M, Niger M, Pietrantonio F, Lee J, Jeyasekharan AD, Qamra A, Patnala R, Fabritius A, De Simone M, Yeong J, Ng CCY, Rha SY, Narita Y, Muro K, Guo YA, Skanderup AJ, So JBY, Yong WP, Chen Q, Göke J, Tan P** : Epigenetic promoter alterations in GI tumour immune-editing and resistance to immune checkpoint inhibition. Gut, 71(7): 1277-1288, 2022.
- 016 **Shah MA, Shitara K, Lordick F, Bang YJ, Tebbutt NC, Metges JP, Muro K, Lee KW, Shen L, Tjulandin S, Hays JL, Starling N, Xu RH, Sturtz K, Fontaine M, Oh C, Brooks EM, Xu B, Li W, Li CJ, Borodyansky L, Van Cutsem E** : Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Phase III Study of Paclitaxel ± Napabucasin in Pretreated Advanced Gastric or Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma. Clin Cancer Res, 14: OF1-OF9, 2022.
- 017 **Mitani S, Kato K, Daiko H, Ito Y, Nozaki I, Kojima T, Yano M, Nakagawa S, Ueno M, Watanabe M, Tsunoda S, Abe T, Kadowaki S, Kadota T, Sasaki K, Machida R, Kitagawa Y** : Second primary malignancies in patients with clinical T1bN0 esophageal squamous cell carcinoma after definitive therapies: supplementary analysis of the JCOG trial: JCOG0502. J Gastroenterol, 57(7): 455-463, 2022.
- 018 **Aritake T, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Nakamura R, Takanari K, Taniguchi H, Muro K, Kato S, Abe T, Ito S, Shimizu Y** : Colon cancer with extensive invasion of the abdominal wall treated with neoadjuvant chemotherapy and a free anterolateral thigh flap. Surg Case Rep, 8(1): 159, 2022.
- 019 **Okada M, Kato K, Cho BC, Takahashi M, Lin CY, Chin K, Kadowaki S, Ahn MJ, Hamamoto Y, Doki Y, Yen CC, Kubota Y, Kim SB, Hsu CH, Holtved E, Xynos I, Matsumura Y, Takazawa A, Kitagawa Y** : Three-year follow-up and response-survival relationship of nivolumab in previously treated patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma (ATTRACTION-3). Clin Cancer Res, 28(15): 3277-3286, 2022.
- 020 **Pavlikis N, Tincknell G, Lim LE, Muro K, Obermannova R, Lorenzen S, Chua YJ, Jackson C, Karapetis CS, Price T, Chantrill L, Segelov E, Lordick F** : European-Australasian consensus on the management of advanced gastric and gastro-oesophageal junction cancer: current practice and new directions. Ther Adv Med Oncol, 14, 2022.
- 021 **Hino K, Nishina T, Kajiwara T, Bando H, Nakamura M, Kadowaki S, Minashi K, Yuki S, Ohta T, Hara H, Mizukami T, Moriwaki T, Ohtsubo K, Komoda M, Mitani S, Nagashima F, Kato K, Yamada T, Hasegawa H, Yamazaki K, Yoshino T, Hyodo I** : Association of ERBB2 Copy Number and Gene Coalterations With Trastuzumab Efficacy and Resistance in Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Esophagogastric and Gastric Cancer. JCO Precis Oncol, 6: e2200135, 2022.
- 022 **Masuishi T, Nagaoka S, Jin L, Yoshizawa K** : A post-marketing safety study of ramucirumab with FOLFIRI in patients with metastatic colorectal cancer. J Gastrointest Oncol, 13(4): 1701-1710, 2022.
- 023 **Ogata T, Muro K** : [III. A New Era of Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer]. Gan To Kagaku Ryoho, 49(9): 942-946, 2022.
- 024 **Takahashi T, Ishida K, Emi Y, Sakamoto M, Imura J, Aishima S, Muro K, Uetake H, Oki E, Katayose Y, Yoshida K, Unno M, Hyodo I, Tomita N, Sugihara K, Maehara Y** : Pathological Evaluation of Resected Colorectal Liver Metastases: mFOLFOX6 Plus Bevacizumab versus mFOLFOX6 Plus Cetuximab in the Phase II ATOM Trial. Cancers (Basel), 14(18): 4392, 2022.
- 025 **Kojima T, Hara H, Tsuji A, Yasui H, Muro K, Satoh T, Ogata T, Ishihara R, Goto M, Baba H, Nishina T, Han S, Sakata T, Yatsuzuka N, Doi T, Kato K** : First-line pembrolizumab + chemotherapy in Japanese patients with advanced/metastatic esophageal cancer from KEYNOTE-590. Esophagus, 19(4): 683-692, 2022.
- 026 **Kojima T, Kato K, Hara H, Takahashi S, Muro K, Nishina T, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Ohtsu A, Doi T** : Phase II study of BKM120 in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma (EPOC1303). Esophagus, 19(4): 702-710, 2022.
- 027 **Sakai SA, Aoshima M, Sawada K, Horasawa S, Yoshikawa A, Fujisawa T, Kadowaki S, Denda T, Matsushashi N, Yasui H, Goto M, Yamazaki K, Komatsu Y, Nakanishi R, Nakamura Y, Bando H, Hamaya Y, Kageyama SI, Yoshino T, Tsuchihara K, Yamashita R** : Fecal microbiota in patients with a stoma decreases anaerobic bacteria and alters taxonomic and functional diversities. Front Cell Infect Microbiol, 12: 925444, 2022.
- 028 **Nagai S, Nishihara H, Suzuki T, Nishio K, Taniguchi H, Tsuchihara K, Nakamura K, Takamatsu R, Ueno T, Aburatani H, Kohno T, Kohsaka S** : Recommendations related to the analytical equivalence assessment of gene panel testing. Cancer Sci, 113(10): 3282-3290, 2022.
- 029 **Kajiwara T, Nishina T, Nakasya A, Yamashita N, Yamashita R, Nakamura Y, Shiozawa M, Yuki S, Taniguchi H, Hara H, Ohta T, Esaki T, Shinozaki E, Takashima A, Moriwaki T, Denda T, Ohtsubo K, Sunakawa Y, Horita Y, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Ando K, Mizutani T, Yasui H, Goto M,**

- Okuyama H, Yamazaki K, Yoshino T, Hyodo I** : NOTCH gene alterations in metastatic colorectal cancer in the Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan (SCRUM-Japan GI-SCREEN). *J Cancer Res Clin Oncol*, 148(10): 2841-2854, 2022.
- 030 **Kakeji Y, Ishikawa T, Suzuki S, Akazawa K, Irino T, Miyashiro I, Ono H, Suzuki H, Tanabe S, Kadowaki S, Muro K, Fukagawa T, Nunobe S, Wada T, Katai H, Kodera Y; Registration Committee of the Japanese Gastric Cancer Association** : A retrospective 5-year survival analysis of surgically resected gastric cancer cases from the Japanese Gastric Cancer Association nationwide registry (2001-2013). *Gastric Cancer*, 25(6): 1082-1093, 2022.
- 031 **Pfeiffer P, Lustberg M, Näsström J, Carlsson S, Persson A, Nagahama F, Cavaletti G, Glimelius B, Muro K** : Calmangafodipir for Prevention of Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy: Two Placebo-Controlled, Randomized Phase 3 Studies (POLAR-A/POLAR-M). *JNCI Cancer Spectr*, 6(6): pkac075, 2022.
- 032 **Muro K** : [Lower G. I./Colon and Rectum Cancer Recent Topics in Metastatic Colorectal Cancer] . *Gan To Kagaku Ryoho*, 49 (11):1205-1206,2022.
- 033 **Akazawa N, Itoh N, Morioka H, Ogata T, Ishibana Y, Murakami H, Narita Y** : Cholangitis with Sphingobacterium multivorum and Acinetobacter junii bacteremia in a patient with gastric cancer: A case report. *J Infect Chemother*, 28(10): 1419-1423, 2022.10
- 034 **Kajimoto Y, Honda K, Nozawa K, Mukai M, Teng L, Igarashi A** : Use of Anticancer Therapies and Economic Burden Near the End of Life in Japan: Results From Claims Database. *JCO Glob Oncol*, e2200227, 2022.
- 035 **Kakeji Y, Ishikawa T, Suzuki S, Akazawa K, Irino T, Miyashiro I, Ono H, Suzuki H, Tanabe S, Kadowaki S, Muro K, Fukagawa T, Nunobe S, Wada T, Katai H, Kodera Y; Registration Committee of the Japanese Gastric Cancer Association** : A retrospective 5-year survival analysis of surgically resected gastric cancer cases from the Japanese Gastric Cancer Association nationwide registry (2001-2013). *Gastric Cancer*, 25(6): 1082-1093, 2022.
- 036 **Muro K** : [Lower G. I./Colon and Rectum Cancer Recent Topics in Metastatic Colorectal Cancer]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 49(11): 1205-1206, 2022.
- 037 **Taniguchi H** : [A Decentralized Clinical Trial (DCT) Model in Oncology]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 49(11): 1225-1228, 2022.
- 038 **Shimozaki K, Hirata K, Sato T, Nakamura M, Kato K, Hirano H, Kumekawa Y, Hino K, Kawakami K, Kito Y, Matsumoto T, Kawakami T, Komoda M, Nagashima K, Sato Y, Yamazaki K, Hironaka S, Takaishi H, Hamamoto Y, Muro K** : WJOG13219G: The Efficacy and Safety of FOLFOXIRI or Doublet plus Anti-VEGF Therapy in Previously Untreated BRAFV600E Mutant Metastatic Colorectal Cancer: A Multi-Institutional Registry-Based Study (BRACELET Study). *Clin Colorectal Cancer*, 21(4): 339-346, 2022.
- 039 **Nakagawa K, Sho M, Fujishiro M, Kakushima N, Horimatsu T, Okada KI, Iguchi M, Uraoka T, Kato M, Yamamoto Y, Aoyama T, Akahori T, Eguchi H, Kanaji S, Kanetaka K, Kuroda S, Nagakawa Y, Nunobe S, Higuchi R, Fujii T, Yamashita H, Yamada S, Narita Y, Honma Y, Muro K, Ushiku T, Ejima Y, Yamaue H, Kodera Y** : Clinical practice guidelines for duodenal cancer 2021. *J Gastroenterol*, 57 (12): 927-941, 2022.
- 040 **Nakagawa K, Sho M, Fujishiro M, Kakushima N, Horimatsu T, Okada KI, Iguchi M, Uraoka T, Kato M, Yamamoto Y, Aoyama T, Akahori T, Eguchi H, Kanaji S, Kanetaka K, Kuroda S, Nagakawa Y, Nunobe S, Higuchi R, Fujii T, Yamashita H, Yamada S, Narita Y, Honma Y, Muro K, Ushiku T, Ejima Y, Yamaue H, Kodera Y** : Clinical practice guidelines for duodenal cancer 2021. *J Gastroenterol*, 57 (12): 927-941, 2022.
- 041 **Shimozaki K, Hirata K, Sato T, Nakamura M, Kato K, Hirano H, Kumekawa Y, Hino K, Kawakami K, Kito Y, Matsumoto T, Kawakami T, Komoda M, Nagashima K, Sato Y, Yamazaki K, Hironaka S, Takaishi H, Hamamoto Y, Muro K** : WJOG13219G: The Efficacy and Safety of FOLFOXIRI or Doublet plus Anti-VEGF Therapy in Previously Untreated BRAFV600E Mutant Metastatic Colorectal Cancer: A Multi-Institutional Registry-Based Study (BRACELET Study). *Clin Colorectal Cancer*, (4): 339-346, 2022.
- 042 **Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Miyazaki T, Morita M, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H; Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society** : Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2015. *Esophagus*, 20(1): 1-28, 2023.
- 043 **Aoki M, Kadowaki S, Takahashi N, Suzuki T, Oshima K, Ando T, Yamamoto Y, Kawakami K, Kito Y, Matsumoto T, Shimozaki K, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Nagase M, Tamura T, Amanuma Y, Esaki T, Miura Y, Akiyoshi K, Baba E, Makiyama A, Negoro Y, Nakashima K, Sugimoto N, Nagashima K, Shoji H, Boku N** : Pattern of disease progression during third-line or later chemotherapy with nivolumab associated with poor prognosis in advanced gastric cancer: a multicenter retrospective study in Japan. *Gastric Cancer*, 26(1): 132-144, 2023.
- 044 **Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Miyazaki T, Morita M, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H** : Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2015.Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan

- Esophageal Society. *Esophagus*, 20(1): 1-28, 2023.
- 045 **Narita Y, Muro K** : [Discrepancy in Gastric Cancer Chemotherapy between the Asia and West] . *Gan To Kagaku Ryoho*, 50(1): 23-29, 2023.
- 046 **Kotani D, Oki E, Nakamura Y, Yukami H, Mishima S, Bando H, Shirasu H, Yamazaki K, Watanabe J, Kotaka M, Hirata K, Akazawa N, Kataoka K, Sharma S, Aushev VN, Aleshin A, Misumi T, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T** : Molecular residual disease and efficacy of adjuvant chemotherapy in patients with colorectal cancer. *Nat Med*, 29(1): 127-134, 2023.
- 047 **Muro K** : [The Intention of Planning a Special Feature on "Where We Are Now, What the Problems Are, and Where We Are Going with Our Country's Medical Practice Guidelines"]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 50(2): 134, 2023.
- 048 **Sakamoto Y, Bando H, Nakamura Y, Hasegawa H, Kuwaki T, Okamoto W, Taniguchi H, Aoyagi Y, Miki I, Uchigata H, Kuramoto N, Fuse N, Yoshino T, Ohtsu A** : Trajectory for the Regulatory Approval of a Combination of Pertuzumab Plus Trastuzumab for Pre-treated HER2-positive Metastatic Colorectal Cancer Using Real-world Data. *Clin Colorectal Cancer*, 22(1): 45-52, 2023.
- 049 **Kataoka K, Yamada T, Taniguchi H, Ikeda M, Yamazaki K, Kanemitsu Y** : Corrigendum to "A ctDNA-driven multidisciplinary treatment strategy for resectable colorectal cancer -what surgical oncologists should know" [*Eur. J. Surg. Oncol.* 48(1) (2022) 1-2]. *Eur J Surg Oncol*, S0748-7983(23)00420-1, 2023.
- 050 **Nakamura Y, Yamashita R, Okamoto W, Komatsu Y, Yuki S, Ueno M, Kato K, Taniguchi H, Kagawa Y, Denda T, Hara H, Esaki T, Moriwaki T, Sunakawa Y, Oki E, Nagashima F, Nishina T, Satoh T, Kawakami H, Yamaguchi K, Ohtsubo K, Kato T, Horita Y, Tsuji A, Yasui H, Goto M, Hamamoto Y, Wakabayashi M, Ikeno T, Shitara K, Bando H, Tsuchihara K, Miki I, Ichiki H, Ohtsu A, Yoshino T** : Efficacy of Targeted Trials and Signaling Pathway Landscape in Advanced Gastrointestinal Cancers From SCRUM-Japan GI-SCREEN: A Nationwide Genomic Profiling Program. *JCO Precis Oncol*, 7: e2200653, 2023.
- 051 **Kajimoto Y, Honda K, Suzuki S, Mori M, Tsubouchi H, Nakao K, Azuma A, Shibutani T, Nagao S, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Fujiwara K, Igarashi A** : Association between financial toxicity and health-related quality of life of patients with gynecologic cancer. *Int J Clin Oncol*, 28(3): 454-467, 2023.
- 052 **門脇重憲** : 食道がん (周術期). *腫瘍内科 vol.29 No.6* , 科学評論社 : 653-659, 2022.
- 053 **中澤泰子, 舩石俊樹** : がん薬物療法専門医のための模擬テスト 147 -解答と解説-. *腫瘍内科 vol.29 No.6*, 科学評論社 : 757-758, 2022.
- 054 **白石和寛, 杉山圭司, 室 圭** : 胃がん (切除不能転移性). *腫瘍内科 vol.29 No.6*, 科学評論社 : 660-666, 2022.
- 055 **中澤泰子, 舩石俊樹** : がん薬物療法専門医のための模擬テスト 147 -解答と解説-. *腫瘍内科 vol.30 No.1*, 科学評論社 : 116-120, 2022.
- 056 **室 圭** : 消化器がんの薬物療法. *日本内科学会雑誌 第111巻 第3号*, 日本内科学会 : 469-477, 2022.
- 057 **中田晃暢, 室 圭** : 進行・再発食道癌に対する薬物療法. 食道疾患の診療 *臨床消化器内科 8月増刊号 Vol.37 No.9*, 日本メディカルセンター : 163-170, 2022.
- 058 **吉田和弘, 河野浩二, 原 浩樹, 室 圭** : 胃がん一次治療の新しい幕開け—がん免疫療法と化学療法の併用— (Key Opinion 座談会). *GI Cancer Cutting Edge vol.4 No.1*, 小野薬品工業株式会社 ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社 : 8-15, 2022.
- 059 **松原裕樹, 室 圭** : 1. がん治療におけるがん薬物療法の位置づけ (3)大腸がん. *臨床消化器内科 vol.37 No.11*, 日本メディカルセンター : 1410-1416, 2022.
- 060 **本多和典** : 経済毒性とその対策. *腫瘍内科 vol.30 No.3*, 科学評論社 : 298-302, 2022.
- 061 **室 圭** : 大腸癌大腸癌治療における最近の話題 総括. *癌と化学療法 第49巻第11号*, 癌と化学療法社 : 1205-1206, 2022.
- 062 **谷口浩也** : がん治験における Decentralized Clinical Trial (DCT) の実際. *癌と化学療法 第49巻第11号*, 癌と化学療法社 : 1225-1228, 2022.
- 063 **松原裕樹** : 大腸癌大腸癌治療における最近の話題 III HER2 陽性大腸癌治療の最前線. *癌と化学療法 第49巻第11号*, 癌と化学療法社 : 1221-1224, 2022.
- 064 **門脇重憲** : 名医に聞く医療最前線「胃がん」. 確かな病院選びのための地域情報 *東海の医療と病院 2023年版*, 中日新聞社 : 16-17, 2022.
- 065 **若林宗弘, 室 圭** : 大腸癌治療における免疫チェックポイント阻害薬の役割. *臨床外科 第78巻第1号*, 医学書院 : 43-48, 2023.
- 066 **成田有季哉, 室 圭** : 胃がん化学療法におけるアジアと欧米の違い. *癌と化学療法 第50巻 第1号*, 癌と化学療法社 : 23-29, 2023.
- 067 **室 圭** : 特集「わが国の診療ガイドラインの現在地, 問題点, 今後の方向性」を企画した意図. *癌と化学療法 第50巻 第2号*, 癌と化学療法社 : 134, 2023.
- 068 **室 圭** : 患者用ガイドライン作成委員. 患者さんのための胃がん治療ガイドライン 2023年版, 金原出版 : 2023.
- 069 **室 圭** : 04 大腸がん. *手術数でわかるいい病院 2023*, 朝日新聞出版 : 134, 2023.
- 070 **児玉絃幸, 藤原 豊** : Oncologic emergency. *腫瘍内科 vol.31 No.2*, 科学評論社 : 221-225, 2023.
- 071 **室 圭** : 第3版 発刊によせて. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社 : 3, 2023.
- 072 **緒方貴次** : 8 胃がん (大腸がん, 膵がんを含む) のがん悪液質とその対策. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社 : 232-234, 2023.
- 073 **松原裕樹** : 6 BRAF 遺伝子変異大腸がんの治療. あら

- ゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：252-254, 2023.
- 074 松原裕樹：7 MSI-H 大腸がんの治療. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：255-257, 2023.
- 075 松原裕樹：8 HER2 陽性大腸がんの治療. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：258-260, 2023.
- 076 児玉紘幸：10 大腸がんの遺伝子パネル検査の適切な時期とその意義. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：264-267, 2023.
- 077 児玉紘幸：11 conversion surgery の考え方 薬物療法の選択, 治療期間, 補助化学療法をどうするか?. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：268-271, 2023.
- 078 緒方貴次：4 全身薬物療法の早期治療ライン (一次治療, 二次治療)の好中球減少にどう対峙すべきか?. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：281-283, 2023.
- 079 緒方貴次：5 全身薬物療法の後方治療ライン (FTD/TPI ± BEV)の骨髄抑制. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：284-286, 2023.
- 080 児玉紘幸：6 レゴラフェニブの副作用をどうマネジメントすべきか? 特に手足症候群, 肝機能障害. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：287-291, 2023.
- 081 児玉紘幸：7 BRAF 阻害薬, MEK 阻害薬の副作用とその対策. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：292-295, 2023.
- 082 緒方貴次：5 虫垂がん. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：470-472, 2023.
- 083 松原裕樹：6 消化管 NEC. あらゆる症例に対応できる！消化器がん薬物療法 第3版, 羊土社：473-475, 2023.
- 084 若林宗弘, 谷口浩也：がん診療における血液循環腫瘍 DNA の役割. 腎と透析 第94巻 第3号, 東京医学社：456-459, 2023.
- 085 門脇重憲：臓器別がんの薬物療法9. 大腸がん・肛門がん. がんの最新の薬物療法 2023-2024, 南江堂：143-149, 2023.
- Murakami Y, Aguilar-Bonavides C, Mino B, Celiktas M, Dhillon D, Casabar JP, Nakatochi M, Stingo F, Baladandayuthapani V, Wang H, Katayama H, Dennison JB, Lorenzi PL, Do KA, Fujimoto J, Behrens C, Ostrin EJ, Rodriguez-Canales J, Hase T, Fukui T, Kajino T, Kato S, Yatabe Y, Hosoda W, Kawaguchi K, Yokoi K, Chen-Yoshikawa TF, Hasegawa Y, Gazdar AF, Wistuba II, Hanash S, Taguchi A* : SRGN-Triggered Aggressive and Immunosuppressive Phenotype in a Subset of TTF-1-Negative Lung Adenocarcinomas. *J Natl Cancer Inst*, 7; 114(2): 290-301, 2022.
- 003 *Fujishita T, Kojima Y, Kajino-Sakamoto R, Mishihiro-Sato E, Shimizu Y, Hosoda W, Yamaguchi R, Taketo MM, Aoki M* : The cAMP/PKA/CREB and TGFβ/SMAD4 Pathways Regulate Stemness and Metastatic Potential in Colorectal Cancer Cells. *Cancer Res*, 15; 82(22): 4179-4190, 2022.
- 004 *Dei H, Natsume S, Okuno M, Kawakatsu S, Hosoda W, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M, Shimizu Y* : Impact of pancreatic fat infiltration on postoperative pancreatic fistula occurrence in patients undergoing invagination pancreaticojejunostomy. *HPB (Oxford)*, 24(12): 2119-2124, 2022
- 005 *Yoshikawa T, Wu Z, Inoue S, Kasuya H, Matsushita H, Takahashi Y, Kuroda H, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y* : Genetic ablation of PRDM1 in antitumor T cells enhances therapeutic efficacy of adoptive immunotherapy. *Blood*, 7; 139(14): 2156-2172, 2022
- 006 *Iwakoshi A, Sasaki E, Sato M, Sugiyama K, Kogure Y, Kitagawa C, Nishimura R* : Thoracic SMARCA2-deficient But SMARCA4-preserved Tumors With Undifferentiated Morphology Combined With Claudin-4 Negativity. *Am J Surg Pathol*, 1; 46(7): 1000-1006, 2022.
- 007 *Masago K, Fujita S, Masago K, Fujita S* : Effect of Coronavirus Disease 2019 Vaccine-Related Lymphadenopathy on Lung Cancer Treatment. *J Thorac Oncol*, 17(1): 16-18, 2022.
- 008 *Masago K, Kuroda H, Fujita S, Sasaki E, Takahashi Y, Shinohara S, Matsushita H* : Biological Difference between L858R and Exon 19 Deletion Contributes to Recurrence-Free Survival of Resected Non-Small Cell Lung Cancer. *Oncology*, 101(2): 117-125, 2023.
- 009 *Masago K, Kuroda H, Takahashi Y, Oya Y, Sasaki E, Sakakura N, Matsushita H* : Synchronous driver gene alterations (EGFR L858R, T790M, and ROS1) rearrangements in a patient with early-stage lung adenocarcinoma. *Cancer Genet*, 268-269: 124-127, 2022.
- 010 *Sasaki E, Iwakoshi A, Satake T, Nakajima K, Kobayashi M, Ando Y, Koshikawa T, Masago K, Honma N, Nishimura R, Kato Y, Ichihara S* : The Diagnostic Utility of IDH2 R172 Immunohistochemistry in Tall Cell Carcinoma With Reversed Polarity of the Breast. *Appl Immunohistochem*

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Kawakatsu S, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H, Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K, Matsuo K, Hosoda W* : Prognostic Significance of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Single-Center Experience and Systematic Review of the Literature. *Ann Surg Oncol*, 29(9): 5972-5983, 2022.
- 002 *Tanaka I, Dayde D, Tai MC, Mori H, Solis LM, Tripathi SC, Fahrman JF, Unver N, Parhy G, Jain R, Parra ER,*

- Mol Morphol, 01; 30(10): 654-661, 2022.
- 011 **Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita S, Shinohara S, Sugita Y, Takahashi Y, Matsushita H** : Association of the KRAS genotype and clinicopathologic findings of resected non-small-cell lung cancer: A pooled analysis of 179 patients. *Cancer Genet*, 268-269: 64-74, 2022.
- 012 **Seto K, Shimizu J, Masago K, Araki M, Katayama R, Sagae Y, Fujita S, Horio Y, Sasaki E, Kuroda H, Okubo K, Okuno Y, Hida T** : Sensitivity to dabrafenib and trametinib treatments in patients with non-small-cell cancer harboring BRAF compound mutations: A pooled analysis of BRAF p.V600E-positive advanced non-small-cell lung cancer. *Cancer Genet*, 266-267: 1-6, 2022.
- 013 **Sasaki E, Masago K** : Codon 172 in the IDH2 gene is a mutational hotspot in tall cell carcinoma with reversed polarity of the breast. *Gland Surg*, 11 (6): 1127-1129, 2022.
- 014 **Suzuki H, Yokoi M, Hagiwara S, Sasaki E, Kobayashi Y, Iwaki S, Nishikawa D: Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : A Case of Salvage Maxillectomy for Recurrent Oral Cancer After Boron Neutron Capture Therapy During the COVID-19 Pandemic. *Anticancer Res*, 42(3): 1653-1657, 2022.
- 015 **Nakada T, Takahashi Y, Sakakura N, Masago K, Iwata H, Ohtsuka T, Kuroda H** : Postoperative surveillance using low-dose computed tomography for non-small-cell lung cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*, 2; 63(1): ezac549, 2022.
- 016 **Shinohara S, Takahashi Y, Komuro H, Matsui T, Sugita Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Masago K, Miyai M, Nishida R, Shomura S, Shigematsu Y, Hatooka S, Sasano H, Watanabe F, Adachi K, Fujinaga K, Kaneda S, Takao M, Ohtsuka T, Yamaguchi R, Kuroda H, Matsushita H** : New evaluation of the tumor immune microenvironment of non-small cell lung cancer and its association with prognosis. *J Immunother Cancer*, 10(4): e003765, 2022.
- 017 **Tajika M, Tanaka T, Oonishi S, Yamada K, Kamiya T, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Kuraishi Y, Ouchi A, Sato Y, Kinoshita T, Komori K, Hara K, Hosoda W, Niwa Y** : Endoscopic Management of Adenomas in the Ileal Pouch and the Rectal Remnant after Surgical Treatment in Familial Adenomatous Polyposis. *J Clin Med*, 20; 11(12): 3562, 2022.
- 018 **鳥山和浩, 細田和貴** : 膈・消化管 NET G3 と NEC の鑑別診断とピットフォール. *病理と臨床*, 12月号 : 1216, 2022.
- Mutated KIT Tyrosine Kinase as a Novel Molecular Target in Acute Myeloid Leukemia. *Int J Mol Sci*; 23(9): 4694, 2022.
- 002 **Murayama K, Kiguchi T, Izutsu K, Kameoka Y, Hidaka M, Kato H, Rai S, Kuroda J, Ishizawa K, Ichikawa S, Ando K, Ogura M, Fukushima K, Terui Y** : Bendamustine plus rituximab in Japanese patients with relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Ann Hematol*; 101(5): 979-989, 2022.
- 003 **Mizuta S, Ugai T, Kato H, Doki N, Ota S, Kawakita T, Katayama Y, Kurokawa M, Nakamae H, Yano S, Nawa Y, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Kako S** : Propensity score matching/reweighting analysis comparing autologous and allogeneic stem cell transplantation for B-lineage acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol*. 116(3): 393-400, 2022.
- 004 **Yanada M, Yamamoto K** : Hematopoietic cell transplantation for mantle cell lymphoma. *Int J Hematol*. 115(3): 301-309, 2022.
- 005 **Fukuhara N, Suehiro Y, Kato H, Kusumoto S, Coronado C, Rappold E, Zhao W, Li J, Gilmartin A, Izutsu K** : Parsaclisib in Japanese patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma (CITADEL-111): A phase Ib study. *Cancer Sci*. 113(5): 1702-1711, 2022.
- 006 **Murakami S, Ri M, Ito M, Nakamura N, Kasahara S, Kitagawa J, Inagaki Y, Kuroda J, Yoshimitsu M, Okamoto A, Fukuhara N, Taji H, Iida H, Nagai H, Hanamura I, Tsujimura H, Okura M, Kurata M, Kuwatsuka Y, Atsuta Y, Iida S** : Efficacy and safety of modified BLd therapy for Japanese patients with transplant-ineligible multiple myeloma. *Int J Hematol*. 116(4): 563-569, 2022.
- 007 **Ishizawa K, Yokoyama M, Kato H, Yamamoto K, Makita M, Ando K, Ueda Y, Tachikawa Y, Suehiro Y, Kurosawa M, Kameoka Y, Nagai H, Uoshima N, Ishikawa T, Hidaka M, Ito Y, Utsunomiya A, Fukushima K, Ogura M** : A phase I/II study of 10-min dosing of bendamustine hydrochloride (rapid infusion formulation) in patients with previously untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma, mantle cell lymphoma, or relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma in Japan. *Cancer Chemother Pharmacol*. 90(1): 83-95, 2022.
- 008 **Yanada M, Matsuda K, Ishii H, Fukuda T, Ozeki K, Ota S, Tashiro H, Uchida N, Kako S, Doki N, Kawakita T, Onishi Y, Takada S, Kondo Y, Tanaka J, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Patients with Relapsed Acute Promyelocytic Leukemia. *Transplant Cell Ther*. 28(12): 847. e1-847. e8, 2022.

血液・細胞療法部

- 001 **Katagiri S, Chi S, Minami Y, Fukushima K, Shibayama H, Hosono N, Yamauchi T, Morishita T, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kuroda J, Usuki K, Akahane D, Gotoh A** :

頭頸部外科部

- 001 **Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T,**

- Matsuura K, Ota I, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Yokota T, Okano S, Tanaka K, Onoe T, Ariizumi Y, Homma A* : Systemic therapy for salivary gland malignancy: current status and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol*, 52(4): 293-302, 2022.
- 002 *Nishikawa D, Hanai N, Ozawa T, Kitahara T, Hasegawa Y* : Role of Human Papilloma Virus and Lifestyle Factors in Overall Survival of Patients with Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma. *Medicina (Kaunas)*, 58(4): 557, 2022.
- 003 *Hirakawa H, Matsuzuka T, Uemura H, Yoshimoto S, Miura K, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Hanai N, Suzuki H, Suzuki M, Hasegawa Y* : Auris Nasus Larynx, 49(4): 680-689, 2022.
- 004 *Hanai N, Beppu S, Nishikawa D, Terada H, Nishikawa D, Sawabe M* : A novel procedure of secondary voice prosthesis insertion from the inside out: The modified Fukuhara method. *Auris Nasus Larynx*, 49(4): 658-662, 2022.
- 005 *Kiyota N, Tahara M, Mizusawa J, Kodaira T, Fujii H, Yamazaki T, Mitani H, Iwae S, Fujimoto Y, Onozawa Y, Hanai N, Ogawa T, Hara H, Monden N, Shimura E, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Homma A, Yoshimoto S, Oridate N, Omori K, Ueda T, Okami K, Ota I, Shiga K, Sugawara M, Asakage T, Saito Y, Muro S, Nishimura Y, Nakamura K, Hayashi* : Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG): Weekly Cisplatin Plus Radiation for Postoperative Head and Neck Cancer (JCOG1008): A Multicenter, Noninferiority, Phase II/III Randomized Controlled Trial. *J Clin Oncol*, 40(18): 1980-1990, 2022.
- 006 *Saito Y, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Yokota T, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Okano S, Imamura Y, Ariizumi Y, Hayashi R* : Human papillomavirus-related oropharyngeal carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*, 52(7): 692-698, 2022.
- 007 *Tsuzuki H, Suzuki H, Tamaki T, Sone M, Hanai N* : Detection Ability of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography for Clinical T Classification of Synchronous Esophageal Cancer in Pharyngeal Cancer. *Anticancer Res*, 42(9): 4597-4602, 2022.
- 008 *Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N* : Near-Infrared Photoimmunotherapy for Oropharyngeal Cancer. *Cancers (Basel)*, 14(22): 5662, 2022.
- 009 *Suzuki H, Beppu S, Nishikawa D, Terada H, Sawabe M, Hanai N* : Lymph Node Ratio in Head and Neck Cancer with Submental Flap Reconstruction. *Biomedicines*, 10(11): 2923, 2022.
- 010 *Takahashi S, Oridate N, Tanaka K, Shimizu Y, Fujimoto Y, Matsumoto K, Yokota T, Yamazaki T, Takahashi M, Ueda T, Hanai N, Yamaguchi H, Hara H, Yoshizaki T, Yasumatsu R, Nakayama M, Shiga K, Fujii T, Mitsugi K, Takahashi K, Nohata N, Gumuscu B, Swaby RF, Tahara M* : First-line pembrolizumab ± chemotherapy for recurrent/metastatic head and neck cancer: Japanese subgroup of KEYNOTE-048. *Int J Clin Oncol*, 27(12): 1805-1817, 2022.
- 011 *Suzuki H, Takano G, Tsukushi S, Ando M, Yatabe Y, Kodaira T, Nishikawa D, Beppu S, Hasegawa Y, Hanai N* : Impact of age for overall survival in head and neck sarcoma. *Medicine (Baltimore)*, 102(7): e32966, 2023.
- 012 *Matsuzuka T, Tsukahara K, Yoshimoto S, Chikamatsu K, Shiotani A, Oze I, Murakami Y, Shinozaki T, Enoki Y, Ohba S, Kawakita D, Hanai N, Koide Y, Sawabe M, Nakata Y, Fukuda Y, Nishikawa D, Takano G, Kimura T, Oguri K, Hirakawa H, Hasegawa Y* : Predictive factors for dissection-free sentinel node micrometastases in early oral squamous cell carcinoma. *Sci Rep*, 13(1): 6188, 2023.
- 013 *Kishikawa T, Terada H, Sawabe M, Beppu S, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N* : Utilization of ultrasound in photoimmunotherapy for head and neck cancer: a case report. *J Ultrasound*. 2023 Feb 18. doi: 10.1007/s40477-023-00774-8. Online ahead of print.
- 014 花井信広 : 特集 実例から学ぶ医学統計 頭頸部癌のリアルワールドデータ. *JOHNS*, 38(6) : 665-668, 2022.
- 015 花井信広 : 特集 ここが変わった！頭頸部癌診療ガイドライン 2022 《各論》 口腔癌. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 94(11) : 913-916, 2022.
- 016 西川大輔 : 【悪性か？ 良性か？ 開業医のためのがんの見つけ方】 症状・所見からのアプローチ 舌痛・舌病変 がん, 白板症などの鑑別. *JOHNS*, 38(8) : 863-866, 2022.
- 017 岸川敏博, 友藤嘉彦, 岡田随象 : 関節リウマチにおける腸内微生物の影響. *リウマチ科*, 68(2) : 241-248, 2022.
- 018 西川大輔 : 【嚥下障害を診る】 頭頸部再建術後患者を診る. *ENTONI*, 280 : 23-61, 2023.

形成外科部

- 001 *Ryota Nakamura, Keisuke Takanari, Nobuhiro Hanai, Hidenori Suzuki, Daisuke Nishikawa, Seiko Okumura, Yoko Maruyama, Ikuo Hyodo* : Hypothyroidism After Using Superior Thyroid Artery as A Recipient Artery. *The Laryngoscope*, 133: 557-561, 2023.
- 002 *Aritake T, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Nakamura R, Takanari K, Taniguchi H, Muro K, Kato S, Abe T, Ito S, Shimizu Y* : Colon cancer with extensive invasion of the abdominal wall treated with neoadjuvant chemotherapy and a free anterolateral thigh flap. *Surg Case Rep*. 8.1.159. 2022.
- 003 *Kang S, Okumura S, Maruyama Y, Hyodo I, Nakamura R, Kobayashi S, Kato M, Takanari K* : Effect of Incision

Negative Pressure Wound Therapy on Donor Site Morbidity in Breast Reconstruction with Deep Inferior Epigastric Artery Perforator Flap. JPRAS Open. 18. 34. 73-81. 2022.

- 004 **Masashi Ono, Hirohisa Suzuki, Shinsuke Matsumoto, Keisuke Takanari, Yuzuru Kamei** : Upper thoracic empyema and concomitant superior vena cava syndrome treated with reconstructive surgery using a pedicled omental flap. Nagoya J Med Sci. 84. 3. 648-655. 2022.
- 005 **Yuuki Shimizu, Kazuhisa Kondo, Ryo Hayashida, Ken-Ichiro Sasaki, Masanori Ohtsuka, Yoshihiro Fukumoto, Shinichiro Takashima, Oto Inoue, Soichiro Usui, Masayuki Takamura, Masashi Sakuma, Teruo Inoue, Tokuchiro Nagata, Yoshihiro J Akashi, Yoshihiro Yamada, Tamon Kato, Koichiro Kuwahara, Kaoru Tateno, Yoshio Kobayashi, Rei Shibata, Toyoaki Murohara, TACT-ADRC multicenter trial Group** : Therapeutic angiogenesis for patients with no-option critical limb ischemia by adipose-derived regenerative cells: TACT-ADRC multicenter trial. Angiogenesis. 25. 4. 535-546. 2022.
- 006 **Hiroyuki Ito, Yutaka Nakamura, Keisuke Takanari, Mayumi Oishi, Keitaro Matsuo, Miki Kanbe, Takafumi Uchibori, Katsumi Ebisawa, Yuzuru Kamei** : Development of a Novel Scar Screening System with Machine Learning. Plast Reconstr Surg. 150. 2. 465e-472e. 2022.
- 007 **高成啓介, 中村亮太** : 頭頸部・食道再建術後の皮弁モニター方法と血流障害が疑われた際の対処法. 形成外科. 65. 12. 1399-1408. 2022.

呼吸器外科部

- 001 **Sakakura N, Eguchi T** : Port placement variations for the robotic lung resection: focusing on their history, conventional look-up-view and horizontal open-thoracotomy-view techniques, and more. J Pers Med, 13: 230, 2023.
- 002 **Sakakura N, Nakada T, Takahashi Y, Suzuki A, Shinohara S, Kuroda, H** : Three-arm robotic lung resection via the open-thoracotomy-view approach using vertical port placement and confronting monitor setting: Focusing on segmentectomy. J Pers Med, 12: 1771, 2022.
- 003 **Sakakura N, Shirai S, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H** : Resection of an anterior apical tumor invading the ventral first rib: a less invasive lateral thoracotomy approach. J Thorac Dis, 14: 1296-1298, 2022.
- 004 **Sakakura N, Nakada T, Shirai S, Takahara H, Suzuki A, Takahashi Y, Kuroda H** : Emergency rollout and conversion procedures during the three-arm robotic open-thoracotomy-view approach. Interact Cardiovasc Thorac Surg, 34: 1045-1051, 2022.
- 005 **Kuroda H, Koyama S, Mun M, Nakajima J, Funai K, Yoshino**

I, Yamauchi Y, Kawamura M; Metastatic Lung Tumor Study Group of Japan. : Survival Outcomes of Complete Pulmonary Metastasectomy for Head and Neck Squamous Cell Carcinomas. Cancer Manag Res, 26; 14: 3095-3103, 2022.

- 006 **Nakada T, Takahashi Y, Sakakura N, Masago K, Iwata H, Ohtsuka T, Kuroda H** : Postoperative surveillance using low-dose computed tomography for non-small cell lung cancer. Eur J Cardiothorac Surg, 2; 63(1), zac549, 2022.
- 007 **Nakada T, Nakai A, Takahashi Y, Sakakura N, Ohtsuka T, Kuroda H** : Intraoperative Multimodal Approach for Pain After Thoracoscopic Pulmonary Resection. Asian J Endosc Surg, 15: 147-154, 2022.
- 008 **Masago K, Kuroda H, Takahashi Y, Oya Y, Sasaki E, Sakakura N, Matsushita H** : Synchronous driver gene alterations (EGFR L858R, T790M, and ROS1) rearrangements in a patient with early-stage lung adenocarcinoma. Cancer Genet, 268-269: 124-127, 2022.
- 009 **Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Sakakura N, Hasegawa T, Sato Y, Inaba Y, Haneda H, Okuda K, Nakanishi R, Kuroda H** : Preoperative percutaneous needle indigo carmine and lipiodol mixture marking in lung segmentectomy. Eur J Cardiothorac Surg, 62 :ezac432, 2022.
- 010 **Seto K, Shimizu J, Masago K, Araki M, Katayama R, Sagae Y, Fujita S, Horio Y, Sasaki E, Kuroda H, Okubo K, Okuno Y, Hida T** : Sensitivity to dabrafenib and trametinib treatments in patients with non-small-cell cancer harboring BRAF compound mutations: A pooled analysis of BRAF p.V600E-positive advanced non-small-cell lung cancer. Cancer Genet, 266-267: 1-6, 2022.
- 011 **Shinohara S, Takahashi Y, Komuro H, Matsui T, Sugita Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Masago K, Miyai M, Nishida R, Shomura S, Shigematsu Y, Hatooka S, Sasano H, Watanabe F, Adachi K, Fujinaga K, Kaneda S, Takao M, Ohtsuka T, Yamaguchi R, Kuroda H, Matsushita H*** : New evaluation of the tumor immune microenvironment of non-small cell lung cancer and its association with prognosis. J Immunother Cancer, 10: e003765, 2022.
- 012 **Shinohara S, Takahashi Y, Masago K, Matsushita H, Kuroda H** : The beginning of a new era in induction treatment for operable non-small cell lung cancer: a narrative review. J Thorac Dis, 28; 15(2): 747-758, 2023.
- 013 **Tada H, Mitsudomi T*, Misumi T, Sugio K, Tsuboi M, Okamoto I, Iwamoto Y, Sakakura N, Sugawara S, Atagi S, Takahashi T, Hayashi H, Okada M, Inokawa H, Yoshioka H, Takahashi K, Higashiyama M, Yoshino I, Nakagawa K** : West Japan Oncology Group. Randomized Phase III Study of Gefitinib Versus Cisplatin Plus Vinorelbine for Patients With Resected Stage II-III A Non-Small-Cell Lung Cancer With EGFR Mutation (IMPACT). J Clin Oncol, 40: 231-241, 2022.

消化器外科部

- 001 **Ouchi A, Kinoshita T, Nakanishi H, Komori K, Oshiro T, Yoshimura M, Fujita N, Hosoda W, Shimizu Y** : PCR-based quantitative detection of intraperitoneal free cancer cells for predicting locoregional recurrence after rectal cancer resection. *ANZ J Surg*, 92(4): 794-800, 2022.
- 002 **Okuno M, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Kawakatsu S, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H, Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K** : A new option for laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy: three cases with splenic artery preservation and resection of the splenic vein. *Journal of Surgical Case Reports*, 2022.
- 003 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Prognostic impact of a microscopic positive margin in patients undergoing gastrectomy for gastric cancer: a propensity score-matched analysis of a multi-institutional dataset. *Surg Today*, 52(4): 559-566, 2022.
- 004 **Okamura Y, Boku N, Ghaneh P, Greenhalf W, Yasukawa S, Narimatsu H, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Maeda A, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Takayama W, Yamaguchi R, Tomikawa M, Yanagisawa A, Neoptolemos JP, Uesaka K** : Concordance of human equilibrative nucleoside transporter-1 expressions between murine (10D7G2) and rabbit (SP120) antibodies and association with clinical outcomes of adjuvant chemotherapy for pancreatic cancer: A collaborative study from the JASPAC 01 trial. *Cancer Rep (Hoboken)*, 5(5): e1507, 2022.
- 005 **Takii Y, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Komori K, Shiozawa M, Ohue M, Ikeda S, Takiguchi N, Kobatake T, Ike H, Sato T, Tomita N, Ota M, Masaki T, Hamaguchi T, Shida D, Katayama H, Shimada Y, Fukuda H; Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG)** : The Conventional Technique Versus the No-touch Isolation Technique for Primary Tumor Resection in Patients With Colon Cancer (JCOG1006): A Multicenter, Open-label, Randomized, Phase III Trial. *Ann Surg*, 275(5): 849-855, 2022.
- 006 **Hasegawa H, Shitara K, Takiguchi S, Takiguchi N, Ito S, Kochi M, Horinouchi H, Kinoshita T, Yoshikawa T, Muro K, Nishikawa H, Suna H, Kodera Y** : A multicenter, open-label, single-arm phase I trial of neoadjuvant nivolumab monotherapy for resectable gastric cancer. *Gastric Cancer*, 25(3): 619-628, 2022.
- 007 **Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, Nunobe S, Hiki N** : Effects of perioperative eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on the long-term oncological outcomes after total gastrectomy for gastric cancer. *Oncol Lett*, 23(5): 151, 2022.
- 008 **Hagi T, Kurokawa Y, Mizusawa J, Fukagawa T, Katai H, Sano T, Misawa K, Fukushima N, Kawachi Y, Sasako M, Yoshikawa T, Terashima M** : Impact of tumor-related factors and inter-institutional heterogeneity on preoperative T staging for gastric cancer. *Future Oncol*, 18(20): 2511-2519, 2022.
- 009 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Tanaka T, Tajika M, Yamaura H, Inaba Y, Shimizu Y** : Retrograde ureteric stenting and ileus tube insertion for a safer reoperation after pelvic exenteration: a case report. *Clin J Gastroenterol*, 15(3): 582-585, 2022.
- 010 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Kobayashi D, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : E-PASS scoring system serves as a predictor of short- and long-term outcomes in gastric cancer surgery. *Surg Today*, 52(6): 914-922, 2022.
- 011 **Fujiyoshi K, Sudo T, Fumihiko Fujita F, Chino A, Akagi K, Takao A, Yamada M, Tanakaya K, Ishida H, Komori K, Ishihara S, Miguchi M, Hirata K, Miyakura Y, Ishikawa T, Yamaguchi T, Tomita N, Ajioka Y, Sugihara K** : Risk of first onset of colorectal cancer associated with alcohol consumption in Lynch syndrome: a multicenter cohort study. *Int J Clin Oncol*, 27(6): 1051-1059, 2022.
- 012 **Hosoi T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Ito S, Komori K, Iwase M, Oze I, Shimizu Y** : Circular Stapled Technique Versus Modified Collard Technique for Cervical Esophagogastric Anastomosis After Esophagectomy: A Randomized Controlled Trial. *Ann Surg*, 276(1): 30-37, 2022.
- 013 **Maeda S, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Numata Y, Ito S, Abe T, Shimizu Y** : Safety and Feasibility of Temporary Ileostomy in Older Patients: A Retrospective Study. *Wound Manag Prev*, 68(7): 18-24, 2022.
- 014 **Yamada K, Saiki Y, Komori K, Shiomi A, Ueno M, Ito M, Hida K, Yamamoto S, Shiozawa M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Ueno H, Kinjo T, Maeda K, Kawamura J, Fujita F, Takahashi K, Mizushima T, Shimada Y, Sasaki S, Sunami E, Ishida F, Hirata K, Ohnuma S, Funahashi K, Watanabe J, Kinugasa Y, Yamaguchi S, Hashiguchi Y, Ikeda M, Sudo T, Komatsu Y, Koda K, Sakamoto K, Okajima M, Ishida H, Hisamatsu Y, Masuda T, Mori S, Minami K, Hasegawa S, Endo S, Iwashita A, Hamada M, Ajioka Y, Usuku K, Ikeda T, Sugihara K** : Characteristics of anal canal cancer in Japan. *Cancer Med*, 11(14): 2735-2743, 2022.
- 015 **Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Hiroki K, Yasui K, Shimizu Y** : Total Pelvic Exenteration Combined With Sacral Resection for

- Rectal Cancer. *Am Surg*, 31348221124328, 2022 Aug.
- 016 **Aritake T, Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Nakamura R, Takanari K, Hiroya T, Muro K, Kato S, Abe T, Ito S, Shimizu Y** : Colon cancer with extensive invasion of the abdominal wall treated with neoadjuvant chemotherapy and a free anterolateral thigh flap. *Surg Case Rep*, 8(1): 159, 2022.
- 017 **Motoori M, Kurokawa Y, Takeuchi H, Sano T, Terashima M, Ito S, Komatsu S, Hosoya Y, Hirao M, Yamashita K, Kitagawa Y, Doki Y** : Risk Factors for Para-Aortic Lymph Node Metastasis in Esophagogastric Junction Cancer: Results from a Prospective Nationwide Multicenter Study. *Ann Surg Oncol*, 29(9): 5649-5654, 2022.
- 018 **Kawakatsu S, Shimizu Y, Matsuo K, Hosoda W** : ASO Author Reflections: Positive Status of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: Are They Candidates for Radical Resection?. *Ann Surg Oncol*, 29(9): 5984-5985, 2022.
- 019 **Kawakatsu S, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H, Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K, Matsuo K, Hosoda W** : Prognostic Significance of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Single-Center Experience and Systematic Review of the Literature. *Ann Surg Oncol*, 29(9): 5972-5983, 2022.
- 020 **Sato H, Maeda K, Kinugasa Y, Kagawa H, Tsukamoto S, Takahashi I K, Nozawa H, Takii Y, Konishi T, Akagi Y, Suto T, Yamaguchi S, Ozawa H, Komori K, Ohue M, Hiro J, Shinji S, Minami K, Shimizu T, Sakamoto K, Uehara K, Takahashi H, Sugihara K, Study Group for Inguinal Lymph Node Metastasis from Colorectal Cancer by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum, Tokyo, Japan** : Management of inguinal lymph node metastases from rectal and anal canal adenocarcinoma. *Colorectal Dis*, 24(10): 1150-1163, 2022.
- 021 **Kunitomo A, Ouchi A, Matsuo K, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Abe T, Ito S, Sano T, Shimizu Y** : Clinical significance of surgical intervention for isolated para-aortic lymph node metastasis from colorectal cancer: a time-varying covariate analysis. *Br J Surg*, 109(11): 1174-1175, 2022.
- 022 **Nagata Y, Kageyama S, Ishikawa T, Kokura S, Okayama T, Abe T, Murakami M, Otsuka K, Ariyoshi T, Kojima T, Taniguchi K, Kobayashi S, Shimada H, Yajima S, Suzuki T, Hirano S, Tsuchikawa T, Shichinohe T, Ueda S, Kanetaka K, Yoneda A, Wada H, Doki Y, Yamaue H, Katsuda M, Ohi M, Yasuda H, Kondo K, Kataoka M, Koderu Y, Koike M, Shiraishi T, Miyahara Y, Goshima N, Fukuda E, Yamaguchi K, Sato E, Ikeda H, Yamada T, Osako M, Hirai K, Miyamoto H, Watanabe T, Shiku H** : Prognostic significance of NY-ESO-1 antigen and PIGR expression in esophageal tumors of CHP-NY-ESO-1-vaccinated patients as adjuvant therapy. *Cancer Immunol Immunother*, 71(11): 2743-2755, 2022.
- 023 **Miyakura Y, Chino A, Tanakaya K, Kawarai A, Kiwamu L, Akinari A, Masayoshi T, Yamada H, Ishida K, Komori K, Sasaki M, Miguchi K, Hirata T, Sudo T, Ishikawa T, Yamaguchi N, Tomita Y, Ajioka** : Current practice of colonoscopy surveillance in patients with lynch syndrome: A multicenter retrospective cohort study in Japan. *DEN Open*, 3(1): e179, 2022.
- 024 **Takahashi S, Ohno I, Ikeda M, Konishi M, Kobayashi T, Akimoto T, Kojima M, Morinaga S, Toyama H, Shimizu Y, Miyamoto A, Tomikawa M, Takakura N, Takayama W, Hirano S, Otsubo T, Nagino M, Kimura W, Sugimachi K, Uesaka K** : Neoadjuvant S-1 With Concurrent Radiotherapy Followed by Surgery for Borderline Resectable Pancreatic Cancer: A Phase II Open-label Multicenter Prospective Trial (JASPAC05). *Ann Surg*, 276(5): e510-e517, 2022.
- 025 **Kurashima Y, Kitagami H, Teramura K, Poudel S, Ebihara Y, Inaki N, Nakamura F, Misawa K, Shibao K, Nagai E, Akashi Y, Takiguchi S, Kobayashi S, Hirano S** : Validation study of a skill assessment tool for education and outcome prediction of laparoscopic distal gastrectomy. *Surg Endosc*, 36(12): 8807-8816, 2022.
- 026 **Dei H, Natsume S, Okuno M, Kawakatsu S, Hosoda W, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M, Shimizu Y** : Impact of pancreatic fat infiltration on postoperative pancreatic fistula occurrence in patients undergoing invagination pancreaticojejunostomy. *HPB (Oxford)*, 24(12): 2119-2124, 2022.
- 027 **Hayashi Y, Misawa K, Mori K** : Database-driven patient-specific registration error compensation method for image-guided laparoscopic surgery. *Int J Comput Assist Radiol Surg*, 18(1): 63-69, 2023.
- 028 **Nakachi K, Ikeda M, Konishi M, Nomura S, Katayama H, Kataoka T, Todaka A, Yanagimoto H, Morinaga S, Kobayashi S, Shimada K, Takahashi Y, Nakagohri T, Gotoh K, Kamata K, Shimizu Y, Ueno M, Ishii H, Okusaka T, Furuse J; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HBPOG)** : Adjuvant S-1 compared with observation in resected biliary tract cancer (JCOG1202, ASCOT): a multicentre, open-label, randomised, controlled, phase 3 trial. *Lancet*, 401(10372): 195-203, 2023.
- 029 **Ishii K, Yokoyama Y, Yonekawa Y, Hayashi D, Kinoshita F, Kuwatsuka Y, Okuno M, Natsume S, Minami T, Sugawara G, Seita K, Sato F, Aoba T, Shimizu Y, Kurumiya Y, Maeda A, Yamaguchi R, Hiramatsu K, Ebata T** : Tranexamic acid and blood loss in pancreaticoduodenectomy: TAC-PD randomized clinical trial. *Br J Surg*, 110(2): 159-165,

- 2023.
- 030 **Kim HS, Song W, Choo W, Lee S, Han Y, Bassi C, Salvia R, Marchegiani G, Wolfgang CL, He J, Blair AB, Kluger MD, Su GH, Kim SC, Song KB, Yamamoto M, Hatori T, Yang CY, Yamaue H, Hirono S, Satoi S, Fujii T, Hirano S, Lou W, Hashimoto Y, Shimizu Y, Del Chiaro M, Valente R, Lohr M, Choi DW, Choi SH, Heo JS, Motoi F, Matsumoto I, Lee WJ, Kang CM, Shyr YM, Wang SE, Han HS, Yoon YS, Besselink MG, van Huijgevoort NCM, Sho M, Nagano H, Kim SG, Honda G, Yang Y, Yu HC, Yang JD, Chung JC, Nagakawa Y, Seo HI, Lee S, Kim H, Kwon W, Park T, Jang JY** : Development, validation, and comparison of a nomogram based on radiologic findings for predicting malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: An international multicenter study. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 30(1): 133-143, 2023.
- 031 **Kono Y, Inomata M, Sumi Y, Ohigashi S, Ieiri S, Shin T, Shinohara T, Abe T, Osoegawa A, Fujisawa M, Mori T, Kitagawa Y, Kitano S; Forum of 8K Endoscopy Medical Application Forum** : A multicenter survey of effects and challenges of an 8K ultra-high-definition endoscopy system compared to existing endoscopy systems for endoscopic surgery. *Asian J Endosc Surg*, 16(1): 50-57, 2023.
- 032 **Nonogaki A, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Preoperative neutrophil-to-platelet ratio as a potential prognostic factor for gastric cancer with positive peritoneal lavage cytology in the absence of other non-curative factors: a multi-institutional dataset analysis. *Surg Today*, 53(2): 198-206, 2023.
- 033 **Tomimaru Y, Eguchi H, Inoue Y, Nagakawa Y, Ohba A, Takami H, Unno M, Yamamoto T, Kawakatsu S, Hayashi T, Higuchi R, Kitagawa H, Hattori S, Fujii T, Hirooka Y, Igarashi H, Kitano M, Kuroki T, Masamune A, Shimizu Y, Tani M, Tanno S, Tsuji Y, Yamaue H, Satoi S, Takeyama Y; Committee of Clinical Research, Japan Pancreas Society** : Impact of S-1 adjuvant chemotherapy longer than 6 months on survival in patients with resected pancreatic cancer: a nationwide survey by the Japan Pancreas Society based on real-world data. *Cancer*, 129(5): 728-739, 2023.
- 034 **Zhu R, Oda M, Hayashi Y, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Mori K** : A skeleton context-aware 3D fully convolutional network for abdominal artery segmentation. *Int J Comput Assist Radiol Surg*, 18(3) : 461-472, 2023.
- 035 **Ito Y, Miwa T, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Risk score for predicting death from other causes after curative gastrectomy for gastric cancer. *Gastric Cancer*, 26(2): 317-323, 2023.
- 036 **伊藤誠二** : 【臨床胃癌学-基礎・臨床の最新動向-】 高度リンパ節転移に対する集学的治療とその適応. *日本臨牀社*, 80巻 増刊号3 : 221-226, 2022.
- 037 **伊藤友一, 藤谷和正** : 【臨床胃癌学-基礎・臨床の最新動向-】 胃癌腹膜播種による腸閉塞に対する緩和的手術の意義. *日本臨牀社*, 80巻 増刊号3 : 364-371, 2022.
- 038 **夏目誠治** : 【解剖生理, 疾患, 治療, ケア…これだけ読めばまるごとわかる!先輩ナース直伝"やさしい" 消化器看護ノート】胆道(解説/特集)4 胆道消化器ナーシング. *消化器ナーシング*, 27巻4号 : 345-352, 2022.
- 039 **小森康司, 木下敬史, 清水泰博** : 【専門医必携 ストーマ手術手技】ストーマ腕に対する修復術. *中外医学社*, 61-69, 2022.
- 040 **三澤一成** : 【術前画像の読み解きガイド-的確な術式選択と解剖把握のために】胃・十二指腸 膈上縁リンパ節郭清 解剖把握と術中所見. *臨床外科*, 77巻11号 : 79-84, 2022.
- 041 **三澤一成** : 【消化器内視鏡外科手術 合併症回避のABC 腹腔鏡下胃全摘術】膈上縁の膈液回避手技のABC. *メジカルビュー社*, 182-195, 2022.
- 042 **奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 細田和貴, 原 和生** : 早期膵癌が疑われる症例に対する外科治療(解説/特集). *消化器内科*, 32巻 Vol.4 No.7 : 71-76, 2022.
- 043 **大野真奈, 申 忱, Roth Holger R., 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策** : 境界情報を考慮する損失関数を用いたFCNによる腹部CT像からの臓器領域抽出に関する研究(原著論文). *日本医用画像工学会大会予稿集*, 41 : 106-107, 2022.
- 044 **出口智也, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策** : GNNによる血管名自動命名手法における臓器特徴の利用に関する検討(原著論文). *日本医用画像工学会大会予稿*, 41 : 90-91, 2022.

整形外科部

- 001 **Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Asano T, Okuno M, Fujieda H, Oki S, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Saito H, Narita K, Hiroki K, Yasui K, Shimizu Y** : Total Pelvic Exenteration Combined With Sacral Resection for Rectal Cancer. *Am Surg*, 30: 31348221124328, 2022.
- 002 **Kozawa E, Nishida Y, Kawai A, Hayakawa K, Setsu N, Kawashima H, Iwata S, Tsuchiya H, Tsukushi S, Takenaka S, Imanishi J, Baba I, Nagano A, Morii T, Shirai T, Shimizu K, Kawano H** : Clinical features and treatment outcomes of dedifferentiated and grade 3 chondrosarcoma: A multi-institutional study. *Cancer Sci*, Jul; 113(7): 2397-2408, 2022.
- 003 **Tanaka K, Machida R, Kawai A, Nakayama R, Tsukushi S,**

Asanuma K, Matsumoto Y, Hiraga H, Hiraoka K, Watanuki M, Yonemoto T, Abe S, Katagiri H, Nishida Y, Nagano A, Suehara Y, Kawashima H, Kawano M, Morii T, Hatano H, Toguchida J, Okuma T, Takeyama M, Takenaka S, Akisue T, Furuta T, Emori M, Hiruma T, Outani H, Yamamoto T, Kataoka T, Fukuda H, Ozaki T, Iwamoto Y. : Perioperative Adriamycin plus ifosfamide vs. gemcitabine plus docetaxel for high-risk soft tissue sarcomas: randomised, phase II/III study JCOG1306. Br J Cancer, 2022 Nov; 127 (8): 1487-1496, 2022.

004 Urakawa H, Nagano A, Machida R, Tanaka K, Kataoka T, Sekino Y, Nishida Y, Takahashi M, Kunisada T, Kawano M, Yoshida Y, Takagi T, Sato K, Hiruma T, Hatano H, Tsukushi S, Sakamoto A, Akisue T, Hiraoka K, Ozaki T. : A randomized phase III trial of denosumab before curettage for giant cell tumor of bone. JCOG1610. Jpn J Clin Oncol, 18; 52 (9): 1021-1028, 2022.

005 Takemori T, Kawamoto T, Hara H, Fukase N, Fujiwara S, Fujita I, Fujimoto T, Morishita M, Kitayama K, Yahiro S, Miyamoto T, Saito M, Sugaya J, Hayashi K, Kawashima H, Torigoe T, Nakamura T, Kondo H, Wakamatsu T, Watanuki M, Kito M, Tsukushi S, Nagano A, Outani H, Toki S, Nishimura S, Kobayashi H, Watanabe I, Demizu Y, Sasaki R, Fukumoto T, Niikura T, Kuroda R, Akisue T. : Clinical Outcome of Patients with Pelvic and Retroperitoneal Bone and Soft Tissue Sarcoma: A Retrospective Multicenter Study in Japan. Cancers (Basel), 20; 14 (12): 3023, 2022.

006 Kawai A, Araki N, Ae K, Akiyama T, Ozaki T, Kawano H, Kunisada T, Sumi M, Takahashi S, Tanaka K, Tsukushi S, Naka N, Nishida Y, Miyachi M, Yamamoto N, Yoshida A, Yonemoto T, Yoshida M, Iwata S. : Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of soft tissue tumors 2020-Secondary publication. J Orthop Sci, 2022 May; 27 (3): 533-550, 2022.

007 Kido A, Kitagawa Y, Tsukushi S, Iwata S, Ishida Y, Tsukamoto S, Kawai A. : Marginal resection for patients with atypical lipomatous tumours of the extremities and trunk wall: a systematic review and meta-analysis. Jpn J Clin Oncol, 5; 52(2): 151-156, 2022.

008 Ikuta K, Nishida Y, Ota T, Tsukushi S, Kozawa E, Nakashima H, Yamada K, Yamashita S, Imagama S. : A clinical trial of a unidirectional porous tricalcium phosphate filling for defects after resection of benign bone lesions: a prospective multicenter study. Sci Rep, 26; 12(1): 16060, 2022.

009 Tsukushi S, Nishida Y, Hirose T, Nakata E, Nakagawa R, Nakamura T, Imanishi J, Nagano A, Tamiya H, Ueda T, and Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) : Short-term clinical outcomes of Kyocera Modular Limb Salvage System designed cementless stems for the

endoprosthetic reconstruction of lower extremities: a Japanese Musculoskeletal Oncology Group multi-institutional study. BMC Cancer, 16; 22(1): 781, 2022.

010 Hagi T, Nakamura T, Nagano A, Koike H, Yamada K, Aiba H, Fujihara N, Wasa J, Asanuma K, Kozawa E, Ishimura D, Kawanami K, Izubuchi Y, Shido Y, Sudo A, Nishida Y. : Clinical outcome in patients who underwent amputation due to extremity soft tissue sarcoma: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium study. Jpn J Clin Oncol, 5; 52(2): 157-162, 2022.

011 Suzuki H, Takano G, Tsukushi S, Ando M, Yatabe Y, Kodaira T, Nishikawa D, Beppu S, Hasegawa Y, Hanai N. : Impact of age for overall survival in head and neck sarcoma. Medicine (Baltimore), 17; 102(7), 2023.

012 筑紫 聡 : 薬物療法の適応と限界 1・2 進行肉腫におけるトラベクテジン・エリブリン・パゾパニブの治療成績 免疫マーカーの意義. 日本整形外科学会雑誌 (0021-5325), 96-7 : 519-524, 2022.

013 筑紫 聡 : 【もう悩まない こどもと思春期の整形外科診療】 (7章)腫瘍性疾患 軟部腫瘍 (解説). 臨床整形外科 (0557-0433), 57-5 : 689-694, 2022.

リハビリテーション部

001 Kakeru Tawada, Eiji Higaki, Tetsuya Abe, Jun Takatsu, Hironori Fujieda, Takuya Nagao, Koji Komori, Seiji Ito, Masahiro Yoshida, Isao Oze, Yasuhiro Shimizu : Maximum phonation time: an independent predictor of late-onset pneumonia after esophageal cancer surgery. Surg Today, Sep; 52(9): 1299-1306, 2022.

002 吉田雅博, 杉浦英志 : 骨転移を伴った神経内分泌腫瘍 (カルチノイド) の緩和的治療. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine (1881-3526) 特別号, S622, 2022.

泌尿器科部

001 Manabu Kato : Editorial Comment to Tenascin C regulates cancer cell glycolysis and tumor progression in prostate cancer. Int J Urol 6: 585-586, 2022.

002 Manabu Kato : "Editorial Comment on A rare case of long-term survival from metachronous bilateral adrenal metastasis of lung adenocarcinoma after combined surgical removal and immunochemotherapy". IJU Case Rep. 5 (6): 478-479, 2022.

003 Manabu Kato : "Editorial Comments to Patient-reported outcomes of a phase II neoadjuvant Apalutamide (ARN-509) and radical prostatectomy in treatment of intermediate- to high-risk prostate cancer (NEAR) trial". Int J Urol 11: 1330, 2022.

004 Manabu Kato : "Editorial Comment from Dr Kato to

- Rare case of a patient with testicular torsion complicated by acute pneumonia, requiring emergency surgery, during the COVID-19 pandemic". *IJU Case Rep.* 5(2): 102, 2022.
- 005 **Manabu Kato** : " Editorial Comment from Dr Kato to A case of metastatic treatment-emergent small cell/ neuroendocrine prostate cancer with BRCA2 mutation by liver biopsy". *IJU Case Rep.* 5(6): 436-437, 2022.
- 006 **Kobayashi M, Narita S, Matsui Y, Kanda S, Hidaka Y, Abe H, Tsuzuki T, Ito K, Kojima T, Kato M, Hatakeyama S, Matsushita Y, Naito S, Shiga M, Miyake M, Muro Y, Nakanishi S, Kato Y, Shibuya T, Hayashi T, Yasumoto H, Yoshida T, Uemura M, Taoka R, Kamiyama M, Morita S, Habuchi T, Ogawa O, Nishiyama H, Kitamura H, Kobayashi T; Japan Urological Oncology Group.** : Impact of histological variants on outcomes in patients with urothelial carcinoma treated with pembrolizumab: a propensity score matching analysis. *BJU Int.* 2022; 130: 226-234.
- 007 **Kobayashi T, Ito K, Kojima T, Maruyama S, Mukai S, Tsutsumi M, Miki J, Okuno T, Yoshio Y, Matsumoto H, Shimazui T, Segawa T, Karashima T, Masui K, Fukuta F, Tashiro K, Imai K, Suekane S, Nagasawa S, Higashi S, Fukui T, Ogawa O, Kitamura H, Nishiyama H** : Pre-pembrolizumab neutrophil-to-lymphocyte ratio (NLR) predicts the efficacy of second-line pembrolizumab treatment in urothelial cancer regardless of the pre-chemo NLR. *Cancer Immunol Immunother.* 2022; 71: 461-471.
- 008 **Nishiyama N, Kobayashi T, Narita S, Hidaka Y, Ito K, Maruyama S, Mukai S, Tsutsumi M, Miki J, Okuno T, Yoshio Y, Matsumoto H, Shimazui T, Segawa T, Karashima T, Masui K, Fukuta F, Tashiro K, Imai K, Suekane S, Nagasawa S, Higashi S, Fukui T, Kojima T, Morita S, Ogawa O, Nishiyama H, Kitamura H; Japan Urological Oncology Group.** : Efficacy and safety of pembrolizumab for older patients with chemoresistant urothelial carcinoma assessed using propensity score matching. *J Geriatr Oncol.* 2022; 13: 88-93.
- 009 **Tamada S, Kondoh C, Matsubara N, Mizuno R, Kimura G, Anai S, Tomita Y, Oyama M, Masumori N, Kojima T, Matsumoto H, Chen M, Li M, Matsuda K, Tanaka Y, Rini BI, Uemura H** : Pembrolizumab plus axitinib versus sunitinib in metastatic renal cell carcinoma: outcomes of Japanese patients enrolled in the randomized, phase III, open-label KEYNOTE-426 study. *Int J Clin Oncol.* 2022; 27: 154-164.
- 010 **Tanaka K, Kandori S, Sakka S, Nitta S, Tanuma K, Shiga M, Nagumo Y, Negoro H, Kojima T, Mathis BJ, Shimazui T, Watanabe M, Sato TA, Miyamoto T, Matsuzaka T, Shimano H, Nishiyama H** : ELOVL2 promotes cancer progression by inhibiting cell apoptosis in renal cell carcinoma. *Oncol Rep.* 2022; 47: 23.
- 011 **Nishimura N, Miyake M, Iida K, Miyamoto T, Tomida R, Numakura K, Inokuchi J, Yoneyama T, Matsumura Y, Yajima S, Masuda H, Terada N, Taoka R, Kobayashi T, Kojima T, Matsui Y, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K** : Prognostication in Japanese patients with bacillus Calmette-Guérin-unresponsive non-muscle-invasive bladder cancer undergoing early radical cystectomy. *Int J Urol.* 2022; 29: 242-249.
- 012 **Kato R, Naito S, Numakura K, Hatakeyama S, Koguchi T, Kojima T, Kawasaki Y, Kandori S, Kawamura S, Arai Y, Ito A, Nishiyama H, Kojima Y, Ohyama C, Habuchi T, Tsuchiya N, Obara W** : Significance of upfront cytoreductive nephrectomy stratified by IMDC risk for metastatic renal cell carcinoma in targeted therapy era - a multi-institutional retrospective study. *Int J Clin Oncol.* 2022; 27: 563-573.
- 013 **Nagumo Y, Onozawa M, Kojima T, Terada N, Shiota M, Mitsuzuka K, Yasumoto H, Matsumoto H, Enokida H, Sugiyama T, Kuroiwa K, Saito T, Yokomizo A, Kohei N, Tabata KI, Takahashi A, Sugimoto M, Kitamura H, Kamoto T, Nishiyama H; Japanese Urological Oncology Group (JUOG)** : Efficacy of combined androgen blockade therapy in patients with metastatic hormone-sensitive prostate cancer stratified by tumor burden. *Int J Urol.* 2022; 29: 398-405.
- 014 **Akamatsu S, Terada N, Takata R, Kinoshita H, Shimatani K, Momozawa Y, Yamamoto M, Tada H, Kawamorita N, Narita S, Kato T, Nitta M, Kandori S, Koike Y, Inazawa J, Kimura T, Kimura H, Kojima T, Terachi T, Sugimoto M, Habuchi T, Arai Y, Yamamoto S, Matsuda T, Obara W, Kamoto T, Inoue T, Nakagawa H, Ogawa O** : Clinical Utility of Germline Genetic Testing in Japanese Men Undergoing Prostate Biopsy. *JNCI Cancer Spectr.* 2022; 6: pkac001.
- 015 **Tomida R, Miyake M, Minato R, Sawada Y, Matsumura M, Iida K, Hori S, Fukui S, Ohyama C, Miyake H, Hongo F, Taoka R, Kobayashi T, Kojima T, Matsui Y, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K, Hashine K; Japanese Urological Oncology Group.** : Impact of carcinoma in situ on the outcome of intravesical Bacillus Calmette-Guérin therapy for non-muscle-invasive bladder cancer: a comparative analysis of large real-world data. *Int J Clin Oncol.* 2022; 27: 958-968.
- 016 **Kita Y, Ito K, Sano T, Hashimoto K, Mochizuki T, Shiraishi Y, Araki H, Fujiwara M, Kanamaru S, Takahashi T, Hishiki K, Okada T, Ogawa K, Ito M, Kojima T, Nishiyama N, Matsui Y, Nishiyama H, Kitamura H, Kobayashi T.** : Clinical practice pattern in patients with advanced urothelial cancer who had progressed on pembrolizumab in the pre-enfortumab vedotin era. *Int J Urol.* 2022; 29: 647-655.
- 017 **Terada N, Aizawa R, Nihei K, Shiota M, Kojima T, Kimura T, Inoue T, Kitamura H, Sugimoto M, Nishiyama H, Mizowaki T, Kamoto T** : Narrative review of local prostate and

- metastasis-directed radiotherapy in the treatment of metastatic prostate cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 2022; 52: 633-641.
- 018 **Numakura K, Nakai Y, Kojima T, Osawa T, Narita S, Nakayama M, Kitamura H, Nishiyama H, Shinohara N** : Overview of clinical management for older patients with renal cell carcinoma. *Jpn J Clin Oncol.* 2022; 52: 665-681.
- 019 **Kawahara T, Kawai K, Kojima T, Nagumo Y, Sakka S, Kandori S, Negoro H, Mathis BJ, Maruo K, Miura K, Sakamoto N, Shinohara N, Yamashita S, Yonemori K, Kishida T, Ukimura O, Nishimura K, Kobayashi Y, Nishiyama H** : Phase II trial of nivolumab monotherapy and biomarker screening in patients with chemo-refractory germ cell tumors. *Int J Urol.* 2022; 29: 741-747.
- 020 **Sekito S, Ogura Y, Soga N, Kojima T** : Pre-operative Serum Albumin as a Potential Predictor of Benign Lesions in Renal Masses. *Cancer Diagn Progn.* 2022; 2: 345-350.
- 021 **Narita S, Terada N, Nomura K, Sakamoto S, Hatakeyama S, Kato T, Matsui Y, Inokuchi J, Yokomizo A, Tabata KI, Shiota M, Kimura T, Kojima T, Inoue T, Mizowaki T, Sugimoto M, Kitamura H, Kamoto T, Nishiyama H, Habuchi T; Japanese Urological Oncology Group** : Cancer-specific and net overall survival in older patients with de novo metastatic prostate cancer initially treated with androgen deprivation therapy. *Int J Urol.* 2022; 29: 1147-1154.
- 022 **Nitta S, Kandori S, Tanaka K, Sakka S, Siga M, Nagumo Y, Negoro H, Kojima T, Mathis BJ, Shimazui T, Miyamoto T, Matsuzaka T, Shimano H, Nishiyama H** : ELOVL5-mediated fatty acid elongation promotes cellular proliferation and invasion in renal cell carcinoma. *Cancer Sci.* 2022; 113: 2738-2752.
- 023 **Inoue T, Miyake M, Nishimura N, Onozawa M, Kashima S, Numakura K, Narita S, Iida K, Uemura M, Matsushita Y, Inokuchi J, Matsui Y, Taoka R, Kojima T, Kobayashi T, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K, Habuchi T** : Association of Increased Age With Decreased Response to Intravesical Instillation of Bacille Calmette-Guérin in Patients With High-Risk Non-Muscle Invasive Bladder Cancer: Retrospective Multi-Institute Results From the Japanese Urological Oncology Research Group JUOG-UC-1901-BCG. *Urology.* 2022; 167: 158-164.
- 024 **Murakami Y, Matsumoto K, Miyake M, Amano N, Shimura S, Nishimura N, Iida K, Matsushita Y, Abe T, Yamada T, Uemura M, Matsui Y, Taoka R, Kojima T, Kobayashi T, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K, Iwamura M** : Real-world treatment patterns and oncological outcomes in early relapse and refractory disease after bacillus Calmette-Guérin failure in non-muscle-invasive bladder cancer. *Int J Urol.* 2022; 29: 1195-1203.
- 025 **Kojima T, Kato R, Sazuka T, Yamamoto H, Fukuda S, Yamana K, Nakaigawa N, Sugino Y, Hamamoto S, Ito H, Murakami H, Obara W** : Real-world effectiveness of nivolumab plus ipilimumab and second-line therapy in Japanese untreated patients with metastatic renal cell carcinoma: 2-year analysis from a multicenter retrospective clinical study (J-cardinal study). *Jpn J Clin Oncol.* 2022; 52(11): 1345-1352.
- 026 **Chihara I, Nagumo Y, Kandori S, Kojo K, Sano K, Hamada K, Tanuma K, Tsuchiya H, Shiga M, Sakka S, Kimura T, Kawahara T, Hoshi A, Negoro H, Kojima T, Bryan MJ, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H** : Clinicopathological features of adrenal malignancies: Analysis of hospital-based cancer registry data in Japan. *Int J Urol.* 2022; 29: 1331-1337.
- 027 **小島崇宏** : 尿路上皮がんの診断と治療—update 2022 UroVysion® の現状と今後の展望. *泌尿器科,* 16(6) : 1-8, 2022
- 028 **北野剛士, 小島崇宏** : 【最新版! 筋層浸潤性膀胱癌の診断と治療—アンメットニーズはどこまで埋まったか】治療 転移性膀胱癌に対する三次薬物治療 (解説). *臨床泌尿器科* (0385-2393)77 巻 3 号 Page266-272 (2023.03)
- 029 **関戸 翔, 小島崇宏** : 特集『チーム医療に役立つ最新知識泌尿器がんに対する免疫療法』. 特集4 腎がん一次治療のエビデンスと治療の現況「免疫チェックポイント阻害薬 + 分子標的. 治療薬併用療法 『泌尿器 Care&Cure Uro-Lo』 第 27 巻 3 号
- 030 **関戸 翔, 小島崇宏** : 尿路上皮がんにおける遺伝子検査に基づいた個別化医療の現状. 特集 / 泌尿器科領域の遺伝性疾患とゲノム医療の最前線. 『泌尿器科』 第 16 巻 第 2 号 (2022 年 8 月)

婦人科部

- 001 **Kajimoto Y, Shibutani T, Nagao S, Yamaguchi S, Suzuki S, Mori M, Tsubouchi H, Nakao K, Azuma A, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Honda K, Igarashi A.** : Validity of the COMprehensive Score for financial Toxicity (COST) in patients with gynecologic cancer. *Int J Gynecol Cancer.* 20: ijgc-2022-003410, 2022.
- 002 **Yoshikawa T, Wu Z, Inoue S, Kasuya H, Matsushita H, Takahashi Y, Kuroda H, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y.** : Genetic ablation of PRDM1 in antitumor T cells enhances therapeutic efficacy of adoptive immunotherapy. *Blood,* 7; 139(14): 2156-2172, 2022.
- 003 **Yonemori K, Yunokawa M, Ushijima K, Sakata J, Shikama A, Minobe S, Usami T, Enomoto T, Takehara K, Hasegawa K, Yamagami W, Yamamoto K, Han S, Dutta L, Orłowski R, Miura T, Makker V, Fujiwara K.** : Lenvatinib plus pembrolizumab in Japanese patients with endometrial cancer: Results from Study 309/KEYNOTE-775. *Cancer Sci,* 113(10): 3489-3497, 2022.
- 004 **Mizuno M, Ito K, Nakai H, Kato H, Kamiura S, Ushijima K,**

- Nagao S, Takano H, Okadome M, Takekuma M, Tokunaga H, Nagase S, Aoki D, Coleman RL, Nishimura Y, Ratajczak CK, Hashiba H, Xiong H, Katsumata N, Enomoto T, Okamoto A.* : Veliparib with frontline chemotherapy and as maintenance in Japanese women with ovarian cancer: a subanalysis of efficacy, safety, and antiemetic use in the phase 3 VELIA trial. *Int J Clin Oncol*, 28(1): 163-174, 2023.
- 005 *Nakanishi T, Saito T, Aoki D, Watanabe Y, Ushijima K, Takano M, Sugiyama T, Yaegashi N, Takehara K.* : JGOG2046: a feasibility study of neoadjuvant chemotherapy followed by debulking surgery for clinically diagnosed FIGO stage IVb endometrial cancer. *Int J Clin Oncol*, 8(3): 436-444, 2023.
- 006 *Kaji K, Tsubouchi H, Mori M, Suzuki S.* : Postoperative transverse colon necrosis due to mesenteric injury during laparoscopic surgery for endometrial carcinoma. *J Surg Case Rep*, 17; 2023(1): rjac636, 2023.
- 007 *Wu Z, Yoshikawa T, Inoue S, Ito Y, Kasuya H, Nakashima T, Zhang H, Kotaka S, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y.* : CD83 expression characterizes precursor exhausted T cell population. *Commun Biol*, 11; 6(1): 258, 2023.
- 008 *Kajimoto Y, Honda K, Suzuki S, Mori M, Tsubouchi H, Nakao K, Azuma A, Shibutani T, Nagao S, Koyanagi T, Kohara I, Tamaki S, Yabuki M, Teng L, Fujiwara K, Igarashi A.* : Association between financial toxicity and health-related quality of life of patients with gynecologic cancer. *Int J Clin Oncol*, 28(3): 454-467, 2023.
- 009 坪内寛文, 小高紗季, 安井啓晃, 小島龍司, 渡邊絵里, 森正彦, 鈴木史朗 : 家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸切除後に子宮体部腫瘍を認めた2例. 東海産科婦人科学会雑誌 59 (211-216), 2023.
- 010 坪内寛文, 小高紗季, 安井啓晃, 小島龍司, 渡邊絵里, 森正彦, 遠藤由香, 片岡愛弓, 吉村章代, 鈴木史朗 : 腹腔鏡下リスク低減卵巣摘出術において多科合同手術を実施した26例の検討. 東海産科婦人科学会雑誌 (0915-7204) 59 (55-63), 2023.
- 003 *Yamaguchi J, Ohka F, Lushun C, Motomura K, Aoki K, Takeuchi K, Nagata Y, Ito S, Mizutani N, Ohno M, Suzaki N, Takasu S, Seki Y, Kano T, Wakabayashi K, Oyama H, Kurahashi S, Tanahashi K, Hirano M, Shimizu H, Kitano Y, Maeda S, Yamazaki S, Wakabayashi T, Kondo Y, Natsume A, Saito R.* : CD79B Y196 mutation is a potent predictive marker for favorable response to R-MPV in primary central nervous system lymphoma. *Cancer Med*, 12: 7116-7126, 2022
- 004 灰本章一 : 転移性脊椎腫瘍に対する治療戦略. 脊椎外科, 36: 141-148, 2022.

放射線診断・I V R部

- 001 *Kurita Y, Hara K, Kobayashi N, Kuwahara T, Mizuno N, Okuno N, Haba S, Yagi S, Hasegawa S, Sato T, Hosono K, Endo I, Shimizu Y, Niwa Y, Utsunomiya D, Inaba Y, Nakajima A, Kubota K, Ichikawa Y.* : Detection rate of endoscopic ultrasound and computed tomography in diagnosing pancreatic neuroendocrine neoplasms including small lesions: A multicenter study. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 1-10, 2022
- 002 *Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Hasegawa T, Sato Y, Inaba Y, Haneda H, Okuda K, Nakanishi R, Kuroda H.* : Preoperative percutaneous needle indigo carmine and lipiodol mixture marking in lung segmentectomy. *Eur J Cardiothoracic Surg*, 62(4): ezac432, 2022
- 003 *Sato Y, Matsueda K, Osawa M, Inaba Y, Takahashi Y, Inoue Y, Oba A, Fukunaga Y, Shimizu Y.* : Interventional management for postoperative arterial bleeding in gastrointestinal surgery. *Int J Gastrointest Interv*, 11(4): 179-185, 2022
- 004 *Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Matsuo K, Yamanaka T, Nakatsuka A, Takao M, Gobara H, Hayashi S, Inaba Y, Yamakado K.* : Impact of the ablative margin on local tumor progression after radiofrequency ablation for lung metastases from colorectal carcinoma ; supplementary analysis of a phase II trial (MLCSG-0802). *J Vasc Interv Radiol*, 34(1): 31-37, 2023
- 005 *Furuse J, Izumi N, Motomura K, Inaba Y, Katamura Y, Kondo Y, Yabushita K, Motoyoshi K, Kudo M.* : Safety and effectiveness of Lenvatinib in patients with unresectable hepatocellular carcinoma in real-world clinical practice: An observational post-marketing study in Japan. *Drugs Real World Outcomes*, 10(2): 195-205, 2023
- 006 *Kato N, Kudo M, Tsuchiya K, Hagihara A, Numata K, Aikata H, Inaba Y, Kondo S, Motomura K, Okano N, Ikeda M, Morimoto M, Kuroda S, Kimura A.* : Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma; final results a multicenter phase II study. *Hepatol Res*, 53(5): 409-416, 2023

脳神経外科部

- 001 *Ohno M, Kuramitsu S, Iwakoshi A, Yamaguchi J, Ohoka F, Saito R.* : Primary central nervous system malignant lymphoma in a patient with rheumatoid arthritis receiving tocilizumab: illustrative case. *Journal of neurosurgery Case lessons*, 4: CASE22256, 2022.
- 002 *Chalise L, Kato A, Ohno M, Maeda S, Yamamichi A, Kuramitsu S, Shiina S, Takahashi H, Ozono S, Yamaguchi J, Kato Y, Rockenbach Y, Natsume A, Todo T.* : Efficacy of cancer-specific anti-podoplanin CAR-T cells and oncolytic herpes virus G47 Δ combination therapy against glioblastoma. *Mol Ther Oncolytics*, 26:265-274, 2022.

- 007 長谷川貴章, 高木治行 : 1. Interventional radiology 3) アブレーション. 外科 84 巻 8 号, 南江堂, 840-844, 2022
- 008 稲葉吉隆, 長谷川貴章 : 骨転移診療ガイドライン改訂第 2 版, 南江堂, 2022

放射線治療部

- 001 **Takeshi Kodaira, Yoshikazu Kagami, Ryunosuke Machida, Naoto Shikama, Yuta Sekino, Yoshinori Ito, Satoshi Ishikura, Yoshihiro Saito, Yasuo Matsumoto, Koji Konishi, Naoya Murakami, Tetsuo Akimoto, Yuuki Fukushima, Takashi Toshiyasu, Atsuto Katano, Yasushi Nagata, Hirofumi Ogawa, Takashi Uno, Yasushi Hamamoto, Yasumasa Nishimura, Takashi Mizowaki** : on behalf of Japan Clinical Oncology Group Long-term follow-up of an RCT on Accelerated Radiotherapy vs. standard fractionated radiotherapy for early Glottic Cancer (JCOG0701A3), Int J Radiat Oncol Biol Phys in press.
- 002 **Suzuki H, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : Metabolic Tumour Volume as a Predictor of Survival for Sinonasal Tract Squamous Cell Carcinoma. Diagnostics (Basel). 12 (1), 2022.
- 003 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Tachibana H, Koide Y, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Parotid gland dose reduction in the hippocampus avoidance whole-brain radiotherapy using helical tomotherapy. J Radiat Res. 63(1): 55-62, 2022.
- 004 **Koide Y, Shimizu H, Miyauchi R, Haimoto S, Tanaka H, Watanabe Y, Adachi S, Kato D, Aoyama T, Kitagawa T, Tachibana H, Kodaira T** : Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine stereotactic body radiation therapy: a multicenter non-inferiority study. J Radiat Res. 63(1): 115-121, 2022.
- 005 **Koide Y, Shimizu H, Aoyama T, Kitagawa T, Miyauchi R, Watanabe Y, Tachibana H, Kodaira T** : Preoperative spirometry and BMI in deep inspiration breath-hold radiotherapy: the early detection of cardiac and lung dose predictors without radiation exposure. Radiat Oncol. 17(1): 35, 2022.
- 006 **Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Yokota T, Okano S, Tanaka K, Onoe T, Ariizumi Y, Homma A** : Systemic therapy for salivary gland malignancy: current status and future perspectives. Jpn J Clin Oncol. 52(4): 293-302, 2022.
- 007 **Saito Y, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Yokota T, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Okano S, Imamura Y, Ariizumi Y** : Hayashi Human papillomavirus-related oropharyngeal carcinoma. R. Jpn J Clin Oncol. 52 (7): 692-698, 2022.
- 008 **Takahiro Aoyama, Hidetoshi Shimizu, Tomoki Kitagawa, Yasunori Ishiguro, Takeshi Kodaira** : Development of a device that remotely removes a mask in the head and neck immobilization system: a prototype and demonstration experiment Radiol Phys Technol 15(3): 249-254, 2022.
- 009 **M. Nozaki, Y. Kagami, M. Takahashi, R. Machida, Y. Sekino, T. Shibata** : et al. Evaluation of breast cosmetic changes with a computer-software; the breast cancer conservative treatment cosmetic results (BCCT. core) in hypofractionated whole breast irradiation after breast-conserving surgery-supplementary analysis of multicenter single-arm confirmatory trial: JCOG0906 Breast Cancer 29(6), 1042-1049, 2022.
- 010 **Naomi Kiyota, Makoto Tahara, Junki Mizusawa, Takeshi Kodaira, Hirofumi Fujii, Tomoko Yamazaki, Hiroki Mitani, Shigemichi Iwae, Yasushi Fujimoto, Yusuke Onozawa, Nobuhiro Hanai, Takenori Ogawa, Hiroki Hara, Nobuya Monden, Eiji Shimura, Shujiro Minami, Takashi Fujii, Kaoru Tanaka, Akihiro Homma, Seiichi Yoshimoto, Nobuhiko Oridate, Koichi Omori, Tsutomu Ueda, Kenji Okami, Ichiro Ota, Kiyoto Shiga, Masashi Sugawara, Takahiro Asakage, Yuki Saito, Shigeyuki Muroto, Yasumasa Nishimura, Kenichi Nakamura, Ryuichi Hayashi** : Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG) Weekly Cisplatin Plus Radiation for Postoperative Head and Neck Cancer (JCOG1008): A Multicenter, Noninferiority, Phase II/III Randomized Controlled Trial. JCO 40(18), 1980-90, 2022.
- 011 **Yuichiro Takeda, Yusaku Kusaba, Yoko Tsukita, Yukari Uemura, Eisaku Miyauchi, Takaya Yamamoto, Hiroshi Mayahara, Akito Hata, Hidetsugu Nakayama, Satoshi Tanaka, Junji Uchida, Kazuhiro Usui, Tatsuya Toyoda, Motohiro Tamiya, Masahiro Morimoto, Yuko Oya, Takeshi Kodaira, Keiichi Jingu, Hisatoshi Sugiura** : The efficacy profiles of concurrent chemoradiotherapy with intensity-modulated radiotherapy followed by durvalumab in patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer: A multicenter retrospective cohort study Clin Transl Radiat Oncol. 37: 57-63, 2022.
- 012 **Ota Y, Kodaira T, Fujii H, Shimokawa M, Yokota T, Nakashima T, Monden N, Homma A, Ueda S, Akimoto T** : Real-world clinical outcomes in Japanese patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck treated with radiotherapy plus cetuximab: a prospective observational study (JROSG12-2). Int J Clin Oncol. 27(11): 1675-1683, 2022.
- 013 **Koide Y, Nagai N, Miyauchi R, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Tachibana H, Kodaira T** : Radiotherapy or systemic therapy versus combined therapy in patients with brain metastases: a propensity-score matched

- study. *J Neurooncol.* 160(1): 191-200, 2022.
- 014 **Inada M, Nishimura Y, Ishikura S, Ishikawa K, Murakami N, Kodaira T, Ito Y, Tsuchiya K, Murakami Y, Saito J, Akimoto T, Nakata K, Yoshimura M, Teshima T, Toshiyasu T, Ota Y, Minemura T, Shimizu H, Hiraoka M** : Organs-at-risk dose constraints in head and neck intensity-modulated radiation therapy using a dataset from a multi-institutional clinical trial (JCOG1015A1). *Radiat Oncol.* 17(1): 133, 2022.
- 015 **Koide Y, Aoyama T, Shimizu H, Kitagawa T, Miyauchi R, Tachibana H, Kodaira T** : Development of deep learning chest X-ray model for cardiac dose prediction in left-sided breast cancer radiotherapy. *Sci Rep.* 12(1)13706, 2022.
- 016 **Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Yokota T, Okano S, Tanaka K, Onoe T, Arizumi Y, Homma A** : Systemic therapy for salivary gland malignancy: current status and future perspectives/ *Jpn J Clin Oncol.* 52(4): 293-302, 2022.
- 017 **Shirato H, Harada H, Iwasaki Y, Notsu A, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Wada H, Kubota H, Shikama N, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Takahashi S, Kosugi T, Ejima Y, Katoh N, Yoshida K, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Saito T, Ikeda H, Asakawa I, Tateishi T, Takahashi T, Shigematsu N** : Income and Employment of Patients at the Start and in the Follow-up of Palliative Radiotherapy for Bone Metastasis. *Advances in Radiation Oncology.* Doi: 10.1016/j.adro.2023.101205.
- 018 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Evaluation of a new acrylic-lead shielding device for peripheral dose reduction during cone-beam computed tomography. *BJR Open.* 4: 20220043, 2022.
- 019 **Horio Y, Tachibana H, Shimizu J, Hosoda W, Fujiwara Y** : Successful IMRT and concurrent chemotherapy for a patient with intrathoracic extensive-stage small cell lung cancer. *Respirol Case Rep.* 10(4): 2022.
- 020 **Tamari K, Nagata Y, Mizowaki T, Kodaira T, Onishi H, Ogawa K, Shioyama Y, Shigematsu N, Uno T** : The impact of the COVID-19 pandemic on radiotherapy in Japan: nationwide surveys from May 2020 through June 2021. *J Radiat Res* 64(1): 126-132, 2023.
- 021 **Koide Y, Nagai N, Miyauchi R, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Tachibana H, and Kodaira T** : Recent trends of characteristics and treatments in adults with newly diagnosed brain metastases. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 2023. Doi: 10.1093/jjco/hyad026.
- 022 **Doi Y, Nagata Y, Matsumoto Y, Numata K, Sasaki R, Yamada T, Igaki H, Imagumbai T, Katoh N, Yoshitake T, Shimizuguchi T, Fujioka D, Inoue M, Koide Y, Kimura T, Ito Y** : Multicenter retrospective study of Stereotactic body radiotherapy for patients with previously untreated initial small hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res* 2023. <https://doi.org/10.1111/hepr.13908>.
- 023 **古平 毅** : Head and Neck tumor 頭頸部腫瘍 高齢者頭頸部癌の治療戦略 I, 高齢者頭頸部癌に対する放射線治療 *Jpn J Cancer Chemother* 49(7) : 739745, 2022.
- 024 **清水秀年** : 特集 III 期非小細胞肺癌に対するIMRT 「III期非小細胞肺癌に対するIMRT:物理・技術的ポイント」, *臨床放射線*, 67 : 10, 2022.
- 025 **清水秀年** : 教育講座—より安全で理想的な放射線治療計画技術への挑戦—「7. 頭頸部領域の照合画像からみえてきた放射線治療計画への注意点」, *日本放射線技術学会雑誌*, 78 : 12, 2022.
- 026 **清水秀年 (分担執筆)** : 時間をかけずに的確に行う 強度変調放射線治療計画のコツ. *株式会社学研メディカル潤滑社*, 2022.
- 027 **立花弘之** : 消化器ナーシング 27 巻 12 号特集 「消化器がん化学療法・薬物療法 Q & A 各論 4 放射線療法の有害事象 (副作用), 予防と対策」.
- 028 **清水秀年 (分担執筆)** : 強度変調放射線治療における物理技術ガイドライン (略称: IMRT 物理技術ガイドライン 2023), 2023.

感染症内科部

- 001 **Itoh N, Akazawa N, Ishibana Y, Masuishi T, Nakata A, Murakami H** : Clinical and microbiological features of obstructive cholangitis with bloodstream infection caused by *Pandora* apista identified by MALDI-TOF mass spectrometry and ribosomal RNA sequencing in a cancer patient. *BMC Infect Dis.* 7; 22(1): 529, 2022.
- 002 **Furuya K, Itoh N** : A Rare Case of Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders With Unknown Fever and Subacute Cognitive Decline With Normal Images. *Cureus.* 12; 14(5): e24950, 2022.
- 003 **Akazawa N, Itoh N, Morioka H, Ogata T, Ishibana Y, Murakami H, Narita Y** : Cholangitis with *Sphingobacterium multivorum* and *Acinetobacter junii* bacteremia in a patient with gastric cancer: A case report. *J Infect Chemother.* 28(10): 1419-1423, 2022.
- 004 **Itoh N, Akazawa N, Ishibana Y, Hamada S, Hagiwara S, Murakami H** : Femoral osteomyelitis caused by oral anaerobic bacteria with mixed bacteremia of *Campylobacter rectus* and *Parvimonas micra* in a chronic periodontitis patient: a case report. *BMC Infect Dis.* Jul 14; 22(1): 613, 2022.
- 005 **Itoh N, Akazawa N, Ishikane M, Kawabata T, Kawamura D, Chikusa T, Kodama EN, Ohmagari N** : Lessons learned from an outbreak of COVID-19 in the head and neck surgery ward of a Japanese cancer center during the sixth wave by Omicron. *J Infect Chemother.* 28(12):

1610-1615, 2022.

- 006 **Itoh N, Akazawa N, Yanaidani T, Kuwahara T** : Clinical and microbiological features of intratumor abscess with bloodstream infection caused by *Plesiomonas shigelloides*, *Citrobacter freundii*, *Streptococcus mitis/oralis*, *Clostridium perfringens*, and *Candida albicans* in a patient with cholangiocarcinoma: A case report. *J Infect Chemother.* 28(12): 1677-1681, 2022.
- 007 **Itoh N, Akazawa N, Yanaidani T, Hosoda W, Mori M** : Vancomycin-induced linear IgA bullous dermatosis in a patient with cancer. *IDCases.* 22;31:e01671, 2022.
- 008 **Itoh N, Kawabata T, Akazawa N, Kawamura D, Murakami H, Ishibana Y, Kodama EN, Ohmagari N** : Reduction strategies for inpatient oral third-generation cephalosporins at a cancer center: An interrupted time-series analysis. *PLoS One.* 9; 18(2): e0281518, 2023.

精神腫瘍科部

- 001 **小森康永** : ジョンとマイケル : <問題>を問題化した人々たち, 家族療法研究, 39(2) : 179-185, 2022
- 002 **小森康永, 野口裕二, 野村直樹** : ナラティブ・セラピーの30年, 家族療法研究, 39(2) : 186-192, 2022
- 003 **小森康永** : 海外文献紹介 デイナ・ウォラス『アリスハイマーの』, 家族療法研究, 39(3) : 303-308, 2022
- 004 **小森康永** : 探求方法としての書くこと, 精神療法, 増刊第9号 : 166-171, 2022
- 005 **小森康永** : Jon と Don のパラドックス, 精神療法, 49(1) : 48-53, 2023
- 006 **小森康永, 安達映子** : ナラティブ・コンサルテーション——書くことがひらく臨床空間, 金剛出版, 2022.4.20
- 007 **C・ソングース (小森康永訳)** : シシリー・ソングース, ケアを語る——私のスピリチュアリティ, 北大路書房, 2022.5.20
- 008 **小森康永, 岸本寛史** : がんと嘘と秘密——ゲノム医療時代のケア, 遠見書房, 2022.7.1

看護部

- 001 **井上さよ子, 野口見知子** : 頭頸部アルミノックス治療の光線過敏症対策の実践報告 精神的な影響に配慮した療養環境の整備. 第45回日本頭頸部癌学会, 2022, (奈良), [口演]
- 002 **山口真澄, 小原真紀子, 上岡亜子, 佐野雄三, 青木智子, 能澤一樹, 足立 雄, 新津宏明, 井本逸勢, 安藤正志, 衣斐寛倫** : がん専門病院におけるがんゲノムプロファイリング検査結果に基づく治療・臨床試験に関する相談内容と今後の課題. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023, (福岡), [口演]
- 003 **山口真由美, 新田都子, 青山寿昭** : がん専門病院におけ

る PICS 予防のための取り組み. 第38回愛知県看護学会, 2022, (愛知), [口演]

- 004 **新田都子, 山口真由美, 青山寿昭** : 緩和ケア病棟・緩和ケアチーム専従経験があるがん性疼痛看護認定看護師のICU配属後の活動. 日本緩和医療学会東海・北陸支部学術大会, 2022, (福井), [ポスター]
- 005 **深堀慎一郎, 林 美子** : 特定行為研修修了者の活動を支える組織内体制づくり～組織的な合意形成と周知活動を中心に振り返る～. 第38回愛知県看護学会, 2023, (愛知), (Web), [口演]
- 006 **青山寿昭** : 頭頸部癌患者の放射線治療による嚥下障害, 嚥下マニア, 2022, (愛知), [口演]
- 007 **田崎智子** : 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) 診療における看護師の役割. 第19回日本乳がん学会中部地方会, 2022, (愛知), [口演]
- 008 **八重樫裕, 青山寿昭** : がん専門病院で嚥下外来の有効活用をめざして. 第15回日本摂食嚥下障害看護研究会, 2022, (北海道), (ハイブリッド開催), [口演]
- 009 **久保 知** : 放射線治療・化学放射線療法の治療・看護. 頭頸部がんマスターガイド, メディカ出版, 140-174, 2021
- 010 **向井未年子** : 特集: 悪液質と食関連苦悩 (eating-related distress; ERD) 食べることに関するつらさ (ERD) —看護師の役割. 緩和ケア, 32(5), 青海社 : 389-393, 2022
- 011 **Y. Kajimoto, K. Honda, K. Nozawa, M. Mukai, Lida Teng, A. Igarashi** : Use of Anticancer Therapies and Economic Burden Near the End of Life in Japan: Results From Claims Database, *JCO Global Oncology* no. 8 (2022)

薬剤部

- 001 **Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Okada A, Ebi H, Matsuzaki M, Iwata H, Sawaki M** : Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib. *Eur J Clin Pharmacol.* 78: 1239-1247, 2022.
- 002 **Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Ebi H, Uchida K, Iwata H, Sawaki M** : Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib metabolites (M2, M20, M18). *Anticancer Research.* 43: 1283-1289, 2023.
- 003 **Miyagi T, Tsuji D, Kawasaki Y, Ishikawa H, Tanaka R, Nakao M, Nakagaki S, Hayashi T, Ayuhara H, Harada T, Tamaki S, Maeda A, Ohashi Y, Arakawa Y, Fujita Y, Yamamoto K, Miyamoto Y, Yano T, Itoh K** : Chemotherapy-induced neutropenia as a prognostic factor in patients with extensive-stage small cell lung cancer. *Eur J Clin Pharmacol.* 79: 407-414, 2023.
- 004 **Shimomura K, Yamaguchi T, Oya Y, Uchida K, Murotani K** : Impact of Corticosteroids for IrAEs on the Clinical Outcome of Immunotherapy in Patients With NSCLC. *Anticancer Research.* 42(12): 5961-5969, 2022.

- 005 前田章光, 山内拓也, 長谷川彩子, 村田史子, 堀 恭子, 加藤正孝, 松崎雅英: 抗がん剤鑑査室の作業従事者及び天井空調に対する抗がん剤汚染調査. 日本病院薬剤師会雑誌. 58: 770-775, 2022.
- 006 前田章光: がん薬物療法における悪心・嘔吐に対する予防と対応 (特別寄稿). 愛知県病院薬剤師会雑誌. 50: 2-5, 2022.
- 007 山口智江, 前田章光 (corresponding author), 大島有美子, 小柳津瞳, 中井 剛, 原田哲彦, 藤村浩司, 小西郁代, 坂野博紀, 杉本智哉, 佐々木俊則, 佐藤由美子, 堀田和男, 川合甲祐, 久田達也, 宮崎雅之: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行が及ぼす外来診療におけるがん薬物療法および服薬指導への影響. 日本病院薬剤師会雑誌 59: 35-40. 2023.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

研究所長

- 001 **Usui Y, Taniyama Y, Endo M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Oze I, Ito H, Imoto I, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Iwasaki Y, Aoi T, Hakozaki N, Takata S, Suzuki K, Terao C, Hatakeyama M, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Kamatani Y, Nakagawa H, Matsuda K, Murakami Y, Spurdle AB, Matsuo K, Momozawa Y** : Helicobacter pylori, homologous-recombination genes, and gastric cancer. *N Engl J Med*, 388: 1181-1190, 2023.
- 002 **Katagiri R, Goto A, Nakano S, Nakatochi M, Koyanagi YN, Iwagami M, Hanyuda A, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Imoto I, Momozawa Y, Oze I, Ito H, Tsugane S, Wakai K, Matsuo K, Iwasaki M** : Association of 25-hydroxyvitamin D with risk of overall and colorectal cancer among Japanese using a Mendelian randomization approach. *Sci Rep*, 13: 2384, 2023.
- 003 **Yoshinaga K, Yasue A, Mitsui SN, Minegishi Y, Oyadomari S, Imoto I, Tanaka E** : Effects of Wnt10a and Wnt10b double mutations on tooth development. *Genes (Basel)*, 14: 340, 2023.
- 004 **Tange S, Hirano T, Idogawa M, Hirata E, Imoto I, Tokino T** : MYEOV overexpression induced by demethylation of its promoter contributes to pancreatic cancer progression via activation of the folate cycle/c-Myc/mTORC1 pathway. *BMC Cancer*, 23: 85, 2023.
- 005 **Iwagami M, Goto A, Katagiri R, Sutoh Y, Koyanagi YN, Nakatochi M, Nakano S, Hanyuda A, Narita A, Shimizu A, Tanno K, Hozawa A, Kinoshita K, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Hishida A, Kasugai Y, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K, Iwasaki M** : Blood lipids and the risk of colorectal cancer: Mendelian randomization analyses in the Japanese Consortium of Genetic Epidemiology Studies. *Cancer Prev Res (Phila)*, 15: 827-836, 2022.
- 006 **Abe A, Imoto I, Ueki A, Nomura H, Kanao H** : Moderate-Risk Genes for hereditary ovarian cancers involved in the homologous recombination repair pathway. *Int J Mol Sci*, 23: 11790, 2022.
- 007 **Takahashi Y, Date H, Oi H, Adachi T, Imanishi N, Kimura E, Takizawa H, Kosugi S, Matsumoto N, Kosaki K, Matsubara Y; IRUD Consortium; Mizusawa H** : Six years' accomplishment of the Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: nationwide project in Japan to discover causes, mechanisms, and cures. *J Hum Genet*, 67: 505-513, 2022.
- 008 **Yoshimura A, Imoto I, Iwata H** : Functions of breast cancer predisposition genes: Implications for Clinical Management. *Int J Mol Sci*, 23: 7481, 2022.
- 009 **Abe A, Imoto I, Tange S, Nishimura M, Iwasa T** : Prevalence

- of pathogenic germline BRCA1/2 variants and their association with clinical characteristics in Patients with epithelial ovarian cancer in a rural area of Japan. *Genes (Basel)*, 13: 1085, 2022.
- 010 **Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi YN, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I, Matsuo K** : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci*, 113: 1451-1462, 2022.
- 011 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113: 1441-1450, 2022.
- 012 **丹羽 諒, 井本逸勢** : 第8章 疾患に関するゲノムやバリエーションを調べる 3. *ClinVar. 実験医学増刊*, 40(17) : 222-224, 2022.
- 013 **井本逸勢, 高磯伸枝, 市川真琴** : 泌尿器科医必見! がんゲノム医療の基本と応用. *泌尿器外科 Vol.36・No.3*, 36(3) : 207-213, 2023.

がん情報・対策研究分野

- 001 **Usui Y, Taniyama Y, Endo M, Koyanagi YN, Kasugai Y, Oze I, Ito H, Imoto I, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Iwasaki Y, Aoi T, Hakozaki N, Takata S, Suzuki K, Terao C, Hatakeyama M, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Kamatani Y, Nakagawa H, Matsuda K, Murakami Y, Spurdle AB, Matsuo K, Momozawa Y** : Helicobacter pylori, Homologous-Recombination Genes, and Gastric Cancer. *N Engl J Med*, 30: 388(13): 1181-1190, 2023.
- 002 **Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S, Inoue M; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan** : Author Correction: Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan: a systematic review and meta-analysis of observational studies. *Sci Rep*, 8: 13(1): 3899, 2023.
- 003 **Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S, Inoue M; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan** : Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan: a systematic review and meta-analysis of observational studies. *Sci Rep*, 1;13(1):

- 3445,2023.
- 004 *Manandhar Shrestha R, Mizoue T, Islam Z, Kawakatsu Y, Ito H, Wada K, Nagata C, Zha L, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Lin Y, Oze I, Abe SK, Inoue M* : Adult height and risk of colorectal cancer: a pooled analysis of ten population-based cohort studies in Japan. *J Epidemiol*, 2023.
- 005 *Mueller SH, Lai AG, Valkovskaya M, Michailidou K, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Lush M, Abu-Ful Z, Ahearn TU, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Aronson KJ, Augustinsson A, Baert T, Freeman LEB, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Blomqvist C, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bonanni B, Brenner H, Brucker SY, Buys SS, Castelao JE, Chan TL, Chang-Claude J, Chanock SJ, Choi JY, Chung WK; NBCS Collaborators; Colonna SV; CTS Consortium; Cornelissen S, Couch FJ, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dörk T, Dossus L, Dwek M, Eccles DM, Ekici AB, Eliassen AH, Engel C, Evans DG, Fasching PA, Fletcher O, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gao YT, García-Closas M, García-Sáenz JA, Genkinger J, Gentry-Maharaj A, Grassmann F, Guénel P, Gündert M, Haeberle L, Hahnen E, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Harkness EF, Harrington PA, Hartikainen JM, Hartman M, Hein A, Ho WK, Hooning MJ, Hoppe R, Hopper JL, Houlston RS, Howell A, Hunter DJ, Huo D; ABCTB Investigators; Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jones ME, Jung A, Kaaks R, Kang D, Khusnutdinova EK, Kim SW, Kitahara CM, Koutros S, Kraft P, Kristensen VN, Kubelka-Sabit K, Kurian AW, Kwong A, Lacey JV, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Linet M, Lo WY, Long J, Lophatananon A, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Matsuo K, Mavroudis D, Menon U, Muir K, Murphy RA, Nevanlinna H, Newman WG, Niederacher D, O'Brien KM, Obi N, Offit K, Olopade OI, Olshan AF, Olsson H, Park SK, Patel AV, Patel A, Perou CM, Peto J, Pharoah PDP, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Rack B, Radice P, Ramachandran D, Rashid MU, Rennert G, Romero A, Ruddy KJ, Ruebner M, Saloustros E, Sandler DP, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Schneider MO, Scott C, Shah M, Sharma P, Shen CY, Shu XO, Simard J, Surowy H, Tamimi RM, Tapper WJ, Taylor JA, Teo SH, Teras LR, Toland AE, Tollenaar RAEM, Torres D, Torres-Mejía G, Troester MA, Truong T, Vachon CM, Vijai J, Weinberg CR, Wendt C, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Yamaji T, Yang XR, Yu JC, Zheng W, Ziogas A, Ziv E, Dunning AM, Easton DF, Hemingway H, Hamann U, Kuchenbaecker KB* : Aggregation tests identify new gene associations with breast cancer in populations with diverse ancestry. *Genome Med*, 26; 15(1): 7, 2023.
- 006 *Lopes Cardozo JMN, Andrulis IL, Bojesen SE, Dörk T, Eccles DM, Fasching PA, Hooning MJ, Keeman R, Nevanlinna H, Rutgers EJT, Easton DF, Hall P, Pharoah PDP, van 't Veer LJ, Schmidt MK; Breast Cancer Association Consortium and MINDACT Collaborators* : Associations of a Breast Cancer Polygenic Risk Score With Tumor Characteristics and Survival. *J Clin Oncol*, 1; 41(10): 1849-1863, 2023.
- 007 *Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito H* : Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: An interrupted time series study. *Cancer Sci*, 114 (3): 1154-1164, 2023.
- 008 *Jia G, Ping J, Shu X, Yang Y, Cai Q, Kweon SS, Choi JY, Kubo M, Park SK, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Guo X, Li B, Tao R, Aronson KJ, Chan TL, Gao YT, Hartman M, Ho WK, Ito H, Iwasaki M, Iwata H, John EM, Kasuga Y, Kim MK, Kurian AW, Kwong A, Li J, Lophatananon A, Low SK, Mariapun S, Matsuda K, Matsuo K, Muir K, Noh DY, Park B, Park MH, Shen CY, Shin MH, Spinelli JJ, Takahashi A, Tseng C, Tsugane S, Wu AH, Yamaji T, Zheng Y, Dunning AM, Pharoah PDP, Teo SH, Kang D, Easton DF, Simard J, Shu XO, Long J, Zheng W* : Genome- and transcriptome-wide association studies of 386,000 Asian and European-ancestry women provide new insights into breast cancer genetics. *Am J Hum Genet*, 1; 109(12): 2185-2195, 2022.
- 009 *Ishigaki K, Sakaue S, Terao C, Luo Y, Sonehara K, Yamaguchi K, Amariuta T, Too CL, Laufer VA, Scott IC, Viatte S, Takahashi M, Ohmura K, Murasawa A, Hashimoto M, Ito H, Hammoudeh M, Emadi SA, Masri BK, Halabi H, Badsha H, Uthman IW, Wu X, Lin L, Li T, Plant D, Barton A, Orozco G, Verstappen SMM, Bowes J, MacGregor AJ, Honda S, Koido M, Tomizuka K, Kamatani Y, Tanaka H, Tanaka E, Suzuki A, Maeda Y, Yamamoto K, Miyawaki S, Xie G, Zhang J, Amos CI, Keystone E, Wolbink G, van der Horst-Bruinsma I, Cui J, Liao KP, Carroll RJ, Lee HS, Bang SY, Siminovitch KA, de Vries N, Alfredsson L, Rantapää-Dahlqvist S, Karlson EW, Bae SC, Kimberly RP, Edberg JC, Mariette X, Huizinga T, Dieudé P, Schneider M, Kerick M, Denny JC; BioBank Japan Project; Matsuda K, Matsuo K, Mimori T, Matsuda F, Fujio K, Tanaka Y, Kumanogoh A, Traylor M, Lewis CM, Eyre S, Xu H, Saxena R, Arayssi T, Kochi Y, Ikari K, Harigai M, Gregersen PK, Yamamoto K, Louis Bridges S Jr, Padyukov L, Martin J, Klareskog L, Okada Y, Raychaudhuri S* : Multi-ancestry genome-wide association analyses identify novel genetic mechanisms in rheumatoid arthritis. *Nat Genet*, (11): 1640-1651, 2022.
- 010 *Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Wada K, Nagata C, Kitamura T, Zha L, Sakata R, Ozasa K, Lin Y, Mizoue T, Tanaka K, Abe SK, Inoue M* : Cigarette smoking, smoking cessation and bladder cancer risk: A pooled analysis of ten cohort studies in Japan. *J Epidemiol*, 2022.
- 011 *Sogawa R, Shimanoe C, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Furukawa T, Nagayoshi M, Hishida A, Kubo Y, Kato Y, Oze I,*

- Ito H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Suzuki S, Otani T, Matsui D, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Watanabe T, Arisawa K, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K, Matsuo K; Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study* : Sex- and age-specific all-cause mortality in insomnia with hypnotics: Findings from Japan multi-institutional Collaborative Cohort Study. *Sleep Med*, 100: 410-418, 2022.
- 012 *Saita K, Sumitani M, Nishizawa D, Tamura T, Ikeda K, Wakai K, Sudo Y, Abe H, Otonari J, Ikezaki H, Takeuchi K, Hishida A, Tanaka K, Shimanoe C, Takezaki T, Ibusuki R, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Nakamura Y, Kusakabe M, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Nakamura Y, Momozawa Y, Uchida K* : Genetic polymorphism of pleiotrophin is associated with pain experience in Japanese adults: Case-control study. *Medicine (Baltimore)*, 16: 101(37), 2022.
- 013 *Elshair M, Ugai T, Oze I, Kasugai Y, Koyanagi YN, Hara K, Ito H, Matsuo K* : Impact of socioeconomic status and sibling number on the prevalence of *Helicobacter pylori* infection: a cross-sectional study in a Japanese population. *Nagoya J Med Sci*; 84(2): 374-387, 2022.
- 014 *Grootes I, Keeman R, Blows FM, Milne RL, Giles GG, Swerdlow AJ, Fasching PA, Abubakar M, Andrulis IL, Anton-Culver H, Beckmann MW, Blomqvist C, Bojesen SE, Bolla MK, Bonanni B, Briceno I, Burwinkel B, Camp NJ, Castela JE, Choi JY, Clarke CL, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Devilee P, Dörk T, Dunning AM, Dwek M, Easton DF, Eccles DM, Eriksson M, Ernst K, Evans DG, Figueroa JD, Fink V, Floris G, Fox S, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, García-Sáenz JA, González-Neira A, Haeberle L, Haiman CA, Hall P, Hamann U, Harkness EF, Hartman M, Hein A, Hoening MJ, Hou MF, Howell SJ; ABCTB Investigators; kConFab Investigators; Ito H, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jung A, Kang D, Kristensen VN, Kwong A, Lambrechts D, Li J, Lubiński J, Manoochchri M, Margolin S, Matsuo K, Taib NAM, Mulligan AM, Nevanlinna H, Newman WG, Offit K, Osorio A, Park SK, Park-Simon TW, Patel AV, Presneau N, Pylkäs K, Rack B, Radice P, Rennert G, Romero A, Saloustros E, Sawyer EJ, Schneeweiss A, Schochter F, Schoemaker MJ, Shen CY, Shibli R, Sinn P, Tapper WJ, Tawfiq E, Teo SH, Teras LR, Torres D, Vachon CM, van Deurzen CHM, Wendt C, Williams JA, Winqvist R, Elwood M, Schmidt MK, García-Closas M, Pharoah PDP* : Incorporating progesterone receptor expression into the PREDICT breast prognostic model. *Eur J Cancer*, 173: 178-193, 2022.
- 015 *Jang J, Lee S, Ko KP, Abe SK, Rahman MS, Saito E, Islam MR, Sawada N, Shu XO, Koh WP, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Gao YT, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia KS, Matsuo K, Qiao YL, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, Park SK* : Association between Body Mass Index and Risk of Gastric Cancer by Anatomic and Histologic Subtypes in Over 500,000 East and Southeast Asian Cohort Participants. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 2; 31(9): 1727-1734, 2022.
- 016 *Wilunda C, Abe SK, Svensson T, Sawada N, Tsugane S, Wada K, Nagata C, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Mizoue T, Matsuo K, Tanaka K, Lin Y, Inoue M; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan* : Sleep duration and risk of cancer incidence and mortality: A pooled analysis of six population-based cohorts in Japan. *Int J Cancer*, 1; 151(7): 1068-1080, 2022.
- 017 *Ho PJ, Khng AJ, Tan BK, Tan EY, Tan SM, Tan VKM, Lim GH, Aronson KJ, Chan TL, Choi JY, Dennis J, Ho WK, Hou MF, Ito H, Iwasaki M, John EM, Kang D, Kim SW, Kurian AW, Kwong A, Lophatananon A, Matsuo K, Mohd-Taib NA, Muir K, Murphy RA, Park SK, Shen CY, Shu XO, Teo SH, Wang Q, Yamaji T, Zheng W, Bolla MK, Dunning AM, Easton DF, Pharoah PDP, Hartman M, Li J* : Relevance of the MHC region for breast cancer susceptibility in Asians. *Breast Cancer*; 29(5): 869-879, 2022.
- 018 *Ssenyonga N, Stiller C, Nakata K, Shalkow J, Redmond S, Bulliard JL, Girardi F, Fowler C, Marcos-Gragera R, Bonaventure A, Saint-Jacques N, Minicozzi P, De P, Rodríguez-Barranco M, Larønningen S, Di Carlo V, Mägi M, Valkov M, Seppä K, Wyn Huws D, Coleman MP, Allemani C; CONCORD Working Group* : Worldwide trends in population-based survival for children, adolescents, and young adults diagnosed with leukaemia, by subtype, during 2000-14 (CONCORD-3): analysis of individual data from 258 cancer registries in 61 countries. *Lancet Child Adolesc Health*, 6(6): 409-431, 2022.
- 019 *Momozawa Y, Sasai R, Usui Y, Shiraishi K, Iwasaki Y, Taniyama Y, Parsons MT, Mizukami K, Sekine Y, Hirata M, Kamatani Y, Endo M, Inai C, Takata S, Ito H, Kohno T, Matsuda K, Nakamura S, Sugano K, Yoshida T, Nakagawa H, Matsuo K, Murakami Y, Spurdle AB, Kubo M* : Expansion of Cancer Risk Profile for BRCA1 and BRCA2 Pathogenic Variants. *JAMA Oncol*, 1; 8(6): 871-878, 2022.
- 020 *Lee S, Jang J, Abe SK, Rahman S, Saito E, Islam R, Gupta PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, You SL, Shin MH, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen CJ, Ahn YO, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia KS, Matsuo K, Qiao YL, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, Park SK* : Association between body mass index and oesophageal cancer mortality: a pooled analysis of prospective cohort studies with >800000 individuals in the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 10; 51(4): 1190-1203, 2022.

- 021 **Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi YN, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I, Matsuo K** : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci*, 113(4): 1451-1462, 2022.
- 022 **Inoue-Choi M, Freedman ND, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K, Inoue M** : Correction to: Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 10;51(4):1355,2022.
- 023 **Nakamura Y, Tamura T, Narita A, Shimizu A, Sutoh Y, Takashima N, Matsui K, Miyagawa N, Kadota A, Miura K, Otonari J, Ikezaki H, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Tanaka K, Shimanoe C, Ibusuki R, Nishimoto D, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Mikami H, Kusakabe M, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K; J-MICC Research Group Consortium.** : A genome-wide association study on adherence to low-carbohydrate diets in Japanese. *Eur J Clin Nutr*, 76(8): 1103-1110, 2022.
- 024 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113(4): 1441-1450, 2022.
- 025 **Shrestha RM, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Wada K, Tanaka K, Lin Y, Sugawara Y, Takimoto H, Kimura T, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Tanaka S, Inoue M; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan** : Adult height in relation to the risk of colorectal cancer among the Japanese population: an evaluation based on systematic review and meta-analysis. *Jpn J Clin Oncol*, 6; 52(4): 322-330, 2022.
- 026 **Inoue-Choi M, Freedman ND, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K, Inoue M; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan** : Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 10; 51(4): 1276-1290, 2022.
- 027 **Shin S, Lee JE, Lofffield E, Shu XO, Abe SK, Rahman MS, Saito E, Islam MR, Tsugane S, Sawada N, Tsuji I, Kanemura S, Sugawara Y, Tomata Y, Sadakane A, Ozasa K, Oze I, Ito H, Shin MH, Ahn YO, Park SK, Shin A, Xiang YB, Cai H, Koh WP, Yuan JM, Yoo KY, Chia KS, Boffetta P, Ahsan H, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter JD, Matsuo K, Qiao YL, Rothman N, Sinha R** : Coffee and tea consumption and mortality from all causes, cardiovascular disease and cancer: a pooled analysis of prospective studies from the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 9; 51(2): 626-640, 2022.
- 028 **Song M, Rabkin CS, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Pfeiffer RM, Kasugai Y, Matsuo K, Camargo MC** : Circulating immune- and inflammation-related biomarkers and early-stage noncardia gastric cancer risk. *Eur J Cancer Prev*, 1; 31(3): 270-273, 2022.
- 029 **Fujii R, Hishida A, Nishiyama T, Nakatochi M, Matsuo K, Ito H, Nishida Y, Shimanoe C, Nakamura Y, Turin TC, Suzuki S, Watanabe M, Ibusuki R, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Ikezaki H, Murata M, Kuriki K, Kuriyama N, Matsui D, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Tsukamoto M, Tamura T, Kubo Y, Kondo T, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K** : Assessing the Relationship Between High-sensitivity C-reactive Protein and Kidney Function Employing Mendelian Randomization in the Japanese Community-based J-MICC Study. *J Epidemiol*, 5; 32(11): 483-488, 2022.
- 030 **Sakashita T, Nakamura Y, Sutoh Y, Shimizu A, Hachiya T, Otsuka-Yamasaki Y, Takashima N, Kadota A, Miura K, Kita Y, Ikezaki H, Otonari J, Tanaka K, Shimanoe C, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Kuriki K, Katsuura-Kamano S, Watanabe T, Tanoue S, Koriyama C, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakatochi M, Momozawa Y, Wakai K, Matsuo K** : Comparison of the loci associated with HbA1c and blood glucose levels identified by a genome-wide association study in the Japanese population. *Diabetol Int*, 27; 14(2): 188-198, 2023.
- 031 **Katagiri R, Goto A, Nakano S, Nakatochi M, Koyanagi YN, Iwagami M, Hanyuda A, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Imoto I, Momozawa Y, Oze I, Ito H, Tsugane S, Wakai K, Matsuo K, Iwasaki M** : Association of 25-hydroxyvitamin D with risk of overall and colorectal cancer among Japanese using a Mendelian randomization approach. *Sci Rep*, 10; 13(1): 2384, 2023.
- 032 **Nakamura S, Fang X, Saito Y, Narimatsu H, Ota A, Ikezaki H, Shimanoe C, Tanaka K, Kubo Y, Tsukamoto M, Tamura T, Hishida A, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Nishimoto D, Suzuki S, Otani T, Kuriyama N, Matsui D, Kuriki K, Kadota A, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K** : Effects of gene-lifestyle interactions on obesity based on a multi-locus risk score: A cross-sectional analysis. *PLoS One*, 8; 18(2): e0279169, 2023.
- 033 **Kitaoka K, Miura K, Takashima N, Kadota A, Harada A, Nakamura Y, Kita Y, Yano Y, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Suzuki S, Nishiyama T, Tanoue S, Koriyama C, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nishida Y,**

Shimano C, Ozaki E, Matsui D, Ikezaki H, Otonari J, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Wakai K, Matsuo K; J-MICC Research Group : Association between Dietary Patterns and Serum Low Density Lipoprotein Cholesterol in Japanese Women and Men: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Atheroscler Thromb*, 2023.

034 *Nagayoshi M, Hishida A, Shimizu T, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K* : BMI and cardiometabolic traits in Japanese: a Mendelian randomization study. *J Epidemiol*. 2023.

035 *Iwagami M, Goto A, Katagiri R, Sutoh Y, Koyanagi YN, Nakatochi M, Nakano S, Hanyuda A, Narita A, Shimizu A, Tanno K, Hozawa A, Kinoshita K, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Hishida A, Kasugai Y, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K, Iwasaki M* : Blood Lipids and the Risk of Colorectal Cancer: Mendelian Randomization Analyses in the Japanese Consortium of Genetic Epidemiology Studies. *Cancer Prev Res (Phila)*, 1; 15(12): 827-836, 2022.

036 *Nguyen TV, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ishizu M, Nagayoshi M, Okada R, Hishida A, Tamura T, Hara M, Tanaka K, Nishimoto D, Shibuya K, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriki K, Nakamura Y, Saito Y, Ikezaki H, Otonari J, N Koyanagi Y, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Takeuchi K, Wakai K* : Associations of metabolic syndrome and metabolically unhealthy obesity with cancer mortality: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) study. *PLoS One*, 8; 17(7): e0269550, 2022.

037 *Ohashi M, Miura K, Takashima N, Kadota A, Saito Y, Tsuji S, Murakami T, Kadomatsu Y, Nagayoshi M, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryō I, Ozaki E, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Yamasaki S, Ikezaki H, Oze I, Koyanagi YN, Mikami H, Nakamura Y, Takeuchi K, Kita Y, Wakai K; Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group* : The association of reproductive history with hypertension and obesity according to menopausal status: the J-MICC Study. *Hypertens Res*. 45(4): 708-714, 2022.

038 *Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimano C, Koyanagi YN, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K,*

Katsuura-Kamano S, Wakai K : Sex-specific Relationship Between Stress Coping Strategies and All-cause Mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 5; 33(5): 236-245, 2023.

がん予防研究分野

001 *Dareng E O, Tyrer J P, Barnes D R, Jones M R, Yang X, Aben K K H, Adank M A, Agata S, Andrusis I L, Anton-Culver H, Antonenkova N N, Aravantinos G, Arun B K, Augustinsson A, Balmaña J, Bandera E V, Barkardottir R B, Barrowdale D, Beckmann M W, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Bermisheva M, Bernardini M Q, Bjorge L, Black A, Bogdanova N V, Bonanni B, Borg A, Brenton J D, Budzylowska A, Butzow R, Buys S S, Cai H, Caligo M A, Campbell I, Cannioto R, Cassingham H, Chang-Claude J, Chanock S J, Chen K, Chiew Y E, Chung W K, Claes K B M, Colonna S, Cook L S, Couch F J, Daly M B, Dao F, Davies E, de la Hoya M, de Putter R, Dennis J, DePersia A, Devilee P, Diez O, Ding Y C, Doherty J A, Domchek S M, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D M, Eliassen H A, Engel C, Evans G D, Fasching P A, Flanagan J M, Fortner R T, Machackova E, Friedman E, Ganz P A, Garber J, Gensini F, Giles G G, Glendon G, Godwin A K, Goodman M T, Greene M H, Gronwald J, Hahnen E, Haiman C A, Håkansson N, Hamann U, Hansen T V O, Harris H R, Hartman M, Heitz F, Hildebrandt M A T, Høgdall E, Høgdall C K, Hopper J L, Huang R Y, Huff C, Hulick P J, Huntsman D G, Ilyanov E N, Isaacs C, Jakubowska A, James P A, Janavicius R, Jensen A, Johannsson O T, John E M, Jones M E, Kang D, Karlan B Y, Karnezis A, Kelemen L E, Khusnutdinova E, Kiemeny L A, Kim B G, Kjaer S K, Komenaka I, Kupryjanczyk J, Kurian A W, Kwong A, Lambrechts D, Larson M C, Lazaro C, Le N D, Leslie G, Lester J, Lesueur F, Levine D A, Li L, Li J, Loud J T, Lu K H, Lubiński J, Mai P L, Manoukian S, Marks J R, Matsuno R K, Matsuo K, May T, McGuffog L, McLaughlin J R, McNeish I A, Mebirouk N, Menon U, Müller A, Milne R L, Minlikeeva A, Modugno F, Montagna M, Moysich K B, Munro E, Nathanson K L, Neuhausen S L, Nevanlinna H, Yie J N Y, Nielsen H R, Nielsen F C, Nikitina-Zake L, Odunsi K, Offit K, Olah E, Olbrecht S, Olopade O I, Olson S H, Olsson H, Osorio A, Papi L, Park S K, Parsons M T, Pathak H, Pedersen I S, Peixoto A, Pejovic T, Perez-Segura P, Permut J B, Peshkin B, Peterlongo P, Piskorz A, Prokofyeva D, Radice P, Rantala J, Riggan M J, Risch H A, Rodriguez-Antona C, Ross E, Rossing M A, Runnebaum I, Sandler D P, Santamariña M, Soucy P, Schmutzler R K, Setiawan V W, Shan K, Sieh W, Simard J, Singer C F, Sokolenko A P, Song H, Southey M C, Steed H, Stoppa-Lyonnet D, Sutphen R, Swerdlow A J, Tan Y Y, Teixeira M R, Teo S H, Terry K L, Terry M B, Thomassen M, Thompson P J, Thomsen L C V,*

- Thull D L, Tischkowitz M, Titus L, Toland A E, Torres D, Trabert B, Travis R, Tung N, Tworoger S S, Valen E, van Altena A M, van der Hout A H, Van Nieuwenhuysen E, van Rensburg E J, Vega A, Edwards D V, Vierkant R A, Wang F, Wappenschmidt B, Webb P M, Weinberg C R, Weitzel J N, Wentzensen N, White E, Whittemore A S, Winham S J, Wolk A, Woo Y L, Wu A H, Yan L, Yannoukakos D, Zavaglia K M, Zheng W, Ziogas A, Zorn K K, Kleibl Z, Easton D, Lawrenson K, DeFazio A, Sellers T A, Ramus S J, Pearce C L, Monteiro A N, Cunningham J, Goode E L, Schildkraut J M, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Gayther S A, Antoniou A C & Pharoah P D P* : Correction: Polygenic risk modeling for prediction of epithelial ovarian cancer risk. *Eur J Hum Genet*, 30: 630-1, 2022.
- 002 *Dei H, Natsume S, Okuno M, Kawakatsu S, Hosoda W, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M & Shimizu Y* : Impact of pancreatic fat infiltration on postoperative pancreatic fistula occurrence in patients undergoing invagination pancreatojejunostomy. *HPB (Oxford)*, 24: 2119-24, 2022.
- 003 *Elshair M, Ugai T, Oze I, Kasugai Y, Koyanagi Y N, Hara K, Ito H & Matsuo K* : Impact of socioeconomic status and sibling number on the prevalence of *Helicobacter pylori* infection: a cross-sectional study in a Japanese population. *Nagoya J Med Sci*, 84: 374-87, 2022.
- 004 *Fernandez-Rozadilla C, Timofeeva M, Chen Z, Law P, Thomas M, Schmit S, Díez-Obrero V, Hsu L, Fernandez-Tajes J, Palles C, Sherwood K, Briggs S, Svinti V, Donnelly K, Farrington S, Blackmur J, Vaughan-Shaw P, Shu X O, Long J, Cai Q, Guo X, Lu Y, Broderick P, Studd J, Huyghe J, Harrison T, Conti D, Dampier C, Devall M, Schumacher F, Melas M, Rennert G, Obón-Santacana M, Martín-Sánchez V, Moratalla-Navarro F, Oh J H, Kim J, Jee S H, Jung K J, Kweon S S, Shin M H, Shin A, Ahn Y O, Kim D H, Oze I, Wen W, Matsuo K, Matsuda K, Tanikawa C, Ren Z, Gao Y T, Jia W H, Hopper J, Jenkins M, Win A K, Pai R, Figueiredo J, Haile R, Gallinger S, Woods M, Newcomb P, Duggan D, Cheadle J, Kaplan R, Maughan T, Kerr R, Kerr D, Kirac I, Böhm J, Mecklin L P, Jousilahti P, Knekt P, Aaltonen L, Rissanen H, Pukkala E, Eriksson J, Cajuso T, Hänninen U, Kondelin J, Palin K, Tanskanen T, Renkonen-Sinisalo L, Zanke B, Männistö S, Albanes D, Weinstein S, Ruiz-Narvaez E, Palmer J, Buchanan D, Platz E, Visvanathan K, Ulrich C, Siegel E, Brezina S, Gsur A, Campbell P, Chang-Claude J, Hoffmeister M, Brenner H, Slattery M, Potter J, Tsilidis K, Schulze M, Gunter M, Murphy N, Castells A, Castelly-Bel S, Moreira L, Arndt V, Shcherbina A, Stern M, Pardamean B, Bishop T, Giles G, Southey M, Idos G, McDonnell K, Abu-Ful Z, Greenson J, Shulman K, Lejbkowitz F, Offit K, Su Y R, Steinfeld R, Keku T, van Guelpen B, Hudson T, Hampel H, Pearlman R, Berndt S, Hayes R, Martinez M E, Thomas S, Corley D, Pharoah P, Larsson S, Yen Y, Lenz H J, White E, Li L, Doheny K, Pugh E, Shelford T, Chan A, Cruz-Correa M, Lindblom A, Hunter D, Joshi A, Schafmayer C, Scacheri P, Kundaje A, Nickerson D, Schoen R, Hampe J, Stadler Z, Vodicka P, Vodickova L, Vymetalkova V, Papadopoulos N, Edlund C, Gauderman W, Thomas D, Shibata D, Toland A, Markowitz S, Kim A, Chanock S, van Duijnhoven F, Feskens E, Sakoda L, Gago-Dominguez M, Wolk A, Naccarati A, Doheny K, Pugh E, Shelford T, Chan A, Cruz-Correa M, Lindblom A, Hunter D, Joshi A, Schafmayer C, Scacheri P, Kundaje A, Nickerson D, Schoen R, Hampe J, Stadler Z, Vodicka P, Vodickova L, Vymetalkova V, Papadopoulos N, Edlund C, Gauderman W, Thomas D, Shibata D, Toland A, Markowitz S, Kim A, Chanock S, van Duijnhoven F, Feskens E, Sakoda L, Gago-Dominguez M, Wolk A, Naccarati A, Pardini B, FitzGerald L, Lee S C, Ogino S, Bien S, Kooperberg C, Li C, Lin Y, Prentice R, Qu C, Bézieau S, Tangen C, Mardis E, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Haiman C, Le Marchand L, Wu A, Qu C, McNeil C, Coetzee G, Hayward C, Deary I, Harris S, Theodoratou E, Reid S, Walker M, Ooi L Y, Moreno V, Casey G, Gruber S, Tomlinson I, Zheng W, Dunlop M, Houlston R & Peters U* : Author Correction: Deciphering colorectal cancer genetics through multi-omic analysis of 100,204 cases and 154,587 controls of European and east Asian ancestries. *Nat Genet*, 55: 519-20, 2023.
- 005 *Fernandez-Rozadilla C, Timofeeva M, Chen Z, Law P, Thomas M, Schmit S, Díez-Obrero V, Hsu L, Fernandez-Tajes J, Palles C, Sherwood K, Briggs S, Svinti V, Donnelly K, Farrington S, Blackmur J, Vaughan-Shaw P, Shu X O, Long J, Cai Q, Guo X, Lu Y, Broderick P, Studd J, Huyghe J, Harrison T, Conti D, Dampier C, Devall M, Schumacher F, Melas M, Rennert G, Obón-Santacana M, Martín-Sánchez V, Moratalla-Navarro F, Oh J H, Kim J, Jee S H, Jung K J, Kweon S S, Shin M H, Shin A, Ahn Y O, Kim D H, Oze I, Wen W, Matsuo K, Matsuda K, Tanikawa C, Ren Z, Gao Y T, Jia W H, Hopper J, Jenkins M, Win A K, Pai R, Figueiredo J, Haile R, Gallinger S, Woods M, Newcomb P, Duggan D, Cheadle J, Kaplan R, Maughan T, Kerr R, Kerr D, Kirac I, Böhm J, Mecklin L P, Jousilahti P, Knekt P, Aaltonen L, Rissanen H, Pukkala E, Eriksson J, Cajuso T, Hänninen U, Kondelin J, Palin K, Tanskanen T, Renkonen-Sinisalo L, Zanke B, Männistö S, Albanes D, Weinstein S, Ruiz-Narvaez E, Palmer J, Buchanan D, Platz E, Visvanathan K, Ulrich C, Siegel E, Brezina S, Gsur A, Campbell P, Chang-Claude J, Hoffmeister M, Brenner H, Slattery M, Potter J, Tsilidis K, Schulze M, Gunter M, Murphy N, Castells A, Castelly-Bel S, Moreira L, Arndt V, Shcherbina A, Stern M, Pardamean B, Bishop T, Giles G, Southey M, Idos G, McDonnell K, Abu-Ful Z, Greenson J, Shulman K, Lejbkowitz F, Offit K, Su Y R, Steinfeld R, Keku T, van Guelpen B, Hudson T, Hampel H, Pearlman R, Berndt S, Hayes R, Martinez M E, Thomas S, Corley D, Pharoah P, Larsson S, Yen Y, Lenz H J, White E, Li L, Doheny K, Pugh E, Shelford T, Chan A, Cruz-Correa M, Lindblom A, Hunter D, Joshi A, Schafmayer C, Scacheri P, Kundaje A, Nickerson D, Schoen R, Hampe J, Stadler Z, Vodicka P, Vodickova L, Vymetalkova V, Papadopoulos N, Edlund C, Gauderman W, Thomas D, Shibata D, Toland A, Markowitz S, Kim A, Chanock S, van Duijnhoven F, Feskens E, Sakoda L, Gago-Dominguez M, Wolk A, Naccarati A,*

- Pardini B, FitzGerald L, Lee S C, Ogino S, Bien S, Kooperberg C, Li C, Lin Y, Prentice R, Qu C, Béziau S, Tangen C, Mardis E, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Haiman C, Le Marchand L, Wu A, Qu C, McNeil C, Coetzee G, Hayward C, Deary I, Harris S, Theodoratou E, Reid S, Walker M, Ooi L Y, Moreno V, Casey G, Gruber S, Tomlinson I, Zheng W, Dunlop M, Houlston R & Peters U* : Deciphering colorectal cancer genetics through multi-omic analysis of 100,204 cases and 154,587 controls of European and east Asian ancestries. *Nat Genet* 55, 89-99, 2023.
- 006 *Fujii R, Hishida A, Nishiyama T, Nakatochi M, Matsuo K, Ito H, Nishida Y, Shimanoe C, Nakamura Y, Turin T C, Suzuki S, Watanabe M, Ibusuki R, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Ikezaki H, Murata M, Kuriki K, Kuriyama N, Matsui D, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Tsukamoto M, Tamura T, Kubo Y, Kondo T, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K & Wakai K* : Assessing the Relationship Between High-sensitivity C-reactive Protein and Kidney Function Employing Mendelian Randomization in the Japanese Community-based J-MICC Study. *J Epidemiol*, 32: 483-8, 2022.
- 007 *Goyal N, Hennessy M, Lehman E, Lin W, Agudo A, Ahrens W, Boccia S, Brennan P, Brenner H, Cadoni G, Canova C, Chen C, Conway D, Curado M P, Dal Maso L, Daudt A W, Edefonti V, Fabianova E, Fernandez L, Franceschi S, Garavello W, Gillison M, Hayes R B, Healy C, Herrero R, Holcatova I, Kanda J L, Kelsey K, Hansen B T, Koifman R, Lagiou P, La Vecchia C, Levi F, Li G, Lissowska J, Mendoza López R, Luce D, Macfarlane G, Mates D, Matsuo K, McClean M, Menezes A, Menvielle G, Morgenstern H, Moysich K, Negri E, Olshan A F, Pandics T, Polesel J, Purdue M, Radoi L, Ramroth H, Richiardi L, Schantz S, Schwartz S M, Serraino D, Shangina O, Smith E, Sturgis E M, Świątkowska B, Thomson P, Vaughan T L, Vilensky M, Winn D M, Wunsch-Filho V, Yu G P, Zevallos J P, Zhang Z F, Zheng T, Znaor A, Boffetta P, Hashibe M, Lee Y A & Muscat J E* : Risk factors for head and neck cancer in more and less developed countries: Analysis from the INHANCE consortium. *Oral Dis*, 29: 1565-78, 2023.
- 008 *Grootes I, Keeman R, Blows F M, Milne R L, Giles G G, Swerdlow A J, Fasching P A, Abubakar M, Andrulis I L, Anton-Culver H, Beckmann M W, Blomqvist C, Bojesen S E, Bolla M K, Bonanni B, Briceno I, Burwinkel B, Camp N J, Castela J E, Choi J Y, Clarke C L, Couch F J, Cox A, Cross S S, Czene K, Devilee P, Dörk T, Dunning A M, Dwek M, Easton D F, Eccles D M, Eriksson M, Ernst K, Evans D G, Figueroa J D, Fink V, Floris G, Fox S, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, García-Sáenz J A, González-Neira A, Haeberle L, Haiman C A, Hall P, Hamann U, Harkness E F, Hartman M, Hein A, Hooning M J, Hou M F, Howell S J, Ito H, Jakubowska A, Janni W, John E M, Jung A, Kang D, Kristensen V N, Kwong A, Lambrechts D, Li J, Lubiński J, Manoochehri M, Margolin S, Matsuo K, Taib N A M, Mulligan A M, Nevanlinna H, Newman W G, Offit K, Osorio A, Park S K, Park-Simon T W, Patel A V, Presneau N, Pylkäs K, Rack B, Radice P, Rennert G, Romero A, Saloustros E, Sawyer E J, Schneeweiss A, Schochter F, Schoemaker M J, Shen C Y, Shibli R, Sinn P, Tapper W J, Tawfiq E, Teo S H, Teras L R, Torres D, Vachon C M, van Deurzen C H M, Wendt C, Williams J A, Winqvist R, Elwood M, Schmidt M K, García-Closas M & Pharoah P D P* : Incorporating progesterone receptor expression into the PREDICT breast prognostic model. *Eur J Cancer*, 173: 178-93, 2022.
- 009 *Hanyuda A, Goto A, Nakatochi M, Sutoh Y, Narita A, Nakano S, Katagiri R, Wakai K, Takashima N, Koyama T, Arisawa K, Imoto I, Momozawa Y, Tanno K, Shimizu A, Hozawa A, Kinoshita K, Yamaji T, Sawada N, Iwagami M, Yuki K, Tsubota K, Negishi K, Matsuo K, Yamamoto M, Sasaki M, Tsugane S & Iwasaki M* : Association Between Glycemic Traits and Primary Open-Angle Glaucoma: A Mendelian Randomization Study in the Japanese Population. *Am J Ophthalmol*, 245: 193-201, 2023.
- 010 *Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Matsuo K, Yamanaka T, Nakatsuka A, Takao M, Gobara H, Hayashi S, Inaba Y & Yamakado K* : Impact of the Ablative Margin on Local Tumor Progression after Radiofrequency Ablation for Lung Metastases from Colorectal Carcinoma: Supplementary Analysis of a Phase II Trial (MLCSG-0802). *J Vasc Interv Radiol*, 34: 31-7.e1, 2023.
- 011 *Hashimoto N, Habu H, Takao S, Sakamoto S, Okahisa Y, Matsuo K, Takaki M, Kishi Y & Yamada N* : Clinical moderators of response to nalmefene in a randomized-controlled trial for alcohol dependence: An exploratory analysis. *Drug Alcohol Depend*, 233: 109365, 2022.
- 012 *Ho P J, Khng A J, Tan B K, Tan E Y, Tan S M, Tan V K M, Lim G H, Aronson K J, Chan T L, Choi J Y, Dennis J, Ho W K, Hou M F, Ito H, Iwasaki M, John E M, Kang D, Kim S W, Kurian A W, Kwong A, Lophatananon A, Matsuo K, Mohd-Taib N A, Muir K, Murphy R A, Park S K, Shen C Y, Shu X O, Teo S H, Wang Q, Yamaji T, Zheng W, Bolla M K, Dunning A M, Easton D F, Pharoah P D P, Hartman M & Li J* : Relevance of the MHC region for breast cancer susceptibility in Asians. *Breast Cancer*, 29: 869-79, 2022.
- 013 *Hosoi T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Ito S, Komori K, Iwase M, Oze I & Shimizu Y* : Circular Stapled Technique Versus Modified Collard Technique for Cervical Esophagogastric Anastomosis After Esophagectomy: A Randomized Controlled Trial. *Ann Surg*, 276: 30-7, 2022.
- 014 *Hosokawa S, Ichihara E, Harada D, Kuyama S, Inoue K, Gemba K, Ichikawa H, Kato Y, Oda N, Oze I, Tamura T, Kozuki T, Umeno T, Kubo T, Hotta K, Bessho A, Maeda Y & Kiura K* : Pembrolizumab in advanced NSCLC patients with poor performance status and high PD-L1 expression: OLCSG 1801. *Int J Clin Oncol*, 27: 1139-44,

- 2022.
- 015 **Inoue-Choi M, Freedman N D, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K & Inoue M** : Correction to: Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 51: 1355, 2022.
- 016 **Inoue-Choi M, Freedman N D, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K & Inoue M** : Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 51: 1276-90, 2022.
- 017 **Ishigaki K, Sakaue S, Terao C, Luo Y, Sonehara K, Yamaguchi K, Amariuta T, Too C L, Laufer V A, Scott I C, Viatte S, Takahashi M, Ohmura K, Murasawa A, Hashimoto M, Ito H, Hammoudeh M, Emadi S A, Masri B K, Halabi H, Badsha H, Uthman I W, Wu X, Lin L, Li T, Plant D, Barton A, Orozco G, Verstappen S M M, Bowes J, MacGregor A J, Honda S, Koido M, Tomizuka K, Kamatani Y, Tanaka H, Tanaka E, Suzuki A, Maeda Y, Yamamoto K, Miyawaki S, Xie G, Zhang J, Amos C I, Keystone E, Wolbink G, van der Horst-Bruinsma I, Cui J, Liao K P, Carroll R J, Lee H S, Bang S Y, Siminovitich K A, de Vries N, Alfredsson L, Rantapää-Dahlqvist S, Karlson E W, Bae S C, Kimberly R P, Edberg J C, Mariette X, Huizinga T, Dieudé P, Schneider M, Kerick M, Denny J C, Matsuda K, Matsuo K, Mimori T, Matsuda F, Fujio K, Tanaka Y, Kumanogoh A, Traylor M, Lewis C M, Eyre S, Xu H, Saxena R, Arayssi T, Kochi Y, Ikari K, Harigai M, Gregersen P K, Yamamoto K, Louis Bridges S, Jr, Padyukov L, Martin J, Klareskog L, Okada Y & Raychaudhuri S** : Multi-ancestry genome-wide association analyses identify novel genetic mechanisms in rheumatoid arthritis. *Nat Genet*, 54: 1640-51, 2022.
- 018 **Ito H, Nakamura Y, Takanari K, Oishi M, Matsuo K, Kanbe M, Uchibori T, Ebisawa K & Kamei Y** : Development of a Novel Scar Screening System with Machine Learning. *Plast Reconstr Surg*, 150: 465e-72e, 2022.
- 019 **Ito Y, Katanoda K, Yamamoto S, Hamajima N, Mochizuki Y & Matsuo K** : Trends in smoking prevalence and attitude toward tobacco control among members of the JCA in 2004-2017. *Cancer Sci*, 113: 1542-7, 2022.
- 020 **Iwagami M, Goto A, Katagiri R, Sutoh Y, Koyanagi Y N, Nakatochi M, Nakano S, Hanyuda A, Narita A, Shimizu A, Tanno K, Hozawa A, Kinoshita K, Oze I, Ito H, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Hishida A, Kasugai Y, Imoto I, Suzuki M, Momozawa Y, Takeuchi K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuo K, Tsugane S, Wakai K & Iwasaki M** : Blood Lipids and the Risk of Colorectal Cancer: Mendelian Randomization Analyses in the Japanese Consortium of Genetic Epidemiology Studies. *Cancer Prev Res (Phila)*, 15: 827-36, 2022.
- 021 **Jang J, Lee S, Ko K P, Abe S K, Rahman M S, Saito E, Islam M R, Sawada N, Shu X O, Koh W P, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, Tsugane S, Cai H, Yuan J M, Gao Y T, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D & Park S K** : Association between Body Mass Index and Risk of Gastric Cancer by Anatomic and Histologic Subtypes in Over 500,000 East and Southeast Asian Cohort Participants. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 31: 1727-34, 2022.
- 022 **Jia G, Ping J, Shu X, Yang Y, Cai Q, Kweon S S, Choi J Y, Kubo M, Park S K, Bolla M K, Dennis J, Wang Q, Guo X, Li B, Tao R, Aronson K J, Chan T L, Gao Y T, Hartman M, Ho W K, Ito H, Iwasaki M, Iwata H, John E M, Kasuga Y, Kim M K, Kurian A W, Kwong A, Li J, Lophatananon A, Low S K, Mariapun S, Matsuda K, Matsuo K, Muir K, Noh D Y, Park B, Park M H, Shen C Y, Shin M H, Spinelli J J, Takahashi A, Tseng C, Tsugane S, Wu A H, Yamaji T, Zheng Y, Dunning A M, Pharoah P D P, Teo S H, Kang D, Easton D F, Simard J, Shu X O, Long J & Zheng W** : Genome- and transcriptome-wide association studies of 386,000 Asian and European-ancestry women provide new insights into breast cancer genetics. *Am J Hum Genet*, 109: 2185-95, 2022.
- 023 **Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi Y N, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I & Matsuo K** : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci*, 113: 1451-62, 2022.
- 024 **Katagiri R, Goto A, Nakano S, Nakatochi M, Koyanagi Y N, Iwagami M, Hanyuda A, Yamaji T, Sawada N, Nakamura Y, Nakamura S, Kuriki K, Suzuki S, Imoto I, Momozawa Y, Oze I, Ito H, Tsugane S, Wakai K, Matsuo K & Iwasaki M** : Association of 25-hydroxyvitamin D with risk of overall and colorectal cancer among Japanese using a Mendelian randomization approach. *Sci Rep*, 13: 2384, 2023.
- 025 **Kawakatsu S, Ebata T, Watanabe N, Onoe S, Yamaguchi J, Mizuno T, Igami T, Yokoyama Y, Matsuo K & Nagino M** : Mild Prognostic Impact of Postoperative Complications on Long-term Survival of Perihilar Cholangiocarcinoma. *Ann Surg*, 276: 146-52, 2022.
- 026 **Kawakatsu S, Shimizu Y, Matsuo K & Hosoda W** : ASO Author Reflections: Positive Status of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: Are They Candidates for Radical Resection?. *Ann Surg Oncol*, 29: 5984-5, 2022.
- 027 **Kawakatsu S, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Higaki E, Fujieda H,**

- Sato Y, Ouchi A, Nagino M, Hara K, Matsuo K & Hosoda W** : Prognostic Significance of Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Single-Center Experience and Systematic Review of the Literature. *Ann Surg Oncol*, 29: 5972-83, 2022.
- 028 **Kawakatsu S, Yamaguchi J, Mizuno T, Watanabe N, Onoe S, Igami T, Yokoyama Y, Uehara K, Nagino M, Matsuo K & Ebata T** : Early Prediction of a Serious Postoperative Course in Perihilar Cholangiocarcinoma: Trajectory Analysis of the Comprehensive Complication Index. *Ann Surg*, 277: 475-83, 2023.
- 029 **Kitaoaka K, Miura K, Takashima N, Kadota A, Harada A, Nakamura Y, Kita Y, Yano Y, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Suzuki S, Nishiyama T, Tanoue S, Koriyama C, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nishida Y, Shimanoe C, Ozaki E, Matsui D, Ikezaki H, Otonari J, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Wakai K & Matsuo K** : Association between Dietary Patterns and Serum Low Density Lipoprotein Cholesterol in Japanese Women and Men: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Atheroscler Thromb*, 2023.
- 030 **Kondo T, Tsukahara K, Kawakita D, Yoshimoto S, Miura K, Sugawara M, Chikamatsu K, Matsuzuka T, Oze I, Kitamura M, Murakami Y, Otozai S, Shinozaki T, Ohba S, Araki K, Mizumachi T, Sato D, Wakisaka N, Hirakawa H & Hasegawa Y** : Macroscopic and multiple metastases in sentinel lymph node biopsy are respectively associated with poor prognosis in early oral cancer. *Int J Clin Oncol*, 28: 512-20, 2023.
- 031 **Koyanagi Y N, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H & Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113: 1441-50, 2022.
- 032 **Kunitomo A, Ouchi A, Matsuo K, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Abe T, Ito S, Sano T & Shimizu Y** : Clinical significance of surgical intervention for isolated para-aortic lymph node metastasis from colorectal cancer: a time-varying covariate analysis. *Br J Surg*, 109: 1174-5, 2022.
- 033 **Lee S, Jang J, Abe S K, Rahman S, Saito E, Islam R, Gupta P C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X O, Koh W P, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, You S L, Shin M H, Pednekar M S, Tsugane S, Cai H, Yuan J M, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen C J, Ahn Y O, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D & Park S K** : Association between body mass index and oesophageal cancer mortality: a pooled analysis of prospective cohort studies with >800000 individuals in the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 51: 1190-203, 2022.
- 034 **Leung C Y, Huang H L, Abe S K, Saito E, Islam M R, Rahman M S, Ikeda A, Sawada N, Tamakoshi A, Gao Y T, Koh W P, Shu X O, Sakata R, Tsuji I, Kim J, Park S K, Nagata C, You S L, Yuan J M, Shin M H, Pan W H, Tsugane S, Kimura T, Wen W, Cai H, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Sugawara Y, Shin A, Wada K, Chen C J, Wang R, Ahn Y O, Ahsan H, Boffetta P, Chia K S, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N, Zheng W, Kang D & Inoue M** : Association of Marital Status With Total and Cause-Specific Mortality in Asia. *JAMA Netw Open*, 5: e2214181, 2022.
- 035 **Manandhar Shrestha R, Mizoue T, Islam Z, Kawakatsu Y, Ito H, Wada K, Nagata C, Zha L, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Sugawara Y, Tsuji I, Sato R, Sawada N, Tsugane S, Lin Y, Oze I, Abe S K & Inoue M** : Adult height and risk of colorectal cancer: a pooled analysis of ten population-based cohort studies in Japan. *J Epidemiol*, 2023.
- 036 **Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Wada K, Nagata C, Kitamura T, Zha L, Sakata R, Ozasa K, Lin Y, Mizoue T, Tanaka K, Abe S K & Inoue M** : Cigarette smoking, smoking cessation and bladder cancer risk: A pooled analysis of ten cohort studies in Japan. *J Epidemiol*, 2022.
- 037 **Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Oze I, Hosoda W & Muro K** : The impact of combined PD-L1 positive score on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 20: 524-32, 2023.
- 038 **Miura K, Kawakita D, Oze I, Suzuki M, Sugawara M, Endo K, Sakashita T, Ohba S, Suzuki M, Shiotani A, Kohno N, Maruo T, Suzuki C, Iki T, Hiwatashi N, Matsumoto F, Kobayashi K, Toyoda M, Hanyu K, Koide Y, Murakami Y & Hasegawa Y** : Predictive factors for false negatives following sentinel lymph node biopsy in early oral cavity cancer. *Sci Rep*, 12: 6917, 2022.
- 039 **Momozawa Y, Sasai R, Usui Y, Shiraishi K, Iwasaki Y, Taniyama Y, Parsons M T, Mizukami K, Sekine Y, Hirata M, Kamatani Y, Endo M, Inai C, Takata S, Ito H, Kohno T, Matsuda K, Nakamura S, Sugano K, Yoshida T, Nakagawa H, Matsuo K, Murakami Y, Spurdle A B & Kubo M** : Expansion of Cancer Risk Profile for BRCA1 and BRCA2 Pathogenic Variants. *JAMA Oncol*, 8: 871-8, 2022.
- 040 **Mori T, Okamoto Y, Mu A, Ide Y, Yoshimura A, Senda N, Inagaki-Kawata Y, Kawashima M, Kitao H, Tokunaga E, Miyoshi Y, Ohsumi S, Tsugawa K, Ohta T, Katagiri T, Ohtsuru S, Koike K, Ogawa S, Toi M, Iwata H, Nakamura S, Matsuo K & Takata M** : Lack of impact of the ALDH2 rs671 variant on breast cancer development in Japanese BRCA1/2-mutation carriers. *Cancer Med*, 12: 6594-602, 2023.

- 041 *Mueller S H, Lai A G, Valkovskaya M, Michailidou K, Bolla M K, Wang Q, Dennis J, Lush M, Abu-Ful Z, Ahearn T U, Andrulis I L, Anton-Culver H, Antonenkova N N, Arndt V, Aronson K J, Augustinsson A, Baert T, Freeman L E B, Beckmann M W, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Blomqvist C, Bogdanova N V, Bojesen S E, Bonanni B, Brenner H, Brucker S Y, Buys S S, Castelao J E, Chan T L, Chang-Claude J, Chanoock S J, Choi J Y, Chung W K, Colonna S V, Cornelissen S, Couch F J, Czene K, Daly M B, Devilee P, Dörk T, Dossus L, Dwek M, Eccles D M, Ekici A B, Eliassen A H, Engel C, Evans D G, Fasching P A, Fletcher O, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gao Y T, García-Closas M, García-Sáenz J A, Genkinger J, Gentry-Maharaj A, Grassmann F, Guénel P, Gündert M, Haeberle L, Hahnen E, Haiman C A, Håkansson N, Hall P, Harkness E F, Harrington P A, Hartikainen J M, Hartman M, Hein A, Ho W K, Hooning M J, Hoppe R, Hopper J L, Houlston R S, Howell A, Hunter D J, Huo D, Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Janni W, John E M, Jones M E, Jung A, Kaaks R, Kang D, Khusnutdinova E K, Kim S W, Kitahara C M, Koutros S, Kraft P, Kristensen V N, Kubelka-Sabit K, Kurian A W, Kwong A, Lacey J V, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Linet M, Lo W Y, Long J, Lophatananon A, Mannervaa A, Manoochehri M, Margolin S, Matsuo K, Mavroudis D, Menon U, Muir K, Murphy R A, Nevanlinna H, Newman W G, Niederacher D, O'Brien K M, Obi N, Offit K, Olopade O I, Olshan A F, Olsson H, Park S K, Patel A V, Patel A, Perou C M, Peto J, Pharoah P D P, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Rack B, Radice P, Ramachandran D, Rashid M U, Rennert G, Romero A, Ruddy K J, Ruebner M, Saloustros E, Sandler D P, Sawyer E J, Schmidt M K, Schmutzler R K, Schneider M O, Scott C, Shah M, Sharma P, Shen C Y, Shu X O, Simard J, Surowy H, Tamimi R M, Tapper W J, Taylor J A, Teo S H, Teras L R, Toland A E, Tollenaar R, Torres D, Torres-Mejía G, Troester M A, Truong T, Vachon C M, Vijai J, Weinberg C R, Wendt C, Winqvist R, Wolk A, Wu A H, Yamaji T, Yang X R, Yu J C, Zheng W, Ziogas A, Ziv E, Dunning A M, Easton D F, Hemingway H, Hamann U & Kuchenbaecker K B* : Aggregation tests identify new gene associations with breast cancer in populations with diverse ancestry. *Genome Med*, 15: 7. 2023.
- 042 *Nagayoshi M, Hishida A, Shimizu T, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K & Wakai K* : BMI and cardiometabolic traits in Japanese: a Mendelian randomization study. *J Epidemiol*, 2023.
- 043 *Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimano C, Koyanagi Y N, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S & Wakai K* : Sex-specific Relationship Between Stress Coping Strategies and All-cause Mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 33: 236-45, 2023.
- 044 *Nakamura S, Fang X, Saito Y, Narimatsu H, Ota A, Ikezaki H, Shimano C, Tanaka K, Kubo Y, Tsukamoto M, Tamura T, Hishida A, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Nishimoto D, Suzuki S, Otani T, Kuriyama N, Matsui D, Kuriki K, Kadota A, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K & Wakai K* : Effects of gene-lifestyle interactions on obesity based on a multi-locus risk score: A cross-sectional analysis. *PLoS One*, 18: e0279169, 2023.
- 045 *Nakamura Y, Tamura T, Narita A, Shimizu A, Sutoh Y, Takashima N, Matsui K, Miyagawa N, Kadota A, Miura K, Otonari J, Ikezaki H, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Tanaka K, Shimano C, Ibusuki R, Nishimoto D, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Mikami H, Kusakabe M, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K & Wakai K* : A genome-wide association study on adherence to low-carbohydrate diets in Japanese. *Eur J Clin Nutr*, 76: 1103-10, 2022.
- 046 *Nguyen T V, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ishizu M, Nagayoshi M, Okada R, Hishida A, Tamura T, Hara M, Tanaka K, Nishimoto D, Shibuya K, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriki K, Nakamura Y, Saito Y, Ikezaki H, Otonari J, Y N K, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Takeuchi K & Wakai K* : Associations of metabolic syndrome and metabolically unhealthy obesity with cancer mortality: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) study. *PLoS One*, 17: e0269550, 2022.
- 047 *Ohashi M, Miura K, Takashima N, Kadota A, Saito Y, Tsuji S, Murakami T, Kadomatsu Y, Nagayoshi M, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryō I, Ozaki E, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Yamasaki S, Ikezaki H, Oze I, Koyanagi Y N, Mikami H, Nakamura Y, Takeuchi K, Kita Y & Wakai K* : The association of reproductive history with hypertension and obesity according to menopausal status: the J-MICC Study. *Hypertens Res*, 45: 708-14, 2022.
- 048 *Omichi C, Koyama T, Kadotani H, Ozaki E, Tomida S, Yoshida T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Oze I, Matsuo K, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Takeuchi K & Wakai K* : Irregular sleep and all-cause mortality: A large prospective cohort

- study. *Sleep Health*, 8: 678-83, 2022.
- 049 **Oze I, Kohno N. & Hasegawa Y** : Reply to T. Gupta et al. *J Clin Oncol* 40, 1709-10, 2022.
- 050 **Pastorino R, Sassano M, Danilo Tiziano F, Giraldi L, Amore R, Arzani D, Abiusi E, Ahrens W, Vilches L A, Canova C, Healy C M, Holcatova I, Lagiou P, Polesel J, Popovic M, Nygård S, Cadoni G, Znaor A, Boffetta P, Matsuo K, Oze I, Brennan P & Boccia S** : Plasma miR-151-3p as a Candidate Diagnostic Biomarker for Head and Neck Cancer: A Cross-sectional Study within the INHANCE Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 31: 2237-43, 2022.
- 051 **Phung M T, Webb P M, DeFazio A, Fereday S, Lee A W, Bowtell D D L, Fasching P A, Goode E L, Goodman M T, Karlan B Y, Lester J, Matsuo K, Modugno F, Brenton J D, Van Gorp T, Pharoah P D P, Schildkraut J M, McLean K, Meza R, Mukherjee B, Richardson J, Grout B, Chase A, McKinnon Deurloo C, Terry K L, Hanley G E, Pike M C, Berchuck A, Ramus S J & Pearce C L** : Lifestyle and personal factors associated with having macroscopic residual disease after ovarian cancer primary cytoreductive surgery. *Gynecol Oncol*, 168: 68-75, 2023.
052. **Ping J, Yang Y, Wen W, Kweon S S, Matsuda K, Jia W H, Shin A, Gao Y T, Matsuo K, Kim J, Kim D H, Jee S H, Cai Q, Chen Z, Tao R, Shin M H, Tanikawa C, Pan Z Z, Oh J H, Oze I, Ahn Y O, Jung K J, Ren Z, Shu X O, Long J & Zheng W** : Developing and validating polygenic risk scores for colorectal cancer risk prediction in East Asians. *Int J Cancer*, 151: 1726-36, 2022.
- 053 **Saita K, Sumitani M, Nishizawa D, Tamura T, Ikeda K, Wakai K, Sudo Y, Abe H, Otonari J, Ikezaki H, Takeuchi K, Hishida A, Tanaka K, Shimanoe C, Takezaki T, Ibusuki R, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Nakamura Y, Kusakabe M, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Nakamura Y, Momozawa Y & Uchida K** : Genetic polymorphism of pleiotrophin is associated with pain experience in Japanese adults: Case-control study. *Medicine (Baltimore)*, 101: e30580, 2022.
- 054 **Sakashita T, Nakamura Y, Sutoh Y, Shimizu A, Hachiya T, Otsuka-Yamasaki Y, Takashima N, Kadota A, Miura K, Kita Y, Ikezaki H, Otonari J, Tanaka K, Shimanoe C, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Kuriki K, Katsuura-Kamano S, Watanabe T, Tanoue S, Koriyama C, Oze I, Koyanagi Y N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakatochi M, Momozawa Y, Wakai K & Matsuo K** : Comparison of the loci associated with HbA1c and blood glucose levels identified by a genome-wide association study in the Japanese population. *Diabetol Int*, 14: 188-98, 2023.
- 055 **Shin S, Lee J E, Lofffield E, Shu X O, Abe S K, Rahman M S, Saito E, Islam M R, Tsugane S, Sawada N, Tsuji I, Kanemura S, Sugawara Y, Tomata Y, Sadakane A, Ozasa K, Oze I, Ito H, Shin M H, Ahn Y O, Park S K, Shin A, Xiang Y B, Cai H, Koh W P, Yuan J M, Yoo K Y, Chia K S, Boffetta P, Ahsan H, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter J D, Matsuo K, Qiao Y L, Rothman N & Sinha R** : Coffee and tea consumption and mortality from all causes, cardiovascular disease and cancer: a pooled analysis of prospective studies from the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 51: 626-40, 2022.
- 056 **Shrestha R M, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Wada K, Tanaka K, Lin Y, Sugawara Y, Takimoto H, Kimura T, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Tanaka S & Inoue M** : Adult height in relation to the risk of colorectal cancer among the Japanese population: an evaluation based on systematic review and meta-analysis. *Jpn J Clin Oncol*, 52: 322-30, 2022.
- 057 **Shu X, Chen Z, Long J, Guo X, Yang Y, Qu C, Ahn Y O, Cai Q, Casey G, Gruber S B, Huyghe J R, Jee S H, Jenkins M A, Jia W H, Jung K J, Kamatani Y, Kim D H, Kim J, Kweon S S, Le Marchand L, Matsuda K, Matsuo K, Newcomb P A, Oh J H, Ose J, Oze I, Pai R K, Pan Z Z, Pharoah P D P, Playdon M C, Ren Z F, Schoen R E, Shin A, Shin M H, Shu X O, Sun X, Tangen C M, Tanikawa C, Ulrich C M, van Duijnhoven F J B, Van Guelpen B, Wolk A, Woods M O, Wu A H, Peters U & Zheng W** : Large-scale Integrated Analysis of Genetics and Metabolomic Data Reveals Potential Links Between Lipids and Colorectal Cancer Risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 31: 1216-26, 2022.
- 058 **Sogawa R, Shimanoe C, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Furukawa T, Nagayoshi M, Hishida A, Kubo Y, Kato Y, Oze I, Ito H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Suzuki S, Otani T, Matsui D, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Watanabe T, Arisawa K, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K & Matsuo K** : Sex- and age-specific all-cause mortality in insomnia with hypnotics: Findings from Japan multi-institutional Collaborative Cohort Study. *Sleep Med*, 100: 410-8, 2022.
- 059 **Song M, Rabkin C S, Ito H, Oze I, Koyanagi Y N, Pfeiffer R M, Kasugai Y, Matsuo K & Camargo M C** : Circulating immune- and inflammation-related biomarkers and early-stage noncardia gastric cancer risk. *Eur J Cancer Prev*, 31: 270-3, 2022.
- 060 **Taniyama Y, Oze I, Koyanagi Y N, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T & Ito H** : Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: An interrupted time series study. *Cancer Sci*, 114: 1154-64, 2023.
- 061 **Thomas M, Su Y R, Rosenthal E A, Sakoda L C, Schmit S L, Timofeeva M N, Chen Z, Fernandez-Rozadilla C, Law P J, Murphy N, Carreras-Torres R, Diez-Obrero V, van Duijnhoven F J, Jiang S, Shin A, Wolk A, Phipps A I, Burnett-Hartman A, Gsur A, Chan A T, Zauber A G, Wu A H, Lindblom A, Um C Y, Tangen C M, Gignoux C, Newton C, Haiman C A, Qu C, Bishop D T, Buchanan D D, Crosslin D**

- R, Conti D V, Kim D H, Hauser E, White E, Siegel E, Schumacher F R, Rennert G, Giles G G, Hampel H, Brenner H, Oze I, Oh J H, Lee J K, Schneider J L, Chang-Claude J, Kim J, Huyghe J R, Zheng J, Hampe J, Greenson J, Hopper J L, Palmer J R, Visvanathan K, Matsuo K, Matsuda K, Jung K J, Li L, Marchand L L, Vodickova L, Bujanda L, Gunter M J, Matejic M, Jenkins M A, Slattery M L, D'Amato M, Wang M, Hoffmeister M, Woods M O, Kim M, Song M, Iwasaki M, Du M, Udaltsova N, Sawada N, Vodicka P, Campbell P T, Newcomb P A, Cai Q, Pearlman R, Pai R K, Schoen R E, Steinfeldt R S, Haile R W, Vandenputtelaar R, Prentice R L, Küry S, Castellví-Bel S, Tsugane S, Berndt S I, Lee S C, Brezina S, Weinstein S J, Chanock S J, Jee S H, Kweon S S, Vadaparampil S, Harrison T A, Yamaji T, Keku T O, Vymetalkova V, Arndt V, Jia W H, Shu X O, Lin Y, Ahn Y O, Stadler Z K, Van Guelpen B, Ulrich C M, Platz E A, Potter J D, Li C I, Meester R, Moreno V, Figueiredo J C, Casey G, Vogelaar I L, Dunlop M G, Gruber S B, Hayes R B, Pharoah P D P, Houlston R S, Jarvik G P, Tomlinson I P, Zheng W, Corley D A, Peters U & Hsu L : Combining Asian-European Genome-Wide Association Studies of Colorectal Cancer Improves Risk Prediction Across Race and Ethnicity. medRxiv, 2023.
- 062 Usui Y, Iwasaki Y, Matsuo K, Endo M, Kamatani Y, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Matsuda K, Murakami Y, Maeda Y, Nakagawa H & Momozawa Y : Association between germline pathogenic variants in cancer-predisposing genes and lymphoma risk. *Cancer Sci*, 113: 3972-9, 2022.
- 063 Usui Y, Taniyama Y, Endo M, Koyanagi Y N, Kasugai Y, Oze I, Ito H, Imoto I, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Iwasaki Y, Aoi T, Hakozaiki N, Takata S, Suzuki K, Terao C, Hatakeyama M, Hirata M, Sugano K, Yoshida T, Kamatani Y, Nakagawa H, Matsuda K, Murakami Y, Spurdle A B, Matsuo K & Momozawa Y : Helicobacter pylori, Homologous-Recombination Genes, and Gastric Cancer. *N Engl J Med*, 388: 1181-90, 2023.
- 064 Watanabe T, Arisawa K, Nguyen T V, Ishizu M, Katsuura-Kamano S, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Ibusuki R, Koriyama C, Suzuki S, Otani T, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Wakai K & Matsuo K : Coffee and metabolic phenotypes: A cross-sectional analysis of the Japan multi-institutional collaborative cohort (J-MICC) study. *Nutr Metab Cardiovasc Dis*, 33: 620-30, 2023.
- 065 Wilunda C, Abe S K, Svensson T, Sawada N, Tsugane S, Wada K, Nagata C, Kimura T, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Mizoue T, Matsuo K, Tanaka K, Lin Y & Inoue M : Sleep duration and risk of cancer incidence and mortality: A pooled analysis of six population-based cohorts in Japan. *Int J Cancer*, 151: 1068-80, 2022.
- 066 Wohlmuth C, Djedovic V, Kjaer S K, Jensen A, Glasspool R, Roxburgh P, DeFazio A, Johnatty S E, Webb P M, Modugno F, Lambrechts D, Schildkraut J M, Berchuck A, Thomsen L C V, Bjorge L, Høgdall E, Høgdall C K, Goode E L, Winham S J, Matsuo K, Karlan B Y, Lester J, Goodman M T, Thompson P J, Pejovic T, Riggan M J, Lajkosz K, Tone A & May T : CA-125 Levels Are Predictive of Survival in Low-Grade Serous Ovarian Cancer-A Multicenter Analysis. *Cancers (Basel)*, 14, 2022.
- 067 Yamada M, Mizuno T, Yamaguchi J, Yokoyama Y, Igami T, Onoe S, Watanabe N, Uehara K, Matsuo K & Ebata T : Superiority of clinical American Joint Committee on Cancer T classification for perihilar cholangiocarcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 29: 768-77, 2022.
- 068 Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S & Inoue M : Author Correction: Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan: a systematic review and meta-analysis of observational studies. *Sci Rep*, 13: 3899, 2023.
- 069 Yamagiwa Y, Tanaka K, Matsuo K, Wada K, Lin Y, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Takimoto H, Ito H, Kitamura T, Sakata R, Kimura T, Tanaka S & Inoue M : Response to antiviral therapy for chronic hepatitis C and risk of hepatocellular carcinoma occurrence in Japan: a systematic review and meta-analysis of observational studies. *Sci Rep*, 13: 3445, 2023.
- 070 Yamamoto H, Soh J, Okumura N, Suzuki H, Nakata M, Fujiwara T, Gemba K, Sano I, Fujinaga T, Kataoka M, Terazaki Y, Fujimoto N, Kataoka K, Kosaka S, Yamashita M, Inokawa H, Inoue M, Nakamura H, Yamashita Y, Hotta K, Yoshioka H, Morita S, Matsuo K, Sakamoto J, Date H & Toyooka S : Randomized phase II study of daily versus alternate-day administrations of S-1 for the elderly patients with completely resected pathological stage IA (tumor diameter > 2 cm)-IIIA of non-small cell lung cancer: Setouchi Lung Cancer Group Study 1201. *PLoS One*, 18: e0285273, 2023.
- 071 Yin X, Kim K, Suetsugu H, Bang S Y, Wen L, Koido M, Ha E, Liu L, Sakamoto Y, Jo S, Leng R X, Otomo N, Kwon Y C, Sheng Y, Sugano N, Hwang M Y, Li W, Mukai M, Yoon K, Cai M, Ishigaki K, Chung W T, Huang H, Takahashi D, Lee S S, Wang M, Karino K, Shim S C, Zheng X, Miyamura T, Kang Y M, Ye D, Nakamura J, Suh C H, Tang Y, Motomura G, Park Y B, Ding H, Kuroda T, Choe J Y, Li C, Niiro H, Park Y, Shen C, Miyamoto T, Ahn G Y, Fei W, Takeuchi T, Shin J M, Li K, Kawaguchi Y, Lee Y K, Wang Y F, Amano K, Park D J, Yang W, Tada Y, Lau Y L, Yamaji K, Zhu Z, Shimizu M, Atsumi T, Suzuki A, Sumida T, Okada Y, Matsuda K, Matsuo K, Kochi Y, Yamamoto K, Ohmura K, Kim T H, Yang S, Yamamoto T, Kim B J, Shen N, Ikegawa S, Lee H S, Zhang X, Terao C, Cui Y & Bae S C : Biological insights into systemic lupus

erythematosus through an immune cell-specific transcriptome-wide association study. *Ann Rheum Dis*, 81: 1273-80, 2022.

mesothelioma. *Cell Death Discov*, 8: 446, 2022

がん病態生理学分野

- 001 **Fujishita T, Kojima Y, Kajino-Sakamoto R, Mishiro-Sato E, Shimizu Y, Hosoda W, Yamaguchi R, Taketo MM, Aoki M.** : The cAMP/PKA/CREB and TGF- β /SMAD4 pathways regulate stemness and metastatic potential in colorectal cancer cells. *Cancer Res*, 82: 4179-4190, 2022.
- 002 **Amada K, Hijiyama N, Ikarimoto S, Yanagihara K, Hanada T, Hidano S, Kurogi S, Tsukamoto Y, Nakada C, Kinoshita K, Hirashita Y, Uchida T, Shin T, Yada K, Hirashita T, Kobayashi T, Murakami K, Inomata M, Shirao K, Aoki M, Takekawa M, Moriyama M.** : Involvement of clusterin expression in the refractory response of pancreatic cancer cells to a MEK inhibitor. *Cancer Sci*, 114: 2189-2202, 2023.
- 003 **Tabata S, Kojima Y, Sakamoto T, Igarashi K, Umetsu K, Ishikawa T, Hirayama A, Kajino-Sakamoto R, Sakamoto N, Yasumoto K, Okano K, Suzuki Y, Yachida S, Aoki M, Soga T.** : L-2-hydroxyglutaric acid rewires amino acid metabolism in colorectal cancer via the mTOR-ATF4 axis. *Oncogene*, 42: 1294-1307, 2023.

分子腫瘍学分野

- 001 **Yue L, Luo Y, Jiang L, Sekido Y, Toyokuni S** : PCBP2 knockdown promotes ferroptosis in malignant mesothelioma. *Pathol Int*, 72: 242-251, 2022.
- 002 **Nakashima K, Sakai Y, Hoshino H, Umeda Y, Kawashima H, Sekido Y, Ishizuka T, Kobayashi M.** : Sulfated Glycans Recognized by S1 Monoclonal Antibody can Serve as a Diagnostic Marker for Malignant Pleural Mesothelioma. *Lung*, 200: 339-346, 2022.
- 003 **Fujibayashi E, Mukai S, Torigata K, Ando Y, Uchihashi T, Nozaki M, Tanaka S, Okada M, Kogo M, Nojima H, Yabuta N** : LATS kinases and SLUG regulate the transition to advanced stage in aggressive oral cancer cells. *Sci Rep*, 12: 12363, 2022.
- 004 **Hagiwara M, Mimae T, Wada A, Takeuchi F, Yoneshige A, Inoue T, Kotoku N, Hamada H, Sekido Y, Okada M, Ito A** : Possible Therapeutic Utility of anti-Cell Adhesion Molecule 1 Antibodies for Malignant Pleural Mesothelioma. *Front Cell Dev Biol*, 10: 945007, 2022.
- 005 **Suzuki K, Tange M, Yamagishi R, Hanada H, Mukai S, Sato T, Tanaka T, Akashi T, Kadomatsu K, Maeda T, Miida T, Takeuchi I, Murakami H, Sekido Y, Murakami-Tonami Y** : SMG6 regulates DNA damage and cell survival in Hippo pathway kinase LATS2-inactivated malignant

システム解析学分野

- 001 **Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Haba S, Okuno N, Kuraishi Y, Fumihara D, Yanaidani T, Ishikawa S, Yasuda T, Yamada M, Onishi S, Yamada K, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamaguchi R, Shimizu Y** : Artificial intelligence using deep learning analysis of endoscopic ultrasonography images for the differential diagnosis of pancreatic masses. *Endoscopy*, 55(2): 140-9, 2023.
- 002 **Takeda R, Yokoyama K, Fukuyama T, Kawamata T, Ito M, Yusa N, Kasajima R, Shimizu E, Ohno N, Uchimaru K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A** : Repeated Lineage Switches in an Elderly Case of Refractory B-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia With MLL Gene Amplification: A Case Report and Literature Review. *Front Oncol*, 12: 799982, 2022.
- 003 **Shinohara S, Takahashi Y, Komuro H, Matsui T, Sugita Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Masago K, Miyai M, Nishida R, Shomura S, Shigematsu Y, Hatoaka S, Sasano H, Watanabe F, Adachi K, Fujinaga K, Kaneda S, Takao M, Ohtsuka T, Yamaguchi R, Kuroda H, Matsushita H** : New evaluation of the tumor immune microenvironment of non-small cell lung cancer and its association with prognosis. *J Immunother Cancer*, 10(4), 2022.
- 004 **Shimizu T, Sugihara E, Takeshima H, Nobusue H, Yamaguchi R, Yamaguchi-Iwai S, Fukuchi Y, Ushijima T, Muto A, Saya H** : Depletion of R270C Mutant p53 in Osteosarcoma Attenuates Cell Growth but Does Not Prevent Invasion and Metastasis In Vivo. *Cells*, 11(22): 3614, 2022.
- 005 **Park H, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S** : Xprediction: Explainable EGFR-TKIs response prediction based on drug sensitivity specific gene networks. *PLoS One*, 17(5): e0261630, 2022.
- 006 **Kazama S, Yokoyama K, Ueki T, Kazumoto H, Satomi H, Sumi M, Ito I, Yusa N, Kasajima R, Shimizu E, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tanaka Y, Denda T, Ota Y, Tojo A, Kobayashi H** : Case report: Common clonal origin of concurrent langerhans cell histiocytosis and acute myeloid leukemia. *Front Oncol*, 12: 974307, 2022.
- 007 **Hasegawa T, Kakuta M, Yamaguchi R, Sato N, Mikami T, Murashita K, Nakaji S, Itoh K, Imoto S** : Impact of salivary and pancreatic amylase gene copy numbers on diabetes, obesity, and functional profiles of microbiome in Northern Japanese population. *Sci Rep*, 12(1): 7628, 2022.
- 008 **Guo Z, Yamaguchi R** : Machine learning methods for protein-protein binding affinity prediction in protein design. *Front Bioinform*, 2: 1065703, 2022.

- 009 **Fujishita T, Kojima Y, Kajino-Sakamoto R, Mishiro-Sato E, Shimizu Y, Hosoda W, Yamaguchi R, Taketo MM, Aoki M** : The cAMP/PKA/CREB and TGFbeta/SMAD4 Pathways Regulate Stemness and Metastatic Potential in Colorectal Cancer Cells. *Cancer Res.* 82(22): 4179-90, 2022.
- 010 **Bai Z, Zhang YZ, Miyano S, Yamaguchi R, Fujimoto K, Uematsu S, Imoto S** : Identification of bacteriophage genome sequences with representation learning. *Bioinformatics.* 38(18): 4264-70, 2022.
- 011 **山口 類, 張 耀中, 井元清哉** : 医療 AI・機械学習技術のシーケンスデータ解析への応用, *医学のあゆみ.* 283(7) : 739-45, 2022.
- 113:3664-3671,2022.
- 004 **Kagoya Y** : Dissecting the heterogeneity of exhausted T cells at the molecular level. *Int Immunol.* 34: 547-553, 2022.
- 005 **籠谷勇紀** : PRDM1 遺伝子ノックアウトによる長期生存型抗腫瘍 T 細胞の作製. *血液内科.* 85 : 753-758, 2022.
- 006 **籠谷勇紀** : 次世代 CAR-T 細胞療法の開発動向. *臨床血液.* 63 : 1290-1297, 2022.
- 007 **籠谷勇紀** : ユニバーサル CAR-T 細胞の開発. *Precision medicine.* 5 : 913-916, 2022.
- 008 **吉川聡明, 籠谷勇紀** : T 細胞疲弊の分子機構. *臨床免疫・アレルギー科.* 78 : 187-193, 2022.

腫瘍制御学分野

- 001 **Mitani F, Hayasaka R, Hirayama A, Oneyama C.** : SNAP23-mediated perturbation of cholesterol-enriched membrane microdomain promotes extracellular vesicle production in Src-activated cancer cells. *Biol Pharm Bull.* 45(10), 1572-1580, 2022
- 002 **Hikita T, Oneyama C.** : Quantification and imaging of exosomes via luciferase-fused exosome marker proteins: ExoLuc system. *Methods Mol Biol.* 2524, 281-290, 2022
- 003 **Mitani F, Lin J, Sakamoto T, Uehara R, Hikita T, Yoshida T, Setiawan A, Arai M, Oneyama C.** : Asteltoxin inhibits extracellular vesicle production through AMPK/mTOR-mediated activation of lysosome function. *Sci Rep.* 12(1), 6674, 2022
- 004 **Hayasaka R, Tabata S, Hasebe M, Ikeda S, Hikita T, Oneyama C, Yoshitake J, Onoshima D, Takahashi K, Shibata T, Uchida K, Baba Y, Soga T, Tomita M, Hirayama.** : Metabolomics of small extracellular vesicles derived from isocitrate dehydrogenase 1-mutant HCT116 cells collected by semi-automated size exclusion chromatography. *Front Mol Biosci.* 9, 1049402, 2022

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 **Wu Z, Yoshikawa T, Inoue S, Ito Y, Kasuya H, Nakashima T, Zhang H, Kotaka S, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y** : CD83 expression characterizes precursor exhausted T cell population. *Commun Biol.* 6: 258, 2023.
- 002 **Yoshikawa T, Wu Z, Inoue S, Kasuya H, Matsushita H, Takahashi Y, Kuroda H, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y** : Genetic ablation of PRDM1 in antitumor T cells enhances therapeutic efficacy of adoptive immunotherapy. *Blood.* 139: 2156-2172, 2022.
- 003 **Ito Y, Kagoya Y** : Epigenetic engineering for optimal chimeric antigen receptor T cell therapy. *Cancer Sci.*

腫瘍免疫制御 TR 分野

- 001 **Shinohara S, Takahashi Y, Masago K, Matsushita H, Kuroda H.** : The beginning of a new era in induction treatment for operable non-small cell lung cancer: a narrative review. *J Thorac Dis.* 15(2): 747-758, 2023.
- 002 **Masago K, Kuroda H, Takahashi Y, Oya Y, Sasaki E, Sakakura N, Matsushita H.** : Synchronous driver gene alterations (EGFR L858R, T790M, and ROS1) rearrangements in a patient with early-stage lung adenocarcinoma. *Cancer Genet.* 268-269: 124-127, 2022.
- 003 **Masago K, Kuroda H, Sasaki E, Fujita S, Shinohara S, Sugita Y, Takahashi Y, Matsushita H.** : Association of the KRAS genotype and clinicopathologic findings of resected non-small-cell lung cancer: A pooled analysis of 179 patients. *Cancer Genet.* 268-269: 64-74, 2022.
- 004 **Masago K, Kuroda H, Fujita S, Sasaki E, Takahashi Y, Shinohara S, Matsushita H.** : Biological Difference between L858R and Exon 19 Deletion Contributes to Recurrence-Free Survival of Resected Non-Small Cell Lung Cancer. *Oncology.* 101(2): 117-125, 2023.
- 005 **Muraoka D, Harada N, Shiku H, Akiyoshi K.** : Self-assembled polysaccharide nanogel delivery system for overcoming tumor immune resistance. *J Control Release.* 347: 175-182, 2022.

分子診断 TR 分野

- 001 **Fahrman JF, Tanaka I, Irajizad E, Mao X, Dennison JB, Murage E, Casabar J, Mayo J, Peng Q, Celiktas M, Vykoukal JV, Park S, Taguchi A, Delgado O, Tripathi SC, Katayama H, Soto LMS, Rodriguez-Canales J, Behrens C, Wistuba I, Hanash S, Ostrin EJ** : Mutational Activation of the NRF2 Pathway Upregulates Kynureninase Resulting in Tumor Immunosuppression and Poor Outcome in Lung Adenocarcinoma. *Cancers.* 14: 2543, 2022.
- 002 **Irajizad E, Fahrman JF, Long JP, Vykoukal J, Kobayashi**

- M, Capello M, Yu CY, Cai Y, Hsiao FC, Patel N, Park S, Peng Q, Dennison JB, Kato T, Tai MC, Taguchi A, Kadara H, Wistuba II, Katayama H, Do KA, Hanash SM, Ostrin EJ** : A Comprehensive Search of Non-Canonical Proteins in Non-Small Cell Lung Cancer and Their Impact on the Immune Response. *Int J Mol Sci*, 23: 8933, 2022.
- 003 **Iwai M, Kajino T, Nakatochi M, Yanagisawa K, Hosono Y, Isomura H, Shimada Y, Suzuki M, Taguchi A, Takahashi T** : Long non-coding RNA TILR constitutively represses TP53 and apoptosis in lung cancer. *Oncogene*, 42: 364-373., 2022.
- 004 **Hirano H, Abe Y, Nojima Y, Aoki M, Shoji H, Isoyama J, Honda K, Boku N, Mizuguchi K, Tomonaga T, Adachi J** : Temporal dynamics from phosphoproteomics using endoscopic biopsy specimens provides new therapeutic targets in stage IV gastric cancer. *Sci Rep*, 12: 4419, 2022.
- 005 **Shimizu Y, Okada K, Adachi J, Abe Y, Narumi R, Uchibori K, Yanagitani N, Koike S, Takagi S, Nishio M, Fujita N, Katayama R** : GSK3 inhibition circumvents and overcomes acquired lorlatinib resistance in ALK-rearranged non-small-cell lung cancer. *NPJ Precis Oncol*, 6: 16, 2022.
- 006 **Adachi J, Kakudo A, Takada Y, Isoyama J, Ikemoto N, Abe Y, Narumi R, Muraoka S, Gunji D, Hara Y, Katayama R, Tomonaga T** : Systematic identification of ALK substrates by integrated phosphoproteome and interactome analysis. *Life Sci Alliance*, 5: e202101202, 2022.
- 007 **Kajiwara K, Chen PK, Abe Y, Okuda S, Kon S, Adachi J, Tomonaga T, Fujita Y, Okada M** : Src activation in lipid rafts confers epithelial cells with invasive potential to escape from apical extrusion during cell competition. *Curr Biol*, 32: 3460-3476. e6, 2022.
- 008 **Nojima Y, Aoki M, Re S, Hirano H, Abe Y, Narumi R, Muraoka S, Shoji H, Honda K, Tomonaga T, Mizuguchi K, Boku N, Adachi J** : Integration of pharmacoproteomic and computational approaches reveals the cellular signal transduction pathways affected by apatinib in gastric cancer cell lines. *Comput Struct Biotechnol J*, 21: 2172-2187, 2022.
- Pharmacokinetics of Abemaciclib Metabolites (M2, M20, M18). *Anticancer Res*, 43: 1283-1289, 2023
- 003 **Cai J, Jacob S, Kurupi R, Dalton KM, Coon C, Greninger P, Egan RK, Stein GT, Murchie E, McClanaghan J, Adachi Y, Hirade K, Dozmorov M, Glod J, Boikos SA, Ebi H, Hao H, Caponigro G, Benes CH, Faber AC** : High-risk neuroblastoma with NF1 loss of function is targetable using SHP2 inhibition. *Cell Reports*, 40: 111095-111095, 2022
- 004 **Su W, Mukherjee R, Yaeger R, Son J, Xu J, Na N, Merna Timaul N, Hechtman J, Paroder V, Lin M, Mattar M, Qiu J, Chang Q, Zhao H, Zhang J, Little M, Adachi Y, Han SW, Taylor BS, Ebi H, Abdel-Wahab O, de Stanchina E, Rudin CM, Jänne PA, McCormick F, Yao Z, Rosen N** : ARAF protein kinase activates RAS by antagonizing its binding to RASGAP NF1. *Molecular Cell*, S1097-2765(22)00434-8, 2022.
- 005 **Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige J, Fukushima S, Okada A, Ebi H, Matsuzaki M, Iwata H, Sawaki M** : Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib. *European Journal of Clinical Pharmacology*, 78: 1239-1247, 2022.
- 006 **衣斐寛倫** : KRAS 阻害薬の新しい展開. *がん分子標的治療*, 20 : 64-68, 2022
- 007 **衣斐寛倫** : RAS/RAF 変異陽性固形腫瘍のバイオロジーとバイオマーカー開発の方向性. *実験医学*, 40 : 1496-1502, 2022.
- 008 **衣斐寛倫** : undruggable を克服しつつある RAS シグナルとがん治療. *実験医学*, 40 : 1753-1761, 2022
- 009 **衣斐寛倫** : MAPK 経路. *がんゲノム医療時代の分子腫瘍学. 病理と臨床*, 40 : 092-095, 2022
- 010 **衣斐寛倫** : 変異 KRAS に対する阻害薬. *腫瘍内科*, 28 : 123-129, 2021

がん標的治療 TR 分野

- 001 **Ebi H** : Drug-Tolerant Persister Cells After EGFR Tyrosine Kinase Inhibitor Treatment: Their Origin and the Influences From the Tumor Microenvironment. *J Thorac Onc*, 18: 399-401, 2023.
- 002 **Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Ebi H, Uchida K, Iwata H, Sawaki M** : Effects of ABCB1 and ABCG2 Polymorphisms on the